

日本古典作者事典 か 1500 ; [目次にもどる](#)

- T1586 佳(か・小野おの、通称;佳四郎、櫟翁れきおう男)1807-18夭逝<sup>12</sup> 備中浅口郡長尾村の豪農の生、小野務の弟、歌人;木下幸文門、「木下幸文判四十六番歌合」に2首入、病没に際し幸文は弔歌5首・長歌1首を、叔父小野招月(泉蔵)は弔詩1遍を詠む
- V1573 果(か/あきら・松浦まつら、)1844-1919<sup>76</sup> 近江神崎郡の彦根藩士/歌人:[鳩のうみ]入、「学ひの手ほとき」「焼葉庵」「新消息往来」著/井伊直弼追慕誕辰祭の「誕辰唱歌」作詞、[果(;名)の号]静園/晚翠/織嶺さんれい
- 華(か・坂井) → 虎山(ござん・坂井さかい、儒者/詩) C 1 9 6 5
- 華(か・玉井) → 海嶠(かいきょう・玉井たまゐ、医者/儒詩) I 1 5 5 4
- 華(か・天野) → 謙吉(けんきち・天野あまの、藩士/儒詩) I 1 8 4 0
- 華(か・塩田) → 随斎(ずいさい・塩田しおだ、藩士/儒/詩人) 2 3 5 9
- 華(か/さかえ・北条/伊勢) → 小湊(しょうすう・北条/伊勢、藩士/詩) K 2 2 1 7
- 戈(か・山本) → 竹雲(ちくうん・山本やまと、篆刻家/茶人) C 2 8 6 0
- 嘉(か・福住) → 道祐(どうゆう・福住ふくずみ、医/伝記/俳人) H 3 1 6 3
- 嘉(柯か・山崎) → 闇斎(あんさい・山崎やまさき、垂加流神道) 1 0 3 7
- 嘉(か・尾崎) → 雅嘉(まさよし・尾崎、医/国学/歌人) 4 0 2 4
- 嘉(か・舟木) → 嘉助(かすけ・須原屋すはらや/舟木、書肆/詩) F 1 5 9 1
- 嘉(か・関) → 元洲(げんしゅう・関せき、藩士/儒者) D 1 8 8 4
- 嘉(か・鈴木) → 順亭(じゅんてい・鈴木、儒/医/国学) K 2 1 3 1
- 嘉(か・菅原) → 嘉(よしみ・菅原すがわら、博物学者) H 4 7 3 0
- 嘉(か・飯盛) → 嘉満(よしみつ・飯盛いもり、藩陪臣/教育) L 4 7 4 9
- 暇(か・伊藤) → 石台(せきだい・伊藤いとう、藩儒) K 2 4 3 6
- 邁(か・沢村) → 西陂(せいはい/せいひ・沢村、藩士/儒) C 2 4 7 6
- 韃(か・小原/中川) → 漁村(ぎよそん・中川なかがわ、藩士/儒者) P 1 6 7 8
- 韃(か・草場) → 佩川(はいせん・草場、儒者/詩歌) B 3 6 7 0
- 霞(か) → 霞(かすみ、俳人) S 1 5 4 2
- 雅(が・堀) → 蘭崖(らんがい・堀ほり、藩士/書家) B 4 8 6 7
- E1525 賀阿(があ:法諱) ? - ? 戦国期の僧;法師、連歌作者、1470北畠教具催「北畠家連歌合」(兼良判)参加、[あだなる心なほも頼まず うつろへる君があたりの花を見て](北畠家連歌合;恋百四十六番右、左は平重孝)
- H1511 蝸庵(かあん・松井まつい、名;邦彦/斃、字;之国)?-? 江戸期出雲松江藩の儒者、「孫子集解」「照星記」「左伝便覧」「呉氏集解」「六典摘義」「柳樊兵録」「柳樊雜録」著、[蝸庵(;号)の通称/別号]通称;源太夫、別号;柳樊りゅうはん/可庵
- 蝸庵(かあん・村瀬) → 大阜(たいふ・村瀬むらせ、書肆/俳人) K 2 6 9 9
- 蝸庵(かあん・秋山) → 白賁堂(はくびどう・秋山/鈴木、藩儒) D 3 6 8 4
- 蝸庵(かあん・高橋) → 壽世(ひさつぐ・高橋たかはし、幕臣/国学) K 3 7 1 1
- 可庵(かあん・五清堂) → 武清(ぶせい・喜多きた、絵師) C 3 8 8 9
- 可庵(かあん・智準) → 智準(ちじゅん、真宗大谷派僧) E 2 8 3 8
- 可庵(かあん・田中) → 有孚(ありだね・田中たなか、藩医/歌人) H 1 0 8 4
- 可庵(河庵かあん・川村) → 碩布(せきふ・川村、豪商/名主/俳人) 2 4 1 1
- 可安(かあん/よしやす?・永田) → 南溪(なんけい・永田ながた、地誌家) I 3 2 8 8
- 何庵(かあん・倉田) → 續(いさお・倉田、儒者) F 1 1 4 7
- 花庵(かあん・船曳) → 磐主(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学) B 1 1 8 4
- 荷庵(かあん) → 悟心(ごしん:道号・元明:法諱、黄檗僧) D 1 9 0 2
- 寡菴(かあん・山田) → 大堅(ひろかた・山田やまだ、大肝煎/歌人) M 3 7 2 1
- 俄庵(があん) → 凡夫(ぼんぶ・仏庵、俳人) 3 9 7 5

[甲斐]

- I1530 ①**六条齋院物語合の甲斐**(ろくじょうさいいんものがたりあわせのかい、祿子内親王家女房?)?-? 平安期歌人/物語作者、1055-65齋院歌合参加;うち1055六条齋院物語合;「淀のさは水」作
  - E1526 ②**四条宮甲斐**(しじょうのみやのかい、四条宮寛子[1036-1127]女房?)?-? 平安後期歌:源俊頼の妻? 1089太皇太后宮寛子扇歌合参加、1102堀河院艶書合参加、新統古今1498、[うき身から人をつらしと知りぬればことわりなくも落つる涙か]、(新統古;恋1498、堀河院艶書合にて)、
    - ①と②の同一説あり
  - E1528 ③**前中宮甲斐**(さきのちゅうぐうのかい?)?-? 平安後期女房歌人、堀河院中宮篤子内親王[後三条皇女1060-1114]家女房、歌;金葉578、[人なみに心ばかりは立ちそひてさそはぬ和歌かのうら見をぞする](金葉;九雑578、堀河院御時に中宮亮兼紀伊守藤原仲実が和歌浦に中宮女房達を誘った折行かず詠)前中(齋)宮越後と同一? → 越後(えちご・前齋[中]宮) 1 3 7 1
  - E1529 ④**太皇太后宮甲斐**(たいこうたいごうぐうのかい?)?-? 平安期の女房歌人、詞花183・184、後葉集(251)入、[暮れはまづそなたをのみぞながむべき出でなむ日ごとに思ひおこせよ]、(詞花;別183/嘉保元1094藤原経信太宰帥赴任の時に息俊頼に言い遣わす歌、日没にはあなたのいる西を眺めるので日の出には東の私を思い出して下さい)
    - ③の甲斐と同一?(作者部類)
  - E1527 ⑤**前齋宮甲斐**(さきのさいぐうのかい、齋宮甲斐?)?-? 平安後期の女房歌人、姁子じゅんし内親王[1093-1132、白河皇女]家の女房、歌:金葉II 457・千載507、[いま人の心を三輪の山にてぞ過ぎにしかたは思ひ知らるゝ](金葉;八恋457、恨めしき人につけて昔を思い出し詠/三に見・過ぎに杉をを掛る)
  - E1530 ⑥**輔仁親王家甲斐**(すけひとしんのうげのかい、延久第三親王家甲斐/三宮甲斐?)?-? 平安後期女房/歌人: 1116雲居寺歌合参加、千載243、新拾遺348、[おしなべて草葉のうへを吹く風にまづした折るゝ野辺のかるかや](千載;秋243)、参考 → 輔仁親王(すけひとしんのう、1073-1119、後三条天皇皇子) C 2 3 8 8
  - 1500 ⑦**安嘉門院甲斐**(あつかもんいんのかい?)?-? 鎌倉期邦子内親王家女房/長有朝臣の妹?、歌人:1243河合社歌合参加、勅撰7首;続後撰(517)続拾(722)続後撰(907/1125)以下、雲葉集入、[消けぬが上にさこそは雪の積もるらめ名にふりにける越のしら山](続後撰;冬517)
  - G1546 **甲斐**(かい・原田はらだ、名;宗輔むねすけ、宗資の長男) 1619-71**斬殺53歳** 陸前柴田郡船岡城の生、母;香の前(秀吉側室/鬼庭綱元室)の娘の津多、1623(5歳)父没;家督継嗣、原田家19代、仙台藩士;1648評定役/1663奉行職首席(家老)に就任、仙台4代藩主綱村(2歳)の後見として伊達兵部宗勝・田村宗良と政務を執行、伊達安藝宗重より采地境界争いの判定に策謀ありと幕府に上訴される; 1671(寛文11)大老酒井雅楽頭忠清邸で安藝と対決;安藝を斬殺、蜂屋可広よひろに討れる、のち裁定により一家断絶、以後伊達騒動として奈河亀輔の歌舞伎「伽羅めいぼく先代萩」はじめ多くの戯曲・読物に脚色、[甲斐(;通称)の幼名/初名]幼名;弁之助、初名;雅楽うた
  - I1531 **懐**(かい・豊浦とよら、字;子玉、号;被褐翁ひかつおう) 1729-88**60** 長門の漢学者:江戸で講説、老子研究、晩年は上総東金で教授、1788「老子道德経妄言」著
  - E1531 **獬**(かい・広川ひろかわ) ? - ? 江後期京の錦小路住の医者: 1791-97長崎に游学:蘭医;耕牛門、漢方医;華頂親王侍医/大内介、1797「嬰兒論」1815「蘭例節用集」、「按腹伝」「麻疹論」著、[獬(;名)の字/号]字;子典、号;竜淵/瑤池斎/広門
- 魁(かい・杉山) → 竹外(ちくがい・杉山/杉、儒者) C 2 8 7 9  
 会(かい・林) → 東庵(とうあん・林はやし、医者) 3 1 9 1  
 会(かい・河本) → 公輔(きんすけ・河本かわもと、国学者) C 1 6 5 5

介(かい・青根)	→	九江(きゅうこう・青根あおね、絵師)	M 1 6 5 4
介(かい・片山)	→	豊嶼(ほうしよ・片山かたやま、藩儒/詩人)	B 3 9 6 7
介(かい・茜部)	→	相嘉(すけよし・茜部あかなべ、藤原/伊藤/藤井、藩士/国学)	D 2 3 7 5
介(かい・牛尾)	→	養庵(ようあん・牛尾うしお、医者/国学者)	4 7 5 9
弁(かい・安部井)	→	櫟堂(れきどう・安部井あべい/佐々木、篆刻家)	5 1 8 1
開(かい・関)	→	兎毛(とも・関せき、藩士/詩/狂歌)	P 3 1 0 3
開(かい・太田)	→	包宗(かねむね・太田おた/甲斐、神職/国学)	T 1 5 9 8
海(かい・柴田)	→	方庵(ほうあん;号・柴田しばた、蘭医/種痘)	3 9 0 9
偕(かい・大竹)	→	和卿(わけい・大竹おおたけ/岳、漢学/詩人)	5 3 3 9
澥(かい・塩見/浜村)	→	蔵六(4世ぞうろく・浜村/塩見、篆刻家)	J 2 5 2 6
翺(かい・野沢)	→	岐山(きざん・野沢、儒者/詩)	K 1 6 6 5
甲斐(かい・伊達)	→	宗重(むねしげ・伊達だて/天童、領主)	B 4 2 4
甲斐(かい・乾/池田)	→	長孝(ながたか・乾いぬい、藩士/漢学)	E 3 2 0 6
甲斐(かい・浅野)	→	忠敬(ただひろ・浅野あさの/藤堂、藩家老)	V 2 6 1 9
甲斐(かい・六角)	→	秀平(ひでひら・六角ろっかく、神職、国学/歌)	M 3 7 2 8
可為(かい・宇喜多)	→	可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師)	L 4 7 7 1
佳依(かい・佐橋)	→	筋翁(せつおう・佐橋さばせ、幕臣/博物家)	K 2 4 7 5
愷(がい・清川)	→	靄漱(あいとん・清川きよかわ、儒/詩人)	D 1 0 2 2
愷(がい・熊野)	→	玄碩(げんせき・熊野くまの、藩士/医者)	K 1 8 5 2
愷(がい・川口)	→	西洲(さいじゅう・川口かわぐち、儒者/詩人)	G 2 0 7 3
愷(がい・石原)	→	愷(やすし・石原いしはら、本草学者)	B 4 5 6 3
該(がい・脇山)	→	退斎(たいさい・脇山、藩儒/文教政策)	B 2 6 4 3
亥(がい・中なか)	→	伊三郎(いさぶろう・中屋、蘭学/銅版画)	F 1 1 5 0
菱(がい・木村)	→	鐸山(たくざん・木村きむら、藩士/書家)	O 2 6 0 0
涯(がい・平)	→	帰一(きいきつ・平たいら、西洋兵学者)	J 1 6 5 8
漑(がい・源)	→	漑(すすぐ・源、廷臣/歌人)	D 2 3 3 2
槩(がい・加藤/篠崎)	→	竹陰(ちくいん・篠崎しのぎ/加藤、儒者)	C 2 8 5 2
雅威(がい・飛鳥井)	→	雅威(まさたけ・飛鳥井/藤原、廷臣/歌)	D 4 0 3 7

- 1586 **皆阿**(かいあ・柳堤居、赤県老人、皆可とも?)**?-?** 俳人・談義本作者、滑稽本作者、1701「文蓬萊」入、1755滑稽本「花菖蒲待乳問答はなあやめまっちもんどう」著
- I1532 **槐庵**(かいあん・堀ほり、名;正乙/別号;梅園/立意りゆい、立庵男)**?-1667早世** 広島藩儒者;父門、「槐菴遺稿」、蒙窩もうか・蘭阜の兄
- I1533 **支庵**(かいあん・井上いのうえ、名;章倫)**?-?** 江中期江戸の漢学者、1741「説文字母集解」編、[支庵(;)号]の別号]別号;尖庵/宣明斎
- I1534 **海庵**(かいあん・森もり、名:明/性)**1785-1827 43歳** 常陸水戸藩侍医;1814出仕、庸軒の父、「濶達楼詩集」「名方集」「医神宝」「叡麓医説」/1809「和拾得詩」著、「庸軒先生経験方」(;門人の筆録)、[海庵(;)号]の字/通称]字;誠卿、通称;庸軒
- H1512 **快庵**(かいあん・大森おおもり、名;君欽/欽、)**1797-1849 53歳** 甲州の儒者;朝川善庵門、詩;大窪詩仏門、国学も修学、帰郷して農商業を営む;蓄財をなす、1831「不二紀行詩」32「楽国雑詞」、「甲斐叢記」著、[快庵(;)号]の字/通称/別号]字;舜民、通称;七郎右衛門、別号;詩史園/蘇州
- H1513 **遯庵**(かいあん・樋口ひぐち、東専右衛門男/樋口義所の養子)**1801-56 56** 周防岩国藩儒者;養父義所門、1823京の古義堂入門;伊藤東峰門、25歳藩;講堂会頭/侍講、46歳藩校養老館教授、「遯菴詩文集」著、[遯庵(;)号]の名/字/通称/諡号]名;成/遜、字;子敏、通称;善蔵/善三、諡号;成純
- I1535 **海庵**(かいあん・多田ただ、義徳の長男)**1826-64 殺害 39歳** 但馬出石藩士、儒;藩校弘道館に修学、1843大阪の藤沢東暎とうがい門、江戸の古賀洞庵門/昌平黌に修学、帰藩;藩校弘道館教授寮長/のち西洋砲術;長崎の高島秋帆門、諸藩に伝授、藩老と対立;一時幽閉される、姉小路公知・三条季知に招聘、七卿落・生野の変に連座;

但馬城崎温泉で捕縛され殺害、「国体一覽」「海防難儀」「地球小識」「關蝦夷策」著、「報国十議」著、「海庵遺吟」、

[海庵(；号)の名/字/通称]名；経之/立德、字；成卿、通称；弥太郎

海庵(かいあん・館たち)	→	天籟(てんらい・館たち/齋藤、藩士/儒者)	E 3 0 5 2
悔庵(かいあん・東)	→	夢亭(むてい・東ひがし/清水、儒医/詩文)	4 2 9 3
塊庵(かいあん・富川)	→	大塊(たいかい・富川/大橋、大庄屋/詩文)	J 2 6 4 3
槐庵(かいあん)	→	常仙(じょうせん・志村しむら、俳人)	T 2 2 9 3
槐庵(かいあん・初世)	→	馬來(ばらい・上田、医/俳人)	F 3 6 8 0
槐庵(かいあん・二世)	→	蒼虬(そうきゅう・成田、俳人)	2 5 0 7
槐庵(かいあん・三世)	→	梅室(ばいしつ・桜井、研刀職/俳人)	3 6 0 4
槐庵(かいあん・五世)	→	大常(だいたいよう・越前屋、竜居、俳人)	B 2 6 6 1
槐庵(かいあん・六世)	→	大夢(だいまむ・直山、俳人)	C 2 6 2 3
槐庵(かいあん・宮杉)	→	直親(なおちか・宮杉、町年寄/記録)	B 3 2 6 6
槐庵(かいあん・上田)	→	馬來(ばらい・上田うえだ、医者/俳人)	F 3 6 8 0
槐庵(かいあん・伊沢)	→	世徳(つぐのり・伊沢いざわ、医者/詩歌人)	F 2 9 1 9
槐庵(かいあん・玉楮)	→	千畝(ちうね・玉楮たまかじ、漆工/彫刻)	M 2 8 8 2
槐庵(槐菴かいあん・興野)	→	成信(なりのおぶ・興野おきの、藩士/歌人)	L 3 2 5 1
槐庵(かいあん・中小路)	→	貞章(さだあき・中小路なかこうじ/平、国学)	O 2 0 9 3
槐菴(かいあん・脇田)	→	信親(のぶちか・脇田、医者)	B 3 5 9 9
魁庵(かいあん)	→	梅窓(ばいそう、俳人)	B 3 6 7 4
快安(かいあん・松前)	→	景広(かげひろ・松前まつまえ、藩士/藩政)	L 1 5 2 9
快安(かいあん・中江)	→	岷山(びんざん/みんざん・中江、儒者)	3 7 3 4
快庵(かいあん)	→	妙慶(みょうきやう;法諱、曹洞僧)	G 4 1 3 1
快庵(かいあん・青地)	→	彫棠(ちやうとう・青地、医者/俳人)	2 8 5 2
快庵(かいあん・太田)	→	主計(かづえ・太田おた、医者)	M 1 5 1 0
快庵(かいあん・田子)	→	玄同(げんどう・田子たご、医者)	L 1 8 9 2
解庵(かいあん)	→	平砂(2世へいさ・皐月、俳人)	2 7 3 1
蟹庵(かいあん・原)	→	宏平(ひろへい・原、商家/歌人)	L 1 9 0 8
介庵(かいあん)	→	秋巖(しゅうがん・萩原、書家)	W 2 1 8 7
介庵(かいあん・中井)	→	蕉園(しやうえん・中井なかい、儒者)	H 2 2 2 8
介庵(かいあん・湯本)	→	俊斎(しゅんさい・湯本ゆもと、医者/儒)	K 2 1 7 2
介庵(かいあん・目賀田)	→	文村(ぶんそん・目賀田めがた、絵師)	G 3 8 0 9
介庵(かいあん・萩原)	→	秋巖(しゅうがん・萩原はぎわら、書家/詩)	W 2 1 8 7
蓋庵(がいあん・手島)	→	宗義(むねよし・手島/富永/上河、商家/心学者)	C 4 2 8 7
快為(かい)	→	源為(げんい;法諱、天台僧/歌人)	B 1 8 2 1
快意(かい)	→	可敬(かけい・日永ひなが、古筆鑑定家/歌)	W 1 5 5 4

G1564 海一(かいいち;法諱) ? - ? 室町期;尾張熱田神宮の社僧?

連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(5句)、

[ながかれとをしめばあくる月の夜に](熱田法楽;賦山何;二表5、惜しむは命と月、  
前句;満守;しらぬ頼みや命なるらん)

海一(かいいち・永田) → 海一(うみかず・永田ながた、国学/神職) E 1 2 8 1

皆一(かいいち・みないち・山崎) → 山崎検校(やまさきけんぎやう、歌人) H 4 5 1 2

I1536 海一沫(かいいつまつ) ? - ? 江中期江戸の浄瑠璃作者、

1779(安永8)「幡隨長兵衛白井権八 驪山比翼塚めぐろひよくか」中良・吉田鬼眼・達田弁二と合作

I1528 芥隠(かいいん;道号) ? - 1495 京の南禅寺系の戦国期僧、1450(宝徳2)琉球渡航、  
臨濟宗を伝える;4人の王(尚泰久・尚徳王・尚円王・尚真王)に仕える、尚泰久王は深く帰依、  
尚真王は1492菩提寺として首里に琉球円覚寺を建立;芥隠をその開祖とす、  
広厳寺・普門寺・天龍寺・崇元寺など多くの仏寺を建立

永く琉球に留まり王府顧問として日琉の貿易や外交に従事;外交僧の役割を果たす

U1518 海印(かいいん;道号・通称;定蔵、俗姓;佐藤、)出羽由利郡の僧/連福寺の大禅師、



歌;香川景平・烏丸光祖門

- I1537 **槐陰**(かいいん・岡崎おかざき、名;正忠)1784-1831 48歳 常陸水戸藩儒;藤田幽谷門、1803彰考館に入、1807「常陸稽古秘書」09「春秋列国系譜考」11「英勝院夫人年譜」、「四蕃異聞集」「稽古集録」「修史復古紀略」「槐陰秘録」「翠松筆記」「清風堂文集」「梅巷隨筆」「西山遺文」外著多数、[槐陰(;号)の字/通称/別号]字;子衛、通称;忠介/次郎兵衛、別号;梅巷ばいこう/清風堂
- 海印(かいいん) → 智叡(ちこく;法諱・法興、修驗/真言) E 2 8 1 9  
槐陰(かいいん・浅野) → 讓(ゆずる・浅野あさの、医者/歌人) G 4 6 0 6  
槐陰(かいいん・三角) → 有紀(ありのり、廷臣/医者) I 1 0 5 1  
槐蔭(かいいん・赤石) → 希范(きはん・赤石・明石、医者) L 1 6 8 1  
槐蔭(かいいん・河野) → 杏庵(きょうあん・河野/越智/越、医者) N 1 6 1 6  
海印庵(かいいんあん) → 幽嘯(幽松ゆうしょう・青山あおやま、俳人) C 4 6 5 7  
海隱居士(かいいんこじ) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9  
海印定院(かいいんじょういん) → 慧海(えかい;法諱・潮音、真宗僧) D 1 3 5 2  
槐陰書屋(かいいんしよおく) → 粲(つばら・小出/松田、藩士/歌人) E 2 9 3 1  
槐陰雪屋(かいいんせつおく) → 秋香(あきか・中村なかむら、幕臣/歌人) I 1 0 1 3  
槐蔭亭(かいいんてい) → 永好(ながよし・間宮まみや、国学/歌人) G 3 2 4 7
- E1532 **海宇**(かいう) ? - ? 俳人、1716宗瑞(風葉)「江戸筏」地巻に36句入、[むかし今大名料理石露つのは花](江戸筏;地第七独吟歌仙発句/昔の質素が思われる)
- S1520 **海宇**(かいう) ? - ? 伊予の俳人;1777「巖島紀行」著
- E1533 **快雨**(かいう・矢上やがみ、名;行/字;子生/通称;行助)?-? 江後期阿波の儒者/詩;広瀬淡窓門、京住、1840「宜園百家詩初篇」編、「宜園五律集」編
- 海宇(かいう・宮原) → 積(つむる・宮原みやはら/荒武、藩士/歌人) F 2 9 7 7
- I1538 **快運**(かいうん;法諱・音識;字、俗姓;大橋)?-1787 武州大沢の真言僧;福寿院快眞門/長谷寺修業、1764武州三保谷の広徳寺住職/72湯島根生院19世/75長谷寺29世/権僧正、「卓峯録」著
- 1587 **海雲**(かいうん;法諱・祥水しょうすい;道号、小野塚彦右衛門男)1738-1827長寿90歳 江中後期;曹洞僧、越後南魚沼郡石打村関山の生、曹洞宗雲洞庵の住持/1788能登普蔵院に輪住、江戸に遊学/詩人;服部南郭・白賁門、白隠・大雅と交流、1800「金城余稿」16「海雲禪師拈拾集」、「芙蓉余稿」「海雲相承次第記」著
- H1514 **皆雲**(かいうん・佐野さの、名;信成/字;義卿/通称;嘉兵衛、竹亭男)1815-8470 伊勢の儒者;父門、藤堂家講官、久居藩大参事;学制改革に参画、「海窓詩文集」著
- V1544 **槐雲**(かいうん・原田はらだ、名;雅道/垂穎してかい)1827-7953 上野榛名山の榛名神社祠官、国学者
- 海雲(かいうん;号) → 元養(げんよう;法諱・百拙;道号、黄檗僧/詩/画) E 1 8 5 7  
海雲(かいうん・青木) → 北海(ほっかい・青木/殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3  
海雲(かいうん;号) → 連山(れんざん;道号・交易;法諱、曹洞僧) B 5 1 0 9  
海雲(かいうん;法名) → 忍海(にんかい;法諱・曇誉、浄土僧/画) G 3 3 1 9  
欸雲(かいうん/あいうん・林) → 道栄(どうえい・林、通事/書) B 3 1 3 5  
壞雲(かいうん・円山) → 応挙(おうきよ・円山/藤原・源、絵師) 1 4 4 6
- 1588 **海恵**(かいえ;法諱・大円房僧都、澄憲男)1172-120736歳 真言僧;1191守覚法親王門;伝法灌頂、権僧都、定家の亡母の導師、聖覚の弟/八条院高倉の兄、藤原通憲[信西]の孫、俊憲/貞憲/成範/静賢/勝頭らの甥、「筆海要津」「海草集」「理趣経要決鈔」著、1200「密宗要決鈔」著、万代集入、[過ぎぬればともにむなしきものぞかしきのふの夢もへふのうつつも](万代;3516)、[海恵の号] 功德院/理智院法印  
☆澄憲と高松院妹子内親王との密通説あり;母は八条院高倉と共に妹子内親王か?
- E1553 **懷英**(かいえい;法諱・春潮;字、俗姓小笠原)1642-172786 筑後久留米真言僧;1655祇園寺快応門、1663高野山に修学/1717高野山寺務検校、「高野山春秋編年輯録」編/「元禄聖断記」著、「高野天正治乱記」「公暇性理隨筆」「野山見聞隨筆」「野山神祖感靈集」「古今往生拾遺集」著
- 海叡下(かいえいか) → 月守(つきもり・神田かんだ、俳人) 2 9 6 3
- 1589 **懷円**(かいえん・大宮禪師、筑前守源道濟男)?-? 平安中期天台宗叡山の法師/歌人、後拾遺3首:504/839/1018、叡山僧懷寿・赤染衛門と王昭君を詠む(後拾1018)、

良暹と交流;歌を論ず(袋草紙に逸話)、  
[都にて吹上ふきあげの浜を人間はば今日みるばかりいかが語らん]、  
(後拾:九羈旅504/熊野参詣の道に紀伊の吹上浜を見て詠)

- I1539 **快円**(かいえん;法諱) ? - ? 1447存 室町期東大寺惣持院の三論僧;智舜門、  
法相/俱舎に精通、「東大寺別当次第」著(753-1447の別当補任録)
- I1540 **懷円**(かいえん;法諱・点盧てんろ;号)1746-182580 江中期阿波宮島村の真言僧;慈雲門、瑞川院中興、  
画;阿波の一休と称された、1811「真言安心小鏡」15「安心小鏡禅要」、「禅要余稿之余」著
- I1541 **槐園**(かいえん・喜多村きたむら、名;直/字;子温、通称;安正[政]、直方男)1769-182557 幕府医官、  
母;村上行正女、1808表御番医師/法眼、  
1824「日光採品図説」、「吹耳考」、「坐導考」、「雁瘡考」著
- 槐園(かいえん・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学/歌) G 3 6 0 5  
槐園(かいえん・成沢) → 雲帯(うんたい・成沢なるさわ、商家/俳人) D 1 2 9 1  
槐園(かいえん・岡内) → 綾川(りょうせん・岡内おかうち、藩儒) I 4 9 5 5  
槐園(かいえん・宇田川) → 玄随(げんずい・宇田川/宇、蘭医) C 1 8 4 1  
槐園(かいえん・桜井) → 武雄(たけお・桜井けさくらい、藩士/国学者) X 2 6 1 9  
槐園(かいえん・古林) → 正惇(まさあつ・古林ふるばやし/高松、医者/歌) S 4 0 3 8  
槐園(かいえん・三角) → 有紀(ありのり、廷臣/医者) I 1 0 5 1  
晦園(かいえん・村瀬) → 太乙(たいいつ/たいおつ・村瀬、藩士/儒者) B 2 6 0 3  
悔焉(かいえん;字) → 澄禅(ちようぜん;法諱・悔焉、真言僧/悉曇学) J 2 8 3 1  
快園(かいえん・里井) → 孝幹(たかもと・里井、国学) N 2 6 4 2  
懷遠(かいえん・藤原) → 懷遠(やすとお・藤原、懷平/廷臣/歌人) C 4 5 1 7  
会遠(かいえん→えおん) → 日習(にっしゅう;法諱・修禅院、日蓮僧) E 3 3 0 5  
改焉(かいえん・上柳) → 牧斎(ぼくさい・上柳うわやなぎ/柳、儒者) D 3 9 1 3
- I1542 **檜園梅明**(かいえんうめあき、田中たなか、通称;重兵衛)1793-185967 江戸長谷川町の狂歌檜垣連の長、  
「狂歌くらべ馬」「狂歌三玉集」「狂歌三樹集」「狂歌怜野集」「伊呂波節用集」「今様画像集」編、  
「狂歌草野集」「狂歌扶桑名所図会」「東海道名所図絵」「名所遊覧狂歌集」外著多数、  
[檜園梅明の別号] 竜廻門/握星子/宮生居
- F1569 **蟹翁**(かいおう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入  
[谷やつの長をさ水よし田畑南むき](二葉之松;242/鎌倉谷七郷の村長の裕福さ)
- 1590 **塊翁**(かいおう・竹内たけうち、名;春政)1764-182966 尾張草木村の俳人;暁台・士朗門/名古屋住、  
1804「あをむしろ」14「心のたま」18「雁の空」19「むかしいま」22「種くり」、「塊翁寄句集」著、  
句集「青於集」(門人楚山編)、[春雨の中の月夜や軒の山]、  
月底/沙翁/而后/楚山らの師、  
[塊翁の通称/別号]通称;九右衛門、別号;竹有/大鶴庵
- I1543 **海応**(かいおう;法諱・智本;字、俗姓菊池)1771-183363 佐渡徳和村の真言僧;英範門/智蓋門、  
菩薩戒/唯識/俱舎/一乗教を修学、1824江戸眞福寺住職/29智積院32世;権僧正、  
「海応録」「俱舎論懸談」「唯識論私記」「念仏略記」「聖教目録」「光記要辨集」外著多数
- I1544 **海雄**(かいおう;法諱、俗姓;島田)?-1866 江後期阿波高原村の真言僧;東林院教雄門、  
1820竜遍門;灌頂を受、東林院20世、高野山宝性院42世門主、詩人、  
1858「庵流伝授目録」、「唯一神道拾遺」著、  
☆歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入?  
[一ふしのけしきも見えて白雪にたわむもうれし千代の呉竹](大江戸倭歌;冬1266)
- T1527 **海翁**(かいおう) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入  
[忘れんとしはしかこつ琴のねに又いくすぢか思ひ乱るる](大江戸倭歌;恋1617)
- H1515 **海鷗**(かいおう・菱田ひだ、名;重禧/禧、毅斎6男)1836-9560 美濃大垣の儒者;父毅斎門/安積良斎門、  
帰郷;家塾を開く/藩老小原鉄心の招聘で大垣藩儒;藩校致道館教官/侍講、  
維新後は小原鉄心配下で活躍;1868京都総裁局吏官/諸県知事・判官・教員を歴任、私塾開、  
「海鷗詩刺」/1867「飲夢記」「記夢三篇」著、「海鷗遺稿」  
[海鷗(;号)の字/通称]字;士瑞、通称;文蔵、

- 海鷗(かいおう・西川) → 江梅軒(こうばいけん・西川、俳人) B 1 9 8 5
- 海鷗(かいおう・原) → 古処(こしょ・原/手塚、儒者/詩人) C 1 9 9 4
- 海鷗(かいおう・真崎) → 季顕(すえあき・真崎まさき、藩士/記録収集) F 2 3 3 4
- 海翁(かいおう;法名) → 慶広(よしひろ・松前/源/蠣崎、藩主/連歌) G 4 7 5 6
- 海翁(かいおう・跡部) → 良顕(よしあきら・跡部、幕臣/神道/歌) C 4 7 0 4
- 海翁(かいおう・山本) → 直(ただし・山本やまもと、国学者/歌人) 2 7 2 2
- 海翁(かいおう・村瀬) → 大阜(たいふ・村瀬、書肆/俳人) K 2 6 9 9
- 晦翁(かいおう・宝暁) → 晦翁(まいおう;道号・宝暁ほうこう;法諱、黄檗僧) 4 0 4 2
- 会翁(かいおう) → 自得斎(じとくさい・会翁、歌謡編纂) F 2 1 3 3
- 介翁(かいおう・不破) → 浚明(ふかあきら・不破ふわ、藩士/儒者) H 3 8 5 1
- 回翁(かいおう・高松) → 明言(あきのり・高松、国学/歌人) D 1 0 7
- 蟹翁(かいおう・井上) → 景明(かげあき・井上いのうえ、国学/歌人) T 1 5 4 9
- 槐翁(かいおう・跡見) → 重敬(しげよし・跡見あとみ、国学者) N 2 1 1 9
- 慣翁(かいおう・熊田) → 休庵(きゅうあん・熊田くまだ、商家/儒詩) M 1 6 2 4
- V1547 愷翁(かいおう・宇井い、) ? - ? 江中期紀伊牟婁郡新宮の儒者;伊藤東生門、  
1731(享保16)新宮に漢学塾[鬱翠園]を開設;門弟多数;大石鳳蕉(純蔵)の師、  
東ひがし嘯春尼しょうしゅんに(1743-1831)の父
- 快翁宗俊(かいおうそうしゅん) → 定盛(じょうせい・竹田、医者/歌/能楽) O 2 1 2 4
- 1591 海屋(かいおく・貫名ぬきな[家祖の旧姓]、名;苞/直知/直友、吉井直好男)1778-1863<sup>86</sup> 徳島儒・書画人、  
母;藩絵師矢野典博女、画;祖父典博門/書;西宣行門/1794高野山で空海筆跡に傾倒、  
書の研究;唐様の名手/1808京で須静塾開、幕末三筆の1、「須静堂詩集」1859「四美具」著、  
「菘翁印譜」「貫名海屋印譜」「摘菘翁書跡一則」「容月園十二詠」著、「貫名海屋遺稿」、  
[海屋(;号)の字/通称/別号]字;子善/君茂、通称;政三郎/省吾/省吾郎/泰次郎、  
別号;海仙/林屋/海客/海叟/摘菘翁/菘翁すうおう/菘叟/摘菘人/春勝園/方竹園/摘芸人/  
方竹山人/須静主人/須静堂/三緘主人/三緘堂/嘉永子/咲青軒/鴨干漁父
- 蟹屋(かいおく・早崎) → 益(すむ・早崎はやざき、藩士/骨董商/歌) D 2 3 3 7
- 櫛屋(かいおく/かしわや・梶原) → 景淳(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1
- 槐屋(かいおく・永持) → 亨次郎(こうじろう・永持ながもち、幕臣) J 1 9 8 6
- 1501 海音(かいおん・紀きの、姓;榎並えなみ、通称;喜右衛門/善八、善右衛門貞因男)1663-1742<sup>80</sup> 浄瑠璃作者、  
家は菓子商鯛屋/初め黄檗僧;悦山道宗門/還俗;医者/国学・歌;契沖門/俳諧/放蕩生活、  
豊竹越前少掾と出会い;1707豊竹座付浄瑠璃作者;竹本座の近松と対抗、のち鯛屋家業、  
1736家業を養子に譲り医者;法橋、高津菩提庵に隠居、  
浄瑠璃;1708「椀久末の松山」「お染久松袂の白絞」「八百屋お七」「梅田心中」「鎌倉三代記」、  
「傾城国性翁」1722「心中二ツ腹帯」など著多数、  
俳諧:雑俳点者/狂歌、1740「狂歌活玉集」著、油煙斎貞柳弟、叔父;貞富/養子;忠七(貞風)、  
追善「仙家之杖」「しぐれの碑」「狂歌時雨の橋»;潘山(百子)編  
[紀海音きのかいおんの別号] 鯛屋海音/大黒屋海音/貞峨/昌因/契因/白鷗堂/鳥路観、  
屋号;鯛屋、法名;高節/法号;清潮院
- I1545 海音(かいおん;法諱、別諱;雷震、俗姓望月、海雲男)1814-82<sup>69</sup>歳 播磨室津の真宗本願寺派僧、  
父を嗣ぎ寂静寺住職、勝乗/泰巖門、1837寂静寺に寮舎耕雲閣設置;後進指導、  
「唯識三類境選要講録」「海音師七絶」「往生要集通講」著、  
[海音の号] 専々道人、諡号;開通院
- I1546 快音(かいおん・孤山軒こざんけん)?- ? 江戸期華道家:池坊専養・専好門?、立花が得意、  
「攢華雜録」「孤山軒生花譜」著
- 懐音(かいおん) → 懐音(えおん、本蓮社玄阿、浄土僧) D 1 3 4 8
- 海音(かいおん;字) → 日潮(にっしょう;法諱・六牙院、日蓮僧) F 3 3 2 0
- 快温(かいおん・森) → 快温(はやあつ・森、藩主/詩文) F 3 6 7 1
- 皆可(かいか・柳堤居) → 皆阿(かいあ・柳堤居、俳人/滑稽本) 1 5 8 6
- 1592 快雅(かいが、藤原親雅男?)?- ? 1244存 鎌倉期天台宗叡山僧;権僧正/1230法印、



歌、続古今770、

[うれしきは袖につつみし玉ぞともけふこそ聞きて身にあまりぬれ](続古;釈教770)

- I1548 **快雅**(かいが;法諱・実乗房;号)?-1433 下野宇都宮の真言僧;若くして高野山に入、宝性院有快門、のち園城寺に修学、高野山迎接院に住、のち正智院に転住、1402「二教論上巻問題」、「尺論聴鈔」著/「瑠璃山乗」「遠州大福寺文書」編、外編著多数
- 1593 **介我**(初世かいが・佐保さほ) 1652-1718 67歳 江戸俳人;芭蕉門、其角と親交、1756「門松」編、1690其角「誰が家」入、91猿蓑/97陸奥衛/98続猿蓑入、三回忌追善「飛ほたる」穀我編、[名月や蓮の実ぬけし水の音](桃隣「陸奥衛むつちどり」入)、[初世介我の通称/別号]通称;孫四郎、別号;甘雨亭/普船/普仙
- B1500 **介我**(5世かいが・佐保さほ、初世の曾孫)?-? 江戸の俳人;完来門
- B1501 **介我**(7世かいが・佐保さほ、通称;孫四郎/別号;葎甘、5世介我男)?-? 江戸の俳人;午心門、1841「あやめ集」編、1848-50「風俗文選犬いぬ註解」著
- I1549 **噲噲**(噲会かいかい・佐竹さたけ、名;貞吉、字;応謙/昏昏こんこん) 1738-90 53 京の酒店主/絵師:大雅門、篆刻も嗜む、「米汁沽噲」編、1772銅脈先生「吹寄蒙求」に狂文「噲会如泥」入、[噲噲の通称/別号]通称;彦四郎、別号;売酒郎、法号;噲々堂浄閑居士
- 噲々(かいかい・鈴木) → 其一(きいつ・鈴木すずき、絵師) E 1 6 9 5
- 海懐(かいかい;法諱) → 法定(ほうじょう;法諱、真宗高田派僧) B 3 9 7 7
- 海外(かいがい) → 大梅(だいまい・小島/児島、詩/俳人) C 2 6 0 9
- 海外(かいがい→かいげ;道号) → 亮天(りょうてん・海外、曹洞僧) J 4 9 0 6
- 海外(かいがい・武知) → 方獲(まさかり・武知たけち、藩儒/詩人) P 4 0 1 6
- 贖々翁(かいがいおう・富岡) → 鉄斎(てつさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3
- 海崖亭(かいがいてい) → 正魚(まさお・加増かぞう/千田、陪臣/国学) O 4 0 6 5
- 開華院(かいがいに:号) → 法住(ほうじゅう;法諱、真宗僧) F 3 9 0 6
- 1594 **快覚**(懐覚かいかく:法諱、藤原保相男or世尊寺伊房男?) 1021?-? 1081存 平安中期天台僧;法師、園城寺の阿闍梨/已講(伊房男なら叡山の阿闍梨)、母;為平家女房?、歌人;後拾遺419(;聴覚による結氷のとらえ方が新鮮で後代への影響大)、[小夜ふくるまゝに汀みぎはや氷ほるらん遠ざかりゆく志賀の浦波](後拾;冬419、新古今639家隆「志賀の浦や遠ざかりゆく浪間よりこほりて出づる有明の月」の本歌)
- I1550 **戒覚**(かいかく;上人、俗姓;中原)?-? 1083存 天台僧;叡山40年修行、伝灯大法師位/播磨引接寺住、1082弟子隆尊・仙勢らと入宋/1083宋都/五台山着;1082-83記録「渡宋記」(日本へ送付)、のち行方不明、万代集入;3446、[命こそうれしかりけれ音にきく唐からの都をけふしみつれば](万代;雑3446、詞書;宋朝に入りて侍りける日詠み侍りける/渡宋記:元豊六年1083二月廿日;心こそ嬉しかりけれ命あれば唐の都を今日見つるかな)
- I1551 **海覚親王**(かいかくしんのう、邦高親王男) 1499-1531 33歳 母;今出川公賢女、出家;常信親王門、1513山城勸修寺26世長吏/23慈尊院実尊より伝法灌頂、23「勸堂上御灌頂記」著
- 会覚(かいがく→えがく) → 会覚(えがく、俳人) B 1 3 5 9
- 海岳(かいがく・三宅) → 樅台(しょうだい・三宅みやげ、儒者/詩文) U 2 2 0 7
- 海鶴庵(かいかくあん) → 寥和(りょうわ・浅井あさい、俳人) J 4 9 6 7
- 海嶽菴無心子(かいがくあんむしんし) → 保有(ほゆう・梶山、俳人/狂歌) E 3 9 7 8
- 海鶴斎(かいかくさい・吉田) → 国甫(こくほ・吉田、俳人) M 1 9 2 1
- 海学堂(かいがくどう) → 恵辨(えべん;法諱、真宗高田派僧) E 1 3 2 3
- 我為我軒(がいがけん) → 黙庵(もくあん・牧野/臼杵、儒者) 4 4 6 5
- 槐下桑門(かいがそうもん) → 公敦(きんあつ・三条/転法輪三条、歌人) Q 1 6 6 4
- E1535 **快活道人**(かいかつどうじん) ? - ? 江戸期洒落本作者;「西郭灯籠記」著
- 松室松峽と同一? → 松峽(しょうこう・松室、神職/白話小説) S 2 2 1 1
- 快活道人(かいかつどうじん) → 松峽(しょうこう・松室まつむろ、神職/白話小説) S 2 2 1 1
- 芥花堂(かいがどう) → 尤最(もとよし・山崎やまさき、語学者) E 4 4 7 1
- 我為我堂(がいがどう) → 中清(なかきよ・雛田ひなだ、神職/国学/歌) L 3 2 1 6



- U1519 **海侃**(かいかん:法諱、俗姓;堀木)1770-184374 信濃伊那郡の僧/江戸谷中感応寺住職、大僧都、歌;澄月門、  
[海侃(:法諱)の通称/号]通称;賢次郎、号;三堂/起行院  
快閑(かいかん:法名) → 長隆(ながたか・土佐/姉小路、絵師) E 3 2 0 0  
懐閑(かいかん:字) → 玄貞(げんてい:法諱、真宗仏光寺派僧) E 1 8 4 2  
晦巖(かいがん;道号) → 道熙(どうき:法諱・晦巖、黄檗僧) C 3 1 5 6  
晦巖(かいがん;道号・道廓) → 道廓(どうかく:法諱・晦巖、臨濟僧) C 3 1 2 3  
環巖(かいがん;道号) → 祖珍(そちん;法諱・環巖;道号、臨濟僧) K 2 5 1 1  
快幹軒(かいかんけん) → 定秀(さだひで・蒲生、豪族/城主/連歌) J 2 0 4 6  
海岸居士(かいがんこじ:法号) → 重成(しげなり・大高/高階、武将/歌/連歌) C 2 1 6 2  
海岸房(かいがんぼう:号) → 良範(りょうはん:法諱、天台僧) L 4 9 5 9
- I1552 **快季**(かいき:法諱、号;等覚院)?- ? 1533存 真言僧;鶴岡八幡宮寺等覚院住、助法印、1394?西院流伝法灌頂/1407社家執行職、1403「西院伝法灌頂記」著
- I1553 **菱岐**(がいき) ? - ? 俳人、1777江涯こうがい「仮日記」入、  
[梅は散れど何に移らふ此のたのし](仮日記:96)  
外記(がいき) すべて → 外記(げき)  
海客(かいきゃく) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1
- H1594 **海牛**(かいぎゅう) ? - ? 俳人、1692才麿「椎の葉」8句入(才麿[秋興]歌仙入)、  
[後の月その窓程に照りぬきて](椎の葉;「秋興」第三句、  
前句(脇句);尚列;眠りをゆづる鴟もぎの雲櫓とまりぎ)
- S1575 **豈休**(がいきゅう・池田いけだ)? - ? 江前期備前の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[五月雨や屋根の重石おもしろ沖の石](手鑑/沖の石;乾く間もなし、  
我が袖は)
- 1595 **皆虚**(がいきょ:号・空願;法号、別号;角茄軒、俗姓鬼藤)1616-7863 土佐高知真宗大谷派円満寺3世、  
連歌;昌琢門/俳諧:貞門野々口立圃門、1656「世話焼草」編(;世話[俗語]を採用)、  
「四名集」編、1656燕石「牛飼」/1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[人は肛り年は頭のむつき哉](手鑑/襖褌と睦月を掛る)  
海巨(かいきょ・小泉) → 蒼軒(そうけん・小泉こいずみ、地誌/測量家) H 2 5 0 8
- S1502 **芥境**(がいきょう) ? - ? 尾張俳人、1691「猿蓑」入  
[木菟みみぐやおもひきつたる昼の面つら](「おもひきつたる」は見切をつけた様子;猿蓑一)
- B1502 **海嶠**(かいきょう・伊藤いとう、名;弘朝、菅野延常男)1763-181856歳 淡路三原生、伊藤亦岨養嗣子  
儒者/詩;伊東東所門、古義、和歌山藩学習館督学、1813「南紀風雅集」編、「海嶠遺稿」、  
[海嶠(;号)の字/諡号]字;海蔵、諡号 緝明先生
- I1554 **海嶠**(かいきょう・玉井たまゐ、名;華、元倫男)1817-6246歳 越後柏崎医者;父門/昆泰仲門、  
儒;経史;原松洲門/詩:梁川星巖門、「刀圭余録」、「海嶠遺稿」  
[海嶠(;号)の字/通称/別号]字;氷鑑、通称;一郎、別号;鉄崑崙
- I1555 **海嶠**(かいきょう・青木あおき、忠武、弘安こうあん男)1835-66 越後中蒲原郡曾野木村の儒者;幼時より聡明、  
1859能登興野で漢学教授、詩人、青城の弟、「先志堂遺稿」著、  
[海嶠(;号)の字/通称/]字;土叔/通称;恭平、諡号;靖愨  
海嶠(かいきょう・坂上さかのうえ) → 是村(これむら・町口、廷臣/明法家) O 1 9 9 0  
海響(かいきょう・菱川) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
快行(かいぎょう;字) → 教存(きょうそん;法諱・快行、真言僧) O 1 6 2 6
- I1556 **海旭**(かいきょく;号・小泉こいずみ)1750-183283歳 岩代田村郡小野新町の人、「栗棘蓬」著
- I1503 **海旭**(初世かいぎょく・和田わた、竜心亭)?-? 江戸の俳人;沾山せんざん門、沾徳座沾山側点者、  
1754竹翁「俳諧童の的」点句入
- I1504 **海旭**(3世?かいぎょく・榎、文花房)?-? 江戸俳人・沾山7世門、1848沾山7世「俳諧觸はいかいけい」入  
海旭(かいぎょく:法諱・物先) → 物先(もつせん:道号・海旭、臨濟僧) B 4 4 9 2  
懐玉(かいぎょく:道号・道温) → 道温(どうおん;法諱・懐玉、黄檗僧) B 3 1 6 4  
懐玉(かいぎょく/えぎょく;字) → 恵琳(えりん;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 3 6  
懐玉(かいぎょく) → 贅人(ほうじん・鹿柴ぶくさい/魚籃先生、農業/漢文) B 3 9 8 4

- 懷玉堂(かいぎょくどう) → 治兵衛(次兵衛じへえ・橘屋、蕉門書肆) G 2 1 1 3  
 懷玉堂(かいぎょくどう) → 藤四郎(とうしろう・中川/河内屋、書肆) F 3 1 5 8  
 皆宜楼(かいぎろう) → 燕石(えんせき・日柳(さなき、詩人/勤王派) B 1 3 8 1  
 海欽(かいきん;号) → 誓誓(せいはい;法諱、浄土僧/文筆家) D 2 4 0 5  
 E1536 懷空(かいくう) ? - ? 平安中期天台僧;西塔院主、仏教歌謡編纂:  
 1058以後:「教化之文章色々」著  
 皆空(かいくう;法名) → 隆寛(りゅうかん;法諱、浄土僧/多念義祖) D 4 9 2 6  
 快空(かいくう;法諱) → 太悦(たいえつ;号・快空、浄土西山派僧) J 2 6 1 9  
 海隅生(かいぐうせい) → 訥庵(とつあん・陶山(すやま、藩士/農政) O 3 1 4 0  
 海隅白翁(かいぐうはくおう) → 正方(まさかた・高田、国学/垂加神道) B 4 0 8 6  
 蟹窟(かいくつ) → 文兆(ぶんちよう・岩下(いわした、俳人) G 3 8 2 1  
 海外(かいがい;道号) → 亮天(りやうてん・海外、曹洞僧) J 4 9 0 6  
 海恵(かいけい) → 海恵(かいえ・大円房、真言僧) 1 5 8 8  
 海慧(かいけい;法諱) → 大衡(だいてう;道号・海権;法諱、黄檗僧) J 2 6 9 7  
 会慶(かいけい→えけい) → 会慶(えけい;法諱・覚賢、真言僧) 1 3 7 4  
 I1557 戒輓(かいげん;法諱・石車(せきしゃ;道号) 1715-8470 大阪(ば)黄檗僧;河内(かわち)大竜寺(だいりゅうじ)の象岩(しょうがん)浄威門(じやうゑもん);  
 1724(10歳)で出家、のち大竜寺住持/1776河内法雲寺住持/長門萩東光寺住持、  
 「石車禅師語録」著、  
 [戒輓の初法諱/初道号/号]初法諱;衍鞏、初道号;東江(とうかう)林瑞(りんずい)、号;亦如(えきじよ)  
 懷恵庵(かいけいあん) → 昌琢(しょうたく・里村、南家、連歌師) 2 2 8 6  
 槐月亭(かいげつてい) → 高福(たかふく・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7  
 懷月堂安度(かいげつどうあんどう) → 安度(あんどう・懷月堂、絵師) G 1 0 1 9  
 海月道人(かいげつどうじん) → 適(かなう・藤田(ふじた、絵師/国学) V 1 5 5 6  
 海月浪士(かいげつろうし) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1  
 E1537 快賢(かいけん) ? - ? 真言阿闍梨、1253高野版「三教指帰」開版  
 S1510 快賢(かいけん) ? - ? 室町後期僧/連歌;  
 1482通直願主「大山祇社法楽連歌」(万句)参加  
 C1563 悔愆(かいげん・国分(こくぶん) 1701-1782 82歳 陸前登米郡(りくぜんとうまいぐん)の儒者(にゅうしや);遊佐木齋(よすきぼうさい)門/木門(もくもん)4傑(てつ)の1  
 仙台藩(せんだいはん)の儒者、  
 [悔愆(;号)の名/通称]名;盛之、字;彦次郎、通称;伝右衛門  
 I1558 槐軒(かいげん・信夫(のぶ)本姓;源、名;顯祖(あきもと) 1766-1832 67 江戸(えど)の儒者(にゅうしや)/国学者(こくがくしや);古文研究(こぶんけんきゅう)、  
 書;経久門(けいこもん)、一橋家家臣(いちばなけにん)、  
 「槐軒集」、「紫式部考」「国史実録稿刪」「国諡略」「落窪物語註釈」著、  
 歌;蜂屋光世(はちやみつよ)「大江戸倭歌集」入、  
 [咲き残る菊は小春に匂ふなりいかで人めもかれんとすらん]、  
 (大江戸倭歌;冬1115/翫残菊)、  
 [槐軒(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;道別(みちわかき)、字;順卿、通称;真五郎、  
 別号;寿山、法号;長台院  
 快軒(かいげん・結城) → 香崖(かうがい・結城(ゆうき、藩儒/詩) G 1 9 2 1  
 快賢(かいけん;法諱) → 聖快(しょうがい;法諱、真言僧) H 2 2 5 6  
 介軒(かいげん・安藤) → 秋里(しゅうり・安藤(あんどう、儒者/書家) Y 2 1 4 9  
 海権(かいけん;法諱・大衡) → 大衡(だいてう;道号・海権、黄檗僧) J 2 6 9 7  
 懷賢(かいげん・ト部) → 懷方(かねかた・やすかた・ト部(うらべ、神職) C 1 5 7 2  
 1596 快元(かいげん) ? - 1469 臨濟宗(りんじしゅう)円覚寺(えんかくじ)の僧、易学(えいがく)に通ず、  
 1439(永享11)関東管領(くわんとくわんりやう)の上杉憲実(のうすぎのけんじつ)の招聘(こうへい)により足利学校(あしかががっこう)初代(しよだい)座主(ざす) (しよしゆ=校長)となる;  
 足利学校(あしかががっこう)を再興(さいかう)  
 I1559 快元(かいげん;法諱、通称;中納言(ちゆうなごん)法印(ぽういん) ?-? 戦国期(せんごくき);永正(えいせい)天文(てんぶん)1504-55頃(ころ)真言僧(しんごんじやう);  
 1505鎌倉(かまくら)鶴岡八幡宮(つるおかやっぺんぐう)相承院(さうじやういん)の供僧(くじやう)ぐそ(う)職(しやく)、鶴岡八幡宮(つるおかやっぺんぐう)修復造営(しゆふぞうえい)に尽力(じんりき);北条氏綱(きたじょうしじょう)の支援(しえん)、  
 「快元僧都記」著  
 I1529 快元(かいげん、通称;木食上人(もくじきじやうにん) ?-? 安桃江(あんとうかう)前期(ぜんき)天正(てんしやう)元和(げんわ)1573-1624頃(ころ)の真言(しんごん)/修驗僧(しゆげんじやう)、

高野山行人方;信長の高野山攻に加担/秀吉の知遇得て金峯山本願;一山の沙汰権掌握、  
天正慶長1596-1615頃大峯山の上下蔵王堂を再興;その功で1616後水尾天皇より嘉賞を受、  
「大峯山上蔵王堂再興縁起」「蔵王堂再興縁起」著

- I1560 **懷玄**(かいげん・法諱・高算こうさん;字)?-1790 近江の真言僧;豊山長谷寺に修業、  
1760下総妙見寺住、1773権僧正/85長谷寺31世/正僧正、「起信論私記」著  
戒言(かいげん) → 戒言(かいごん・覚性院、天台僧/歌人) 1 5 9 7  
快玄(かいげん;字) → 即中(測中そくちゅう;法諱、浄土僧) J 2 5 4 8
- I1561 **艾軒**(がいけん・柴田しばた/初姓:笹島、名;武修/厚)1809-7466 越前心学者:柴田鳩翁門;養嗣子、  
鳩翁と諸国歴遊;心学道話/1835代講者/嘉永1848-54年頃伊勢津の修文館で講筵、  
1834鳩翁口述「鳩翁道話」編/35「続鳩翁道話」編/36「よしなし言」著/38「続々鳩翁道話」編、  
1867「中庸蛇足辨」著、  
[艾軒の通称/別号]通称;謙蔵、別号;遊翁
- I1562 **亥軒**(がいけん・永山ながやま/平、字;政時、秀一男)1815-7965歳 金沢藩士儒:昌平鬻出、良齋門、  
藩校明倫堂講官、「北省日記」「亥軒詩稿」「永山平太文稿」「聯珠合璧」、1855「夏日百首」著、  
[亥軒の通称/別号] 通称;平太/平八、別号;椿園  
鎧軒(がいけん・葉山) → 高行(たかゆき・葉山はやま、藩士/儒者) N 2 6 6 4  
愷軒(がいけん・梅辻) → 春樵(しゅんしょう・梅辻/琴/祝部、神職/詩) J 2 1 9 6  
愷彦(がいげん・平野) → 愷彦(やすひこ・平野ひらの、藩士/弓術) G 4 5 4 8  
懷玄堂(かいげんどう・森田) → 直政(なおまさ・森田、商家/古書画鑑定) C 3 2 4 3
- U1514 **貝子**(かい・荷田かだ、肥後熊本藩士深尾盛長女)1647-171973 江前中期;国学・歌人、  
山城紀伊郡伏見稻荷社祠官の羽倉はくら[荷田]信詮のふり/のぶあきの後妻;  
春満あずまろ・信名ら7男3女の母
- 1598 **甲斐子**(かい・上田うねだ/千村ちむら、千村頼重[自然]女)1809-4335歳 上田仲敏の妻、  
尾張の国学者;本居春庭/大平門、さらに植松茂岳門、歌;荻野重道門、  
1843家集「源大家和歌集」、「上田甲斐子詠草」著、  
[甲斐子の号] 大家、法号;含徳院無味自樸大姉
- I1563 **豈翁**(かいこう・加藤かとう、名;友徳ともり、友益ともす[缶楽ぶがく]男)1699-177880 安藝海田の神道家・  
儒者;父門/植田玄節門、正親町家の神道を修学、広島藩儒/1760奥詰次席;  
江戸藩邸世子の侍読;帰藩後は子弟教育、  
「有貫二記」「講草別帖」「社倉攷異」「朱子社倉事目」「朱子社倉事目浅解」「範卜疏解」著、  
[豈翁(;)の字/通称/別号]字;好謙、通称;孫三、別号;十千  
偕行(かいこう・平) → 偕行(ともゆき・平、平安期歌人) Q 3 1 7 5  
諧孝(かいこう・山路) → 諧孝(ゆきたか・山路、天文暦算家) E 4 6 6 5  
懷綱(かいこう・藤原) → 懷綱(かねつな・藤原、歌人) O 1 5 6 4  
海皓(海顯かいこう;法諱) → 岳峰(たんぼう;道号・海皓、黄檗僧) K 2 6 0 6  
会侯(かいこう→のりまろ・岩下) → 貞融(さだみち・岩下/滋野、国学者/歌) C 2 0 4 9  
戒光(かいこう;字) → 觀豪(かంగょう;法諱・戒光、真言僧) Q 1 5 4 4  
戒光(かいこう;字) → 隆増(りゅうぞう;法諱・戒光、真言僧) F 4 9 0 5  
解香(かいこう・梅内) → 祐訓(すけのり・梅内うめない、藩士/古蹟調査) G 2 3 9 6  
開好(かいこう・淫水亭) → 種清(たねきよ・柳水亭、戯作;合卷) G 2 6 3 6  
槐江(かいこう・松田) → 聽松(ちようしょう・松田まつだ、俳人) N 2 8 5 4  
甲斐公(かいこう) → 公季(きんすえ・藤原、太政大臣/日記) E 1 6 1 7  
海紅園(かいこうえん) → 笛浦(てきほ・野田のだ、藩士/儒者/詩文) 3 0 1 0  
魁香園(かいこうえん) → 敏鎌(とがま・梅本うめもと/岡田、売薬/歌) U 3 1 3 6  
海幸翁(かいこうおう) → 喜左衛門(きざえもん・三保みほ、船頭/樺太見聞口述) F 1 6 3 6  
開行舎(かいこうしゃ) → 沾涼(2世せんりょう、俳人) N 2 4 3 3  
魁香舎(かいこうしゃ) → 歌右衛門(4世うたえもん・中村なかむら、歌舞伎役者) 1 2 6 5  
戒光堂(かいこうどう) → 智明(ちみょう;法諱、真言律僧) F 2 8 4 4  
懷国(かいこく・藤原) → 懷国(かねくに・やすくに・藤原、廷臣/歌人) C 1 5 7 4  
槐国(かいこく;道号・万貞) → 万貞(まんてい;法諱・槐国、曹洞僧) K 4 0 7 4

- 懈谷(かいこく・根岸/岸) → 典則(つねり・根岸/中原/岸、詩歌/禪) D 2 9 1 7  
 懈谷(かいこく・福居) → 芳麿(よしまろ・福居/藤原/藤、幕臣/蝦夷探検) H 4 7 2 3  
 1597 戒言(かいごん;法諱・法号;覚性院)? - 1791 伊勢松坂の天台僧;来迎寺塔頭覚性院の院主、  
 歌人:1761頃本居宣長門、宣長指導の嶺松院歌会に参加;中心的活躍、  
 家集「露残集」、「嶺松和歌集」著  
 E1538 悔斎(かいさい・竹村たけむら、道仙男)1785-1820(1778-1813説)自害36歳 三河挙母ころも藩士、  
 儒者;多賀谷向陵/鷹見星阜/佐藤一斎門/詩:林述斎門、藩校教授/藩主侍読、  
 鈴木宗観と親交、悪政の家老津村伊左衛門を路上で斬殺/帰宅後自害、  
 「奚所須窩小稿」著、「悔斎遺稿」、  
 [悔斎(;号)の名/字/通称/別号]名;豊魁/蕘/正信、字;伯実/去華、通称;海蔵、  
 別号;蟻(いんか/樛堂きゅうどう/楡堂ゆうどう・これどう/註我書屋/不忘溝壑楼/奚所須窩けいしょゆか  
 I1564 卦斎(かいさい・高橋たかはし、名;茂親/通称藤吉)1796-185257 秋田藩士/画/俳諧、「懸額発句集」編  
 [卦斎の別号] 載陽軒/松濤庵/五英/雲客居士うんかくじ  
 悔斎(かいさい・松岡) → 雄淵(おぶち・松岡、神道家) B 1 4 9 1  
 塊斎(かいさい・谷) → 垣守(かきもり・谷たに、藩士/国学者) B 1 5 2 5  
 槐山(かいざん;道号) → 宗三(そうざん;法諱・槐山;道号/臨濟僧) H 2 5 4 7  
 魁斎(かいさい・中根) → 梅老(ばいろう・中根なかね、俳人) C 3 6 3 8  
 魁斎(かいさい・月岡) → 芳年(よしとし・月岡/歌川、吉岡、絵師) E 4 7 9 6  
 詔斎(かいさい・森) → 枳園(きえん・森もり立之、医者/国学) F 1 6 0 3  
 魁朔(かいさく・富田) → 育斎(いくさい・富田とみだ、藩士/儒医) E 1 1 2 1  
 会三郎(かいさぶろう・矢口) → 養達(ようたつ・斎藤さいとう/矢口、藩医) B 4 7 4 5  
 慨三郎(がいさぶろう・尾崎) → 義正(よしまさ・尾崎おさき、和漢学/教育) L 4 7 9 0  
 晦三(かいさん・中山) → 桑石(くわし・中山なかやま、藩士/国学者) D 1 7 5 6  
 I1565 皆山(かいざん・坂本さかもと)? - ? 江後期1830-48頃丹後の医者/京の烏丸二条住、  
 「療法私説」著、  
 [皆山(;号)の名/字/通称/別号]名;棟、字;公隆、通称;深造、別号;九浦雲里/雲水陳人  
 I1566 懷山(かいざん・長岡ながおか、名;恂/敦美、今井孝順男)1834-7239 高知浦戸の生、  
 1848大阪江戸で医術を修学、帰郷後医者、1859蘭医・シーボルト門/61キリシタン嫌疑を受ける、  
 土佐長岡郡に閑居/67坂本龍馬の海援隊に参加、  
 「握日集」「懷山楼丁巳集」/1867「閑愁録」著、  
 [懷山の字/通称/別号]字;子行/醒郷、通称;純正/順正/謙吉、別号;檜山/蓬雨/秋航  
 H1516 皆山(かいざん・茨木いばらぎ、名;文蔵/定興、小野定直男)1835-191278歳 母の実家を継嗣、  
 儒者・山本澹斎門/伊藤蘭林門、和漢学に通ず、高知の名教館教官、「皆山遺稿」  
 懷山(かいざん) → 懷山(えざん・浄土僧) D 1 3 9 3  
 悔山(かいざん・塩谷) → 宕陰(とういん・塩谷しおのや、儒官/詩人) 3 1 0 3  
 檜山(かいざん・山岡) → 伊織(いおり・山岡、幕臣) F 1 1 1 5  
 檜山(かいざん・今井/長岡) → 懷山(かいざん・長岡ながおか、医者) I 1 5 6 6  
 戒山(かいざん;字) → 慧堅(えけん;法諱・戒山、天台/真言律僧) D 1 3 7 8  
 皆山(かいざん) → 常如(じょうにょ;号・光晴;法諱/東本願寺15世、俳人) B 2 2 0 8  
 皆山(かいざん・松野尾) → 章行(あきゆき・松野尾まつのお/松野、藩士/史家) J 1 0 4 7  
 外山(がいざん;女房名) → 外山(とやま、女房;年寄/歌人) T 3 1 2 7  
 蓋山(がいざん・中西) → 富嗣(とみつぐ・中西/斎部/大中臣、神職) O 3 1 8 7  
 蓋山(がいざん・安井) → 金竜(きんりゅう・安井やすい、藩士/儒者) J 1 6 0 8  
 嶺山(がいざん・竹村) → 喬宣(たかのぶ・竹村たけむら/野村、歌人) Y 2 6 1 0  
 鱸山窟(かいざんくつ) → 露川(ろせん・沢、商家/俳人) 5 2 0 7  
 海山元珠(かいざんげんしゅ) → 元珠(げんしゅ;法諱・海山;道号、臨濟僧) C 1 8 0 4  
 懷山子(かいざんし) → 義休(よひやす・近藤こんどう、幕臣/地誌家) H 4 7 7 7  
 塊山書屋(かいざんしよおく) → 降雪(こうせつ・萩野はぎの、絵師) K 1 9 1 7  
 皆山人(かいざんじん・野崎) → 義也(よしなり・野崎のさき、名主/国学/歌) O 4 7 4 2  
 蓋山人(がいざんじん) → 忠俊(ただとし・加藤、里正/国学/歌人) F 2 6 9 6



- 槐山宗三(かいざんそうさん)→ 宗三(そうさん:法諱・槐山:道号、臨濟僧)H 2 5 4 7  
 皆山亭(かいざんてい・野崎)→ 義也(よしなり・野崎のぎき、名主/国学/歌) O 4 7 4 2  
 皆山堂(かいざんどう) → 覚之助(かくのすけ・安岡・蘭学/勤王家) K 1 5 3 7
- S1501 懷子(かいし/かねこ・藤原ふじわら、摂政藤原伊尹これまさ女)945-975<sup>31</sup> 母;代明親王女の恵子女王、  
 967(康保4)冷泉天皇女御、花山天皇の母、宗子・尊子内親王の母、従二位、  
 没後;984(永観2)花山天皇即位に伴い贈皇太后宮、歌;万代集/秋風集入、  
 勅撰2首;拾遺1080/玉葉171、  
 [しばしだに蔭に隠れぬ時はなほうなだれぬべき撫子の花](拾遺;1080)
- 1599 槐市(かいし・中尾なかお、名;宗重)1669-1731<sup>63歳</sup> 伊賀上野藩士:藤堂新七郎良長(探丸)家に出仕、  
 俳人・芭蕉門、「枯尾花」「猿蓑」1句/「続猿蓑」1句入、  
 [雀子すずめこや姉にもらひし雛の櫃ひつ](続猿蓑;卷下/姉からお下がり雀の子の絵櫃)、  
 [槐市(;号)の通称] 源左衛門
- I1505 芥子(かいし) ? - ? 江前期俳人、1691?不角「二葉之松」6句入  
 [嫌ひなる餅を舅しうとに強みられて](二葉之松;2/前句;正月やうにあたまめぬ酒)
- E1539 快史(かいし・風流) ? - ? 1761「通俗赤繩奇縁」訳  
 2 説 → 維則(いそく・西田) 説 B 1 1 5 0  
 → 白駒(はく・岡) 説 3 6 2 1
- 懷之(かいし・立松/稻毛屋)→ 東作(とうさく・平秩へつ/平原屋、商家/狂歌) 3 1 1 3  
 懷之(かいし・狩谷/津軽屋)→ 懷之(かねゆき・狩谷かりや、商家/和漢学) P 1 5 0 3  
 懷之(かいし・横山/小野)→ 湖山(こざん・小野/横山、詩人) C 1 9 6 9  
 懷之(かいし・前嶋) → 密(ひそか・前嶋/前島、諸学/郵便制度) C 3 7 5 5  
 海旨(かいし;法諱) → 蘆江(ろこう;道号・海旨;法諱、黄檗僧) B 5 2 4 0 :  
 諧子(偕子かいし・前田) → 諧子(偕子ともこ・前田まえだ/徳川、浴姫) W 3 1 4 4
- I1567 猷子(かいし) ? - ? 俳人、1782蕪村「花鳥篇」入、  
 [さくら咲く山に住めどもろくろ引き](花鳥篇;79、  
 無骨な轆轤師[木地師]にはせつかくの桜も感動がない)
- 孩之(かいし・三井) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7  
 外市(がいし・吉本) → 虫雄(むしお・吉本、国学者/教育) 4 2 5 8  
 蓋之(がいし・佐藤) → 水石(すいせき・佐藤さとう、絵師) E 2 3 7 3  
 快識(かいしき) → 太賢(たいけん;法諱、真言僧;悉曇学) J 2 6 8 5  
 絵式部(かいしきぶ→えのしきぶ)→ 絵式部(えのしきぶ、後拾遺集歌人) C 1 3 2 5  
 鎧七(がいしち・河合) → 良翰(さとたか/よしさと・河合かわい/松下、藩老/勤王) O 2 0 3 5  
 芥室(かいしつ) → 大江丸(おおえまる・安井・大伴、俳人) 1 4 0 3  
 芥室(かいしつ) → 妙葩(みょうは;法諱・春屋;道号、臨濟僧/五山文学) 4 1 4 3  
 懷実(かいじつ→かねざね・藤原)→ 経尹(つねまさ/つねただ・藤原、歌人) D 2 9 6 4
- E1540 誨子内親王(かいしなないしんのう、宇多天皇皇女六宮)?-952(天暦6) 母;藤原有実女、平安前期歌人、  
 913(延喜13)亭子院歌合参加;左方人頭(右方人頭は妹の依子内親王よりこないしんのう)
- I1568 海若(かいじやく・寺本てらもと、鈴木儀兵衛の長男)1796-1842<sup>47</sup> 上総木更津寺町の生、  
 1798(寛政10)一家で江戸に出る;新川の寺本家の養子、漢学・書;亀田鵬斎門、  
 書家、晩年;木更津に帰り私塾開設;子弟指導、1839「撥鐙啓微」、「雁金日記」著  
 木更津選擇せんちやく寺境内の石碑[思亭記]建立、  
 [海若(;号)の名/字/通称/別号]名;永、字;不忘、通称;久右衛門、別号;醉墨老人  
 ☆ [千葉県君津郡々誌]の鈴木梅若うめわか海若の誤り
- 海若子(かいじやくし) → 輝昌(てるまさ・三河口みかわぐち、幕臣/書) C 3 0 9 3  
 戒珠(かいじゆ;字) → 円妙(えんみょう;法諱・戒珠、真言律僧) F 1 3 3 7  
 階守(かいしゆ・渡辺) → 資政(すけまさ・渡辺わたなべ、神職/国学) J 2 3 4 4  
 懈守(かいしゆ・今泉) → 懈守(かにもり・今泉、国学者) F 1 5 6 6
- B1503 懷壽(かいじゆ) 970 - 1026<sup>57歳</sup> 平安前期天台宗延暦寺僧;982得度;興良門、  
 覚運僧都にも入室、1011権律師/1019藤原道長の東大寺受戒の際の騎馬前驅僧の1人、  
 1023(治安3)少僧都、撰関家との繋がり、

歌人;後拾遺1017(赤染衛門・僧懷円と王昭君を詠)、続詞花集入、  
[思ひきや古き都をたち離れこの国人くにひとにならむものとは](後拾;雑1017、  
王昭君を詠む/都は漢の長安/代名詞[こ]に胡を掛る)、  
[はかなさを哀とぞみる大空のけふりと成るも人のうへかは](続詞花;哀傷412)

- B1504 **海壽**(かいじゆ;法諱・椿庭ちんてい;道号、木杯道人、俗姓藤原) 1318-1401<sup>84</sup> 遠州臨濟僧;竺仙梵僊門、  
1350-72入元/明;太祖に厚遇/福昌寺住持、帰国後円覚寺/天竜寺/南禅寺住持、語心院退隱、  
「碧巖鈔」「伝燈録鈔」1399「仏印禅師直翁和尚塔銘」編/1400「大明国師塔銘」著
- I1569 **海壽**(かいじゆ・石雲庵/無量庵)?-? 武蔵川越俳人、1768山形に2度旅行、1777「歌俳百人選」、  
「山形棚佐賀志」「歌俳百人一首」「川越年代記」「麓の塵」「三芳野砂子」「近代百人一首」著
- V1599 **海壽**(かいじゆ・森本もりもと、名;実、福住貞陳さだのぶ[兵治郎]の女)?-1829 信濃伊那郡の歌人、  
国学・歌;福住清風・森広主門、伊那郡の豪農森本信就と結婚;1男2女の母/笑しゅう・信行の母、  
☆森本家の略系図→ 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/歌人) P 4 0 3 5  
介寿(かいじゆ・高島) → 尉之介(じゅうのすけ・高島/高嶋、医者/俳) L 2 2 3 5  
介寿(かいじゆ・山地) → 介寿(すけとし・山地やまじ、藩士/国学者) G 2 3 6 3  
戒珠院(かいしゆいん) → 詮海(せんかい;法諱、融通念仏僧) I 2 4 7 0
- B1505 **戒秀**(かいじゅう、清原元輔男、清少納言の兄)?-1015 天台僧;花山院の殿上法師、祇園感神院別当、  
歌人;990-95頃花山院歌合参加、玄々集入、勅撰3首;拾遺331/詞花25/続後撰326、  
[春ごとに心をそらになすものは雲居に見ゆる桜なりけり](詞花;春25/玄々;112)、  
(空と雲みは縁語/空に見えるの山の桜が心を誘い心が上の空になるという興)
- B1506 **快修**(かいじゅう、妙法房、藤原俊忠男/俊成の兄) 1100-72<sup>73</sup> 平安後期天台叡山僧;1162天台座主、  
1167大僧正/本覚院住、後白河院の護持僧となる、歌;千載1214、  
[うれしくぞ名を保つだにあだならぬ御法みりの花に身をむすびける]、  
(千載;釈教1214/法華経陀羅尼品の心を読み法華と結縁する喜びの詠/法の花は法華)
- I1570 **海州**(海洲かいしゅう・吉村よしむら、名;正房/字;子康)?-? 江後期和歌山藩士/和算家;測量術、  
1841「廻船用心記」著
- I1571 **海舟**(かいしゅう・勝かつ、名;義邦、小吉[夢酔]男) 1823-98<sup>76歳</sup> 幕臣/旗本;1838家督継嗣、  
劍術;島田虎之助門、蘭学;永井青涯門/1850開塾;蘭学・兵法、  
1854ペリー来航時海防意見書提出、蕃書翻訳御用、1860咸臨丸指揮し渡米/軍艦奉行、  
安房守、維新時に混乱鎮定のため活躍、のち海軍卿、  
1860「まかきのいあはら」「航海日記」/「米国航海紀行」「海舟日記」「蚊鳴余言」外著多数、  
[海舟(;号)の字/通称/別号]字;安芳やすよし、通称;麟太郎/安房あむ、別号;飛川
- I1572 **芥舟**(かいしゅう・木村きむら、名;喜毅よしたけ/毅、字;天模、喜彦男) 1830-1901<sup>72</sup> 幕臣;代々浜御殿奉行、  
儒者;昌平黌出、1855講武所出役/59軍艦奉行、60遣米使節咸臨丸提督、勘定奉行、  
詩文、「木村喜毅征西日録」「木村喜毅日記」「治平金訓」「浜苑記勝」、「三十年史」著、  
[芥舟の通称/別号]通称;勘助/函書/撰津守/兵庫頭、別号;楷堂、法号;芥舟院  
芥舟(かいしゅう・和田) → 省斎(せいさい・和田わだ、藩儒/暦学/詩) B 2 4 5 3  
芥舟(かいしゅう・植村) → 信安(しんあん・植村、歌/俳人) D 2 2 4 3  
芥舟(かいしゅう・安部井) → 櫟堂(れきどう・安部井あべい/佐々木、篆刻家) 5 1 8 1  
会秀(かいしゅう/えしゅう;字) → 日掌(にっしょう;法諱・幸安院、日蓮僧) E 3 3 3 3
- I1573 **懷宗**(かいじゅう;道号・通仁つうにん;法諱)?-? 江後期黄檗僧;1853慧定真戒より嗣法、  
1863「慧定禅師行実」著  
快住(かいじゅう;字) → 日瞻(にっせん;法諱・上妙院、日蓮僧) E 3 3 8 2
- B1507 **海寿翁**(かいじゅうおう) ? - ? 俳人、1775「歌俳百人選」、「あかほとけ」著  
快俊(かいじゆん;初法諱) → 康玄(こうげん;法諱、天台僧) I 1 9 6 4
- I1574 **皆遵**(かいじゆん;法諱・号;蘭露子)?-? 安藝真宗本願寺派報専坊住職/深諦院慧雲門、  
「高僧和讃絵抄」、1773「正信偈絵抄」81「現世利益和讃絵抄」著
- V1530 **戒順**(かいじゆん;法諱・二階堂にかいどう) 1845-1916<sup>72</sup> 越中高岡の浄土宗僧/歌人;服部春樹門、  
近江八幡の西光寺住職、華頂宮博経親王(尊秀入道)の侍読、  
1911「元祖大師二十五霊場御詠歌集校正本」著  
[戒順の通称] たかとの願阿

- 快順(かいじゆん:法諱) → 恒山(こうざん:道号、曹洞僧) J 1 9 2 0  
 快順(かいじゆん・篠崎) → 三伯(さんぱく・篠崎しのぎ、幕府医者) N 2 0 5 0  
 懐順(かいじゆん・山脇) → 有実(ありざね・山脇やまわき、医者/歌人) I 1 0 7 4  
 回純(かいじゆん/えじゆん;字) → 日詮(にっせん;法諱・妙種院、日蓮僧) E 3 3 7 5  
 回春庵(かいしゆんあん) → 再賀(2世さいが・芝/小倉、俳人) G 2 0 5 7  
 皆遵院(かいじゆんいん) → 宜成(ぎじょう・皆遵院、真宗僧) K 1 6 9 4  
 皆遵院(かいじゆんいん) → 普天(ふてん;法諱、真宗僧) D 3 8 5 0  
 回春園草童(かいしゆんえんそうりゆう) → 策司(作治さくじ・古田、藩士/歌) P 2 0 2 9  
 皆春軒(かいしゆんけん) → 寿戩(じゆせん;法諱・継天、臨濟僧;五山文学) M 2 1 8 6  
 回春斎(かいしゆんさい) → 貫魚(つらな・守住もりずみ/庄野、藩絵師) E 2 9 4 2  
 魁春亭(かいしゆんてい) → 貞芳(さだよし・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 7
- W1556 晦処(かいしょ・姓不詳) ? - ? 江前中期;江戸?の儒者/詩人、  
 1728宝山板「諏訪浄光寺八景詩歌」参加(;後岳夜鹿こうがくのよるのしか/歌は松平乗興のりおき)、  
 [茅屋ばうをく霜寒うして夢未だ成らず 同群の遊鹿いうろく自おのづから秋声、  
 後岳の落葉西風急なり 添へ得たり 叻叻いういう一夜の情]、  
 (八景詩/同;集る/叻叻;鹿鳴や忍び泣の擬声語)
- 晦所(かいしょ・中聖人) → 確斎(かくさい・武内、詩/読本) E 1 5 6 8  
 海嶼(かいしょ・藤沢) → 拙斎(せつさい・藤沢ふじさわ、医者) K 2 4 9 6
- I1506 海如(かいじよ) ? - ? 江戸俳人、其角座点者、1754竹翁「俳諧童の的」点句入  
 海如(かいじよ→かいによ) → 海如(かいによ;法諱・興雲、真言僧) J 1 5 0 4  
 戒如(かいじよ→かいによ) → 戒如(かいによ;法諱・知足、律宗僧) J 1 5 0 3  
 戒如(かいじよ→かいによ) → 僧尾(そうび・戒如、浄土僧) I 2 5 7 7  
 快助(かいじよ・張) → 月樵(げつしょう・張ちよう、絵師) H 1 8 1 0
- I1575 快承(かいじよう) ? - ? 室町後期歌人;1474道灌「武州江戸歌合」参加、  
 [あま小船夕立つ波にかへりかね入江もよそにぬるる雨かな](江戸歌合;七番右)
- E1541 快勝(かいじよう) ? - ? 1493存 京清水寺の法相僧/法眼、連歌、  
 宗祇/肖柏らを招き1493「清水本式連歌百韻(何人百韻)」興行連衆;8句入、新菟玖波1句入  
 懐松(かいじよう・松崎) → 柳浪(りゅうろう・松崎まつぎ、儒者/外交) F 4 9 8 9  
 かいせう(かいじよう) → 戒仙(かいせん、天台僧/歌人) B 1 5 1 0
- I1576 快成(かいじよう:法諱、字;性願房)?-1367 越後真言僧;高野山宝性院の玄海[1267-1347]門、  
 師没後宝性院住職を継承、「即身成仏義鈔」「立河正教目録」「邪正異解集」外著多数、  
 付法の門弟;栄智・聖寄・信弘・宥快ら
- I1577 戒定(かいじよう:法諱・定恵じようえ;字、永井逾樹男) 1750-1805 56 上州群馬郡讚倉の真言僧、  
 1761(12歳)高崎石上寺の弁快門;出家、1769豊山長谷寺に修学/91江戸大塚護国寺の代補、  
 1793月輪院住/1798豊山に再修学;地藏院住/1801集議となる;02慈心院に住、  
 1803武蔵宝仙寺40世住職、「華嚴一乗教分要図」「華嚴五教章帳秘録」「頭密二教論雑章」、  
 「周易述賛」「成唯識論戒定鈔」「読書二十二則」「二十唯識論述記帳秘録」外著多数  
 [戒定(:法諱)の号]号;金猊園
- T1554 戒定(かいじよう:法諱・伊藤いとう、農業・政治郎3男) 1831-1902 72 近江滋賀郡仰木村の生、  
 1842(12歳)同村浄土宗東光寺理定門;得度/1853(嘉永6/23歳)東光寺住職、  
 歌人;水原宗梁門/のち独学で歌・俳諧冠句を研鑽、子弟教育  
 [戒定(:法諱)の号]号;無々庵水月
- 懐奘(かいじよう) → 懐奘(えじよう・孤雲、曹洞僧) 1 3 6 5  
 海城(かいじよう・柴田) → 弘器(ひろき・竜廻屋・柴田、藩医/狂歌) F 3 7 7 5  
 海上安是嬢子(かいじようあんぜじようし) → 海上安是嬢子(うなかみのあぜのいらつめ、伝説少女) 1 2 7 9  
 皆乘院(かいじよういん) → 恵忍(えにん;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 1 5  
 皆乘院(かいじよういん) → 観月(かんげつ;法諱、真宗大谷派僧) Q 1 5 3 2  
 皆乘院(かいじよういん) → 鳳千(ほうせん;法諱、真宗大谷派僧) C 3 9 0 9  
 絵情斎[堂](かいじようさい・[どう]) → 珍重(ちんちゆう・羽川はねかわ、絵師) K 2 8 8 9  
 海松子(かいじようし・石野) → 海松子(みるこ・石野、歌人) L 4 1 2 5



- 海上女王(かいじょうじょおう)→ 海上女王(うなかみのおおきみ、万葉歌人) 1 2 8 0  
 蓋松堂(がいしょうどう) → 保定(やすさだ・島地しまじ、藩士/歌人) F 4 5 9 9  
 海樵老人(かいじょうろうじん;号)→ 天与(てんよ;道号・清啓、臨濟僧) E 3 0 4 9  
 海処閑人(かいじょかんじん) → 旭岱子(きよくたいし・錦洞館、叢書編纂) H 1 6 2 9
- I1578 介次郎(かいじろう・納富のうとみ、柴田花守2男)1844-1918<sup>75</sup> 納富六右衛門の養子、肥前小城の工芸家、  
 日本画;父花守門/長崎で南画/横浜で油絵・彫刻を修得、万国博覧会の審査官;渡欧、  
 帰国後;勸業寮で伝習に携わる、1862「上海雑記」著、  
 [介次郎(;通称)の号] 介堂
- I1580 快深(かいしん:法諱・定俊じょうしゅん;字)?-? 南北期;文中1372-75頃紀州真言僧;中性院聖憲門、  
 中性院門内に一小房を構え住、根来大伝法院の学頭、「吽字義聞書」「悉曇授学要鈔」著、  
 「釈論聞幸」「釈論聴鈔」「俱舎頌疏聴抄」「俱舎論頌疏見聞鈔」/1379「釈論定俊抄」著  
 廻心(かいしん;字) → 真空(しんくう;法諱、三論/律/真言僧) N 2 2 9 3  
 海信(かいしん;初法諱) → 無我(むが;道号・省吾;法諱、入玄臨濟僧) 4 2 2 3  
 戒心(かいしん・沙彌:法名)→ 隆信(たかのぶ・藤原、廷臣/絵師/歌人) 2 6 1 4
- B1508 懷尋(かいじん) 1059 - ? 1106存 平安後期奈良興福寺の法相僧、1102興福寺堅者、  
 歌人;金葉639・641、  
 [うき身をし渡すときけば海人あま小舟をぶねのりの心をかけぬ日ぞなき](金葉;雑639、  
 薬王品の心;両臂を焼いて修行した法華經の薬王菩薩本事品の心/乗りと法を掛る)
- 誨人(かいじん・矢部) → 騰谷(とうこく・矢部やべ、儒者/幕府同心) E 3 1 1 2  
 海人(かいじん・高) → 海人(あま・高氏、万葉歌人) B 1 0 5 6  
 皆人(かいじん/みなと?・神子田)→ 虎光(こう・神子田みこた、砲術/俳人) M 1 9 4 2  
 開神院(かいしんいん;諡号)→ 了栄(りょうえい;法諱・広陵ひろおか、真宗大谷派僧) G 4 9 5 0  
 懷人詩屋(かいじんしおく) → 松塘(しょうとう・鈴木/鱸すずき、詩人) R 2 2 5 6  
 艾人軒(がいじんけん) → 貞佐(ていさ・芥河、商家/狂歌) 3 0 7 8  
 回心齋(かいしんさい) → 大江丸(おおえまる・安井/大伴、俳人) 1 4 0 3  
 会心齋(かいしんさい) → 養信(おさのぶ・狩野かのう、幕府奥絵師/歌) D 1 4 7 2  
 蓋簪舎(がいしんしゃ) → 有隣(うりん・大島おおしま、心学者) D 1 2 5 0
- E1542 皆醉(かいすい) ? - ? 俳人、1675重徳「新続独吟集」下巻入  
 芥水(かいすい・大菅) → 圭(けい・大菅おおすが、国学/詩歌人) 1 8 0 0  
 回水園(かいすいえん) → 宜門(よしかど・中島/幸田、藩士/歌人) C 4 7 9 6  
 快助(かいすけ・張) → 月樵(げっしょう・張ちよう、絵師) H 1 8 1 0  
 快成(かいせい) → 快成(かいじょう・性願房、真言僧) I 1 5 7 6  
 快正(かいせい・小林) → 快正(よしまさ・小林こばやし、地役人/国学) M 4 7 7 7  
 海西(かいせい・鶴嶺) → 戊申(しげのぶ・鶴嶺つるみね、国学者/歌人) C 2 1 7  
 懷世(かいせい・藤原) → 懷世(かねよ・もとよ・やすよ・藤原、廷臣/歌人) D 1 5 1 6  
 誠誠(かいせい) → 仏定(ぶつじょう;法諱、浄土僧) D 3 8 3 6  
 外世(がいせい・山中) → 通道(ゆきみち・山中やまなか/佐々木、書道) H 4 6 4 4  
 回生庵(かいせいあん) → 玄璞(げんぼく・江戸期医者) M 1 8 3 8  
 開成院(かいせいいん) → 見仏(けんぶつ:法諱、天台僧) M 1 8 1 8  
 解醒子(かいせいし) → 左山(さざん・堀ほり、儒者/詩) H 2 0 4 6  
 懷成親王(かいせいしんのう) → 懷邦親王(かねくに・懷成親王かねなりしんのう) C 1 5 7 5  
 海静亭(かいせいいてい) → 座朝(ざちよう、俳人) K 2 0 4 7  
 海西法竜(かいせいほうりゅう)→ 明増(みょうぞう;法諱、本願寺派僧/国学) G 4 1 5 4
- I1581 怪石(かいせき) ? - ? 京俳人;1702轍士「花見車」1句入、  
 [尻たゝく団うちはの音や更ける月](花見車;140/名月も更け周囲静まり蚊を払う音のみ)
- B1509 介石(かいせき・野呂のろ、名;隆/隆年、方紹男/本姓;源)1747-1828<sup>82歳</sup> 紀州藩士;1793出仕、  
 1818書院番格、儒;伊藤蘭嶋門、絵師;黄檗僧海眼[鶴亭]門/1767池大雅門、  
 画の御用に応ず、「四碧齋画話」編/1789「大台山紀行略記並図」画、  
 [介石(;号)の字/通称/別号]字;松齡、通称;九一郎、  
 別号;斑石/澄湖/混齋/十友/矮梅/四碧齋/十友窩/台岳樵者/第五隆/悠然夜逸



- I1582 **介石** (かいせき; 法諱・佐田さだ、広志[広瀬]慈博男) 1818-8265歳 肥後正泉寺の佐田家の養子、肥後真宗本願寺派僧; 齋藤宗原門/京の宝雲・南溪門、視実等象儀器を作成; 須弥山説の科学的解明研究、国産品愛用の運動、晩年は天台宗に改宗、1862「鍤地球説略」、「闇中案」「雰困論」著、  
[介石の字/通称/号]字; 断識、通称; 観霊、号; 等象斎/諡号; 嘯月院  
介石 (かいせき; 号、終南) → 天年(てんねん; 道号・浄寿; 法諱、黄檗僧) E 3 0 1 4  
介石 (かいせき・橋本) → 実盛(さねもり・橋本、神職/神典/書) L 2 0 4 5  
介石 (かいせき・菊池/佐野屋) → 澹如(たんじょ・菊池、儒者/難民救済) I 2 6 8 4  
介石 (かいせき・谷口) → 藍田(らんでん・谷口たにぐち、儒者/国事) D 4 8 0 7  
介石 (かいせき・武田) → 巖雄(いわお・武田たけだ、藩士/神職) K 1 1 4 1  
介石園(かいせきえん) → 舟泉(しゅうせん・永田ながた、俳人) H 2 1 9 1  
海石老人(かいせきろうじん) → 秋台(しゅうだい・浅野屋、晝業/書家) X 2 1 9 8
- I1583 **借雪** (かいせつ) ? - ? 俳人、1689「あら野」1句入、  
[夕白ゆふがほは蚊の鳴くほどのくらさ哉](あら野; 卷三仲夏/黄昏時の宵闇)  
海説(かいせつ; 字) → 尚彦(しょうげん; 法諱、真言僧) I 2 2 5 5  
快雪堂(かいせつどう) → 錦水(きんすい・秋吉、医者) R 1 6 2 5
- B1510 **戒仙** (かいせん; 法師、かいせう[大和物語]、在原ありわら棟梁男?) ?-?946以前没 天台宗叡山の法師、藤原敦忠/貫之/紀友則らと親交、大和物語入/歌; 勅撰4首; 後撰742/1044/1413新拾1806  
[あな恋しゆきてや見まし津の国の今も有りてふ浦の初島はつしま](後撰集; 恋742)  
在原元方と同一説あり? → 元方(もとかた・在原、歌人) C 4 4 3 0
- I1584 **快宣** (かいせん) ? - ? 江前期尾張名古屋の俳人、1689「あら野」入、  
[子を独り守もりて田を打つ嬢やもめかな](あら野; 早春幼な子を畦に遊ばせ田を鋤く)
- F1576 **芥船** (かいせん) ? - ? 江前期俳人; 1691不角「二葉之松」入、  
[酒強ひて夫つまの気詰めの力きを足す](二葉之松; 469/酒で疲れを取り明日の力に)
- I1585 **海僊** (かいせん・小田おだ、名: 瀛い) 1785-186278 周防佐波の廻船問屋河内屋の生、下関の染工小田家の養子、萩で絵師; 1806月溪呉春門(四条派)/独学で元明の古画模写、1824長府藩江戸詰絵師、京に画室経営; 京を代表する南画家、頼山陽・小石元瑞・田野村竹田と交流、1843「海僊画譜」「分類二十四孝図」/51「画題合璧」画、「列仙伝図」「離騷九歌図」「賞心十六事」画、  
[海僊(; 号)の字/通称/別号]字; 臣海、通称; 良平、  
別号; 百谷/百穀/南豊、王百石/王羸(おうい) / 蘭豈南(らんがいなん)  
快川(かいせん・大通智勝国師) → 紹喜(じょうき; 法諱・快川、臨濟僧) H 2 2 9 5  
芥川(かいせん・海保) → 酔茗(すいめい・海保かいぼ、篆刻家) F 2 3 0 3  
諧仙(かいせん) → 竹里(ちくり・苧部、俳人) D 2 8 9 1  
海仙(かいせん) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1
- E1534 **戒善** (かいぜん; 法諱) ? - ? 僧; 法師、1248成立「万代集和歌集」入; 3183/3186、  
[雲ならでこだかき峰にゐるものはうき世をそむくわが身なりけり](万代; 雑3183)
- I1586 **快全** (かいぜん; 法諱・賢智けんち; 字) ?-1424 丹後の真言僧; 宥快門/高野山学匠、壺坂寺学頭、「一経抄」/「小野六帖口伝」、1409「遺告秘決」13「秘蔵記伝授鈔」23「二教論補欠鈔」著  
快全(かいぜん・北村) → 恵乘(えじょう; 法名、歌/連歌) T 1 3 9 4  
懐善(かいぜん・田村) → 宗道(むねみち・田村たむら/松岡、藩士/神職) D 4 2 8 7  
開善院(かいぜんいん; 諡号) → 恵航(えこう; 法諱、真宗本願寺派僧) D 1 3 8 9  
塊然斎(かいぜんさい) → 士由(しゆう・大屋/沼倉、国学/俳人) G 2 1 7 0  
諧仙堂(かいせんどう) → 有国(ありくに・浦井、商人/俳人) B 1 0 6 7  
懐仙堂(かいせんどう) → 大巢(たいそう・高橋/平井、俳人) K 2 6 5 4  
快然堂(かいぜんどう) → 常明(つねあき・鈴木すずき、国学/医者) B 2 9 5 4  
開扇坊(かいせんぼう) → 恵劍(えけん; 法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 8 1  
懐祖(かいそ・伊藤) → 蘭腕(らんえん・伊藤いとう、儒者/藩儒) B 4 8 5 6
- I1587 **快宗** (かいそう) ? - ? 僧; 権少僧都、連歌; 菟玖波9句入、

竹中律師快宗と同一か;京曼珠院勤仕の僧か?(;祇園社記入)、  
[花や心を空になすらむ](菟玖波;春127/前句;雲にこそ山の高きもしられけり)

- H1517 **槐窓**(かいそう・緒方おがた) ? - 1732 京の儒者;伊藤仁斎門/1715越後新発田藩儒、侍講に任じる、著書を門人山野辺弘軒に託すが烏有に帰す、「職林便覧」「槐窓雑録」著  
[槐窓(;号)の名/字/通称]名;惟純、字;子佑、通称;源十郎
- 1585 **海荘**(海叟かいそう・菊池きくち、名;保定、垣内孝友[淡斎]男) 1799-1881 83 紀伊有田郡栖原の商人、兄が仏門に入り家業を継嗣;江戸店を経営、詩学;大窪詩仏門、郷里に古碧吟社設立、大阪で天保飢饉に大塩平八郎と救済策を建議;容れられず郷里で窮民救済に私財投入、南朝忠臣菊池武光の子孫として菊池を名乗る、1850海防軍備を建白、有田日高2郡の文武総裁となり農民を組織、維新後;有田郡民政局副知事と務める、「海荘集」「海荘珊瑚編」「溪琴山房詩」「溪琴山房詩三集海荘遺稿」「海防建議」「国政論」著、「国病眼目論」「農民論言」「風雲雜記」「海防余論」「海曲虫語」外著多数、  
[海荘(;号)の字/通称/別号]字;士固/子固、通称;孫左衛門/孫輔、  
別号;溪琴/琴渚/慈庵/七十二連峰/生石/蓮峰、
- 懷奘(かいそう→えいしょう) → 懷奘(えいしょう;法諱、曹洞僧/永平寺2世) 1 3 6 5  
魁叟(かいそう;道号) → 英梅(永梅えいばい;法諱・魁叟、曹洞僧) D 1 3 3 0  
槐窓(かいそう・川原) → 悠々(ゆうゆう・川原かわはら、藩士/俳人) D 4 6 9 3  
海叟(かいそう) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1  
懷宗(かいそう→かいじゅう) → 懷宗(かいじゅう・通仁、黄檗僧) I 1 5 7 3  
絵荘(かいそう・三島) → 中洲(ちゅうしゅう・三島、藩士/儒者) G 2 8 2 3
- I1588 **快増**(かいぞう、俗姓;高階たかしな) ?- ? 鎌倉期の僧;法眼、  
歌:1300高階宗成撰「遺塵歌集」6首入
- I1589 **海蔵**(かいぞう) ? - ? 天台宗叡山延暦寺僧;五智院住/のち恵光院住、  
1775(安永4)権僧正、法華会の擬講師、「戒儀論」著
- 海蔵(かいぞう・斎藤) → 南溟(なんめい・斎藤さいとう、儒者) 3 2 3 8  
海蔵(かいぞう・伊藤) → 海嶠(かいきょう・伊藤、儒者/詩) B 1 5 0 2  
海蔵(かいぞう;法諱) → 普巖(ふごん;法諱、真宗本願寺派僧) B 3 8 9 3  
海蔵(かいぞう・竹村) → 悔斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者) E 1 5 3 8  
芥蔵(かいぞう・林) → 毛川(もうせん・林はやし、藩士/藩政改革) 4 4 5 9  
回蔵(かいぞう・守元) → 溪圃(けいほ・守元もりもと、儒者) G 1 8 6 2  
改蔵(かいぞう・島岡) → 真心(まうら・島岡しまおか、歌人) O 4 0 5 5  
蓋蔵(がいぞう・堀江) → 半峯(はんぼう・堀江ほりえ、藩士/儒者) I 3 6 5 3  
海蔵和尚(かいぞうおしょう) → 虎関(こかん・師鍊、臨濟僧) 1 9 2 5  
開祖律師(かいそりのりし) → 宗意(そうい;法諱、真言安祥寺流開祖) F 2 5 9 5
- I1590 **快存**(かいぞん;法諱・是心;字、俗姓;池田) 1647-1724 78 薩摩開闢岳下の生/真言僧・1660快義門;出家、1672京智積院の運敵門;中性院の灌頂を受、1678律師/79少僧都/81大僧都/82法印、1701坊津一乗院住/09鹿兒島大乘寺転住/平等王院・尊寿院兼務/11六波羅蜜寺住、1712江戸真福寺転住/16(享保元)智積院13世・中性院26世法務兼務/権僧正/1718正僧正、歌人;1720歌学「歌聖抄」、「西光寺祖師伝記」「快存歌話」著
- I1591 **快存**(かいぞん;法諱・空達/其阿きあ:号、通称;一蓮精舎) 1671-1753 83 時宗僧;甲斐一蓮寺33世、1725(享保10)相模藤沢清浄光寺(遊行寺)26世/1726遊行上人50世、遠江浜松教興寺住職、1735藤沢上人;清浄光寺に没、1720「合掌私記」21「時名帳註釈」著
- U1516 **快存**(かいぞん;法諱/号;富花能舎) ?-? 江中後期;播磨赤穂の真言宗太山寺金剛院僧、国学・歌人;内藤中心(なかご/1740-1817)門
- U1517 **快存**(かいぞん;法諱/号;夢湾居) ?-1848 江後期;京の修験僧/吉野桜木坊前任、吉野五台寺坂中坊の僧、歌人;香川景樹(1768-1843)門  
晦存(かいぞん・田中) → 訥言(とつげん・田中、土佐派絵師/狂歌) O 3 1 4 6
- I1592 **快台**(かいだい・太一庵たいいちあん、別号;梵阿ぼんあ/麦阿ばくあ) 1762-1848 87歳 江戸俳人・蓼太門、幕臣の父の仇討成就/駿河・尾張住、石原存古斎を後継したが定住せず常に転居、1804「はまひさし」11「広寒清虚府」編/14「すしかひ」、「四国行脚道之記」「万古青春」著

海内3才子(かいだいさんさい)：江戸中後期国内の3人のすぐれた漢詩人

→ 孤山(ござん・藪) 1735-1802 C 1 9 6 8  
→ 恕齋(じょさい・河野) 1743-79 C 2 2 5 0  
→ 蘭室(らんしつ・赤松) 1743-97 C 4 8 4 6

嘉一(かいち・柏淵) → 嘉一(よしかず・柏淵かしぶち、儒/国学者) M 4 7 1 6

嘉市(佳一かいち・中山) → 潮堂(ちょうどう・中山、俳人) J 2 8 5 6

悔遅(かいち・丸山) → 拳石(けんせき・丸山まるやま、医者) K 1 8 4 8

賀一(かいち・真下/原) → 左右助(そうすけ・原/真下/松本、和算家) I 2 5 1 4

慨癡道人(がいちどうじん) → 淡雲(たんうん; 法諱・佩石; 字、真宗僧) T 2 6 1 6

概痴道人(がいちどうじん) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1

加一兵衛(かいちべえ・小出) → 清音(きよね・小出こいで/大江、国学歌) U 1 6 3 1

嘉一兵衛(かいちべえ・後藤) → 驚眠(ろみん・後藤ごとう、俳人) C 5 2 4 3

懷中(かいちゅう・朝倉) → 行風(こうふう・生白堂/朝倉、狂歌) B 1 9 8 9

懷忠(かいちゅう・藤原) → 懷忠(ちかただ/かねただ・藤原ふじわら、大納言) O 2 8 1 0

I1593 快澄(かいちよう・観理房) 1760- ? 1805存 讃岐塩飽島の実言宗正覚寺僧、高野月輪院住、  
「悉曇十八章双紙」「悉曇連声国字鈔」「義能方意教方随聞記」「七九問答」著

懷長(かいちよう/かねなが・藤原) → 懷能(かねよし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) P 1 5 0 5

穎長(かいちよう・多治比) → 穎長(えびと・多治比、平安前期詩人) E 1 3 2 2

I1594 嘉一郎(かいちろう・井口いのくち、名; 濟) 1812-8473 加賀金沢藩士、1838江戸で苦学、安井息軒門、  
金沢藩老横山家の儒者/1865拔擢され土籍; 藩政に参加、「井口嘉一郎対策七編」著、  
[嘉一郎(; 通称)の号] 犀川/孜孜堂しどろ

嘉一郎(かいちろう・山内) → 曲川(きよくせん・山内、商家/俳人) P 1 6 1 6

戒琛(かいちん; 字) → 慧光(えこう; 法諱・戒琛、真言僧) D 1 3 8 3

G1592 歌一(かいつ) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」1句入、  
[木この葉衣ごろもけふから冬もきぞめ哉](犬子集; 1352/十月一日に)

可一(かいつ・一筆学士/秃筆庵) → 英寿(えいじゅ・景斎、可候門絵師/戯作) C 1 3 8 9

佳逸(かいつ・泉) → 久寛(ひさひろ・泉いずみ、商家/国学/歌) L 3 7 2 3

快通(かいつ; 名) → 円達(えんたつ; 法諱、藩出仕の修験者) U 1 3 0 3

恢通(かいつ) → 慶雲(けいうん; 法諱、真宗僧) F 1 8 2 8

懷通(かいつ・藤原) → 懷通(かねみち・もとみち・やすみち・藤原、廷臣/歌人) D 1 5 0 8

会通(かいつ・馬淵) → 嵐山(らんざん・馬淵まぶち/馬、儒医) C 4 8 3 3

外通(がいつ; 法諱) → 広足(ひろたり・山本、神道家/詩人) G 3 7 3 3

B1511 介亭(かいてい・伊藤いとう、名; 長衡、仁斎男) 1685-177288 儒者; 父仁斎/東涯門、東涯の異母弟、  
母; 瀬崎氏の女、叔父進斎の嗣、1726高槻藩儒、書家; 行草、  
1711「李東郭詩文」「謀野危言」、「救荒小言」「経済小言」「介亭詩稿」著、「謙節先生遺稿」、  
[介亭(; 号)の字/別号/諡号] 字; 正蔵、別号; 謙々斎、諡号; 謙節先生

芥亭(かいてい) → 道立(どうりゅう・樋口/江村、儒者/俳人) I 3 1 2 5

介亭(かいてい・渡辺/長嶺) → 内藏太(くらた・渡辺、萩藩士) B 1 7 0 9

改亭(かいてい・頼) → 山陽(さんよう・頼らい、漢学/詩人) 2 0 5 8

戒定(かいてい) → 戒定(かいじょう; 法諱・定恵、真言僧) I 1 5 7 7

槐亭(槐亭/愧亭かいてい) → 風悟(ふうご・松尾/松、藩士/俳人) 3 8 5 6

槐亭(かいてい) → 岩苔(がんたい・岡田、商家/俳人) R 1 5 3 0

槐亭(かいてい・間宮) → 士信(ことぶ・間宮、儒者/昌平黌総裁) F 1 9 8 2

改亭(かいてい・浦田) → 長民(ながたみ・浦田、神職/勤王派) E 3 2 2 2

晦哲(かいてつ・小出) → 侗斎(とうさい・小出こいで、儒者) E 3 1 1 9

開轍院(かいてつゐん; 号) → 随慧(ずいゑ; 法諱、真宗大谷派僧) E 2 3 1 1

I1595 快典(かいてん) ? - ? 連歌; 1573幽斎「大覚寺千句」参

回天(かいてん; 道号) → 慧杲(えこう; 法諱・回天; 道号、曹洞僧) D 1 3 9 0

界天(かいてん; 号) → 蘭山(らんざん; 道号・道昶どうちよう; 法諱、曹洞僧) C 4 8 2 6

快伝(かいてん; 法諱) → 頼玄(らいげん; 法諱・定識; 字、真言僧) 4 8 4 1

- 蟹殿(かいでん;号) → 洞々(とうとう・高橋たかはし、農業/俳人) G 3 1 7 9  
開田院(かいでんいん) → 道深親王(どうじんしんのう、真言僧/歌) F 3 1 6 6  
開田准后(かいでんじゅごう) → 法助(ほうじよ;法諱、真言僧/仁和寺門跡) B 3 9 6 8  
開田御室(かいでんのおむろ) → 法助(ほうじよ;法諱、真言僧/仁和寺門跡) B 3 9 6 8  
海東(かいとう・日山;道号) → 日山(にっさん・海東;法諱、曹洞僧) D 3 3 9 1  
海東(かいとう;号) → 慧然(えねん;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 1 9  
海東(かいとう;法諱) → 実東(実東(実東じつとう;法諱・青海;道号、黄檗僧) U 2 1 9 9  
海東(かいとう・大館) → 信郷(のぶさと・大館おおだち、国学者) H 3 5 7 0  
戒瑠(かいとう;法諱) → 木庵(もくあん;道号・性瑠;法諱、黄檗僧) 4 4 6 4
- E1543 海棠(かいとう・坂上、阪上稲丸の後号か)?-1706 摂津池田の俳人、  
1705「夢の名残」「俳諧璞集」著  
→ 稲丸(いなまる・阪上、俳人) B 1 1 8 1
- I1597 海棠(かいとう・一睡亭いっすいてい、海棠花)?-1801 大阪の狂歌作者:一本亭芙蓉花門?、  
1794「大源山八幡宮奉納夷曲集」編/95「狂歌三撰集」編
- I1598 快道(かいどう;法諱・林常りんじょう;字、俗姓須藤) 1751-181060 上州粕川村真言僧;相応寺快音門、  
豊山長谷寺/高野山修学/1802武州浦和玉蔵院住/江戸根生院住、江戸第一の碩学と称、  
「因明要集記」「阿毘達磨俱舍論玄談」「俱舍論要玄談」「唯識量記」「六合釈三部章」外多数
- I1599 槐堂(かいどう・上田うへだ、名;昌栄) 1788-186679 江戸の生/陸奥弘前藩儒/儒;三繩桂林門、  
1809書院番士、弘前江戸藩邸の教授/1834帰国/藩主津軽順承の世子問題で入牢、  
のち黒石藩首津軽承保に招聘され講義/1862弘前藩主津軽承昭に再び招かれ藩儒;  
藩校稽古館小司、「槐堂詩文集」著、  
[槐堂(;号)の字/通称]字;俟徳、通称;与五郎/惣蔵
- H1518 悔堂(かいどう・北条ほうじょう、名;知退、河村重善男) 1808-6558歳 北条霞亭の養子;福山藩士、  
儒;菅茶山門、昌平齋入;一斎/洞庵とうあん門/大阪篠崎小竹門、  
1845福山藩校講道館(誠之館)会読掛/63教授、妻;山路由嘉、  
「海防策」「耕耘吟卷」「耕耘集」、「悔堂詩文集」「悔堂乱稿」「悔堂乱稿人名鈔」著、  
[悔堂の字/通称]字;進之、通称;退蔵/退一郎/退輔/新助
- H1519 晦堂(かいどう・酒井さかい、名;泰光/字;公賓、泰道男) 1828-67戦死40歳 越後長岡藩士、  
儒者;杉原心齋門、1857江戸藩邸で教授/61藩校崇徳館督学、戊辰戦争参加/戦死、  
「晦堂遺集」、  
[晦堂(;号)の通称] 孫之允まごのすけ/貞蔵
- J1500 晦堂(かいどう・今井いまい、名;潜、弥兵衛男) 1830-7748歳 羽前米沢の儒者;山田螻堂門、  
江戸の古賀茶溪門/1858下野足利藩の儒臣;幕政参加/足利学校を僧から藩管理に移行;  
学頭に就任、学制を整備、「喫豆茶話」、「鑑近戒覆録」「復古起源」「豪傑伝」「今井潜文稿」著  
[晦堂(;号)の字/通称]字;子竜、通称;才次郎
- J1501 槐堂(かいどう・佐野さの、別号;五雲井ごうんせい/湘江閑人)?-? 江後期相模川入の俳人;鳳朗門、  
「つるおと集」著
- 槐堂(かいどう) → 日智(にっち;法諱・通本院、日蓮僧) F 3 3 0 6  
槐堂(かいどう・大鳥居) → 信全(しんぜん・大鳥居/菅原/高辻/西高辻、社僧/連歌) P 2 2 1 6  
槐堂(かいどう・谷) → 了閑(了寛りょうかん・谷たに、藩医) G 4 9 9 5  
槐堂(かいどう・中村) → 清旭(きよあき・中村、藩士/尊王派) N 1 6 0 4  
快堂(かいどう・林) → 榴岡(りゅうこう・林はやし、幕府儒官/詩) D 4 9 7 8  
快堂(かいどう・結城) → 秀伴(ひでとも・結城ゆうき、廷臣/国学) M 3 7 2 7  
楷堂(かいどう・木村) → 芥舟(かいしゅう・木村きむら、幕臣/提督) I 1 5 7 2  
悔堂(かいどう・楠本) → 端山(たんざん・楠本、藩士/儒者) I 2 6 2 1  
海堂(かいどう・山中) → 弘道(ひろみち・山中やまなか、役人/国学者) M 3 7 2 3  
晦堂(かいどう;道号) → 義秀(ぎしゅう;法諱・曹洞僧) K 1 6 8 1  
晦堂(かいどう・今藤) → 惟宏(これひろ・今藤いまふじ、藩士/教育) O 1 9 8 0  
晦堂(かいどう・奥宮) → 慥斎(そうさい・奥宮、儒者/国学/歌) B 2 5 5 8  
改堂(かいどう・小野) → 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人) 2 9 9 8



介堂(かいどう・納富) → 介次郎(かいじろう・納富のうとみ柴田、工芸家) I 1 5 7 8  
 介堂(かいどう・平沼) → 晋(すすむ・平沼ひらぬま、藩士/詩・書) D 2 3 8 1  
 回道(かいどう・貝原) → 元端(げんたん・貝原、儒者/歌人) C 1 8 6 2  
 海棠(介堂/海棠かいどう・三熊) → 花顛(かてん・三熊/密熊みくま、絵師/俳) C 1 5 5 8  
 海棠庵(かいどうあん) → 鶯卿女(おうけいじょ・守村[邨]もりむら、俳人) 1 4 4 7  
 海棠庵(かいどうあん) → 思亮(しりょう・関せき、藩士/書家) D 2 2 2 2  
 海棠園(かいどうえん/海棠園主) → 政孝(まさたか・横山よこやま、藩士/詩人) D 4 0 2 4  
 海棠園(かいどうえん) → 万彦(まひこ・佐々木/石野、幕臣/歌人) L 4 0 0 0  
 海棠園主(かいどうえんしゅ) → 老山(ろうざん・柴山/菅原/菅、儒/詩) 5 2 3 1  
 海棠窠(かいどうか、海棠窠主人) → 米華(べいか・中島なかじま、藩士/儒者) 2 7 1 5  
 海棠花(かいどうか) → 海棠(かいどう・一睡亭、狂歌) I 1 5 9 7  
 海棠詩屋(かいどうしおく) → 雲濤(うんとう・竹内たけうち、詩人) B 1 2 5 7  
 海東野釈(かいとうやしゃく) → 玄樹(げんじゅ; 法諱・桂菴、臨濟僧/薩南学派祖) 1 8 1 7  
 開得院(かいとくいん) → 環定(かんじょう; 法諱、真宗大谷派僧) R 1 5 0 6  
 海徳院(かいとくいん) → 公巖(こうがん; 法諱、真宗大谷派僧) I 1 9 1 0  
 戒得居士(かいとくこじ) → 況斎(きょうさい・岡本保孝、儒/国学者) I 1 6 7 9  
 懐徳書楼(かいとくしやうろう) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5  
 懐徳堂(かいとくどう) → 良弼(よしすけ・船越ふなこし/北条、劍術/歌) O 4 7 9 2  
 懐徳堂創設の[五同志](町人教育のための学問所を創った大坂の5人の商人)  
 → 武右衛門(ぶえもん・三星屋みつばしや、中村睦峰) I 3 8 7 9  
 → 芳春(ほうしゅん・富永とみなが、道明寺屋吉左衛門) B 3 9 6 4  
 → 四郎右衛門(しろうえもん・舟橋屋ふなばしや、長崎克之) V 2 2 4 3  
 → 盈枝(みつえ・吉田よしだ、備前屋吉兵衛きちべえ) K 4 1 9 2  
 → 又四郎(またしろう・鴻池こうのいけ、宗古) T 4 0 7 0

J1502 海南(かいなん・関せき、名; 鐸/字; 土振、牧庵男/本姓源) 1705-63 59 土佐高知の医者; 父門、  
 神/儒; 富永惟安門、京の医・香川太仲門/典薬頭、詩文に通ず、  
 「海南稿」「海南集」、典医川越衡山こうざんの父、  
 [海南の通称/別号] 通称; 公善、別号; 桂山

H1576 海南(かいなん・藤野ふじの、名; 正啓、正久男) 1826-88 63 伊予松山藩士/儒者; 日下陶溪/謹堂門、  
 昌平黌入学; 舎長/蘭学; 天文暦学・航海術修学、海防に通ず; 藩政に寄与、  
 1861「航海要節」訳、「先朝紀略」「水戸党争始末」著、  
 [海南(; 号)の字/通称/別号] 字; 伯迪、通称; 立馬、別号; 致遠斎主人

海南隠納(かいなんいんのう; 号) → 信仲(しんちゅう; 道号・明篤; 法諱、臨濟僧) 2 2 6 1

海南雲山人(かいなんうんさんじん) → 近文(ちかふみ・高屋/大宅、国学者) B 2 8 7 8

海南袁氏(かいなんえんし) → 莞爾(かんじ・丸岡まるおか/吉村、藩士/国学) V 1 5 8 0

海南道士(かいなんどうし) → 顯成(けんじょう・三蔭/三陰/御影みかげ、真宗僧/歌) J 1 8 9 0

J1503 戒如(かいにょ; 法諱・知足ちそく; 号) ?-? 鎌倉期; 建暦1211-13頃大和西大寺の律宗僧;  
 興福寺貞慶門、戒律・法相に通ず、西大寺・海竜王寺で律疏を講ず;  
 覚盛・有巖・円晴・叡尊らの師、  
 「菩薩戒三聚戒辨要考草」「略述法相義纂积」「二十唯識論述記述考」著

J1504 海如(かいにょ; 法諱・字; 興雲/光雲、初諱; 如海、露崎磯二2男) 1803-73 71 歳 上総出身の真言僧;  
 徳蔵寺尊慶門、得度/のち豊山長谷寺に修学、1823師尊慶没後徳蔵寺入、  
 1828再び長谷寺に登る/河内に住、慈雲門の智幢門; 受戒、長谷寺子院能満院住; 同寺に没、  
 「西遊紀行」著

戒如(かいにょ) → 僧尾(そうび・戒如、浄土僧) I 2 5 7 7

皆如院(かいにょいん) → 日乘(にちじょう; 法諱、日蓮僧) C 3 3 4 1

懐仁(かいにん/やすひと) → 一条天皇(いちじょうてんのう、詩人) B 1 1 2 3

戒忍(かいにん) → 敬徳(きょうとく; 法諱・桜井、天台僧) O 1 6 3 8

戒忍(かいにん; 法諱) → 了栄(りょうえい; 法諱・広陵ひろおか、真宗大谷派僧) G 4 9 5 0

蟹奴(かいぬ・谷) → 麗国(よしくに・谷たに/小林、国学者) P 4 7 7 9

改年堂御慶(かいねんどうぎょけい) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3  
 甲斐阿闍梨(かいのあじり) → 頼瑜(らいゆ; 法諱・俊音; 字、真言僧) 4 8 9 7  
 懐能(かいのう・藤原) → 懐能(かねよし・藤原、廷臣/歌人) P 1 5 0 5  
 甲斐守(かいのかみ・藤木) → 生直(なりなお・藤木ふじき/賀茂、書家) H 3 2 8 4  
 甲斐守(かいのかみ・藤木) → 司直(もりなお・藤木/賀茂、生直男/書家) G 4 4 0 3  
 甲斐守(かいのかみ・杉浦) → 比隈満(ひくまろ・杉浦、神職/国学) 3 7 4 9  
 甲斐守(かいのかみ・中山/阿刀/阿倍) → 長彦(ながひこ・中山、神職/歌) F 3 2 4 1  
 甲斐守(かいのかみ・中山) → 俊彦(としひこ・中山、長彦男/神職/国学) V 3 1 9 4  
 甲斐守(かいのかみ・松平) → 信祝(のぶとき・松平まつだいら、藩主/歌人) K 3 5 0 3  
 甲斐守(かいのかみ・津軽) → 親足(ちかたり・津軽つがる/黒田、藩主/歌) L 2 8 4 0  
 甲斐守(かいのかみ・板倉) → 重寛(しげひろ・板倉いたくら、藩主/国学) N 2 1 3 7  
 甲斐守(かいのかみ・跡部) → 良弼(よしすけ・跡部あとべ、幕臣/奉行/歌) K 4 7 9 5  
 甲斐守(かいのかみ・齋藤) → 則庸(のりつね・齋藤さいとう、神職/国学者) I 3 5 5 9  
 甲斐守(かいのかみ・岡本) → 氏足(うじたり・岡本おかもと/賀茂、神職/書家) E 1 2 6 2  
 甲斐守(かいのかみ・岡本) → 保考(やすたか・賀茂/岡本、神職/書家) B 4 5 8 5  
 甲斐守(かいのかみ・佐竹) → 重威(しげのり・佐竹さたけ/中原、書博士/歌) O 2 1 5 3  
 甲斐守(かいのかみ・小原) → 千座(ちくら・小原おはら/立石、神職/歌) M 2 8 1 9  
 甲斐守(かいのかみ・正岡) → 主税(ちから・正岡まさおか/越智、神職/歌) N 2 8 5 1  
 甲斐掌侍(かいのしょうじ/かいのないしのじょう) → 職子(しきし・源、故実家) B 2 1 4 9  
 甲斐守(かいのかみ・浅利) → 太賢(もとかた・浅利あさり、神道家) C 4 4 3 3  
 介之介(かいのすけ・佐野屋) → 澹如(たんじよ・菊池、儒者/難民救済) I 2 6 8 4  
 楷之助(かいのすけ・本多) → 忠民(ただもと・本多、藩主/老中/日記) R 2 6 0 1  
 甲斐法印(かいのほういん) → 頼瑜(らいゆ; 法諱・俊音; 字、真言僧) 4 8 9 7  
 槐の屋(かいのや) → 宣易(のぶやす・河本かわもと、神職/国学) I 3 5 0 5  
 槐廼舎(かいのや) → 基明(もとあき・増田ますだ、国学者/歌) L 4 4 3 5  
 外波(がいば・北川/粟生) → 正征(まさゆき・北川/粟生あお、藩士/国学) M 4 0 9 6  
 皆梅(かいばい; 初法諱) → 再竜(さいりゅう; 法諱、牧野/曹洞僧/詩) C 2 0 0 9  
 皆発院(かいはついん; 号) → 正純(しょうじゅん; 法諱、真宗大谷派僧) J 2 2 6 8  
 穎人(かいひと) → 穎人(えひと・上毛かみつげ、詩人) B 1 3 0 2

J1505 快旻(かいびん; 法諱・乗深じょうしん; 字) ?-1566 真言僧; 高野宝性院の任遍門; 付法/嚴雅にも受法、  
 事教二相に精通、1538頃山科安祥寺の光意より安祥寺流の聖教を付嘱される、  
 高野山宝性院12世/権大僧都、「中院流作法」「小嶋流諸大事伝受私記」「三賢分段事」、  
 「湯山鈔」「伝宝聞書秘鈔」「業職能所」「曼荼羅供作法」「六十四転劫図」「嘆徳」外著多数

介夫(介父かひふ・日比野/林) → 南涯(なんがい・林はやし、藩士/儒者) I 3 2 6 9  
 介夫(かひふ・片山) → 豊嶼(ほうしよ・片山かたやま、藩儒/詩人) B 3 9 6 7  
 介夫(かひふ・宇仁館) → 富元(とみもと・宇仁/宇仁館うにだて、神職/占ト) O 3 1 9 7  
 介夫(かひふ・神崎) → 小魯(しょうろ・神崎かんだき、儒者/易学) M 2 2 0 9  
 皆富(かひふ・八十島) → 皆富(みなとみ・八十島やそしま、藩医者) F 4 1 3 7

F1595 海風(かいふう) ? - ? 江前期俳人; 1691不角「二葉之松」1句入、  
 [乳ちいと見て羊は花にひざまづく](二葉之松; 348/前句; をどりあがりて嬉しがりける)

S1571 外風(がいふう・今村いまむら) ? - ? 江前期上方の俳人; 1678西鶴「物種集」入、  
 [一徹も人にすぐれし上手藝](物種集/前句; 科見ゆるしてかたる友なひ/友なひ; 友人)

H1595 豈風(がいふう・堤つづみ) ? - ? 越後新潟の俳人、1690言水「新撰都曲」3句、  
 1691似船「勢多長橋」入、  
 [五月雨の晴れ間嬉しきやもめかな](都曲; 下418/寡婦にとって外に出られる喜び)

懐風館主人(かいふうかんしゅじん) → 赤城(せきじょう・関せき、漢学者/地誌家) D 2 4 5 8  
 海風堂(かいふうどう) → 貞幹(ていかん・古松こまつ、藩士/書家/歌) 3 0 4 9  
 海部屋勘兵衛(かいぶやかんべえ) → 勘兵衛(かんべえ・多田、書肆) E 1 5 1 6  
 懐平(かいへい → やすひら・藤原) → 懐遠(やすとお・藤原ふじはら、廷臣/歌人) C 4 5 1 7  
 魁平(かいへい・三間) → 元長(もとなが・三間みま、藩士・国学) L 4 4 5 1

- 懷璧(かいへき;号) → 素瑛(そえい;法諱、僧/国学者) K 2 5 9 7  
 J1506 快辨(かいべん;法諱・号;仁竜房、俗姓;山口) 1697-1780 84歳 讃岐高松の真言僧;  
 1606(10歳)鵜足郡栗熊の成満寺に出家、1717高野山に修学、34慈光院住、  
 1744(寛保4)金剛三昧院の院跡を継嗣/1771寺務検校、  
 1755「悉曇論義謂立会釈」56「持明院伝授日記」57「篇聚戒要覧持明院伝授日記」、  
 1773「弘法大師誕生会式」78「平座曼荼羅供私記中院」、「十住心論義林鈔」外著数  
 海辺(かいへん・西邑) → 忠兵衛(ちゅうべい・伊勢屋/西村、書肆) G 2 8 8 4  
 H1520 界浦(かいほ・河野かわの/こうの、名;清通/通清、字;伯水)?-? 江中期和泉堺の僧/儒;音韻学修学、  
 1726/38「韻鑑古義標注」33「韻図解」43「漣窩先生改点韻鑑」、「乎古登点譜」外著多数、  
 [界浦の通称/別号]通称;斎宮、別号;漣窩、法諱;叡竜  
 介甫(かいほ・藤堂) → 高聴(たかより・藤堂とうどう、藩主/救荒策) N 2 6 8 3  
 誨輔(海輔かいほ・村瀬/田辺) → 石庵(せきあん・田辺たなべ/村瀬、儒者) D 2 4 3 3  
 懷方(かいほう・ト部) → 懷方(兼方かねかた・やすかた・ト部うらべ、神職) C 1 5 7 2  
 灰峰(かいほう;号) → 慧海(えかい・灰峰、真宗本願寺派僧) D 1 3 5 3  
 介法橋(かいほうきょう) → 慶忍(けいにん;道号、鎌倉期絵師) G 1 8 5 1  
 回芳舎(かいほうしや、回芳斎) → 忠憲(ただのり・本多、国学/故実/歌/俳) F 2 6 6 3  
 懷邦親王(かいほうしんのう) → 懷邦親王(かねくにしんのう、歌人) C 1 5 7 5  
 海防先生(かいほうせんせい) → 徳則(とくのり・林はやし、大庄屋/海防) L 3 1 2 9  
 会木(かいぼく・南) → 陸夜(りくや・南みなみ、俳人) 4 9 8 3  
 解穆(かいぼく・榎内) → 文友(ふみとも・榎内かしうち、医者) D 3 8 9 4  
 槐本(かいほん) → 槐本(えにすのもと、万葉歌人) 1 3 8 1  
 J1507 海丸(かいまる・溪藤舎けいとうしや、通称;紙屋新右衛門)?-? 江後期大阪の狂歌作者、  
 1811「両節詠」著、順風軒沖丸の父  
 戒光房(かいみつぼう;号) → 静然(じょうねん;法諱、天台学僧) L 2 2 3 4  
 皆無空山人(かいむくうさんじん) → 立守(たてもり・林はやし、国学/神職) Z 2 6 0 6  
 S1561 かいめい(戒命/戒名;法諱)?-? 平安後期僧;法師、  
 歌;寂超「後葉集」(1155-6成立)入、  
 [逢坂の関のこなたに春がすみ立ちやすらふと知らせてしがな](後葉集;恋324、  
 三井寺を過ぎた時わらはが遊んでいたのていはせた)  
 J1508 快明(かいめい;法諱、俗姓;芝、法印快深男) 1805-32 早世 28歳 京の真言僧/随心院門跡坊官、  
 法橋/1827法眼、1821(文政4;17歳)「安原記」著  
 D1587 契聞(かいもん;法諱・不聞ふもん;道号、号;万休叟、俗姓;平) 1301-1368 68歳 武州川越の曹洞僧、  
 鎌倉円覚寺の東明慧日門;出家/師没後に嗣法、1325入元;靈石如芝・古林清茂門、  
 1335(正慶2)帰国;武蔵瑞応寺・駿河清見寺・鎌倉浄智寺など歴住、1365鎌倉円覚寺33世、  
 1368円覚寺の白雲庵内に幽石軒を営み隠棲/武蔵瑞応寺に没、「不聞和尚語録」著  
 J1509 海門(かいもん・上野うえの、名;義剛/字;士柔) 1686-1744 59歳 紀伊の売薬業/儒者;古文辞学修学、  
 1740「上野義剛集」52「考工記管籥」著  
 [海門の通称] 通称;市兵衛/玉屋喜右衛門、法号;湛邇宗然  
 E1545 海門(かいもん・赤崎あかさき/本姓;平、名;貞幹/禎幹/禎幹/禎翰さだもと) 1739-1802 64歳 薩摩谷山の郷土、  
 儒者;山田有雄(君豹/月洲)門/のち肥後の藪孤山門、帰藩;鹿児島城下士となる、  
 1783島津重豪に認められ鹿児島藩校造士館の助教;藩主島津斉宣の侍読、  
 1788記録奉行/1793物頭/95造士館教授御側役格(御用人格)/1800昌平黌の教官、  
 江戸幕府の神田聖堂式日講釈/江戸定府、歌;芝山持豊門、  
 頼春水・柴野栗山・高山彦九郎と交流、1792「いにしへの風」97「琉客譚記」、  
 「春の名残」「村雨夕」「中山入貢記」「東遊日記」「苧山筆記」「赤崎海門歌集」著、  
 「赤崎海門文章集」(坂田長愛編/東行の記など14編入)、  
 [海門(;号)の字/通称/別号]字;彦礼/元礼、通称;源助、別号;尚友軒、  
 法号;岩月院/層巖院  
 海門(かいもん;道号・元曠) → 元曠(げんこう;法諱・海門、曹洞僧) I 1 8 7 6  
 海門(かいもん;道号・元東) → 元東(げんとう;法諱・海門、臨濟僧) L 1 8 7 9



- 階門(かいもん・高橋) → 定種(さだたね・高橋たかはし、国学者/歌) Q 2 0 8 6
- E1546 快尤(かいゆう) ? - ? 連歌師、1561「飯盛千句」入
- 海優(かいゆう;字) → 日覚(にちがく;法諱・白牙院、日蓮僧) B 3 3 0 2
- 海雄(かいゆう;字) → 日濤(にっとう;法諱・智音院、日蓮僧) F 3 3 4 6
- 海雄(かいゆう) → 海雄(かいおう;法諱、真言僧) I 1 5 4 4
- 海雄(かいゆう・早尾) → 海雄(ひろお・早尾はやお/藤原、国学/神職) K 3 7 6 6
- 界雄(かいゆう;初法諱) → 神興(じんこう;法諱、徳母院/大谷派僧) O 2 2 3 4
- 会友堂(かいゆうどう) → 思明(しめい・寺田/田、書肆/音曲関係) V 2 1 8 0
- 懷誉(かいよ;法名) → 靈山(りょうざん;法諱・懷誉、浄土僧) H 4 9 7 2
- E1547 快用(かいよう・酉甫門) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1681来山編「大坂八五十韻おおさかはちごじゅういん」入(8人で五十韻);  
快用と来山・如要・江水・和尹・白水・夕扉・正察)、  
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
[おのれ忘れけり雪の夕ゆふべの作り下戸](難波色紙;87/雪見の宴;初めは下戸を装うが、  
興にのると上戸の本性露見)
- 艾葉軒(がいようけん) → 立宜(りゅうぎ・高井、初世立志男/俳人) D 4 9 3 1
- 回陽子(かいようし) → 意伯(いはく・石井、医者) I 1 1 1 7
- 晦養堂(かいようどう) → 章庵(しょうあん・加藤かとう、儒者) G 2 2 5 5
- 海籟阜民(かいらいこうみん) → 資徳(すけのり・日野ひの、商家/神職) J 2 3 0 2
- 傀儡子(魁蕾子かいらいし) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7
- 快樂院(かいらくいん;諡号) → 柔遠(にゅうおん;法諱、真宗僧) F 3 3 7
- 偕楽院(かいらくいん) → 康直(やすなお・三宅みやけ/酒井、藩主) C 4 5 3 6
- 偕楽園(かいらくえん) → 俊夫(敏夫としお・木下/丸尾/榛葉、歌人) M 3 1 0 9
- 偕楽軒(かいらくけん) → 定珍(さだかね・さだよし・阿部あべ、庄屋/詩歌) N 2 0 6 8
- 偕楽堂(かいらくどう) → 正信(まさのぶ・平元、藩士/詩/俳人) F 4 0 6 8
- J1510 洄瀾(廻瀾かいらん・堀ほり、字;元昌、元厚げんこう男/本姓;菅原) ?-? 1752存/早世 京の医者;父門、  
貞恒・貞幹の父、「揆穴寸尺法」「揆穴明辨」著
- J1511 回隆(かいりゅう;法諱・是空;号) ?-1704 浄土宗西山派西谷流/京の東山禅林寺僧、  
「当麻曼陀羅註記頭書」、1680「鎮勸用心私鈔」著
- J1512 海龍(かいりゅう;法諱・石門せきもん;道号、俗姓木下) 1674-1748 75歳 長崎の黄檗僧;  
千呆せんがい性佞しょうあん門;崇福寺に出家/師千呆性佞の侍者/1696(元禄9)嗣法、  
山城深草の石峰寺2世住持、伊予松山千秋寺2世、  
1741(寛保元)伊予温泉郡沢村安城寺開山に招聘、「千呆和尚行状」著、  
1701「黄檗賜紫呆禅師語録」編/05「黄檗第六代千呆安老和尚末後事実」著、  
会隆(かいりゅう/えりゅう;字) → 日台(にちたい;法諱・歆寿院、日蓮僧) C 3 3 8 0
- 1502 海量(かいりょう;法諱、俗姓;佐々木、覚勝寺8世玄明5男) 1733-1817 85 近江犬上郡開出今村真宗僧、  
1752出家/父を継嗣;覚勝寺住職、諸国の名山名蹟を行脚、詩歌人;大菅中養父と交流、  
1766江戸で加藤枝直・賀茂真淵門、上京;建部綾足門、彦根藩学の興隆に尽力、  
1780「松風集」81「ひとよ花」94「偲種」1804「伊勢物語新考」05「浅間嶽長歌取方温泉長歌」  
1806「むさしふり」11「南海あそひ日次の記」、「富士百詠」著、「淡海風」「松風集」編、外著多、  
歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末入、  
[朝にけに見れどもあかずあふみの海八十の湊に寄する白浪](八十浦;272/近江の海)  
[海量の字/通称/号]字;宝器/奉張、通称;中務、号;海竜かいりょう/寒巖窟
- 海量(かいりょう;法諱) → 浄眼(じょうげん;法諱、真宗本願寺派僧) I 2 2 6 7
- 懷良親王(かいりょうしんのう) → 懷良親王(かねながしんのう・かねよし、後醍醐の皇子) 1 5 3 3
- J1513 快倫(かいりん;法諱・号;遍空/倫海) 1576-1644 69歳 播磨天台宗書写山円教寺僧;理教房住、  
江戸寛永寺に数度赴く;天海門、武蔵多喜院住職、権大僧都、「新略記」「法華経音義」著、  
「天台性相私見聞」、1636「三大部序註」38「写岳文集」43「科釈妙経」44「書写山縁起」外著多
- J1514 海琳(かいりん;法諱・玉洲ぎよくしゅう;道号・俗姓吉野) 1669-1729 61 越前福井曹洞僧;9歳で寒岑林松門、



無得良悟門/法嗣、1704越前寿春庵住持/加賀実性庵/三河竜寺/長門大寧寺など住持、  
1732「無得悟禪師語録」編、「玉洲海琳禪師語録」「実性院由緒」著

- J1515 **恢麟**(かいりん;法諱・法号;界蓮社国譽)?-1824 江戸芝の浄土僧;済海寺雲王門、  
のち京の知恩院聖誉雲麟門、若くして芝増上寺の学寮主;辞任、1812上京;  
智積院の海応・深慧門/俱舎・唯識を修学、京東山一心院に住、京・奈良を往復し講義、  
「具舎論懸譚」「唯識三類境録」「三時教相章」「観心覚夢鈔講義」「唯識諸部玄談」外著多数

海林(かいりん;号) → 虎云(こうん;道号・郁繡;法諱、曹洞僧) L 1 9 6 8

界輪(かいりん・元車;法諱) → 元車(げんしゃ・界輪;道号、黄檗僧) J 1 8 4 3

海林亭(かいりんてい) → 角尾((すみお・酒居さかい、藩士/歌人) I 2 3 5 5

快烈(かいれつ;諡号) → 述斎(じゅっさい・林/松平、幕府儒官) I 2 1 9 4

戒蓮社嚴誉(かいれんしゃげんよ) → 陳阿(ちんあ;法名、浄土僧/国学) K 2 8 5 5

塊老(かいろう→つちくれのおじ) → 広蔭(ひろかげ・富樫/井手、商家/国学) 3 7 1 4

塊老和尚(かいろうおしょう) → 高門(たかかど・京極、幕臣/禅門/歌人) C 2 6 6 3

海老夫(かいろうふ・島) → 重養(しげかい・島しま、神職/国学/歌人) O 2 1 8 0

- J1516 **戒琬**(かいわん;法諱・蘊謙うんけん;道号/初道号;作烟、俗姓;林りん) 1610-7364 福建の黄檗僧;1626出家、  
開元寺に修学/1649(慶安2) 穎川藤右衛門(陳道隆)の招聘で渡来;長崎福濟寺住持;  
山号を分紫山と命名;同寺の整備に尽力;重興開山と称される、隠元隆琦・木庵性瑫と交流、  
1672福濟寺内の桑蓮居に退隱;没、「唱酬述懐」、「適慈草」著

- E1548 **華陰**(かいん・良野よし/修姓;良/のち新名氏、名;芸之) 1699-1770 72歳 讃岐那珂郡吉野の儒者、  
昌平黌に修学;林鳳岡門、擊劍;長沼不遠齋門、輪王寺門跡に奉仕、  
京の綾小路で講堂を設け教授;折衷学、  
「評注今文孝経」「詩評集解」「良子四論」「華陰文集」/1752「良論」著、  
[華陰(;号)の字/通称] 字;伯耕、通称;平助、諡号;文恵

- J1517 **可因**(かいん・大葦原おおあしはら/のち司馬しば)?-1799 江戸湯島女坂下の俳人;存義門、  
「可因点取帳」編、1782「枯野」編、「俳諧正風開物卷一」編、  
[可因の別号] 立地庵/凡夫庵/英般若/駝牛

- J1518 **花隠**(かいん・島しま、名;仙) 1780-? 1847 存 幕臣;納戸組頭/本草学;設楽貞丈門、  
1845「随地所生草品図説」47「柿品」著、  
[花隠(;号)の通称] 織部/帯刀

- J1519 **花隠**(かいん・広瀬ひろせ、名;自勝、別号;睡足園)?-? 京の絵師;狩野派/のち三熊花顛[思孝]門、  
1824(文政7)江戸下向/桜花の画を得意とす、「花隠桜花帖」「仙洞御所桜花図」画

可因(かいん・近衛) → 信尹(のぶただ・近衛、関白/歌/連歌/書) 3 5 0 8

下蔭(かいん・峯) → 下蔭(したかげ・峯みね、国学者) Z 2 1 3 9

家尹(かいん・月輪/藤原) → 家尹(いえまさ・月輪つきわ、歌人/連歌) 1 1 6 2

家胤(かいん・泉) → 家胤(いえたね・泉いずみ、易/国学/神職) J 1 1 9 2

花隠(かいん・北島) → 雪山(せつざん・北島きたじま、書家/儒者) E 2 4 3 7

花陰(かいん・近藤) → 広武(ひろたけ・近藤こんどう、藩士/歌人) J 3 7 5 9

花蔭(かいん・鏡湖楼) → 保躬(やすみ・下沢しもざわ、藩士/国学/歌) G 4 5 0 0

華陰(かいん・水野) → 元朗(もとあきら・水野みずの、家老/儒者) C 4 4 0 2

華陰(かいん・緒方) → 洪庵(こうあん・緒方、蘭医/教育) 1 9 6 9

華隠(かいん・榎倉) → 石根(いね・榎倉えのくら、神職/国学/歌) K 1 1 0 1

榎蔭(かいん・浅野) → 忠(ただす・浅野、藩家老) P 2 6 6 4

歌淫(かいん・仲田) → 顕忠(あきただ・仲田なかだ、幕臣/歌人) 1 0 4 4

- E1549 **雅因**(がいん、興津おきつ、名;孫作、通称;西山隠士)?-1777 京島原の妓楼吉文字屋主人/俳人;羅人門、  
嵯峨に宛在楼を設け西山隠士を称す、1769宗屋「瓢箪集」初篇序、  
1770「太祇句選」蕪村・嘯山らと共編、72几董「其雪影」2句/73「明鳥」1句/「続明鳥」1句入、  
1783維駒「五車反古」1句入、

[秋風の人の心に立ちにけり](其雪影;巻尾338、心に秋風が立ち恋も終わり、

本歌;春の日の長き思ひは忘れじを人の心に秋や立つらむ/後撰集86;読人しらず)

雅蔭(がいん・度会) → 雅蔭(まさかげ・度会わたらい、神職/歌) B 4 0 6 8

- 雅胤(がいん・千葉/臼井)→ 雅胤(まさたね・臼井/平/千葉、伯家神道) D 4 0 5 7
- 臥隠(がいん・山口) → 凹巷(おうこう・山口やまぐち、詩人) B 1 4 6 4
- 臥隠(がいん・大塚) → 昌伯(しょうはく・大塚おつか、医者/詩人) L 2 2 3 7
- 花隠逸(かいはいつ) → 菊叟(きくそう・岡村、家老/砲術/歌人) K 1 6 1 7
- 華陰逸人(かいはいつじん) → 由一(ゆいち・高橋たかはし、藩士/絵師) 4 6 4 3
- 加隠翁徐行子(かいはんおうじょこうし)→ 昌実(まさざね・河内山こうちやま、藩士) C 4 0 6 1
- 花[華]隠軒(かいはんけん) → 兼郁(けんいく・猪苗代/神戸、連歌) B 1 8 2 6
- 嘉隠軒(かいはんけん) → 宗二(そうに/そうじ・松尾まつお、茶人) I 2 5 6 4
- 臥陰軒(がいはんけん) → 意伯(いはく・石井、医者) I 1 1 1 7
- 瓦隠斎(がいはんさい) → 東笠(とうりゅう、茶番) I 3 1 2 2
- 華陰山房(かいはんさんぼう) → 大梁(だいらょう・桜部さくらべ、真宗僧/国学) X 2 6 3 9
- 画隠士(がいはんし) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
- 画院生徒(がいはんせいと) → 可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1
- 花蔭亭(かいはんてい) → 竜登(りゅうとう; 法諱、真言僧) M 4 9 3 4
- 夏寅亭(かいはんてい) → 吉晴(よしはる・佐々木ささき、歌人) N 4 7 0 0
- 華陰堂主人(かいはんどうしゅじん)→ 璣(たまき・山県/宍戸、藩士/儒者) S 2 6 2 3
- F1597 花雨(かう) ? - ? 江前期俳人; 1691不角「二葉之松」入、  
[忍び夫づま帰せと枕つめる姫](二葉之松; 296/もう一度もどしてくれと枕に当る)
- 瓦雨亭(がうてい) → 果然(かぜん、俳人) C 1 5 2 7
- E1550 荷云(かうん) ? - ? 京白河俳人、1689等躬「葱摺」入
- E1551 荷雲(かうん) ? - ? 江中期俳人、1717「清覚十七回忌」編
- S1522 夏雲(かうん・川本かわもと、名; 道治)?-1824 江後期安藝広島の俳人; 玄蛙門/大鳴社中、  
1823玄蛙「萍うきくさ日記三編」跋、[池の隅すすしや亀のかくれ振](「萍日記三編」)
- 夏雲(かうん・円山) → 応挙(おうきよ・円山/藤原・源、絵師) 1 4 4 6
- 夏雲(かうん・今井) → 随庵(ずいあん・今井、藩医/儒者) E 2 3 0 3
- 可雲(かうん・石尾) → 洋方(ひろかた・石尾いしお/荒木、藩士/歌) L 3 7 1 8
- 霞雲(かうん・山田) → 武麿(たけまる・山田やまだ、神職) 2 7 1 6
- J1520 臥雲(がうん; 法諱・号; 知空ちくう/竜空)?-1742 京粟生の浄土宗西山派西谷流光明寺39世、  
1729「即心念仏浄土問辨」/42「十問辯惑論纂述」、「論註撮要補欠抄」指迷頭正訣」著
- J1521 臥雲(がうん、別号; 胡廬坊/浮木庵)?-1784 尾張小牧飛車堀の住僧、俳人、西行堂を再建、  
1780「卑言対類」編
- J1522 臥雲(がうん・神保じんぼう、名; 秀賢ひでかた、保寿男) 1824-83 60 上州群馬郡金古の旗本松田家の代官、  
国学; 神保静山門/歌/俳諧/書画を嗜む、1846「山めぐり」著  
[臥雲(;号)の通称] 磯右衛門
- 臥雲(がうん; 道号) → 童童(どうりゅう; 法諱・臥雲、曹洞僧) I 3 1 2 6
- 臥雲(がうん・有馬) → 存庵(ぞんあん・有馬ありま、医者/奇行) C 2 5 5 0
- 臥雲(がうん・山口) → 太乙(たいおつ・山口、商家/俳人) J 2 6 3 3
- 臥雲(がうん・竹内) → 楊園(ようえん・竹内たけうち、儒者/詩人) 4 7 6 5
- 臥雲(がうん・末松) → 房澄(ふさずみ・末松すえまつ、庄屋/国学者) I 3 8 3 5
- 臥雲(がうん・館森) → 古道(たけみち・館森たてもり、儒者/歌人) Y 2 6 1 2
- 臥雲[山人](がうん[さんじん])→ 周鳳(しゅうほう; 法諱・瑞溪; 道号、臨濟僧) 2 1 4 9
- 臥雲閣(がうんかく) → 知空(ちくう; 法諱、真宗本願寺派能化) C 2 8 5 6
- 臥雲軒(がうんけん) → 秋英(あきひで・足立あだち、藩士/絵師) G 1 0 8 2
- 駕雲散人(かうんさんじん) → 竹夫(ちくふ、俳人) D 2 8 7 4
- 臥雲山人(がうんさんじん) → 雄淵(ゆうえん・大場おおば、神職/俳人) 4 6 8 0
- 臥雲叟(がうんそう) → 知空(ちくう; 法諱、真宗本願寺派能化) C 2 8 5 6
- 臥雲叟(がうんそう・金) → 蘭斎(らんさい・金こん、漢学; 老荘) C 4 8 1 3
- 臥雲叟(がうんそう; 号) → 月坡(げつぱ; 道号・道印、曹洞僧/詩) H 1 8 3 2
- 臥雲亭(がうんてい) → 石燕(せきえん・山崎やまざき、儒者/絵師) J 2 4 9 4
- 臥雲亭(がうんてい) → 重胤(しげたね・鯨岡くじらおか、詩人) R 2 1 3 8

- 華雲楼(かうんろう) → 祐巖(ゆうがん・山本/千葉、浄土僧) H 4 6 4 5  
 画雲楼(かうんろう) → 梅岳(ばいがく・海野うんの、高橋/絵師) 3 6 8 6  
 嘉恵(かえ・吉田/久野) → 花朗(かりう・春鶯亭、久野ひさの、俳人) P 1 5 8 1  
 L1514 加栄(かえい) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入、  
 [歌の名を世に知らるゝも徳の邪魔](二葉之松;46/文名が上がると徳は損なわれる)  
 E1552 可栄(かえい・松笠軒) ? - ? 俳人・才磨門、1692遠舟「八重一重」独吟入  
 J1523 柯影(かえい;名・関根せきね)? - ? 江中期明和安永1764-81頃の彫工、  
 錦絵発展に尽力、「馮瀛王ひょうえいおう伝」著、北尾重政「世都濃登起」中巻に署名あり  
 歌栄(かえい・高橋) → 梅子(うめこ・高橋たかはし、歌人) E 1 2 7 6  
 嘉永(かえい・石原) → 文樵(ぶんしょう・石原いしはら、俳人) F 3 8 7 5  
 嘉英(かえい・清水) → 江東(こうとう・清水、商家/儒者) G 1 9 4 1  
 家栄(かえい・賀茂) → 家栄(いえよし・賀茂、陰陽家/暦学者) 1 1 3 7  
 雅英(がえい・中島) → 五始(ごし・中島なかじま、俳人) C 1 9 7 5  
 雅英(がえい・中院/白川) → 雅朝(まさとも・白川/源/中院、神祇伯) E 4 0 6 5  
 雅英(がえい・加藤) → 素毛(そもう・加藤かとう、遣米使に随行) K 2 5 4 5  
 雅永(がえい・飛鳥井) → 雅永(まさなが・飛鳥井/藤原、廷臣/歌) F 4 0 1 6  
 雅栄(がえい・千葉/臼井) → 雅胤(まさたね・臼井/平/千葉、伯家神道) D 4 0 5 7  
 雅穎(がえい・石井) → 雅穎(まさかい・石井/清原、和算家) B 4 0 6 5  
 花英一(かえいち・植山) → 梅之(ばいし・植山うえやま、検校/歌人) B 3 6 3 5  
 嘉永子(かえいし) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1  
 雅益(がえき・白川) → 雅業(まさなり・白川/源、神祇伯) F 4 0 3 7  
 U1563 かえ子(かえこ・小町谷こまちや/旧姓;福沢) 1818-94 77 信濃伊那郡の国学者/歌人;香川景樹門  
 J1524 可悦(かえつ) ? - ? 播磨俳人;定清門、1666一雪?「阿波千句」百韻入、  
 1690言水「新撰都曲」1句入、  
 [屋根葺やねふきにあらずあやめの男哉](都曲;下350/殿舎での作業男は軒の菖蒲葺き)  
 C1535 可悦(かえつ) ? - ? 摂津住吉の僧/狂歌;1666行風「古今夷曲集」1首入、  
 [御意なれば三十一もじ二ふたもじにあまり申せばおそれなりけり](夷曲集;682、  
 あるやんごとなき御方にて狂歌詠めと仰せければ詠む)  
 可悦(かえつ) → 夙夜(ふくや・竹村鶴叟、俳人) I 2 1 6 2  
 嘉悦(かえつ・梅木) → 春堅(はるかた・梅木うめき、神職) J 3 6 7 8  
 花越斎(かえつさい) → 白輅(はくろ・永田ながた、藩士/俳人) E 3 6 1 6  
 鶏冠園(かえつえん) → 氏擘(うじあき・丹羽にわ/近藤、国学・歌) B 1 2 6 9  
 蝦手舎(かえつでのや) → 千枝(ちえだ・青木、国学者) 2 8 4 5  
 楓廼舎(かえつでのや) → 知新(ともちか・石川いしかわ、神職/歌人) U 3 1 1 8  
 楓廼舎(かえつでのや) → 長裕(ながかた・小笠原おがさわら、歌/神職) L 3 2 3 6  
 嘉平田舎(鶏頭樹屋かえつでのや) → 政方(まさみち・関/関藤、医/国学/歌) 4 0 0 6  
 B1512 嘉右衛門(かえもん・中田なかつ、別通称;嘉左/俳号;猪同)?-1736? 大阪歌舞伎立作者:世話狂言/俳諧、  
 1708「万宝千箱玉」09「江戸紫」10「心中鬼門角」「けいせい反魂香」「油屋お染心中」、  
 1720「けいせい日向丸」26「男作五人組」31「相生喜見城」35「けいせい八花形」外多著数  
 嘉右衛門(加右衛門かえもん・伴) → 資友(すけとも・伴ばん、藩士/砲術家) G 2 3 6 7  
 嘉右衛門(かえもん・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7  
 嘉右衛門(かえもん・笹屋) → 稲穂(いなほ・蘭秀堂、書肆/嘶本) I 1 1 1 0  
 嘉右衛門(かえもん・伊藤) → 祐清(すけきよ・伊藤いとう、藩士/文筆家) G 2 3 2 5  
 嘉右衛門(かえもん・富永) → 沌翁(とんおう・富永とみなが、農家/儒者) S 3 1 0 5  
 嘉右衛門(かえもん・鈴江) → 長定(ながさだ・鈴江すずえ、藩士/記録) D 3 2 6 4  
 嘉右衛門(かえもん・夏目) → 麿磨(みかまろ・夏目、酒造業/国学者) 4 1 6 1  
 嘉右衛門(かえもん・向後/田口) → 河鳥(かちよう・都曲園、田口/向後、狂歌) N 1 5 1 5  
 嘉右衛門(かえもん・吉田) → 江沢(こうたく;号・吉田よしだ、天文学者) K 1 9 5 1  
 嘉右衛門(かえもん・村瀬) → 栲亭(こうてい・村瀬むらせ、儒者) 1 9 1 5  
 嘉右衛門(かえもん・吉村) → 寛泰(ひろやす・吉村よしむら、藩士/儒者) H 3 7 5 5



嘉右衛門(かえもん・大坂屋)→ 江東(こうとう・清水、商家/儒者) G 1 9 4 1  
 嘉右衛門(かえもん・中井)→ 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8  
 嘉[加]右衛門(かえもん・山崎)→ 闇斎(あんさい・山崎、垂加流神道) 1 0 3 7  
 嘉[加]右衛門(かえもん・奈良屋)→ 以春(いしゅん・八丈道寸、連歌/俳人) C 1 1 3 0  
 嘉右衛門(かえもん・高/王)→ 葛坡(かっぱ・高こう、漢学者) H 1 5 8 3  
 嘉右衛門(かえもん・深山)→ 陸渾(りくこん・深山みやま、儒者/詩人) 4 9 7 2  
 嘉右衛門(かえもん・山岸)→ 貞文(ていぶん・山岸やまぎし、藩校助教) B 3 0 6 5  
 嘉右衛門(かえもん・村井)→ 正純(まさずみ・村井むらい、儒者/教育) D 4 0 0 6  
 嘉右衛門(かえもん・並川)→ 忠成(ただなり・並川なみかわ/中川、国学者) Y 2 6 7 4  
 嘉右衛門(かえもん・野崎)→ 義也(よしなり・野崎のさき、名主/国学/歌) O 4 7 4 2  
 嘉右衛門(かえもん・紺野)→ 基重(もとしげ・紺野こんの、藩士/文筆家) C 4 4 6 4  
 嘉右衛門(かえもん・神野)→ 曙庵(しやあん・神野じんの/柴田、美濃派俳人) G 2 2 4 3  
 嘉右衛門(かえもん・黒田)→ 清綱(きよつな・黒田くろだ/源、藩士/歌人) U 1 6 2 7  
 嘉右衛門(かえもん・萱野)→ 紫朗(しろう・藤村ふじむら/萱野/黒瀬、藩士/知事) V 2 2 1 9  
 何右衛門(かえもん・越石)→ 明寛(あきひろ・越石こしい/藤原、藩士/歌) H 1 0 5 8  
 何右衛門(かえもん・越石)→ 明忠(あきただ・越石こしい、藩士/歌人) H 1 0 5 6  
 何右衛門(かえもん・越石)→ 明秋(あきとし・越石こしい、藩士/歌人) H 1 0 5 7  
 何右衛門(かえもん・松本)→ 明友(あきとも・松本まつとも/源、藩士/歌) I 1 0 4 8  
 佳右衛門(嘉右衛門かえもん・池辺)→ 眞榛(まはり・池辺いけべ、国学者) K 4 0 0 4  
 加右衛門(かえもん・荒井)→ 盛従(もりつぐ・荒井あらい、藩士/文筆) F 4 4 7 5  
 加右衛門(嘉右衛門かえもん・西村/湯浅)→ 重慶(じゅうけい・湯浅/西村、儒者) X 2 1 0 5  
 加右衛門(かえもん・都筑)→ 為経(ためつね・都筑つぎ/松下、幕臣) Y 2 6 2 7  
 加右衛門(かえもん・北村)→ 重郷(しげさと・北村きたむら、陰陽/歌人) O 2 1 2 5  
 加右衛門(かえもん・田村)→ 好勝(よしかつ・田村たむら/大野、藩士/歌) N 4 7 6 7  
 蛙屋(かえるや→かわずや) → 鸞太(らんたい・中村なかわら、俳人) C 4 8 8 9

H1596 可円(かえん・梅原) ? - ? 京俳人、「遠浅」編、1690言水「新撰都曲みやこぶり」2句入、  
 [夕雨ゆふだちや晴れて蓑みの焼くかきつばた](都曲;334)

B1513 果園(かえん・佐久間、名;種たね、松岡敦盈男/佐久間文作の養子) 1803-92長寿90 豊前小倉藩士、  
 儒;藩校修学、国学・歌;秋山光彪西田直養門、1839隠居;諸国歴遊、阪田雅夫の師、  
 「果園雑詠百首」「千五百御統」、1850「山路のたつき」、「七可談」「豊後国孝女伝」著、  
 「報国不諱論」「德行略解」「病夢余談」著、  
 [果園の字/通称/別号]字;芝祥、通称;種次郎、別号;万非/睡虎/昼月老人/夏売炭団/多年  
 妻も歌人 → 立枝(たつえ・佐久間、松琴、歌人) R 2 6 5 5

可円(かえん;字/湯沢) → 慧恭(えきよう;法諱・可円、浄土僧) D 1 3 6 9  
 可猿(かえん・森本) → 一瑞(いちずい・森本もりもと、藩士/軍学) G 1 1 2 8  
 花園(かえん) → 春里(はるさと・山蔭やまかげ、国学者) J 3 6 3 2  
 佳園(かえん・榊原) → 芳野(よしの・榊原さかきばら、国学者) F 4 7 5 2  
 夏遠(かえん・竹鼻) → 正修(まさなが・竹鼻たけはな、藩家老/歌人) P 4 0 4 9  
 榎園(かえん・桑山) → 好之(よしゆき・桑山くわやま、製造業/郷土史) H 4 7 9 9  
 樺園(かえん・浅井) → 正賛(まさとし・浅井、藩医者) E 4 0 5 2  
 霞園(かえん・久松) → 長世(ながよ・久松ひさまつ/菅原、藩執政/歌) O 3 2 4 9  
 家猿(かえん) → 馬生(ばしょう、初世金原亭) E 3 6 5 6

E1544 雅縁(賀縁がえん、伊予守藤原為任男)?-? 平安中期;長徳(995-9)頃天台宗三井寺園城寺の僧、  
 阿闍梨、竜華院を開く、  
 慈恵(良源;18代天台座主)を濫行肉食の人と誹謗;のち狂い彷徨(古今著聞集十六入)  
 ☆藤原義孝少将(945-975/21歳没)が没後に賀縁法師の夢に出てきて少将が詠んだ詩歌;  
 [しぐれとはちぐさの花ぞちりまがふ何ふるさとの袖ぬらすらん(後拾599:極楽の歌)、  
 昔は蓬萊宮裏の月に契り 今は極楽界中の風に遊ぶ](義孝集・今昔物語・袋草紙)

B1514 雅縁(がえん・二条僧正、内大臣源雅通男) 1138-122386歳 三論僧;覚晴門/1198(建久9)興福寺別当、  
 法務大僧正;1207辞任/以後1223まで4度別当、通親(内大臣)・通資(権大納言)の兄弟



歌人; 檜葉集4首入/1200後鳥羽院初度百首参加?、新古今974、  
[又越えむ人も泊まらばあはれ知れわが折敷をしける峰の椎柴](新古今; 羈旅974、  
椎柴は野宿のしとねにする; 冬の景物)

花垣亭(かえんてい) → 守雄(もりお・書上かきあげ/南条、神職/歌) J 4 4 6 3

芽垣内(がえんない→はぎのかきつ) → 常雄(つねかつ・奥田/橋、藩士/国学者) B 2 9 9 7

J1525 花翁(かおう; 号・林はやし、通称; 五郎太夫)?-1744 三河宝飯郡御油の剣術家/門弟5百余人、  
身体大で強力、地誌、1707「三河雀」、妻; 柳生但馬守女

J1526 花翁(かおう・園井そい) ? - ? 三河雑俳点者、1752「芳野山」54「はら鼓」55「狂ひ咲」編

可翁(かおう・滝浪) → 秀成(ひでなり・滝浪たきなみ、医者/歌人) K 3 7 1 4

歌翁(かおう・長嶺) → 将在(まさあり・長嶺ながみね、国学者/歌人) B 4 0 2 2

華翁(かおう; 号) → 宗圭(そうけい; 法諱・雪庵; 道号、臨濟僧) G 2 5 9 2

華翁(かおう・合) → 斗南(となん・細合ほそあい、儒/詩/書家) O 3 1 5 8

樺翁(かおう) → 綱雄(つなお・岩崎、里正/国学者) B 2 9 0 4

樺翁(かおう・並河) → 寒泉(かんせん・並河なみかわ/なびかわ、儒者) G 1 5 4 7

家鴨(かおう・加藤) → 清風(きよかぜ・加藤かとう、国学者) T 1 6 8 6

荷翁(かおう・中島) → 素蓮(それん・中島なかじま、俳人) E 2 5 5 7

夏鶯(かおう・城) → 武貞(たけさだ・城じょう、藩士/国学者) X 2 6 5 8

霞翁(かおう・大西) → 椿年(ちんねん・大西おおにし、絵師) K 2 8 9 5

蝦翁(かおう/えびおう?) → 高雅(たかまさ・森もり、絵師) N 2 6 2 0

E1554 我鷗(がおう) ? - ? 俳人、1682道達「眠寤集」百韻入

B1515 臥央(がおう・桜田さくらだ、名; 茂/通称; 玄丈、暮雨巷2世)?-1810or24 名古屋代々医者/俳人・暁台門、  
1780暁台と栗津幻住庵に仮居/のち上洛、国学; 1792本居宣長門、

「落梅花」編、「暁台先生発句集」、暁台「幽蘭集」編刊、1768暁台「秋の日」歌仙参加; 6句入、  
1774美角「ゑぼし桶」/76几董「続明鳥」1句/82蕪村「花鳥篇」1句/83維駒「五車反古」5句入、  
[聞く人のうへによるべし萩の風](ゑぼし桶; 78、

本歌; 今はたゞ心のほかに聞くものを知らず顔なる萩の上風/新古; 恋/式子内親王)

T1505 瓦翁(がおう・石黒いしぐろ) ? - ? 江後期; 歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[ほととぎす夜ぶかき声を聞きしより老の寝覚めはたのみ初めてき](大江戸倭歌; 542)

鶯翁(がおう・鍋島) → 直与(なおとも・鍋島、藩主/洋学/歌) B 3 2 8 7

華王院(かおういん) → 仏猊(ぶつげい; 法諱、天台僧/教育) D 3 8 3 0

花王山樵(かおうさんしゅう) → 秋陽(しゅうよう・吉村/小田、儒者/詩人) E 2 1 1 2

花王堂(かおうどう) → 矩流(くりゅう・花王堂、俳人) D 1 7 5 2

華王道人(かおうどうじん/けおうどうじん) → 学信(がくしん; 法諱、浄土僧) K 1 5 0 9

雅桜翁(がおうのおきな) → 信礼(のぶひろ・中条ちゅうじょう、幕府高家/国学) D 3 5 1 4

華屋(かおう; 道号・宗厳) → 宗厳(そうごん; 法諱・華屋、臨濟僧) H 2 5 3 1

花屋玉栄(かおうぎょくえい) → 玉栄(ぎょくえい・花屋かおう、慶福院/物語研究) H 1 6 1 7

香織(かおり・原田) → 永寛(ながひろ・原田はらだ、神職/医者/詩歌) O 3 2 4 6

B1533 薰(かおる) ? - ? 江前期俳人; 1692「千代見草」入、

[水あびて聳むに作病さくびやうのそら呻うなり](千代見草/前句; 手をあたゝむる君の懐)

(若水をかけられる水祝で濡れた新郎が仮病のうめき声で妻を誘う)

V1503 香(かおる・橘たちばな、初名; 泰信、山本以南[泰雄]3男) 1763-1798<sup>32</sup> 母; 秀子/越後出雲崎の儒者;

清岡(菅原)長親門/師の学館学頭/禁裏の詩会に参加/文章博士高辻家の儒官; 京住、  
良寛(1758-1831)・由之の弟、

[香(; 名)の字/通称/号]字; 子測、通称; 中務、号; 澹斎/渚斎/北渚

B1516 薰(かおる・蘭奢亭らんじやてい、通称; 三河屋弥平次) 1769-1824<sup>56</sup> 江戸の商人; 初め牛込三河屋の番頭、  
飯田町に三河屋煙草商を開業、狂歌; 三陀羅法師社中/のち南畝門、洒落本/合巻を著作、

1800「子産黄金七夜祝」02「祇園祭桃燈蔵」20「狂歌烟草百首」22「看々踊きんら廻唐金」外多数、  
[蘭奢亭薰の別号] 奇南楼/橘香保留/蘭麝亭/蘭奢亭主人

T1579 薰(かおる・梅本うめもと、尾山屋満香男) 1828-91<sup>64</sup> 加賀石川郡美川の商家/画; 父門、歌人/俳諧、

壮年時;鶴来町に住;家業の経師(表具師)に従事、  
[薫(名)の通称/号]通称;半七、号;香風/閑谷/石川/何竜、屋号;尾山屋

- J1527 薫(かおる・菊池きくち) ? - ? 江後期嘉永安政1848-60頃;陸中遠野の地誌家、  
「遠野往来」著?(伊能嘉矩「上閉伊郡志」説/遠野往来著者は菅沼藤左衛門2世説が有力)
- U1549 薫(かおる・菊池きくち) 1835 - 1903<sup>69</sup> 伊予温泉郡の国学/歌人;  
歌;木村重太郎門/国学;師岡正胤門、  
[薫(名)の別名/通称/号]別名;永清、通称;和歌之助、号;薫翠
- U1567 薫(かおる・近藤こんどう) 1842 - ? 播磨姫路藩士、国学者;三間<sup>みま</sup>元長(魁平)門  
香(かおる・白田) → 竹老(ちくろう・白田うすだ、儒者/教育/歌) T 1 5 7 8  
馨(かおる・斎藤) → 竹堂(ちくどう・斎藤、儒者) 2 8 1 0  
馨(かおる・湯浅/青木) → 芳斎(ほうさい・青木あおき、蘭方医者) 3 9 8 5  
馨(かおる・伊藤) → 鳳山(ほうざん・伊藤いとう、漢学者) B 3 9 1 4  
薫(かおる・蘭薫亭) → 蘭薫亭薫(らんくんでいかおる、間庭義祐、藩士/狂歌) B 4 8 7 8  
薫(かおる・正墻) → 適処(てきよ・正墻しょうがき、儒者/詩) B 3 0 9 8  
薫(かおる・小谷) → 巢松(そうしょう・小谷おたに、藩儒/詩文) C 2 5 0 8  
薫(かおる・深沢) → 君山(くんざん・深沢ふかざわ、家老/和漢学) B 1 7 2 1
- G1593 可花(かか) ? - ? 堺の俳人、1633重頼「犬子えの集」1句入、  
[小椿こづばきの花のただれは散り気げ哉](犬子集;336、鼻の爛れ・身柱ちりげを掛る、  
ちりげは幼児の血の逆上する病気)
- 1503 嫁々(かか・節松ふしまつ、小宮山ちか/通称;まつ女、孤月尼、幕臣小宮山常右衛門昌俊女) 1745-1810  
朱楽菅江かんこうの妻、俳諧・狂歌;夫菅江門/夫没後は朱楽おけり連を統率、  
「梢の雪」「なはのしをり」編、晩年は視力を失い剃髪(孤月尼)、  
[照る月の山ばかりかは里芋の升のすみからすみのぼる月](後万載;秋/芋名月)、  
(里芋を盛った升の隅から澄み登る)  
嘉遇(かか) → 道寛親王(どうかんしんのう、天台僧/門跡) C 3 1 4 3
- B1517 加賀(かが・待賢門院、伏し柴の加賀、齋院新肥前女)?-? 鳥羽皇后待賢門院璋子[1101-1145]女房、  
土御門前齋院の女房とも言う(今鏡入)、千載799(;この歌から[伏し柴の加賀]と異名)、  
[かねてより思ひし事ぞふし柴のこるばかりなる歎きせむとは](千載;恋799、  
花園左大臣源有仁への歌/樵ると懲るを掛る;懲り懲りする歎きは予感していた)
- E1555 加賀(かが・美福門院、若狭守藤原親忠女)?-?1193/70頃 為経妻のち俊成妻、長秋詠草に贈答歌、  
隆信(父為経)・健御前・定家の母、新古1233/新勅1156(;定家母名)  
[頼めおかむたださばかりを契にてうきよの中の夢になしてよ](新古;1233/俊成へ返歌)  
(俊成の贈歌;よしさらばのちの世とだに頼めおけつらさにたへぬ見ともこそなれ)  
加賀(かが・富永) → 正高(まさたか・富永/藤原、神職/歌人) D 4 0 2 2  
加賀(かが・亀田) → 末盛(すえもり・亀田/度会/堤、神職) F 2 3 7 9  
加賀(かが・亀田) → 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5  
加賀(かが・宮崎) → 眞澄(ますみ・宮崎みやざき、神職/国学者) J 4 0 2 6  
加賀(かが・八幡) → 光瓊(みつてる・八幡やわた、神職/国学) D 4 1 9 4  
雅家(かが・飛鳥井) → 雅家(まさいえ・飛鳥井/藤原、歌/蹴鞠) B 4 0 2 7  
雅夏(かが・度会) → 雅夏(まさなつ・度会わたらい、神職/歌人) U 4 0 1 6  
峨々(かが・喜多) → 維親(継親これちか・喜多きた/飯田、国学) Q 1 9 6 3
- H1597 可廻(かかい) ? - ? 京の俳人、
- J1528 花海(かかい・中川なかがわ、名;幸久、別号;日一亭)?-? 江末期江戸日本橋の俳人、  
1856「巽風の記」/「軒合集」著  
夏海(かかい・石井) → 夏海(なつみ・石井いひ、絵師/狂歌) G 3 2 7 3  
夏海(かかい・豊島) → 夏海(なつみ・豊島とよしま、手習師匠/歌) L 3 2 6 4  
華海(かかい;号) → 聖憲(しょうけん;法諱、真言根来寺僧) I 2 2 4 0  
霞海(かかい・鶴殿/志毛) → 藕塘(ぐとう・志毛しげ、儒者) C 1 7 0 4
- B1518 花外(かがい・星野ほしの、別号;浅翠庵/浅水庵/必節堂)?-? 江戸後期江戸の俳人・由誓門、  
1854「其鳳家集」「此文月」65「由誓文集」編纂、「花狂ひ」著

- 霞崖(かがい・頼) → 春水(しゅんすい・頼らい、儒者/藩儒/詩人) 2 1 6 0  
 霞崖(かがい・鈴木) → 雅之(まさゆき・鈴木/穂積、国学/歌人) I 4 0 3 8
- E1585 雅海(かがい・平野ひらの、2世琴通舎) 1812-9685 大工の棟梁、初世琴通舎[英賀]の甥、茶番、狂歌;「春の霜」著
- 嘉会室(かかいしつ) → 亨(とおる・嘉会室、俳人) I 3 1 7 7  
 華魁舎(かかいしゃ/うめのや?) → 梅園(ばいえん・毛利/野里、本草学/画) 3 6 6 6  
 花外人(かがいじん) → 暮来(ぼらい・岡崎おかざき、俳人) E 3 9 7 9  
 花外人(かがいじん) → 曙庵(しよあん・神野じんの/柴田、美濃派俳人) G 2 2 4 3  
 花街楼(かがいろう) → 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5  
 花果院(かがいん・北村) → 湖春(こしゅん・北村きたむら、歌人/俳人) 1 9 3 2  
 加賀衛門(かがえもん・かがのえもん) → 加賀左衛門(かがのさえもん/かがのさいも、歌人) 1 5 6 0  
 加賀右衛門(かがえもん・松前) → 景広(かげひろ・松前まつまえ、藩士/藩政) L 1 5 2 9  
 加賀衛門(かがえもん・長島) → 元長(もとなが・長島ながしま、藩士/兵法家) D 4 4 5 7  
 嘉確(かかく・宮内) → 嘉雄(よしお・宮内みやうち/吉川、和漢学/詩) P 4 7 3 6  
 蝸殻(かかく・桂) → 金溪(きんけい・桂かつら、藩士/儒者) I 1 6 9 8
- J1529 花芻(かがく・若山わかやま、名;直昌、字;登滝/通称千[仙]太郎) ?-? 江中期阿波兵学者、徳島藩出仕、晩年は大阪住、「天文緊要録」「兵法百韻」「武経字海」「孔明兵法詳解」、1729「武経七書字義」刊
- J1530 夏嶽(かがく・新興におう/修姓;興、初姓;牧まき、名;世儀) ?-1763 大阪の書家:新興におう蒙所もうしょ門、新興姓を名乗る、1745(延享2)「積小館書則」著、  
 [夏嶽(;号)の字/通称/別号] 字;升庵、通称;周平、別号;夏嶽山人
- H1521 華嶽(かがく・奥山おくやま/修姓;藤、名;共建) 1728-8962 近江彦根藩士/儒者;野村東臯門、62家督嗣、禄700石/鉄炮物頭/宗門改奉行、儒は古文辞学/詩人;「嘯月楼詩集」著、  
 [華嶽(;号)の字/通称/別号] 字;子樹、通称;六左衛門/右膳、別号;嘯月楼
- H1522 霞嶽(かがく・山本やまもと、名;敬/通称;祐之進、日下につか2男) 1766-183974 土佐高知の医者、玉岡ぎよくこうの弟、1809(文化6)兄没;家督継嗣、儒者;藩老深尾家の佐川郷校名教館学頭、医業を排し儒を専らとす、「霞嶽遺稿」、養嗣子;澹泊斎たんぱくさい(兄玉岡の女婿)
- J1531 華岳(かがく) ? - ? 江後期名古屋の俳人、1862「口くるま」編
- 華岳(かがく;道号) → 建肖(けんちゆう:法諱・華岳、臨濟僧) L 1 8 1 3  
 華岳(かがく・西山) → 拙斎(せつさい・西山/坂本、医儒/詩歌) E 2 4 3 0  
 霞岳(かがく・鈴木) → 雅之(まさゆき・鈴木/穂積、国学/歌人) I 4 0 3 8  
 雅楽(かがく)すべて → 雅楽(うた)  
 花岳庵寂峯(かがくあんじやくほう) → 寂峯(じやくほう・花岳庵、歌人) W 2 1 1 8  
 華岳院(かがくいん) → 言継(ときつぐ・山科、廷臣/故実/歌) 3 1 3 3  
 我覚院(がかくいん) → 頼印(らいいん;法諱、真言/僧正/歌人) 4 8 1 5  
 賀楽狂夫(かがくきやうふ) → 経徳(つねのり・立入たり、廷臣/文筆) D 2 9 1 6  
 画学斎(ががくさい) → 文晁(ぶんちやう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4  
 雅楽之助(かがくしじよ) → 雅楽之助(うたのすけ・小沢、宮大工/勤王) D 1 2 0 3  
 雅楽之助(かがくしじよ→うたのすけ) → 宅彦(いえひこ・松木、神職/歌/記録) E 1 1 9 5  
 華岳亭(かがくてい) → 嘉言(よしこと/よしのぶ・豊田とよだ、国学/歌) D 4 7 2 9  
 霞岳亭(かがくてい) → 恒親(つねちか・田代たしろ、藩医/国学) F 2 9 9 0
- B1519 過拈堂(かかどう・氏家うじえ、真山まやま俊重男/氏家重継の養子) 1622-76刑死55 陸前仙台藩士、評定所留付役/近習、儒(程朱学);谷逝水門、1671伊達騒動に連座;牡鹿郡綱地島に配流、1673赦免、1676不敬罪で死刑、「大学新大全」著、  
 [過拈堂(;号)の名/通称] 名;素行、通称伝次/大隅
- 雅楽郎(ががくろう・田中) → 雅楽郎(うたろう・田中、医者) D 1 2 0 5  
 臥河居士(ごがこじ) → 竹溪(ちくけい・中林なかばやし、絵師) C 2 8 8 9  
 可々斎(かかさい) → 杜口(とこう・神沢、幕臣与力/俳人) 3 1 4 2  
 加賀左衛門(かがさえもん) → 加賀左衛門(かがのさえもん/かがのさいも、歌人) 1 5 6 0
- B1520 案山子(かがし・達摩堂だるまどう、姓;足立、初号;五竹) ?-? 加賀金沢の俳人:暮柳舎希因門;五竹号、伊勢神風館入門/のち東武に住;案山子を名乗る、



1778撰集「このてがしは」著(秋瓜序/30年来の旧稿を上梓)

案山子(かがし・佐倉) → 笑種(しょうしゅ・佐倉さくら、俳人) S 2 2 8 7  
案山子(かかし・山田・耶麻田) → 意斎(いさい、書/狂歌/浄作/読本) 1 1 8 3  
案山子(かがし・山本) → 祖月(そげつ・山本やまと、俳人/茶人) D 2 5 6 6  
案山子(かかし・池袋) → 清風(きよかぜ・池袋いけぶくろ、教育/歌人) T 1 6 4 3  
かゞし庵(かかしあん) → 野坡(やば・志太/斎藤、俳人) 4 5 1 2  
案山子庵(かかしあん) → 篁雨(こうう・松村まつむら、医/俳人) H 1 9 3 7  
案山子廼舎(かかしのや・池袋) → 清風(きよかぜ・池袋いけぶくろ、教育/歌人) T 1 6 4 3  
案山子郎(かかしろう) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9

- B1521 **加賀少納言**(かが[の]しょうなごん、加賀守藤原為盛女?)?-? 平安中期一条帝頃の歌人、  
為盛女なら源経相の妻?、上東門院彰子女房?、紫式部集入;紫式部と贈答、小少将近親者?、  
[なき人をしのぶることもいつまでぞけふのあはれは明日の我が身を](新古今哀傷818)
- 香香瀬(花々瀬かかせ) → 篤好(あつよし・五十嵐、測量/国学/歌) 1 0 2 5  
加賀太夫(かがだゆう・宮古路) → 薩摩掾(さつまのじょう・富士松、新内節) C 2 0 4 1  
花下亭(かかてい) → 経高(つねたか・中川/荒木田、神職/歌) C 2 9 3 7  
加賀奠師(かがでんし) → 日奠(にちでん;法諱・妙心院、日蓮僧) C 3 3 9 5  
加賀八太夫(かがはちだゆう・宮古路/加賀八) → 若狭掾(初世わかさのじょう・鶴賀、新内節/狂歌) 5 3 0 4  
花下道人(かかどうじん) → 直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、絵師) K 2 8 3 2  
加賀阿闍梨(かがのあじり) → 日朝(にっしょう;法諱・鏡澄、日蓮僧) F 3 3 1  
加賀都(かがのいち) → 柳川検校(やながわけんぎょう、地唄三味線) D 4 5 8 8  
加賀衛門(かがのえもん;後葉集) → 加賀左衛門(かがのさえもん/かがのさいも、歌人) 1 5 6 0
- 1560 **加賀左衛門**(かがのさえもん/かがのさいも、丹波素親女or菅原為理女?)?-? 1089存80余歳 平安後期女房歌人、  
初め脩子内親王家女房/その養女の麗景殿女御延子[頼宗女1016-95]家の女房、  
1042延子の後朱雀天皇に入内に随従;以後長く出仕、歌人/物語作者、1038師房歌合参加、  
1049-78六条斎院祓子内親王[1039-96]家歌合18回参加(通称名;左衛門/左門/さいも);  
うち1055斎院物語合で「あやめもしらぬ大将」作、1089四条宮寛子扇合参加、  
後葉集(119)/続詞花集(519)入、  
勅撰10首;後拾遺(8/124/843/1024)詞花(87)新古(873/1474-5/1799)新拾遺(1719)  
[新しき春は来れども身にとまる年はかへらぬものにぞありける](後拾遺;春8)  
[筑波山などつづくくと我が身しも恋することのふもとなりけむ](続詞花;恋519)
- 加賀守(かがのかみ・安倍) → 季良(すえはる・安倍あべ、楽人) F 2 3 5 6  
加賀守(かがのかみ・生島) → 中徹(なかつとほ・生島いくしま/岩崎、歌人) L 3 2 1 1  
加賀守(かがのかみ・前田) → 宗辰(むねとき・前田まえだ、藩主/和学) E 4 2 2 3  
加賀守(かがのかみ・岡本) → 清茂(きよしげ・岡本/賀茂/中大路、神職/故実) H 1 6 4 1  
加賀守(かがのかみ・加藤) → 泰衍(やすみち・加藤かとう、藩主/学制) D 4 5 0 6  
加賀正(かがのしょう・森谷) → 倭雲(わうん・森谷もりたに、神職/国学者) 5 3 9 0
- 1504 **加賀掾**(かがのじょう・宇治、徳田とくだ好澄)1635-171177 紀州和歌山宇治出身/芸道;謡/狂言/平家/舞、  
伊勢中の地蔵で浄瑠璃語り/1675京四条河原で好評/77加賀掾好澄受領/1685大阪で太夫、  
京の座本、浄瑠璃節を創始、  
近松作品を脚色上演:「傾城浮洲岩」「愛宕山旭峰」「契情富士ヶ嶽」等、  
[宇治加賀掾の別号] 竹翁、宇治嘉[賀]太夫/加賀掾好澄、屋号;紀伊国屋
- 加賀助(かがのすけ・岸/中山) → 琴主(ことぬし・中山/岸、音曲/八雲琴祖) F 1 9 8 1  
加賀介(かがのすけ・野沢) → 公毅(きみよし・野沢のざわ、神職/教育) U 1 6 9 9  
加賀僧正(かがのそうじょう) → 定清(定誓じょうせい;法諱、真言僧) K 2 2 2 7  
加賀の千代(かがのちよ) → 千代尼(ちよに、俳人) 2 8 3 0  
加賀の藤坊(かがのふじのぼう) → 堯恵(ぎょうえ;法諱、天台僧/歌人) 1 6 3 2
- T1574 **鏡男**(かがみお・宇都宮うつのみや、安浦やすうら男?)-1885? 伊予の神職;大洲新谷社の社家頭;父を継嗣、  
中村総社祠官/少講義、  
[鏡男(;名)の初名/通称]初名;麻満あさまろ、通称;参河介みかわのすけ
- 1505 **鏡女王**(鏡王女/鏡姫王かがみのおおきみ・ひめみこ・おおきみのむすめ?)-683 初;天智天皇の寵愛/藤原鎌足の室、



鎌足平癒を發願;山階寺建立(山階寺はのちの興福寺)、683天皇の見舞行幸を受ける、  
 万葉一期歌4首;92・93(天智・鎌足と相聞)/489/1419/1607/91・94題、  
 家系には2説ある、①額田王の姉説 ②舒明天皇の皇女(または皇孫)説  
 [風をだに恋ふるはともし風をだに來むとし待たば何か嘆かむ](万葉;四相聞489)

(額田王の天智天皇を慕う歌への返歌)

鏡乃屋(かがみのや・木村)	→ 豊平(とよひら・木村、医/国学者)	R 3 1 5 1
鏡の室(かがみのむろ/かがみのや)	→ 万(よろう・生田、国学/歌/救民活動)	4 7 4 2
鏡廼舎(かがみのや・渡辺)	→ 資政(すけまさ・渡辺わたなべ、神職/国学)	J 2 3 4 4
可々楼(かかろう)	→ 延之(のぶゆき・河本/三宅、歌人)	D 3 5 7 3
可官(かかん・赤尾)	→ 可官(よしとか・赤尾あかお/平、官人/歌人)	E 4 7 0 3
可卷(かかん・鈴木)	→ 久亮(ひさすけ・鈴木すずき、商家/歌人)	J 3 7 9 5
加冠(かかん・笛古齋)	→ 潮鼠(ちようそ、俳人)	J 2 8 3 2
家寛(かかん)	→ 家寛(けかん;法諱、天台僧/声明家)	G 1 8 8 4
嘉寛(かかん・門間)	→ 嘉寛(よしひろ・門間もんま、医者)	G 4 7 5 8
嘉寛(かかん・朝山)	→ 嘉寛(よしひろ・朝山あさやま/勝部、神職)	L 4 7 2 4
霞関(かかん・黒田)	→ 長溥(ながひろ・黒田、藩主/連歌)	F 3 2 5 9
可観院(かかんいん)	→ 日延(にちえん;法諱、日蓮僧)	3 3 7 5
可観堂(かかんどう)	→ 岸駒(がんとく;通称、絵師)	G 1 5 2 3
可季(かき・久保)	→ 又夢(ゆうむ・風後庵、久保、茶人)	D 4 6 8 4
嘉基(かき・森)	→ 嘉基(よしもと・森もり、藩士/国学者/歌)	H 4 7 6 8
嘉基(かき・朝山)	→ 嘉基(よしもと・朝山あさやま/勝部、神職)	L 4 7 2 3
家貴(かき・植村)	→ 家貴(いえたか・植村うゑむら、藩主/歌)	J 1 1 5 4
家熙(かき・近衛)	→ 家熙(いえひろ・近衛、撰関/日記)	1 1 5 9
家規(かき・為田)	→ 家規(いえのり・為田ためだ、歌人)	E 1 1 9 4

S1524 臥亀(がき・通称;東泉寺平左衛門)?-? 70歳存 安藝仁方の俳人、「書画帳」著(;芸備書画収集)、  
 [またひらくけしきも見えて冬ほとん](短冊)

画鬼(がき・円山)	→ 応挙(おうきよ・円山/藤原・源、絵師)	1 4 4 6
雅季(がき・清水谷)	→ 雅季(まさすえ・清水谷しみずだに/藤原、廷臣)	C 4 0 8 3
雅規(がき・菅原)	→ 雅規(まさのり・菅原すがわら、廷臣/詩人)	F 4 0 8 7
垣右衛門(かきえもん・宇佐美)	→ 正篤(まさあつ・宇佐美うさみ、歌人)	N 4 0 8 9

1506 嘉菊(かき・三井みつ/本姓;源、高業[紀上太郎きのじょうたろう]男)1767-1847/81 京の油小路御池北に住、  
 豪商三井の一族;京の南家5代目/文雅;父門、俳人/狂歌、蘭更と親交、  
 「後楽集」著(;八十賀の交友の句集)、  
 [嘉菊(;)号]の名/通称/別号]幼名;長五郎/名;高英、通称;次郎右衛門/八郎兵衛/八郎次郎、  
 別号;仙溪亭/陶白居

佳菊庵(かきくあん)	→ 鸞太(らんたい・中村なかむら、俳人)	C 4 8 8 9
------------	----------------------	-----------

U1501 鍵子(かぎこ・岡田おかだ、初名;満志子/号;玉春)?-? 天保頃の国学者;本居宣長門、  
 石見浜田藩家老岡田元善もとよし(1763-1836)の妻、1836(天保7)竹島事件の責で切腹

T1519 鍵子(かぎこ・本郷ほんごう、初名;銚?)?-? 江後期;歌人、旗本本郷石見守(泰固やすかた?)の妻、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [いつはりのなき世なりせばまつの戸にかたぶく月の影もうらみじ]、  
 (大江戸倭歌;恋520)

垣三郎(かきさぶろう・北野/小高/鈴木)	→ 春友(しゅんゆう・為永ためなが、戯作者)	K 2 1 5 5
鍵三郎(かきさぶろう・佐久間)	→ 長敬(おさひろ・佐久間さくま、幕臣/与力)	D 1 4 0 6
垣園(かきぞの)	→ 伴雄(ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌)	P 3 1 2 3
柿園(かきぞの)	→ 諸平(もろひら・加納/夏目、国学/歌人)	4 4 3 5
柿園(かきぞの)	→ 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人)	2 9 9 8
柿園(初世かきぞの)	→ 貞徳(ていとく・松永、俳人)	3 0 0 8
柿園(2世かきぞの)	→ 松堅(しょうけん・宮川、俳人)	2 1 7 4
柿園(3世かきぞの)	→ 和海(わかい・梅原、俳人)	5 3 0 3

- 柿園(かきぞの) → 長広(ながひろ・大橋、国学/歌人) F 3 2 5 7  
 柿園(かきぞの) → 糠人(ぬかんど・岡田、酒造家/俳人) 3 4 0 5  
 柿園(かきぞの) → 広道(ひろみち・萩原/藤原、藩士/国学/歌) 3 7 2 8  
 柿園(垣園かきぞの) → 伴雄(友雄ともお・長沢ながさわ/源/吉岡、藩士/国学/歌) P 3 1 2 3  
 柿園(かきぞの) → 義貫(よしつら・志田じだ/柿崎、藩士/歌人) L 4 7 3 1  
 柿園主人(かきぞのしゅじん) → 長年(ながとし・山形やまがた、藩士/文筆) E 3 2 8 6
- E1556 書出田丸(かきだしのたまる) ? - ? 狂歌; 四方連、1785「後万載集」6首/87「才蔵集」入、  
 [けふよりはひものあやめをときそめてきたる丹後の薄袴うすばかまかな](後万載; 夏157、  
 綾結びと菖蒲・着たると来る・丹後縞と端午を掛る)
- 嘉吉(かきち・赤池) → 賢斎(けんさい・赤池、将棋士) I 1 8 9 8  
 嘉吉(かきち・伊藤) → 貞子(ていし・伊藤、俳人) B 3 0 0 2  
 嘉吉(かきち・大野) → 猶穂(ゆうきく・大野おの、俳人) B 4 6 1 4  
 家橋(かきつ・初世市村、「狂風大人墨叢」入) → 羽左衛門(うざえもん・9世市村) B 1 2 8 9  
 家橋(かきつ・2世市村) → 羽左衛門(うざえもん・十世市村) B 1 2 9 0
- S1547 かきつばた(杜若; 組連)? - ? 江戸神田の川柳の組連、  
 取次; 1780-82「川柳評万句合」入;  
 取次例; [白壁の遠くへ見える村の寺](1782万句合/前句; ねらひ社こそすれ々々)、  
 杜若(かきつばた) → 杜若(とじゃく・土田、?-1729/俳人) N 3 1 9 7  
 柿庭(かきにわ) → 長広(ながひろ・大橋、国学/歌人) F 3 2 5 7  
 柿木舎(かきのきのや/しほくしゃ) → 信精(のぶきよ・田中、儒者/詩歌) B 3 5 3 3  
 柿廼下舎(かきのしたや) → 諸史(もろふみ・上林かんばやし/杉、村役/歌) J 4 4 7 3
- E1557 柿下手丸(かきのへたまる) ? - ? 狂歌、1785「徳和歌後万載集」7首/87「才蔵集」入  
 [うちわりて言はれぬたけのつゝ茶碗あけくれ物を思ひそめ付け](後万載; 恋566、  
 寄茶碗恋/打割ると打明ける・竹の筒茶碗と意思のたけを言う・朱おけと明暮を掛る)
- 柿本舎(かきのもとしゃ) → 巒化(らんか・高木たかぎ、春秋庵、俳人) B 4 8 6 3  
 柿本猿丸(かきのもとのさるまる) → 歌城(うたき・小林おぼやし、幕臣/国学者) 1 2 6 6  
 柿本僧正(柿下-かきのもとのそうじょう) → 真濟(しんぜい; 法諱、紀僧正、真言僧) 2 2 3 9
- ☆ 柿本人麻呂妻(かきのもとのひとまるのつま) ?-? 万葉二期歌人、同一人か虚構かも不明  
 ① 石見国に住む妻 卷二140・224-5 → 依羅娘子(よさみのおとめ) 4 7 0 1
- B1522 ② 軽の里で死んだ妻 卷二207・209  
 B1523 ③ 引手山に葬られた妻 卷二210-216  
 B1524 ③ 墨坂の家道を忘れない妻 卷四504
- 柿廼舎(かきのや) → 重種(しげたね・原田はらだ、神職/国学者) R 2 1 3 9  
 柿廼舎(かきのや) → 春雄(はるお・隈川くまかわ/山口、歌人) K 3 6 0 1  
 柿の屋(かきのや) → 真直(まさなお・福田ふくだ、旅籠業/国学) S 4 0 2 5  
 柿発斎(かきはつさい) → 桃栗散人(ももくりさんじん、狂歌/戯作者) F 4 4 0 3  
 柿葉の舎(かきはのや) → 春樹(はるき・渡辺わたなべ、国学者) L 3 6 0 1  
 瓦鬼面(がきめん) → 瓦鬼面(かわらのおにつら、白倉、商家/狂歌) H 1 5 9 1  
 柿持(かきもち・霰) → 霰柿持(あられのかきもち、狂歌作者) G 1 0 2 8
- B1525 垣守(かきもり・谷たに/大神、別名; 虎蔵/自直、重遠[泰山]長男) 1698-1752<sup>55</sup> 土佐高知藩士、  
 家学; 父門; 経書を修学、国学・歌; 賀茂真淵門/荷多在満門、神道; 玉木正英/岡田磐斎門、  
 藩の留守居役、1734「土佐国鏡草」39「日本書紀系図」著、「歌体約言」「鎌倉山家記」著、  
 「神国文叢」「見憎草」「半家義民録」、1748「古事記聞書」外著多数、  
 歌; 本居大平「八十浦の玉」入、  
 [大空の霞のみかは春の色は道ゆく人の袖もゆたけし](八十浦; 上149/年の始に詠)、  
 [垣守の通称/号]通称; 甚助/神介/丹四郎、号; 塊齋/墓翁まおう、  
 真潮まほお/垣雄/好井/幸守の父
- B1526 嘉喜門院(かきもんいん、藤原勝子、藤原経忠女or阿野実為女)?-?1381-92頃没 南北期; 女官、  
 南朝後村上天皇の女御、1368天皇没後; 院号宣下/出家、「嘉喜門院集」、  
 新葉17首; 58/134/141/161/204/281以下、

- [いきうしと思はぬたびの空なれや人やりならぬ春のかりがね](新葉;春58/帰雁)
- J1532 **嘉喜門院大蔵卿**(かきもんいんのおおくらきょう)?-? 南北期後村上天皇女御の勝子家の女房、  
歌人;新葉3首;780・809・1022、  
[思ひつたへずきえなば哀れとも誰かいはせの杜の下露](新葉;恋780)  
鑑屋正益(かぎやしょうえき) → 正益(しょうえき・速水はやみ、連歌作者) H 2 2 2 1
- B1527 **播安**(かきやす・土師はじの、榎本治右衛門)?-1788 江戸深川の狂歌作者;「大木の生限」初出、  
1785「夷歌百鬼夜狂」幹旋参加、87「狂歌才蔵集」入/「狂言鶯蛙集」「狂歌新玉集」「俳優風」入、  
[時鳥一声鳴いてくれ六ツのかねからかぞへあかすみじか夜]  
画安(かきやす・出久廼坊) → 出久廼坊画安(でくのぼうかきやす、狂歌/絵師) C 3 0 0 9
- G1594 **家久**(かきゆう) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子えのこ集」970・1147、  
[今朝や秋露と扇の置きこぐら](犬子集;四970/今朝や秋は立秋の朝/こぐらは競争)
- H1523 **何求**(可及かきゆう・横田よこた、豪商倉田俊次の長男[本姓横田]) 1620-1702<sup>83</sup> 母;徳とく、会津儒者;  
1636会津藩主加藤明成の援助で江戸に游学/上京し堀杏庵・立庵門、1638林羅山門、  
江戸で学問専念、1644帰国;1656会津藩主保科正之の侍講;200石/藩儒、1662辞任、  
1664(寛文4)稽古堂を開設;岡田如黙を堂主に迎え士民の教育に尽力、67再度侍講;300石、  
藩教学の祖、1681隠居、連歌・茶道・謡曲を嗜む、「土津神霊言行録」「本草日用集」著、  
「会津山」「養心録」「鞍見山」「養心集」「四州道記」、1691「大学金籟抄」外著多数、  
[何求(;号)の名/通称/別号]名;俊益としま/立益/友益、通称;三平/清四郎、  
別号;三友/可及/何求斎/養心/養拙/凹谷、俊晴としはるの父、  
1691不角「二葉之松」入集(359)の何求も同一か、  
[理をしらぬ人の心は泥の海](二葉之松;359)
- B1528 **可玖**(かきゆう・西村にしむら、名;吉武よしたけ/通称;善右衛門)?-? 大阪俳人・立圃門、  
1660「慕紫集」入(初出)、66「遠近集おちこちしゅう」70「湊舟十万句」編、「鶴寸集」編、  
「多都岐集第二編」編、1679水雲子「難波すずめ」入、81賀子「山海集」82春林「難波色紙」入、  
[四方やまの花を片荷に吉野哉](山海集;左5/吉野山の山人の風流/柴木に花挿す)、  
[可玖(;剃髮号)の別号]号;重親、長愛子/吉竹よしたけ
- B1529 **可休**(かきゆう・可賀田、別号;歩雲子/一葦軒)?-? 河内の生/京の鏡師orその一族/俳人、連歌、  
1690「俳諧物見車」「あるが中」編、94「正月事」編、「奉納前句一枚摺」編、  
1687信徳ら「俳諧三月物みつきもの」89言水「前後園」90「新撰都曲」2句/1702轍士「花見車」入、  
[行くにまづ反橋そりはうれし山桜](都曲;上141)
- E1558 **可久**(かきゆう) ? - ? 俳人、1683自悦「空林風葉」入
- E1559 **柯求**(かきゆう・杉若すぎわか) ? - ? 歌人、1710静山「和歌継塵集・山下水」入
- F1538 **夏躬**(かきゆう・小林こばやし) ? - ? 江中期俳人、  
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集);六々韻入、  
[階上を風の流るゝ緋の袴](しぐれの碑)
- Q1526 **可九**(かきゆう・西山亭せいざんてい、松屋久右衛門)?-? 江後期越中富山の俳人、1851「こしのしをり」編
- 家躬(かきゆう・藤原) → 家躬(いえみ・藤原、武士/連歌) F 1 1 0 0
- 可汲(かきゆう・今井) → 桐軒(とうげん・今井、国学/神道) D 3 1 2 9
- 可汲(かきゆう・岩倉) → 具選(ともゑ・岩倉/源/柳原、廷臣/詩歌) Q 3 1 2 1
- 何求(かきゆう・宮脇/宮腰) → 忍斎(にんさい・宮川、兵学者/軍記作者) G 3 3 3 9
- 可久(かきゆう・よしひさ・日原ひはら) → 一斎(いっさい・手塚、儒者;闇齋学) H 1 1 1 8
- 可久(かきゆう・吉田) → 盈枝(みつえ・吉田よしだ、商家/和学/連歌) K 4 1 9 2
- 可久(かきゆう・具原/梶川) → 可久(よしひさ・梶川かじかわ/具原、和漢学) G 4 7 2 9
- 可久(かきゆう・よしひさ・影田) → 蘭山(らんざん・影田かげた、藩儒/歌人) C 4 8 3 5
- 可久(かきゆう・白田) → 可久(よしひさ・白田うすだ/坂口、国学者) L 4 7 7 4
- 嘉休(かきゆう・富士屋) → 政友(まさとも・住友すみとも、商家/涅槃僧) E 4 0 6 6
- J1533 **蝸牛**(かきゆう・式守しきもり、;伊之助[初世]、谷たに喜兵衛男) 1743/39-1822<sup>80(84)</sup> 伊豆の生、  
17歳で江戸住/相撲行司;伊勢の海入門、吉田豊後守追風より式守賜姓/1767-93在位、  
致仕後;売薬舗を開業、1793「相撲隠雲解」、「相撲旧事記」著、

妻;シカ、養子;甥甚四郎(2世蝸牛宗春)

[蝸牛(号)の名/通称/別号]名;義則、通称;伊之助[初世]、別号;無三、法号;玄空院、  
雅久(がきゅう・小槻) → 雅久(まさひさ・小槻おづき、廷臣/日記) G 4 0 5 3  
雅久(がきゅう・美濃部) → 雅久(まさひさ・美濃部みのべ、国学/歌人) S 4 0 9 1  
雅久(がきゅう・飛鳥井) → 雅久(まさひさ・飛鳥井/藤原、廷臣/歌) G 4 0 6 1

B1530 臥牛(がきゅう・赤田あかだ、名;朱義/元義、字;伯宜)1747-182276 飛騨高山の酒造家、  
漢詩・古文辞学;独学、のち津野滄洲門/静修館開塾、津野芳州(滄洲男/臥牛集刊)の師、  
1812「滴水園十勝」/17「臥牛集初編」著、

[臥牛の通称/別号]通称;新助、別号;臥牛山人/静修館、諡号;文献先生

臥牛(がきゅう;号) → 太素(たいそ;道号・宗謁;法諱、臨濟僧) K 2 6 5 1  
蝸牛庵(がきゅうあん) → 左梁(佐梁さりょう・中村、俳人) L 2 0 6 7  
何求斎(かきゅうさい・倉田/横田) → 何求(可及かきゅう・横田、儒者) H 1 5 2 3  
何及斎(かきゅうさい・一迫) → 正安(しょうあん・一迫いちのはさま/佐々木、医者) U 2 2 6 8  
臥牛斎(がきゅうさい) → 篤好(あつよし・五十嵐、測量/国学/歌) 1 0 2 5  
臥牛山樵(がきゅうさんしょう) → 秋水(しゅうすい・長尾景翰かげふみ、詩人) H 2 1 7 7  
臥牛山人(がきゅうさんじん) → 臥牛(がきゅう・赤田あかだ、儒者/詩) B 1 5 3 0  
臥牛山人(がきゅうさんじん) → 貞至(さだり・是枝これえだ、商人/勤王) J 2 0 3 0  
蝸牛舎(がきゅうしゃ・山崎) → 知雄(ともお・山崎、国学者) P 3 1 2 2  
霞居(かきよ・松川) → 半山(はんざん・松川まつかわ、絵師) H 3 6 8 2  
霞拳(かきよ・豊岡) → 荔墩(れいとん・豊岡/坂東、庄屋/儒) 5 1 5 6

E1561 花郷(かきょう・河合) ? - ? 近江の俳人・梅盛門、1663梅盛「落穂集」「細少石」入

J1534 花嬌(かきょう・織本おりもと、名;園その、小柴庄左衛門女/織本嘉右衛門[砂明]妻)?-1810 上総西川俳人、  
蓼太・一茶らと交友、1804「すみれの袖」、夫;砂明(富津の名主)・息;子盛も俳諧に親しむ、  
[花嬌の別号] 対潮庵

J1535 可興(かきょう・堀越/本姓;山田、名;庄司、別号;松声庵)1759-182365 上州碓氷郡八幡の俳人;  
坐来門、「千年調」著

可興(かきょう・高橋) → 東臯(とうこう・高橋たかはし、書家/俳人) D 3 1 8 3  
加興(かきょう・知足庵) → 加興(かこう・知足庵、俳人) F 1 5 0 4  
家教(かきょう・花山院) → 家教(いえのり・花山院かざんいん、廷臣/歌) 1 1 5 5  
家興(かきょう/いえおき・鶉沼) → 北涯(ほくがい・鶉沼うぬま、儒者/詩人) C 3 9 9 6  
果郷(かきょう・安田) → 東亭(とうてい・安田やすだ、医者) G 3 1 6 2  
果郷(かきょう・村松) → 果卿(かけい・村松むらまつ、藩士/儒者) H 1 5 4 1  
霞橋(かきょう・山田) → 武麿(たけまる・山田やまだ、神職) 2 7 1 6  
嘉矜(かきょう・片桐) → 嘉矜(よしえり・片桐かたざり、藩士/暦算家) C 4 7 2 9

S1519 花暁(がきょう・沖野屋十郎右衛門6代)1750-? 安藝壬生の俳人;風律門、1782厄払宴の句

J1536 雅教(がきょう) ? - ? 戦国期連歌作者;1518宗長「東山千句」参加

J1537 我竟(がきょう・寺西てらにし、名;常之)?-1867 尾張藩重臣織田家の家臣、

名古屋の俳人;芝石/李曠門、1854「ふかみとり」55「ひちまくら集」編、

[我竟の通称/別号]通称;善左衛門/善九郎、別号;曲江園、法号;常心院

雅興(がきょう・木崎) → 雅興(まさおき・木崎、歌人) B 4 0 5 1  
峨興(がきょう・安島/戸田) → 信立(のぶたつ・安島あじま、家老/藩政改革) B 3 5 8 7  
雅業(がきょう・白川) → 雅業(まさなり・白川/源、神祇伯) F 4 0 3 7  
雅暁(がきょう・町田) → 正記(まさのり・町田まちだ、藩士/和算家) G 4 0 1 3  
花狂園(かきょうえん) → 蒼軒(そうけん・小泉こいずみ、地誌/測量家) H 2 5 0 8  
雅喬王(がきょうおう) → 雅喬(まさたか・白川しらかわ、神祇伯/歌人) D 4 0 1 5  
画狂人(がきょうじん、画狂老人) → 北斎(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) 3 9 6 2  
画狂人(がきょうじん) → 北明(ほくめい・葛飾かつしか/井上、絵師) D 3 9 9 6  
堅石(かきわ・渡辺) → 重名(しげな・渡辺わたなべ、神職/国学者) C 2 1 5 8  
嘉琴(かきん・小亀) → 勤斎(きんさい・小亀こがめ、書肆/韻学) I 1 6 9 8  
嘉矜(かきん/かきょう・片桐) → 嘉矜(よしえり・片桐かたざり、藩士/暦算家) C 4 7 2 9



- 加近(賀近かきん・飛田) → 古根(ふるね・飛田、俳人) E 3 8 6 8
- B1531 可吟(かぎん・吉田よしだ、通称;兵左衛門)?-? 江前期元禄期1688-1704頃美濃の俳人;支考門、  
1696蕉門俳書「うき世の花」編
- E1562 牙琴(がきん) ? - ? 談義本作者、1755「禁現大福帖」著
- E1563 賀近(がきん・佐心子) ? - ? 狂歌、1669「犬百人一」、「類字名所狂歌集」著
- 峩琴(がきん・富沢) → 貞(てい・富沢とみざわ/上野、国学/神道) F 3 0 1 7
- 可琴軒(かきんけん) → 泉石(せんせき・鷹見たかみ、家老/和漢学) M 2 4 7 8
- 瓦金堂(がきんどう) → 芝陵(しりょう・柳沢やなぎさわ、儒者) M 2 2 9 9
- T1512 赫(かく・福知ふくち/本姓;源)?-? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[入日さす野末の里の薄もみぢけふの時雨に色増りけり](大江戸倭歌;冬1062/冬時雨)
- 抃(かく・幡頭/吉野/杉田) → 玄端(げんたん・杉田すぎた、医者) K 1 8 3 6
- 抃(かく・生口) → 酔僊(すいせん・生口いくち、医者) E 2 3 8 0
- 革(かく・寺田) → 臨川(りんせん・寺田てらだ/源/田/寺、藩儒) K 4 9 5 8
- 慤(かく・林) → 梅洞(ばいどう・林、儒者) B 3 6 8 9
- 慤(かく・藪) → 孤山(こざん・藪やぶ、藩士/儒者/詩文) C 1 9 6 8
- 慤(かく・鐫木/八木) → 静修(しずさね・八木/橋/鐫木、国学者) U 2 1 0 1
- 慤(かく・甲斐) → 岷谷(みんこく・甲斐かい、儒者/詩人) G 4 1 8 1
- 確(かく・安光) → 南里(なんり・安光やすみつ、庄屋/儒者) J 3 2 6 3
- 確(かく・長野) → 豊山(ほうざん・長野ながの、儒者) B 3 9 1 0
- 確(かく・宮内) → 嘉雄(よしお・宮内みやうち/吉川、和漢学/詩) P 4 7 3 6
- 格(かく・桑島/倉橋) → 春町(はるまち・恋川、藩士/黄表紙) 3 6 3 5
- 格(かく・中西) → 耕石(こうせき・中西なかにし、絵師) K 1 9 1 0
- 格(かく・朝川/片山) → 述堂(じゅつどう・片山かたやま/朝川、儒者) I 2 1 9 6
- 恪(かく・三宅) → 英斎(えいさい・三宅みやけ、絵師) C 1 3 7 8
- 殼(珏かく・山口) → 凹巷(おうこう・山口やまぐち、詩人) B 1 4 6 4
- 珏(かく・岡) → 蔵治(くらじ・岡おか、藩士/詩人) D 1 7 5 0
- 覺(かく・安積) → 澹泊(たんぱく・安積あさか、儒者/史家) 2 6 9 5
- 覺(かく・岩本) → 五一(ごいち・達摩屋初世・岩本、書肆) E 1 9 8 2
- 覺(かく・渡辺) → 覺(さとる・渡辺わたなべ、和学/歌人) P 2 0 8 4
- 兩(かく/れき・古屋) → 昔陽(せきやう・古屋ふるや、儒者) D 2 4 9 2
- 鸞(かく;名) → 日明(にちめい;法諱、日蓮僧) H 3 3 0 2
- 楽(がく・今村) → 楽(ら/たのし・今村、歌/狂歌) 4 8 0 0
- 岳(がく・井上/南宮) → 大湫(たいしゅう・南宮なんぐう/井上、儒者) B 2 6 5 3
- 岳(がく・菅井) → 梅関(ばいかん・菅井すがい、絵師) 3 6 9 0
- 岳(がく・南合/駒井) → 晚翠(ばんすい・駒井、儒者) I 3 6 1 9
- 岳(がく・平野) → 五岳(ごがく・平野ひらの、真宗僧/儒/詩) C 1 9 2 5
- 岳(がく・平野/小永井) → 小舟(しょうしゅう・小永井こながい、幕臣/儒) S 2 2 9 5
- 学(がく・長沢) → 東海(とうかい・長沢、儒者) B 3 1 8 7
- 学(がく・萩野) → 降雪(こうせつ・萩野はぎの、絵師) K 1 9 1 7
- 学(がく・高津) → 溜川(しせん・高津/佐藤、藩儒/記録) E 2 1 4 3
- 学(がく・山部) → 経章(つねあき・山部やまべ、神職/国学) G 2 9 6 7
- 雅矩(がく・大井) → 雅矩(まさのり・大井おおい、文筆家) G 4 0 3 0
- 雅具(がく・源) → 雅具(まさとも・源みなもと、廷臣/歌人) E 4 0 6 0
- J1538 覺阿(かくあ) 1141 - ?1186存 初め興福寺僧/のち真言僧、実範に伝法灌頂受、  
「円覚大師講式」、1186「灌頂諸流印明」著
- J1539 覺阿(かくあ、俗姓藤原) 1143- ? 天台僧;14歳で叡山延暦寺得度、1171入宋・仏海門、  
印可を得て帰国/叡山入、「談義日記」著
- D1525 覺阿(かくあ) ? - ? 室町期;尾張熱田神宮社僧、  
連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(5句)、

[花の比ころ四方の木ずゑの雪晴れて](熱田;初裏13/雪に見える花の盛/村雨後の鮮かさ、前句;有儀;霞まぬ空にすぐるむら雨)

- J1540 覚阿(かくあ) ? - ? 1469-87頃越後時宗僧、連歌:新撰菟玖波集2句入
- B1532 覚阿(かくあ) ? - ? 堺時宗金光寺僧、連歌:梢柏と一座、1518宗長「東山千句」参、1504通宣「大山祇社法楽連歌」(何人百韻)参加
- 覚阿(かくあ:諱) → 覚和(かくわ;法諱、真言僧) K 1 5 6 4
- 覚阿(かくあ:法号) → 広元(ひろもと・大江おおえ、武将/幕臣) 3 7 2 9
- 覚阿(かくあ:法名) → 為氏(ためうじ・二条/御子左、廷臣/歌人) 2 6 5 6
- 覚阿(かくあ:法名) → 長兼(ながかね・藤原/葉室/三条、詩人) D 3 2 4 8
- 覚阿(かくあ:号) → 玄秀(げんしゅう;法諱、江戸期時宗僧) J 1 8 5 8
- 覚阿(かくあ:法名) → 了碩(りょうせき・板倉いたくら/奥、浄土僧/歌) M 4 9 0 2
- 覚阿(かくあ:輪蓮社) → 存統(ぞんとう;法諱、浄土僧、天文) F 2 5 6 8
- 鶴阿(かくあ:法名/怙蓮社好誉) → 宝洲(ほうしゅう;法諱、浄土僧) B 3 9 3 5
- W1543 覚安(かくあん;法諱、藤原家政[1077-1115]男)?-? 平安鎌倉期;南都興福寺の僧/少僧都、1237刊[檜葉集]入、雅教・行政・尊覚(権大僧都)・道勝(三井寺権僧正)の兄弟、[一乗院中の僧正 人々に寿を献ずる歌よませられけるに、つるのすむいつぬきがはのにごりなく君がみかげのちよぞうつれる](檜葉;神祇525/いつぬきがは;美濃の歌枕/枕草子;河は・・いつぬき川)
- J1541 覚晏(かくあん、仏地/東山覚晏と称)?-? 鎌倉初期天台/臨濟僧・大日房能忍門、大和多武峰住;布教活動、「心要提示」著、門弟;懐奘/懐照/懐義尼など
- J1542 格庵(かくあん・永田ながた、名;思達/字;守常/別号;狂痴、法号;文荘、善斎男)?-1660 和歌山藩儒、1642栗林八幡宮の井欄に銘入、「文荘詩集」編
- J1543 蟻庵(かくあん・小俣こまた/おまた、修姓;苻ふ、名;孟寛/孟彝、孟簡男/本姓藤原)1765-1837<sup>73</sup> 伊勢神樂職、1782豊受宮(外宮)宮掌大内人/味噌屋業、画;釧路雲和泉門/篆刻;源惟良門、書、明楽;玉漣上人門、家業破産、「顧氏印藪」「栗斎先生印彙」著、[蟻庵の字/通称/別号]字;子孟/名六、通称;次郎兵衛/茂四郎、別号;栗斎/柴翁
- 覚安(かくあん:法名) → 家親(いえちか・中山、廷臣/歌人) 1 1 4 0
- 格安(かくあん・山本) → 格安(ただやす・山本、国学/和算家) R 2 6 0 6
- 恪庵(かくあん・毛利) → 元蕃(もとみつ・毛利もうり/大江、藩主/歌) E 4 4 4 0
- 驍庵(かくあん・十河) → 筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家) L 2 4 3 2
- J1544 覚伊(かくい・阿闍梨、観実、藤原伊実男)?-? 平安後期天台宗園城寺僧、歌人、1166-80頃「三井寺山家さんか歌合」(観蓮[教長]判/親盛らと参加、[秋とのみ思ひしかども春の夜の月にも雁の数はみえけり](山家歌合;春月二番左)、阿闍梨親実と同一説あり → 親実(ちかざね、三井寺新羅社歌合参) 2 8 9 1
- S1525 覚意(かくい;法諱・証蓮房)?- ? 鎌倉期1264-75頃真言僧/声明;般若房了憲門/宝蓮房祐眞門、高野山金剛三昧院住;声明を広めた、「声明博士口伝」「五音譜博士之図」「真言秘事聞書」著
- B1534 覚為(かくい;法諱・智京房、藤原為理[為景]男or是法法師男)?-? 鎌倉南北期;天台宗園城寺僧、天台権大僧都/法印、通称;中納言法印、歌人;1350為世十三回忌和歌参加、新千載1001/新拾遺975/新後拾1096、[たぐひなきかげと頼みて年もへぬ此一本の志賀の浜松](新千載;神祇1001)
- E1512 覚一(かくいち・明石検校、明石殿)?-1371 書写山の僧/失明;平曲家/琵琶法師;如一門;一方流、朝廷より賜った[雲井本平家物語]を使用し平曲「平家物語覚一本」の完成、平曲中興の祖、総検校となり職屋敷を賜る、中厳円月と親交
- 格一(かくいち・渋谷) → 知礼(ともひろ・渋谷しぶや、和算家) Q 3 1 4 6
- 画一庵(かくいちあん) → 汗虹(あせこう・高橋、俳人) M 1 9 3 9
- J1545 覚印(かくいん・自証房、下野阿闍梨、平季房or師季男?)1097-1164<sup>68</sup> 真言僧;兄永厳より伝法灌頂、高野山覚証院を開く、「勝語集」「随聞記」「諸口伝集」「秘鈔口決」「青宇」/1161「事相料簡」著
- 覚印(かくいん;法諱) → 只丸(しがん;号、真宗高田派僧/俳人) B 2 1 4 1
- 覚因(かくいん:法名) → 親行(ちかゆき・源、古典研究/歌人) 2 8 0 8
- 岳陰(がくいん・橘田) → 春湖(しゅんこ・橘田きた、俳人) J 2 1 5 9

- 鄂隱(かくいん;道号) → 慧叡(えかつ;法諱・鄂隱・臨濟僧) 1 3 5 4
- J1546 覺胤親王(かくいんしんのう・妙法院宮、貞常親王男)1465-154177 母;庭田重有女の従三位盈子、  
堯胤親王の弟、1488親王宣下/天台宗妙法院入室;教覺門、  
1501(文龜元)足利義尹に内通の疑惑;所帯没収、1518(永承15)天台座主、  
連歌:1534「石清水社法樂千句」36「日吉社法樂千句」、新菟5句入  
角寅道人(かくいんどうじん) → 常庵(じょうあん・竜崇、臨濟僧/詩文) G 2 2 6 6
- W1546 角院龜石(かくいんのかめいし・-きせき)?-? 鎌倉期;南都興福寺の支院角院の童、歌人、  
1237刊[檜葉集]2首入、  
[湖辺花といへる事をよめる、  
みねの雲浦のざざなみたちまよひとほころさだめぬ志賀のはなぞの](檜葉;雜童693)
- W1545 角院中納言(かくいんのうちゅうなごん)?-? 鎌倉期;南都の角院の童、歌人;1237刊檜葉集入、  
増慶法師が三蔵院の中山僧正(範玄/1137-99)の造花を持ちさって、  
きみがためいろふかかりし桜花さもあらぬ人はいかがみるべき;としおいたので、  
[人はいさをりやとめけむやへざくらかざしてきたるきみぞうれしき](檜葉;雜童680)
- 鄂隱梵叡(かくいんぼんかつ) → 慧叡(えかつ;法諱・鄂隱;道号、臨濟僧) 1 3 5 4
- J1547 果空(かくう;法諱、別諱;俊式)?-1623 京浄土宗西山派1586禅林寺37世/紀伊総持寺13世、  
教団の整備/堂舎復興に尽力、「阿弥陀裙葉集」「曼荼羅抄」著、連歌;1602円清と初何百韻
- J1548 我空(かくう) ? - ? 近江高島俳人:1777江涯「仮日記」入  
雀羽(鶴羽かくう・高木) → 正照(まさてる・高木たかぎ、俳人) E 4 0 2 5  
岳雨(かくう) → 旧室(きゅうしつ・笠家/活井い、俳人) C 1 6 0 6
- J1549 覺運(かくうん・檀那僧正[僧都]、藤原貞雅男)953-100755 天台僧・良源門、叡山東塔南谷檀那院住、  
檀那流の祖、1003大極殿仁王会総導師/権少僧都/一条天皇に法華經疏進講;権僧正、  
「玄義抄」「二諦義私記」「三周義私記」「一実菩提心論」「実菩提心論」「一実菩提偈」外著多数、  
[なにかそのそしらん人にくからん清きをすむといふにやあるらん]、  
(袋草紙;馬内侍うまのい[との間]に[浮]名立ちて送る歌、  
なぜ悪口を言う人を憎もうか私達の清い仲を住むではなく澄むと言っているのだらう)
- J1550 覺雲(かくうん;法諱・康空)? - ?1706存 福井浄土宗西山派隆生寺5世、「鎮勸用心詳解」
- J1551 鶴雲(かくうん・寺尾てらお、名;克清/通称;九郎右衛門)?-1732 肥後熊本の儒者/詩人/彫刻家、  
「菊花詩巻」「十竹詩集」著、  
[鶴雲の別号] 十竹堂/閑雲堂  
覺云(かくうん;道号) → 祖庭(そてい;法諱・覺云;道号、曹洞僧) K 2 5 1 3  
覺雲(かくうん;字) → 知空(智空ちくう;法諱、律宗僧) C 2 8 5 5  
学運(がくうん;法諱) → 無能(むのう;法諱・守一;字、浄土僧/歌) C 4 2 9 3
- J1552 覺雲親王(かくうんしんのう、法諱;覺雲/号;円融房、龜山天皇皇子)1272-132352 天台僧;澄覺門、  
1305-11天台座主/1311神輿入洛の件により辞職/1315一品/1317-18再び天台座主、  
1312「毗沙門法未再治」17「鎮壇次第」、「洗五胡作法法曼流」著  
覺云祖庭(かくうんそてい) → 祖庭(そてい;法諱・覺云;道号、曹洞僧) K 2 5 1 3  
学雲林(がくうんりん;画号) → 懋績(とつぐ・浅野あさの、歌人/絵師) T 3 1 9 8
- J1553 覺恵(かくえ;法諱、大納言僧正、大炊御門おおいみかど頼国男)1604-? 真言僧;1616得度/30宥厳門、  
伝法灌頂受/法印/1633権僧正、興福寺東北院/仁和寺眞光院住、寛海の弟、  
1617「光明真言句義釈」、「御室御中陰曼供次第」著  
覺恵(かくえ;法諱) → 覺行親王(かくぎょうしんのう、真言僧) J 1 5 6 9  
覺恵(かくえ) → 元性(げんしょう、崇徳皇子/真言僧) F 1 8 0 8  
覺恵(かくえ;法号) → 兼良(かねよし・一条、撰関/古典/連歌) 1 5 3 7
- E1564 覺英(かくえい) 1117 - 115741歳 法相僧、1250頃の「撰集抄」入:葛の松原の歌
- J1554 鶴英(雀英かくえい) ? - 1771 山城伏見の俳人;蕪村門、  
几董「其雪影」1句/維駒「五車反古」3句入、妻の柳女・息子の賀瑞も蕪村門俳人、  
[夕風にあとなくなりぬ雲の峰](其雪影;巻尾301)  
妻 → 柳女(りゅうじよ・笹部) E 4 9 6 2

- U1521 廓英(かくえい; 導号/法諱; 春山、字; 葆光) ?-1782 石見三隅村小野の僧/歌人
- J1555 覚瑛(覚映かくえい; 法諱・道彦どうげん; 字、号; 西郊、円眞男) ?-1826 飛騨西之一色村真宗大谷派僧、  
玄興寺住職、漢学・詩; 赤田臥牛門/歌; 賀茂季鷹門、「行余雑録」、1796「蓮社拾花集」著
- 覚英(かくえい; 法諱) → 万林(ばんりん・まんりん; 道号・覚英、曹洞僧) C 3 6 5 2
- 鶴永(鶴永かくえい・井原) → 西鶴(さいかく・井原、俳人/浮世草子) 2 0 0 1
- 廓瑩(廓栄かくえい; 字) → 遊安(ゆうあん; 法諱、浄土僧) G 4 6 5 0
- 学亦漢(がくえきかん) → 祐訓(すけのり・梅内うめない、藩士/古蹟調査) G 2 3 9 6
- 覚右衛門(かくえもん・原田) → 乍木(さばく・原田はらだ、芭蕉門俳人) D 2 0 9 1
- 覚右衛門(かくえもん・島田) → 貞継(さだつぐ・島田しまだ、藩士/和算家) I 2 0 5 8
- 覚右衛門(かくえもん・鳥居) → 昭美(あきよし・鳥居、藩士/俳人) E 1 0 0 9
- 覚右衛門(かくえもん・中野) → 清風(きよとお・中野、国学者) P 1 6 9 5
- 覚右衛門(かくえもん・九里) → 正長(まさなが・九里くのり、藩士/歌研究) F 4 0 1 9
- 覚右衛門(かくえもん・九里) → 今正(よしまさ・九里、正長の末裔/藩士) H 4 7 1 1
- 角右衛門(角衛門かくえもん・小野) → 言員(ことかず・小野おの、歌人) D 1 9 4 4
- 角右衛門(かくえもん・菊池) → 西臯(せいこう・菊池さくち、藩士/儒者) I 2 4 1 0
- 角右衛門(かくえもん・菊池) → 梅軒(ばいけん・菊池、西臯男/藩儒者) B 3 6 1 1
- 角右衛門(かくえもん・大山) → 綱良(つなよし・大山/華山、藩士/勤王) B 2 9 4 1
- 角右衛門(かくえもん・大山) → 綱至(つなのり・大山おおやま、藩士/国学) F 2 9 4 3
- 角右衛門(かくえもん・能勢) → 春臣(はるおみ・能勢のせ/源、磋工/歌人) K 3 6 5 4
- 格右衛門(かくえもん・吉田) → 耕雲(こううん・吉田よしだ、絵師) H 1 9 4 9
- B1535 覚延(かくえん; 法師、藤原公重の男or猶子) ?-? 平安鎌倉初期の真言僧; 守覚法親王より灌頂、  
仁和寺阿闍梨、1235醍醐寺の執行、歌人; 1198-9守覚法親王御室五十首参加、  
続詞花集・月詣集入、勅撰6首; 千載(316/354/1019)新勅(14/42)玉葉(399)、  
[宮木野の小萩が原を行く程は鹿のねをさへわけて聞く哉](千載; 秋316、  
鹿声両方といへる心を詠む/繁る萩を分ける音だけでなく鹿鳴さへ滋く)、  
[池水にむすぶ氷も春風の吹きくるかたでまづはとけける](御室五十首; 春703)
- W1532 覚縁(かくえん; 法諱、) 1217 - ? 鎌倉前中期; 南都の僧/歌人; 経円催の歌会参加、  
1237素俊撰[檜葉集]3首入、  
[大僧都経円月次会の歌、  
くれごとに秋のたびねはかはれども野にも山にもおくる月影](檜葉; 餞別/羈旅646)
- B1536 覚円(かくえん; 法諱・鏡堂きやうどう; 道号、大円禅師) 1244-1306 63 南宋西蜀の臨濟僧; 環溪惟一門、  
1279無学祖元に従い渡来、鎌倉禅興寺住持/奥州興徳寺開山、円覚寺3世/建長寺7世、  
建仁寺16世; 建仁寺に没、「鏡堂和尚語録」著
- B1537 覚円(かくえん、号; 東北院、西園寺実兼男) 1277-1340 64 母; 源通成女、法相僧; 興福寺東北院に住、  
権僧正/法務大僧正、1319興福寺別当/1356(建武3)再任、  
公衡・公頭・兼季・性守・道意・永福門院鐔子しょうし・亀山院后瑛子・後京極院禧子の兄弟、  
京極派の歌人; 1315京極為兼[詠法華経和歌]参加、「続千載集名字間事」著、  
続現葉集/臨永集/藤葉集入、  
勅撰15首; 玉葉(812/2556/2691)続千(191/1015/1498/1904/2072)続後拾(1269)以下、  
[夕づくひ色さびまさる草の下にあるとしもなく弱る虫の音](玉; 812/暮秋虫)
- 覚円(かくえん) → 良恕法親王(りやうじよほつしんのう、天台座主/歌) 4 9 1 9
- 覚円(かくえん・花山院) → 兼信(かねのぶ・花山院、廷臣/歌人) C 1 5 9 4
- 覚円(かくえん) → 政嗣(まさつぐ・二条にじよう/藤原、関白) D 4 0 8 3
- 覚円(かくえん) → 師親(もろちか・北畠/源、権大納言) H 4 4 4 0
- 覚円(かくえん) → 政長(まさなが・花山院/藤原、左大臣/太政大臣) L 4 0 5 5
- 覚円(かくえん; 字) → 日滄(にちかん; 法諱・明静院、日蓮僧) B 3 3 0 7
- 覚円(かくえん; 字) → 法性(ほつしょう; 法諱・覚円、真言僧) E 3 9 6 8
- 覚円(かくえん; 字) → 玉諦(ぎよくたい; 法諱・覚円、真言僧/華嚴) P 1 6 2 4
- 覚遠(かくえん) → 覚遠(かくおん; 法諱・本円、真言僧) J 1 5 6 1



蠮園(かくえん)	→ 重綾(しげあや・門脇、歌人)	B 2 1 8 1
蠮園(かくえん)	→ 重綾(重礼しげあや・門脇、神職/国学/歌)	B 2 1 8 1
鶴園(かくえん)	→ 親義(ちかよし・高崎、歌人)	C 2 8 2 3
鶴園(かくえん)	→ 光世(みつよ・蜂屋はちや、幕臣/歌人)	F 4 1 0 8
笹園(かくえん)	→ 雨窓(うそう・新井あらい、儒者/詩歌)	C 1 2 0 2

- J1556 **覚雄**(かくおう;法諱、久我こが長通男)?-1369 真言僧;地藏院僧正親女の室に門;修行、1322地藏院流秘事を受;地藏院北経蔵を管理/1359東寺長者/60醍醐寺座主/大僧正、関東下向;鎌倉永福寺別当/のち醍醐に帰山;没、1350「武家五壇法記」著、「四度行軌」「四度口決」「伝法灌頂記」「当流秘要文指授決」著、[覚雄(;法諱)の通称]太政僧正/地藏院大僧正
- J1557 **覚翁**(かくおう;法諱・教音きょうおん;字、北村伝左衛門男)1665-1728<sup>64</sup> 伊勢二見の真言僧;1676(12歳)志摩堅神観音寺の快雲門;出家、近江勢多最勝院の尊海門、京仏山に住、師快雲没後;志摩観音寺に兼住/1689近江矢橋石津寺/1706上総釈蔵院/23尾張長久寺住職、1725(享保10)幕命で江戸円福寺住職、「灌頂手鏡」「諸尊表白」「正徳曼荼羅供庭儀式」著、
- J1558 **鶴翁**(かくおう・永良ながら/本姓;赤松)?-? 安土桃山期天正1573-92頃播磨永良出身?/文筆家、芦屋道建と交流、1579「めさまし草」著(播磨国内の奇談・逸話集)
- J1559 **鶴翁**(かくおう・花月庵、姓;田中たなか、名;元長もとなが/賀寿、字;俚徳)1782-1848<sup>67歳</sup> 大阪の酒造業、煎茶花月庵流の祖、水の研究、禅学/煎茶法;黄檗僧聞中浄復門、煎茶花月庵流を創設、歌;香川景樹・熊谷直好門、1835「茶器録」著、[花月庵鶴翁(;号)の通称/別号]通称;亀之助/新右衛門、別号;菊井館/松風清社/毛孔/三種亭/其行/養良軒
- J1560 **覚応**(かくおう;法諱、妙円寺謙讓2男)1793-1856<sup>64</sup> 周防妙円寺の真宗僧/漢学;1805亀井南溟門、豊前福島の長久寺及び本山の学庠で宗学を修学、1826大阪本願寺派長光寺覚順の養子、大坂長光寺住職、本山学林の参事に就任/1833大坂津村別院学仏場の制法を立てる、1833本願寺派学匠五十余人の伝記を明らかにする、詩、「観月臥松楼詩鈔」著1833「清流紀談」/「竜山随筆」「竜山草稿」「西窓雑筆」著、[覚応(;法諱)の字/号]字;子感、号;周山/竜山/竜護山人/覚樹院、観月臥松楼主人
- |                       |                             |           |
|-----------------------|-----------------------------|-----------|
| 覚応(かくおう;字)            | → 日因(にちいん;法諱、日蓮僧)           | 3 3 4 7   |
| 覚翁(かくおう;字)            | → 宏源(こうげん;法諱・覚翁;字、真言僧)      | I 1 9 6 5 |
| 覚翁(かくおう;号)            | → 源説(げんせつ・新井あらい、易学家)        | K 1 8 5 6 |
| 覚翁(かくおう;号)            | → 直談(なおもり・井伊い直興/藩主/大老/歌)    | L 3 2 0 1 |
| 雀翁(かくおう・高木)           | → 正照(まさてる・高木たかぎ、俳人)         | E 4 0 2 5 |
| 鶴翁(かくおう・鹿島)           | → 則瓊(のりよし・鹿島かしま、神職/国学)      | G 3 5 3 1 |
| 鶴翁(かくおう・辻)            | → 守参(もりみつ・辻、幕臣/文筆家)         | G 4 4 6 2 |
| 鶴翁(かくおう・壺井)           | → 義知(よしちか・壺井つばい、故実家)        | 4 7 1 9   |
| 鶴翁(かくおう・毛利)           | → 熙頼(ひろより・毛利もうり、藩士/記録)      | H 3 7 7 4 |
| 鶴翁(かくおう・村上)           | → 英俊(えいしゅん・村上、医者/語学者)       | C 1 3 9 4 |
| 鶴翁(かくおう・喜多)           | → 武清(ぶせい・喜多きた、絵師;挿絵)        | C 3 8 8 9 |
| 鶴翁(かくおう・宮古路/鶴賀)       | → 若狭掾(初世わかさのじょう・鶴賀、新内節/狂歌)  | 5 3 0 4   |
| 鶴翁(かくおう・堀内)           | → 仙鶴(せんかく・堀内、茶道/俳人)         | F 2 4 0 3 |
| 鶴翁(かくおう・松平)           | → 久徴(ひさよし・松平、藩士/記録)         | C 3 7 2 1 |
| 鶴翁(かくおう・二階堂)          | → 孝行(たかゆき・二階堂にかいどう、藩士/歌)    | Y 2 6 7 9 |
| 鶴翁(かくおう・古森)           | → 厚茂(あつげ・古森こもり/秦/河崎、神職/歌)   | H 1 0 5 1 |
| 鶴翁(かくおう・中小路)          | → 宗芳(むねよし・中小路なかこうじ/菅原、神職/歌) | E 4 2 0 8 |
| 鶴翁(かくおう・久保倉/岩淵)       | → 弘毅(こうき/ひろたけ・岩淵いわぶち、国学)    | 1 9 9 4   |
| 廓翁(かくおう・武田)           | → 識正(としまさ・武田ただけ/白玉、国学/歌)    | V 3 1 2 3 |
| 貉翁(かくおう・後藤)           | → 若雄(わかお・後藤ごとう、歌人)          | 5 3 0 8   |
| 覚翁軒(かくおうけん)           | → 直談(なおもり・井伊い直興/藩主/大老/歌)    | L 3 2 0 1 |
| 覚王院僧正(かくおういんのそうじょう)   | → 宋縁(そうえん;法諱、真言僧正)          | 2 5 7 0   |
| 角翁恵端大和尚(かくおうえんだいおしょう) | → 洞月(どうげつ、曹洞僧/歌人)           | D 3 1 2 7 |

- W1540 **覚恩**(かくおん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の法師/歌;1237刊[檜葉集]2首入、  
[ゆふしものおきまどはせるあしのほにおのれもさむき風わたるなり](檜葉;冬299)
- J1561 **覚遠**(かくおん;法諱・本円ほんえん;字、俗姓;堀) 1691-1771<sup>81</sup> 山城石田村真言僧;1702覚翁門/05出家、  
1712石津寺主/以後;快存・亮範・智興・真円門;諸流の宗学を受く、1736尾張長久寺住職、  
1744江戸円福寺住職/56京智積院19世/権僧正/58正僧正、六波羅蜜寺に退隠、「真決鈔」著
- J1562 **覚音**(かくおん;法諱・諡号;随喜院、俗姓;中島) 1791-1864<sup>74</sup> 近江祇王村真宗本願寺派遍照寺生、  
美濃揖斐郡鶯村の仏照寺14世住職、唱導に長ず/六字釈を弁ず;牡丹餅法談と称される、  
「六字釈説教」「五劫思惟辨」「正信偈天親章説教」著
- 楽音樹(かくおんじゅ;諡号)→ 季良(すえはる・安倍あべ、楽人) F 2 3 5 6  
覚音房(かくおんぼう) → 詢道(じゅんどう;法諱・伝灯、真宗本願寺派僧) L 2 1 6 4  
覚温坊(かくおんぼう) → 栄周(えいしゅう・木幡こばた、藩儒/歌人) U 1 3 0 9  
覚嘉(かくか・神原) → 覚嘉(あきよし・神原、和算家) E 1 0 0 7
- B1538 **覚雅**(かくが;法諱、六条右大臣源頭房男/頭仲弟) 1090-1146<sup>57</sup> 東大寺三論僧;勝覚門、  
1142(永治2)権少僧都、源頭仲・覚樹の弟、歌人;1128頭仲催「西宮歌合」参加、  
久安百首参加;完成途中に没、後葉ごう集(7首)・続詞花集5首・「言葉集」入、  
勅撰5首;金葉解(2/62)/詞花(13/207)千載(492/791/1213)、  
[萌えいづる草葉のみかは小笠原駒のけしきも春めきにけり](詞花;春13、  
小笠原は甲斐の御牧/冬の柵内の繋ぎ馬が牧の野に放たれる光景)  
[秋はててとふ人もなき山里におとなふ物は時雨なりけり](続詞花;冬287)
- W1535 **覚雅**(かくが;法諱、) ? - ? 鎌倉期;興福寺僧/僧都、歌人;1237[檜葉集]6首入、  
[きみがへむかずにしとらばいなり山ちよにひとはのすぎのむらだち](檜葉;賀祝540)
- J1563 **覚海**(かくかい;法諱・南勝房;号、和泉法橋、和泉守源雅隆男) 1142-1223<sup>82</sup> 但馬養父郡長野村出身、  
真言僧;醍醐寺三宝院の定海門、のち高野山;大楽院の寛秀門、定海・親巖・朗澄に受法、  
高野山南谷に華王院を開く/1217(建保5)金剛峰寺検校、高野八傑の1、  
門弟;四哲(法性ほしゅう/道範/尚祚/眞辨)ら多数、  
伝説化;1223(貞応2)仏法護持のため天狗と化し中門の扉2枚を翼にして飛び去る、  
「覚源抄」「覚範問答」「覚海法橋法語」「華王院覚海法印法語」「鏡鉞口伝」外著多数
- B1539 **覚懐**(覚快かくかい;法諱・法印、二条為世[1250-1338]男)?-? 鎌倉期興福寺西南院僧/法印、  
歌人、1350.8月「為世十三回忌和歌」参加(覚快名)、続現葉入、  
勅撰6首;続千載(959)続後拾(1186)風(1605/2069)新千(515/843)、  
[濁りなきもとの心にまかせてぞかけひの水の清きをも知る](続千;釈教歌959、  
心清浄故有情清浄)  
[から衣うつに夜寒やわするらむ霜におきみる秋の里人](新千載;秋515)
- 覚海(かくかい;道号・真禪)→ 真禪(しんぜん;法諱・覚海、曹洞僧) P 2 2 1 5  
覚海(かくかい;法名) → 守之(もりゆき・布施ふせ、藩士/兵法家) G 4 4 7 3  
学海(がくかい・依田) → 学海(がっかい・依田よだ、藩士/詩文) F 1 5 4 0  
学海(がくかい・下郷) → 亀洞(きどう・千代倉/下郷、詩/俳人) B 1 6 5 7  
学海(がくかい・大久保) → 鷲山(しゅうざん・大久保、藩士/儒者) H 2 1 4 7  
覚海浄円法師(かくかいじょうえんほうし)→ 兼言(ぼくげん・寺島/西尾、本陣職/俳人) D 3 9 0 5  
覚々斎(かくかくさい) → 長寛(ちようかん・佐野さの、漆工/国学) M 2 8 6 2  
覚々斎流芳(かくかくさいりゅうほう)→ 宗左(3世そうさ・千せん、久田、茶人) H 2 5 3 5  
赫々子(かくかくし) → 江月(こうげつ;道号・宗玩、臨濟僧) I 1 9 4 8  
赫々亭(かくかくてい) → 椿岱(ちんたい・宮田、俳人) K 2 8 8 7  
赫々堂(かくかくどう) → 義方(よしかた・中村なかわら、藩士/和算家) C 4 7 7 4  
角茄軒(かくかけん) → 皆虚(かいきよ;号・鬼藤、真宗僧/俳人) 1 5 9 5  
覚華堂(かくかどう) → 信海(しんかい・豊蔵坊、社僧/狂歌/書) 2 2 1 8
- E1565 **覚鑑**(覚鑒かくかん) ? - ? 興福寺僧、大輔已講[蛸講]、  
1112基俊判「奈良花林院(永縁奈良房)歌合」入、  
[五月やみくらくはくらく郭公声はかくれぬものにぞありける](花林院歌合;三番右/負)
- B1540 **覚寛**(かくかん、法橋行賢or行貞男)?-? 真言宗仁和寺御室の僧/大蔵卿/法印/庁務担当、

歌人;藤原定家と交流、1218-9道助法親王家五十首歌/32石清水若宮歌合参加、

1237「名号七十首和歌」を勧進、

勅撰18首;新勅撰(4首350/1118/11771252)続後撰(5首185/1101/1155/1167/1308)、

続古(1063/1613)続拾(194/565)新後撰(177/1519)玉(1215)続千(1660/2147詞)新拾(834)、

[染め残す梢もあらじむら時雨なほあかなくの山めぐりかな](新勅;秋350)

J1564 鶴丸(かかかん/つるまる) ? - ? 室町期連歌作者、

1464?安富盛長興行「熊野くまの千句」参加

覚巖(かかかん;道号) → 心梁(しんりょう;法諱・覚巖、曹洞僧) Q 2 2 1 3

角丸(かかかん→かどまる) → 角丸(かどまる・吉田よしだ、浄瑠璃作者) C 1 5 6 1

覚勸坊(かかかんぼう) → 清空(しょうくう;法諱、浄土僧/歌) G 2 2 2 5

J1565 覚基(かかき;法諱・円性えんしょう;字) 1133-1217<sup>85</sup> 平安鎌倉期和泉山代の真言僧;理賢門;灌頂を受、

醍醐寺座主金剛王院の賢海門;法を受、覚済の法嗣、蓮上院に住/1208高野山座主検校、

1210(承元2)法橋上人位、「靈魂問答」著

☆1165清輔[続詞花集]入集の僧都覚基と同一か?

[かたらひける童をゑじてしばしはとはず侍りけるにかの童の文をおこせて侍りけるが、  
うすずみに書きたりければ、

うすずみにかくにてしりぬ君はさは見えぬをよしと思ふなるべし]、

(続詞花;恋665/ゑず;ゑんず[怨ず])

H1524 鶴磯(かかき・齋藤さいとう、名;敬夫たかお) 1752-1828<sup>77</sup> 江戸の生/武蔵入間所沢住の儒者、国学修学、

「干支考」「閑窓書画談」「女孝経補注」「女誠附注」「琢玉齋詩文集」「琢玉齋漫筆」著、

1793「支干考」、1815・27「武蔵野話」著、

[鶴磯(;号)の字/通称/別号]字;之休、通称;字八郎、別号;琢玉齋

J1566 貉丘(かかきゅう・峯みね、名;逸) 1732-1818<sup>87</sup> 長門の医者;京の吉益東洞門;高弟、

村井琴山・中西深齋と同門、江戸で開業医、「貉丘先生詩集」著、「貉丘先生遺稿」、

[貉丘(;号)の字/通称/法号]字;班如/琴如/帰昌、通称;右膳/少翁、

法号;貉丘白翁班如居士

格九(かかきゅう・戸板) → 保佑(やすつけ・戸板/多々良/多、和算/改暦) B 4 5 7 2

J1567 覚教(かかきょう;法諱、左大臣僧正、三条実房男/本姓;藤原) 1167-1242<sup>76</sup> 真言宗東寺の僧;印性門、

東寺眞乗院に住/1194(建久5)法眼/1220(承久2)東寺四長者/39東寺長者/大僧正、40辞職、

仁和寺御流眞乗院方の祖、「十八道念誦次第」著

覚鏡(かかきょう;法諱) → 隆然(りゅうねん;法諱・勇心房、真言僧/声明) F 4 9 3 6

鶴橋(かかきょう・原田) → 復初(ふくしょ・原田はらだ、儒者) B 3 8 5 7

鶴橋(かかきょう・林) → 鶴梁(かりょう・林、幕臣/儒者) E 1 5 8 0

鶴橋(かかきょう・柚木) → 太淳(たいじゅん・柚木ゆきの、医者) K 2 6 2 9

J1568 角行(かかぎょう・長谷川、左近久光男) 1541?-1646長寿106歳? 肥前長崎の富士行者、富士講の元祖、

扶桑教・実行教の開祖、18歳で諸国修業/常陸水戸で修験行法/陸奥達谷の洞窟で修業、

役行者が現れ富士登拝勧誘;富士の人穴で苦行/天下泰平祈願;呪術で人々の病気を平癒、

富士の人穴で没(「御大行の巻」入);伝説化、「御身貫」著、

[角行の別行名] 正旺/東覚/書行、藤原左近武邦

覚暁(かかぎょう;初法諱) → 隆然(りゅうねん;法諱・勇心房、真言僧/声明) F 4 9 3 6

J1569 覚行親王(かかぎょうしんのう、白河天皇第3皇子) 1075-1105<sup>31</sup> 母;藤原経平女の典侍経子、

真言宗仁和寺僧;性信門/1085出家、仁和寺3世門跡、1092(寛治6)一身阿闍梨、

1099(正徳3)親王宣下(法親王の最初)、1102尊勝寺長吏/二品、

「中御室御記」「中御室御口伝」「護摩次第」「一字金輪口決」著、

[覚行親王の法諱]法諱;覚恵/覚念/覚行、通称;中御室

W1542 覚空(かかくう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、

1237刊[檜葉集]2首入、

[寛喜二(1230)年僧正定豪東大寺の拝堂に童廿余人率ゐて様々の事ども尽しければ、

興福寺よりも延年ふたむらにて童どもにたはれあひ侍りけるに金剛といふ童の、

琴ひくをみてせむかたなくおぼえけるままにひとりごちける、



ことのねにかよふ心のかぐひとて我をたづぬるみねのまつかぜ] (檜葉あ;9雑865)

- B1541 **覚空**(かくくう;通称;大光明院上人/観恵坊)?-? 南北期僧(浄土宗西山派?);上人/歌人、  
勅撰3首;新千載(935)新拾遺(1371/1838)、  
[たちならぶ影やなからむ万代の後まで照す法のともし火](新千載;釈教935、  
万年三宝滅此経住百年といふ心)  
覚空(かくくう;法名) → 公経(きんつね・西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 3 5  
覚空(かくくう;法名) → 実重(さねしげ・三条/転法輪三条/藤原、内大臣/歌) D 2 0 0 5  
覚空(かくくう;法名) → 親房(ちかふさ・北畠さたばたけ、廷臣/史学) 2 8 0 5  
蠮屈居(かくくつきよ・古賀) → 侗庵(とうあん・古賀こが、儒者/詩人) 3 1 0 2  
蠮屈軒(かくくつけん・荒井) → 鳴門(めいもん・荒井あらい、儒者/詩人) 4 3 4 1  
蠮屈子(かくくつし・安東) → 侗庵(とうあん・安東、儒者) 3 1 7 7  
蠮屈舎(かくくつしゃ) → 子錦(しきん・船曳ふなびき、医者) B 2 1 1 4  
蠮屈潜夫(かくくつせんぶ) → 精庵(せいあん・蒲生がもう、医/儒者) H 2 4 3 1  
鶴群(かくぐん・吉岡) → 鶴群(たづむら・吉岡よしおか、藩士/国学) U 2 6 4 6
- B1542 **覚家**(かくけ;法諱、二条為定男)1327-? 1388存 興福寺西南院住の法相僧/1387興福寺別当、  
法印/権大僧都、歌人、新後拾334・1405、為遠ためとお・為定女と兄弟、  
[霧はれぬ空にはそこと知らねどもくるを頼むの雁の玉章](新後拾;秋334)
- B1543 **覚慶**(かくけい;法諱、東陽坊、平たいら善理男)927-101487 平安前中期京の天台僧;良源門/顕密修学、  
963(応和3)清涼殿の宗論で南都の法蔵と対論/996大僧都、  
997宋の奉先寺源清法師が天台の注疏を求めた際に勅命で報書を作成し送る、  
998(長徳4)天台座主/1000(長保2)僧正/1001大僧正、東陽房を設け退院、  
「報大宋源清和尚書」著、歌;清輔[続詞花集]入、  
[八十賀し侍りけるに 大僧正観修かはらけとりて祝ひの歌よみて侍りける返しに、  
いはふともかひやながらのおくやまにやそぢの冬にあへるからきは]、  
(続詞花;768/近江の長等山の枯木に喩える)  
覚慶(かくけい、法眼) → 長慶(ちやうけい、藤原教長男、天台僧/歌) H 2 8 9 3  
覚慶(かくけい) → 義昭(よしあき・足利あしかが、15代将軍) B 4 7 8 5  
鶴溪(かくけい) → 末茂(すえしげ・福島/度会、神職/儒者) B 2 3 1 7  
鶴溪(かくけい・田中/田) → 朋如(ともゆき・田中、国学) Q 3 1 8 0  
鶴溪(かくけい・福島) → 末茂(すえしげ・福島/度会、神職/詩文) B 2 3 1 7  
鶴溪(鶴谿かくけい・牛島) → 盛庸(もりつね・牛島うじま、和算家) F 4 4 8 0  
鶴卿(かくけい・木村) → 渌庵(せつあん・木村きむら、医者/儒/詩文) K 2 4 6 7  
革谿(かくけい) → 元良(げんりやう・平野、医者) N 1 8 0 7  
岳溪(がくけい) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9  
学経堂(がくけいどう) → 綾瀬(りやうらい・亀田かめだ、儒者) 4 9 2 5  
革谿道人(かくけいどうじん) → 元良(元亮げんりやう・平野ひらの、医者) N 1 8 0 7
- J1570 **覚憲**(かくけん;法諱、藤原通憲5男)1131-121282 母;高階重仲女、興福寺法相僧;覚誉/覚晴門、  
静賢・澄憲の同母弟/成範・勝賢の異母兄、1159(平治元)平治乱のため伊豆に配流、  
1175(承安5)大安寺別当/89興福寺別当/権大僧都/法印/権僧正、95壺坂寺に籠居、  
1147-55「因明抄」/57「因明教授抄」/「因明講用意抄」73「三国伝燈記」、「三国通鈔」著、  
[覚憲の通称] 宝積院僧正/壺坂僧正
- J1571 **覚顕**(かくけん;法諱、土御門定通男)1211-9080 近江園城寺の天台学僧;円浄門、常寿院住、  
権僧正/1276(建治2)別当に就任/十月会の講師/1278拜堂する、「大日経口訣」著
- B1544 **覚兼**(かくけん・上井うかい・大神おおみわ・諏訪、初名;為兼、上井城主兼男)1545-8945 母;肝付兼固女、  
大隅の武将、薩摩島津家臣/1576家老職/宮崎城主/転戦し戦功/晩年は伊集院に隠棲、  
文学;歌・連歌、15714-26「上井覚兼日記」/21「覚兼心得書」著、  
[覚兼の通称/法号]通称;神五郎/神左衛門、法号;一超宗咄
- E1566 **確軒**(かくけん・林はやし、名;恣/信智、字;禹玉、鳳岡男)1687-174357 儒・詩;父門、榴岡の弟、桃溪の父、  
幕府儒官;1703中奥小姓/08父・兄と西丸侍読/紅葉山文庫書籍目録校正/服忌令訂正に關与、  
1704「本朝孝子伝」19「三林韓客唱和集」35「退省たいせい詩集」、「退省詩稿」「除邑録」著、



「本朝忠臣伝」「唐の住居」「新修鷹経諺解」「朝鮮書翰往来由来」「立路随筆」「容与園百詠」著、  
[確軒の通称/別号]通称;百助、別号;容与園/白鶴観主人/退省、諡号;靖厚

覚賢(かくげん) → 恵空(えくう、天台学僧/随筆) 1 3 6 0  
覚賢(かくげん) → 任覚(にんかく;法諱・西院法印、真言僧) G 3 3 2 2  
覚賢(かくげん) → 会慶(えいけい;法諱、真言僧) 1 3 7 4  
覚賢(かくげん;字) → 日堯(にちぎょう;法諱・義弁院、日蓮僧) B 3 3 3 6  
覚賢(かくげん・松平) → 頼續(よりつぐ・松平まつだいら、儒/歌/神職) P 4 7 2 3

J1572 覚源(かくげん;法諱、花山天皇第4皇子)1000-6566 醍醐寺座主、幼時に園城寺勝算門、  
醍醐寺明観門;出家、深覚・仁海門;法を受/諸国を巡錫、1043法眼/1050(永承5)東寺長者、  
1055東大寺別当を兼務/62権僧正、「禁裏如法尊勝法記」著、  
[覚源の通称]宮僧正/御在所僧正

G1597 覚源(かくげん、藤原公実男)?- 1148 平安期僧、「台記別記」入・11。23

B1546 覚言(かくげん) ? - ? 平安期僧、1189「維摩会記ゆいまえき」著

B1545 覚源(かくげん;法諱、藤原定家男)1215-? 1270存 鎌倉期天台宗叡山僧;1233?出家/阿闍梨、  
僧都/法眼/法印に至る、歌人;1263住吉歌合参加、  
勅撰3首;続拾遺(1333/1376)・新後撰(642)、  
[おもかげはあまた昔の故郷ふるさとにたちかへりてもねをのみぞ泣く](続拾;雑1333、  
父定家の住家に年を経て帰り昔の事を思い出し詠む)

J1573 覚源(かくげん) ? - ? 戦国期の僧(石山本願寺関係の僧)、歌人、  
1563(永禄6)「十五夜三首歌合(永禄歌合)」参加(;判者柳原資定)、  
[澄みわたる空もひとつに峯の松更けゆく月の秋風の声](永禄歌合;月前松風二番右)  
(二番左;権大僧都兼俊[実悟/前名兼了])

G1595 覚玄(かくげん) ? - ? 江戸前期俳人、1633重頼「犬子集」1句入、  
[梅が香をとむる臥籠ふせごや園の竹](犬子集;147/香をたきしめる/竹を臥籠に見立る)

J1574 覚眼(かくげん;法諱・空覚くわく;字、号;抱拙)1643-172583 薩摩の真言僧;出家/大乘院に入、  
のち豊山長谷寺に修学、1695醍醐寺;有雅門/江戸円福寺住、1705(宝永2)智積院11世能化、  
1706僧正/09(宝永6)大僧正/江戸護持院3世、  
1695「十八道伝授記」97「秘蔵宝鑰ほうやく撮義鈔」1720「釈摩訶衍論科註」著、  
「大疏行母録」「薄一二重尊法伝授記」「不動護摩次第伝授記」「法華科註私解」外著多数

J1575 覚玄(かくげん;法諱) 1734 - ? 1778存 天台宗叡山延暦寺理性院の住僧、  
1778(安永7)大僧都、「三密抄」著

覚源(かくげん;法名) → 国通(くにみち・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 1 7 9 5

覚源(かくげん;法名) → 隆長(たかなが・吉田/甘露寺/池尻/藤原、廷臣/歌) D 2 6 3 4

覚源(かくげん;法名) → 宗泰(むねやす・長沼/中沼/藤原、幕臣/歌) C 4 2 6 5

覚元(覚玄かくげん;法名) → 公泰(きんやす・洞院、南朝右大臣/歌) E 1 6 8 1

覚彦(かくげん・覚彦坊雲農かくげんぼうんろう) → 浄巖(じようがん;法諱・覚彦、真言律僧) S 2 2 2 2

覚沅(かくげん;法諱・東明) → 東明(とうみょう;道号・覚沅、臨濟僧) H 3 1 2 7

廓玄(かくげん・春鶯;号) → 厚誉(こうよ;法諱、僧/霊場・故事) L 1 9 4 5

J1576 楽軒(かくげん・飯田いだ、名;居謙、久右衛門男)1736-8752 萩藩士/儒者;藩校明倫館修学;  
山根華陽門、三田尻越氏塾の都講/督学、「徂徠集典故」著、  
[楽軒の字/通称] 字;子勉、通称;市之進

S1506 学賢(かくげん・魏ぎ) ? - ? 琉球漢詩文;1843「東遊草」鄭元偉・尚元魯と共編

学軒(かくげん・林) → 葛廬(かつろ・林はやし、幕府儒官) O 1 5 0 4

覚源禅師(かくげんぜんじ) → 平心(へいしん;道号・処斉しよせい、臨濟僧) 2 7 5 8

学賢房(かくげんぼう) → 宗藝(そうげい;法諱、学賢房、法相僧) B 2 5 2 0

確乎(かくこ・岡本) → 常彦(つねひこ・岡本おかもと、絵師) D 2 9 3 3

かく子(賀久子・丸屋/円屋) → 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1

覚悟軒(かくごげん) → 昨非(さくひ・乾、商家/俳人) B 2 0 4 7

J1577 学古(かくこ・円山/丸山まるやま、名;敏、諡号;文靖先生、藩士房躬男)1776-183762 出羽庄内の儒者;  
亀田鵬斎門、諸国遊歴/1805佐渡両津の医者・講説/27佐渡相川学習館の教授、

「蒲盧窩遺稿」、

[学古の字/通称/別号]字;遜卿/子行、通称;三平、別号;学古齋/蒲盧窩/蜂窩/峰窩

学古(かくこ・小島/小嶋) → 尚質(なおかた・小島/小嶋、幕府医官) 3 2 9 5

学古(かくこ・中田) → 粲堂(さんどう・中田/藤、与力/儒者) M 2 0 6 6

岳湖(かくこ・内田) → 久命(ひさなが・内田、藩士/和算家) B 3 7 7 0

1561 覚綱(かくこう;法諱、通称;大夫公、藤原範綱男)?-? 1191存 平安後期1171-89頃天台叡山僧、  
大法師、歌;覚忠・俊恵らと交流、範永4代の孫、1166-80頃山家(三井寺山家)歌合、  
1175高松宮妹子歌合参加、1191若宮社歌合参加、家集「覚綱集」著、万代集入、  
[つらからむ人をぞ今はしのぶべきなさはのちの歎きなりけり](万代;恋2493)

J1578 覚弘(かくこう;法諱、通称;侍従公、成海男)?-? 平安期天台園城寺僧/権律師/大法師、  
歌人;1166-80頃「三井寺山家歌合」(観蓮[教長]判)参加、  
[立ちのぼる月にかかれる白雲とみゆるは嶺の桜なりけり](山家歌合;春月四番右)

J1579 覚敏(かくこう;法諱・号;教王上人)?-? 1285存 真言宗高野山遍照光院9世、  
弘法大師の夢告を得る;京鎌倉を勧進;高野山奥院から慈尊院まで町石卒塔婆を建立:  
1277(建治3)大成、85(弘安8)供養が行われる、1285「町石建立供養願文」著

H1525 霍阜(かくこう・五十川いかわ、京の儒者梅庵男)1649-1699刑死 51 加賀藩主前田綱紀の扶持、  
儒;朱舜水門、1675(延宝3)加賀金沢藩儒、1681帰藩/山莊梧月軒を造る、  
1698(元禄11)息子源一郎の贖銀事件に連座;捕縛;翌年刑死、  
「霍阜集」/88-92「学聚問弁」著、1688「助語集要」、「明朱徵君集」編、  
詩;直温「難波詞林」(1710刊)入、「七才詩車故」「詩範」著  
[霍阜(;)号]の名/字]名;剛伯、字;濟之

B1547 鶴阜(かくこう・小栗おぐり/本姓;平、名;元愷/字;子佐)1707-6660 若狭小浜の儒者;程朱学、  
詩;柳川滄洲門、郷里小浜で講説業、「鶴阜詩集」著、「鶴阜先生遺稿」3巻、  
[鶴阜(;)号]の通称/法号] 通称;七右衛門、法号;幽谷院

J1580 鶴江(かくこう・山県まがた、名;英/字;子粲/通称;俊平)1754-180249 長門萩藩士/手廻組、  
書家/絵師;屏風障子・掛幅製作/藩主世子に教授、「元日稿」、養嗣子;墨儼(ぼくせん)

鶴阜(かくこう・松平) → 乗全(のりやす・松平、藩主/老中、詩歌) G 3 5 0 7

鶴阜(かくこう・河野) → 恕斎(じょさい・河野こうの、藩儒者/詩人) C 2 2 5 0

鶴岡(かくこう・永井) → 正峯(せいほう・串原/遠山/永井、和算家) J 2 4 6 3

革巷(かくこう・寺井) → 養拙(ようせつ・寺井てらい、書家) B 4 7 3 0

愨公(かくこう;諡号) → 頼恕(よりひろ・松平、藩主/史書編纂) J 4 7 6 8

J1581 覚豪(かくこう) ? - ? 僧、連歌、菟玖波1句入(雑体[誹諧])、  
[大夫上座覚豪ぞかし](菟;1973/法勝寺の花のかけに夜に入るまでみたりけるを見て、  
いと桜夜まで見るは誰やらん と言ひければ)

鶴阜院(かくこういん;法号) → 宗恒(むねつね・浅野あさの、藩主/歌) B 4 2 6 9

学孔堂(かくこうどう) → 鶯谷(おうこく・亀田かめだ/鈴木、儒者) C 1 4 1 3

学古塾(かくこじゅく) → 善庵(ぜんあん・朝川あさかわ/片山、儒者) 2 4 2 4

角虎道人(かくこうどうじん) → 常庵(じょうあん;道号・竜崇、東常縁男/臨濟僧/詩文) G 2 2 6 6

格佐(かくさ・伊藤) → 蘆岸(ろがん・伊藤いとう、藩儒者) 5 2 6 2

J1582 恪斎(かくさい・北圃きたばたけ/北畠、名;恭/字;子温)1731-8252 紀州栖原出身/江戸で第一の書肆、  
儒者;伊藤蘭嶋門、「熊野遊記」「熊野名勝図画」著、  
[恪斎の通称/屋号]通称;茂兵衛、屋号;須原屋4世/千鐘房

参照 須原屋初世 → 茂兵衛(もへえ・北畠きたばたけ完元、書肆) E 4 4 9 0

E1567 蠖斎(かくさい・海野うんの)1748 -183386 書画、漢詩・寛斎門、江湖詩社同人

H1526 確斎(かくさい・石塚いしが、名;胤国/崔高)1766-181752 薩摩加世田儒者;藩校入/昌平黌入;精里門、  
昌平黌舎長/藩校助教;江戸没、詩/書/地理、「南島俗語考」/「近思録集説」編/「東遊草」著、  
「成語考」「球館筆録」「禦寒説」「万国地球図説」「詠物百律」、1816「論語纂釈諸説辯誤藁」編、  
[確斎の字/通称/別号]字;士堅/志堅/子堅、通称;次郎左衛門/五郎左衛門、別号;雪堂

E1568 確斎(かくさい・武内たけうち、通称;丹波屋西左衛門)1770-182657 姉の夫大坂布屋町町代武内家養子、  
儒者;篠崎三島の梅花社門、若くして町代職を継嗣;その職分を果たす/詩文・書に長ず、

篆刻の技にも長ず、引退後；船町に移住し私塾開設、篠崎小竹と親交、狂歌・読本作者、  
1797「絵本太閤記」著；玉山画/1805「絵本玉藻譚」著；玉山画/23「画本室之八島」著；玉峰画、  
1802「人言種後編」03「絵本月賀佐禰」04「女今川教訓状」05「絵本古鳥凶賀比」著

[武内確斎(；号)の名/字/通称/別号]名；温、字；子玉、別号；藍台、栗枝園/燕園、中聖人晦所

J1583 蠖斎(かくさい・勝村かつむら、名；師軻/字；志尹) 1793-1855<sup>63</sup> 金沢儒者・大阪で越智高洲/中井履軒門、  
江戸の増島蘭園門/1818仙台で講説/仕官受けず、「蠖斎文詩稿」「江居三十律」「南柯睡余」著、  
[蠖斎の通称/別号]通称；静吉、別号；石水隱史

J1584 藿斎(かくさい・岩永いかなが、名；之房) 1797/1802?-1866<sup>70-65?</sup> 京生/大阪の医者；岩永文恭養嗣子、  
本草学；山本亡羊門/集芳社結成/毎年物産会催、人形を愛好；人形会催、  
1841「随意雑識」、「医事雑話」「藿斎雑抄」「鐘奇斎随筆」「茶和茶話雑誌」「人形会記」著、  
[藿斎(；号)の通称/別号]通称；文禎、別号；鐘奇斎/文昌堂、法号；養徳院

G1551 蠖斎(かくさい・中寺川、名；保衛)?-? 安藝広島藩士/俳人、  
[あながちに雨ともならず鳴く蛙](鶴巢「海内千家集」入)

扇斎(かくさい・榊原)	→	芳野(よしの・榊原さかきばら、国学者)	F 4 7 5 2
覚済(かくさい)	→	覚済(かくぜい・大僧正)	B 1 5 4 8
覚斎(かくさい・石川)	→	香山(こうざん・石川いしかわ、儒者/詩人)	G 1 9 3 5
覚斎(かくさい・竹尾)	→	善筑(ぜんちく・竹尾/源/斎藤、浄土僧/故実)	G 2 4 3 3
覚斎(かくさい・久田)	→	宗左(3世そうさ・千せん、久田、茶人)	H 2 5 3 5
角斎(かくさい)	→	月居(げつきよ・江森、俳人)	1 8 0 7
格斎(かくさい)	→	綱条(つなえだ・朽木くつき、藩主/儒/詩)	B 2 9 0 3
格斎(かくさい・溝口)	→	直諒(なおあき・溝口、藩主/文筆)	3 2 5 9
格斎(かくさい・市橋)	→	長昭(ながあきら・市橋、藩主/儒者)	D 3 2 1 7
格斎(かくさい・安永)	→	惟正(これまさ・安永やすなが、和算家)	O 1 9 8 4
揮斎(かくさい・杉生)	→	方策(ほうさく・杉生すぎう、蘭医者)	3 9 9 7
鶴斎(かくさい・近江屋/岡田)	→	忠保(ただやす・岡田、歌人)	E 2 6 5 4
鶴斎(かくさい・山尾)	→	定政(さだまさ・山尾やまお、絵図師/詩歌)	J 2 0 7 1
確斎(鶴斎かくさい・成田)	→	頼直(よりなお・成田なりた、藩士/藩史編)	J 4 7 2 6
確斎(かくさい・小関)	→	三英(さんえい・小関こせき、蘭学/蘭医)	E 2 0 1 3
確斎(かくさい・間)	→	重新(じゅうしん・間はざま、商家/天文家)	X 2 1 6 5
蠖斎(かくさい)	→	直隆(なおたか・栗田口あわたぐち、絵師)	B 3 2 4 9
蠖斎(かくさい)	→	墨僊(ぼくせん・沼尻ぬまじり/中村、天文家)	D 3 9 6 2
蠖斎(かくさい・辻)	→	正賢(せいけん・辻つじ、和算家/教育)	H 2 4 9 9
蠖斎(かくさい・根本)	→	常南(じょうなん・根本ねもと、絵師)	L 2 2 2 7
蠖斎(かくさい・小林)	→	惟孝(これたか・小林/篠宮、和算家)	O 1 9 4 4
蠖斎(かくさい・上村)	→	鷺洲(ろしゅう・上村うえむら、儒者/詩文)	B 5 2 7 3
蠖哉(かくさい・牧野)	→	伸(しん・牧野まきの、幕臣/漢学/詩歌)	V 2 2 2 2
確斎(かくさい・庵原)	→	守富(もりとみ・庵原いおはら、藩士/日記)	F 4 4 9 9
確斎(かくさい・百々)	→	俊徳(しゅんとく・百々どど、医者)	L 2 1 6 7
確斎(かくさい・小関)	→	三英(さんえい・小関こせき、蘭学/蘭医)	E 2 0 1 3
確斎(かくさい・宇山/鳥山)	→	義所(ぎしよ・鳥山とりやま、儒者/尊王派)	K 1 6 8 9

J1586 学斎(がくさい・林はやし、名；昇/字；平仲、復斎男) 1833-1906<sup>74</sup> 幕府儒官・1859大学頭；兼寺社奉行、  
鶯溪の弟、1860「官私雑纂中」、「献文詩留」「文懿林府君墓碣銘」著

楽斎(がくさい・平松)	→	楽斎(らくさい・平松ひらまつ、儒者/民政家)	D 4 8 4 0
岳斎(がくさい)	→	雪旦(せつたん・長谷川/後藤、絵師)	E 2 4 5 4
額斎(がくさい・小関)	→	三英(さんえい・小関こせき、蘭学/蘭医)	E 2 0 1 3
学西隠師(がくさいいんし)	→	大魯(だいろ：法諱、真宗本願寺派僧)	L 2 6 3 6

J1587 覚左衛門(かくざえもん・中村なかむら、名；令政)?-1704 尾張藩士/1693作事奉行/1700馬廻、  
「元禄作事勘定書」著

覚左衛門(かくざえもん・松本)	→	定好(さだよし・松本まつもと、槍術家)	K 2 0 2 1
-----------------	---	---------------------	-----------



覚左衛門(かくざえもん・臼木)→ 忠雄(ただかつ・臼木、藩士/文筆家) P 2 6 2 3  
 覚左衛門(かくざえもん・伊丹/岡部)→ 勝重(かつしげ・岡部、幕臣/奉行) N 1 5 3 8  
 覚左衛門(かくざえもん・東条)→ 有儘(ゆうじん・東条とうじょう、藩士/俳人) C 4 6 7 8  
 覚左衛門(かくざえもん・伊集院)→ 兼丘(かねおか・伊集院いじゅういん、藩士/歌) O 1 5 3 7  
 覚左衛門(かくざえもん・松永)→ 貞辰(さだとき・松永/源、藩士/和算家) I 2 0 7 8  
 覚左衛門(かくざえもん・岩崎)→ 博秋(ひろあき・岩崎/志賀、藩士/和算) F 3 7 4 7  
 覚左衛門(かくざえもん・磯谷)→ 滄洲(そうしゅう・磯谷いそがひ、儒者/文章) B 2 5 8 3  
 覚左衛門(かくざえもん・佐々木)→ 吉晴(よしはる・佐々木ささき、歌人) N 4 7 0 0  
 角左衛門(かくざえもん・小野)→ 言員(ことかず/とき-/のぶ・小野おの、歌人) D 1 9 4 4  
 角左衛門(かくざえもん・友田)→ 良品(りょうぼん・友田ともだ、藩士/俳人) J 4 9 4 5  
 角左衛門(かくざえもん・桶屋)→ 兼光(かねみつ・金沢、造船業) O 1 5 9 7  
 格左衛門(かくざえもん・三浦)→ 千春(ちはる・三浦みづら、藩士/国学) F 2 8 2 1  
 格三郎(かくざえもん・十文字)→ 重光(しげみつ・十文字じゅうもんじ/木下、神職/和漢学) O 2 1 8 6

- W1536 **覚算**(かくさん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊[檜葉集]5首入、[春日社に詣でて、みかさ山花もあはれとおもひいでよ我がよのちのちのゆくすゑのはる](檜葉;神祇514)
- J1588 **覚算**(かくさん;法諱、通称;慈月房/按察法印)?-? 1404存 鎌倉八幡宮の供僧、1372(応安5)鎌倉雪下相承院に住、大僧都/法印に至る、悉曇学(特に韻鏡)に精通、1404口述「指微韻鏡」(;俊睿筆記)、「指微韻鏡私抄略」「三切一律抄」著
- J1589 **覚参**(かくさん;法諱・無抑むよく;字、俗姓;彦坂) 1610-7263 伊勢長島藩士彦坂家の生/桑名藩士;1631脱藩、出家;浄土僧/のち曹洞僧;陸前松島の雲居門/次に豊後の雪霜門、1645備前湊山岩窟で修業、1650岡山藩主池田光政に招聘;松琴寺住持、「三学銘記」「忘我法数」「八拈頌説」著
- J1590 **廓山**(かくざん;法諱・一実;字、号;定蓮社正誉、高坂昌信2男) 1572-162554 甲斐の浄土僧;甲府尊体寺に出家/芝増上寺の存応門、1608江戸城西丸で日蓮宗日経と対論、將軍の信頼厚く小石川伝通院の中興開山/1615浄土宗諸法度の案文を作成、存応没後;存応推薦の了的と増上寺後任を争う;1622(元和8)幕命で増上寺13世、1614「供奉記」、「慶長供奉記」著
- B1549 **鶴山**(かくざん・人見ひとみ、修姓;野、元徳男/本姓;小野) 1620-88(1637-96説) 69(60)歳 京の儒者、林羅山門/幕臣;1645家綱近侍/81学士/剃髮;72法眼/74家督/綱吉の政務/82朝鮮使応対、鶯峰「続本朝通鑑」編纂参、詩文、「東溪年譜」「人見隨筆」「鶴山詩草」「鶴山隨筆」「竹洞全集」、「君臣言行録」「韓使手口録」「竹洞先生文集」/1683「雪杉石記」、俳;「あら野」「続猿蓑」入、[鶴山(;号)の名/通称/別号]名;節/宜卿、通称;竹次/竹児/又七郎/友元/葛民、別号;竹洞/括峰、剃髮;友元(通称)、諡号;安節、 蛻巖の師
- H1527 **鶴山**(かくざん・小野、名;道熙) 1701-7070歳 豊後日出の儒者;合原窓南門/若林強斎門、強斎女婿(妻;登波)/強斎没後;望楠書院教授、1743若狭小浜藩儒/藩校順造館教授、「孟子講義」「孟子師説」「大学師説」「近思録講義」「鶴山先生文集」「鶴山先生大学講義」、[鶴山の通称/別号]通称;平蔵/勝蔵/忠市郎、別号;文関、法号;仁教院
- E1587 **霍山**(かくざん・松平まつだいら、名;忠武、君山男) 1719-8668歳 尾張藩儒;父門/父の書物奉行援助、1764君山「三世唱和」朝鮮通信使と唱和詩入;父君山・息南山と/1781致仕/詩;「霍山詩集」、[霍山(;号)の字/通称]字;純臣、通称;三左衛門、法号;春峰院、南山の男
- H1528 **鶴山**(かくざん・石井いひ、名;有/字;仲車/通称有助) 1744-9047歳 佐賀藩家老多久氏の家臣、多久聖堂の都講、儒/徂徠学;大潮和尚門/高葛坡門/1781佐賀藩校弘道館助教、「北海観風草」「鶴山詩集」著
- J1591 **鶴山**(かくざん・畑はた/本姓;源/修姓;銭/旧姓;元木) 1748-182780 阿波麻殖郡山崎の医者、儒者、畑柳安[黄山]の養子/京住;養父柳安創設の医学院で医術・儒学を教授、1792「栗田雑記」/95「脈案提要」、1804隨筆「四方の硯」/09「朝野紀事」著、「杏林夜話」「史余通覧」「皇国医林伝」「中興紀事」著、同じ畑柳安[黄山]の養子の柳敬(晞陽/旧姓;南山/1756-1828/法印)とは別人、



[鶴山(；号)の名/字/通称/別号]名；貞道/維亮、字；柳敬/明卿/士潜/維竜/惟竜これき/これたつ、  
通称；勘解由/民部、別号；鶴巢/鶴洲/明谷/恒山

J1592 **鶴山**(かくざん・亀田かめだ、名；勝喜/章、亀田九右衛門金方男)1768-183467 金沢葉種商宮竹屋本家、  
伊右衛門勝延の養子；七代目相続、詩；大窪詩仏門・1828頼山陽門、町年寄・銀座役を務む、  
京から青木木米もくべいを招き春日山に陶窯造営；春日山焼を始める、「鹿心斎遺稿」、  
[鶴山(；号)の字/通称/別号]字；純蔵、通称；喜十郎/伊右衛門、別号；鹿心斎/蘭泉

S1555 **鶴山**(かくざん・伊尾喜いおき)? - ? 伊予吉田藩の儒者；藩儒、沢田静修の父、  
「鶴山遺訓」(1852沢田一三九いっさく[静修]の編)

鶴山(かくざん・徳川) → 治紀(はるとし・徳川、藩主/歌人) G 3 6 5 8  
鶴山(かくざん・細井) → 九阜(きゅうこう・細井ほそい、書家/篆刻) C 1 6 0 0  
鶴山(かくざん・石川) → 眞清(ますみ・石川いしかわ/源、商家/国学) J 4 0 2 8  
鶴山(かくざん・青木) → 義所(ぎしょ・青木あおき/藤原/筑紫、幕臣) S 1 6 8 6  
鶴山(かくざん・河地) → 時俣(ときよし・河地かわち、国学) U 3 1 8 8  
覚山(かくざん；字) → 隆雄(りゅうおう；法諱・覚山、真言僧) D 4 9 0 7  
獲山(かくざん・和田) → 耕藏(こうざう；通称・和田わだ、和算家) K 1 9 3 6  
廓山(かくざん；道号・道昭) → 道昭(どうしょう；法諱・廓山、黄檗僧) F 3 1 4 5

E1569 **学山**(がくざん・高瀬たかせ、名；忠敦/敦/孟観/孟親、正意[素庵]男)1668-174982 紀州藩士/医者；父門、  
儒/律学；林鳳岡門/詩、藩主吉宗に出仕；儒官、徂徠・大岡忠相と親交、「学山文集」、  
「考工記諺解」「中華致仕考」「大明律例訳義」「明律例訳義増釈」「唐話入門」「非斥非」外多数、  
[学山の字/通称]字；希璞[希樸]/喜璞/喜朴、通称；忠兵衛/松庵/作右衛門

学山(がくざん・服部) → 正樹(昌樹まさき・服部、藩士/国学/歌) C 4 0 2 7  
学三(がくざん・小野) → 慶孝(よしたか・小野おの/宇治、神職/歌人) L 4 7 8 3  
楽山(がくざん・高戸) → 安貞(やすさだ・高戸たかと、歌人) B 4 5 4 5  
岳山(がくざん) → 丘山(きゅうざん・岳亭がくてい、絵師/戯作/狂歌) C 1 6 0 3  
顎山(がくざん・青方) → 繁治(しげはる・青方あおかた/白浜、藩家老) S 2 1 3 0  
鶴山逸人(かくざんいつじん) → 恒成(つねなり・瀬川/山川、戯作者) C 2 9 9 5  
鶴山勾当(かくざんこうとう) → 鶴山勾当(つるやまこうとう、音曲家) E 2 9 6 9  
学山堂(がくざんどう) → 篤所(とくしょ・松浦まつら、儒者) K 3 1 9 4  
廓山道昭(かくざんどうしょう) → 道昭(どうしょう・廓山、黄檗僧) F 3 1 4 5  
覚山房(かくざんぼう) → 宝蔵院胤風(ほうざういんいんふう、法相僧/槍術家) C 3 9 1 9

G1598 **客子**(かくし、従三位じゆさんみ客子、正親町実明[1351没]女?)?-? 鎌倉後期/南北期頃後伏見院?女房、  
従三位/のち出家、歌人、風雅4首(457/1060/1120/1507)、  
[色うすき夕日の山に秋見えて木ずゑに弱る日ぐらしの声](風雅；秋457)

B1550 **格枝**(かくし) ? - ? 俳人・其角門、1707「絵大名」編、師一周忌追善「斎非時ときひじ」編

覚芝(かくし；道号・広本) → 広本(こうほん；法諱・黄檗僧) L 1 9 2 8  
角止(かくし・中村) → 伝七(でんしち・中村、歌舞伎役/作者) D 3 0 6 5  
鶴子(かくし・中村) → 重助(2世じゅうすけ・中村、歌舞伎作者) H 2 1 8 1  
鶴枝(かくし) → 香以(こうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人) 1 9 7 0  
格治(かくじ・大槻) → 習斎(しゅうさい・大槻おおつき、儒/洋学者) X 2 1 3 1

J1593 **学而**(がくじ、柏原かしばら、兼好3男)1835-191076歳 讃岐瀧元村の生；母；光子/  
1844(弘化元)小豆島の医者中桐文柄に養育；養子、54妻没のあと養家から柏原に復籍、  
蘭医学；1854(安政元)大阪の洪庵門；適塾入/62(文久2)塾頭、江戸の石川良信(桜所)門、  
1864(元治元)一橋家徳川慶喜の侍医/維新後；69駿府病院医師/71駿府の自宅で開業医、  
洋学者/詩歌、考古学に通ず、「格致蒙求」著、1867「祇布斬縹帯書ぎぶすほうたいのしよ」訳、  
「箋註格到蒙求せんちゅうかくちもうぎゅう」「牛病新書」「耳科提綱」「羅斯古らすこう化学新書」著、  
[学而の名/字/別通称/号]名；孝章(たかあき、字；子成、別通称；学補、号；屋山おくざん

鶴室(かくしつ・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学/歌) G 3 6 0 5

B1551 **覚実**(かくじつ；法諱・三井寺大僧正三条実房男)?-? 鎌倉期天台宗園城寺僧/1221三井寺長吏、  
歌人；勅撰5首；風雅849/2060/2070・新千850/2060(ただし勅撰歌は一乗院大僧正説あり)  
[降りすさむゆふべの雪の空晴れて竹の葉しろき軒の月影](風雅；冬849)

- J1594 **覚実**(かくじつ;法諱、通称;一乗院大僧正/号;喜光寺、近衛家平男)1310-5142 興福寺法相僧;  
1333興福寺別当/南北期;1337再任/46三任、大僧正、歌;風雅・新千載の作者説あり?  
1350為世十三回忌和歌参加(前大僧正名)、  
[和歌の浦の道をたづねし友千鳥跡をぞこふる跡をつけても](為世回忌歌;94/懐旧)、  
参照 → 覚実(かくじつ・三井寺大僧正) B 1 5 5 1  
鬘鑠楼(かくしゃくろう) → 眞清(ますみ・石川いしかわ/源、商家/国学) J 4 0 2 8
- B1552 **覚守**(かくしゅ;法諱、法印憲実男)?-? 1315存 鎌倉期天台宗叡山僧;十楽院道玄門/横川長吏、  
内大臣堀川具守の猶子、1298(永仁6)後宇多院が炎上した比叡山を密かに参詣時の先達、  
1302(正安4)権大僧都/法印大僧都/法印/大僧都、1310比叡山での山門興隆の修法の導師、  
1307「安居院僧都問答条々」著、歌人;1315為兼「詠法華経和歌」に参加、  
勅撰3首;新後撰1273/玉葉438/続千載2076、  
[有明の月にも鳴かず郭公つれなきほどのかぎりしらせて](新後撰;雑1273)
- B1553 **覚樹**(かくじゅ;法諱、六条[源]顕房あきふさ男)1081-113959 母;藤原伊綱女、東大寺東南院の学僧、  
三論学;慶信門、1110維摩会講師、1132(天承2)権少僧都、  
俱舍論を研究;宗の崇梵大師より仏舍利を受ける、甥恵珍の師、「十二礼疏」著、  
歌人、金葉Ⅱ633(Ⅲ625/解18)、続詞花集入、  
[命をも罪をもつゆにたとへけりきえなばともにやきえんとすらん](金葉三奏本;625)  
[峰にちる桜は谷の埋木に又さく花となりにけるかな](続詞花集;春73)  
鶴樹(かくじゅ・俳名) → 晴助(初世春助はるすけ・奈河、歌舞伎作者) 3 6 3 2  
鶴寿(かくじゅ・壺井) → 義知(よしちか・壺井つばい、故実家) 4 7 1 9  
学儒(がくじゅ・藤井/吉田/吉) → 篁墩(こうとん・吉田/藤井、医/儒者) 1 9 1 8  
覚樹院(かくじゅいん) → 覚応(かくおう;法諱、真宗本願寺派僧) J 1 5 6 0  
覚樹院(かくじゅいん;法号) → 富成(とみしげ・牧野まきの、藩主) O 3 1 8 2  
覚樹院(かくじゅいん) → 久免(くめ・稲葉、吉宗側室/歌人) D 1 7 4 4
- V1597 **鶴州**(かくしゅう・住吉すみよし、如慶男)1641-1730長寿90 土佐派の絵師;父門、初め加賀前田家出仕、  
病気のため致仕;出家/1688(元禄元)高松藩主松平頼重に招聘;自性院住/高松定住、  
「観世音功德図屏風」画(法然寺所蔵)
- E1524 **雀州**(かくしゅう) ? - ? 俳人・沾州門、1725沾州「百千万」入
- J1595 **覚洲**(かくしゅう;法諱・号;鳩、俗名;中村宗玄)?-1756 和泉堺の華嚴僧;1715出家、  
山城華嚴寺鳳潭門/唯識論に精通;その書入れを[鳩の書入れ]と称さる、1723堺に退住、  
「衣幞いぼく集」「大日本華嚴春秋」「釈迦仏像図記」「八転声秘書」「大乘起信論義記講苑」著、  
「解嘲論」/1750「白虎八轉声」/1737-39「成唯識論述記東海集頭伝」著
- J1596 **虢州**(かくしゅう・秋山あきやま、名;宜修/字;元瑞)?-? 江戸中期江戸医者;眼科/内科/小児科、  
1761「脚気辨惑論」62「弁名辨証」88「銀海試要」、「古今取御」「幼科辨証」著
- H1529 **鶴州**(かくしゅう・遠藤えんどう、名;泰通/字;子同、泰陳男)1789-185163歳 紀州藩士/1825家督/  
終世江戸藩邸住/奥儒者・明教館督学、武芸/書、1833-7「救荒便覧」33「広恵編像解」、  
「乞言私記」「経世要覧」「志学問答」「照代美事」「備寇捷覧」「忠姦図説」「先憂秘策」著、  
[鶴州の通称/別号]通称;勝助/新五右衛門又通、別号;古愚/白鶴義斎/義斎/通克/通
- J1597 **角洲**(かくしゅう・加古かこ、名;昌寿/寿、字;君齡)?-? 阿波徳島医者;吉益南雄/中神右内門、  
1808「吐方撮要」「徽瘡治方論」22「麻疹約説」、「医学鉄炳てつぜつ」「傷寒論偽集」著、  
[角洲の通称/別号]通称;松雲庵、別号;公山/坎かん
- J1598 **赫州**(かくしゅう・渥美/渥見あつみ、名;正知、次右衛門男)1792-? 1848存 下野宇都宮藩士/1836家督、  
納戸役、1826滝澤解女鍬と再婚、画;橋本雪溪門、唐画花鳥画、1834「禽鏡」画  
[赫州の通称/別号]通称;覚重、別号;赫洲/覚洲/覚州
- T1511 **鶴秀**(かくしゅう;法諱) ? - ? 江後期;僧、歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[隈となる梢もあらず澄みわたる月は野中に見るべかりけり](大江戸倭歌;秋871)
- H1530 **鶴洲**(かくしゅう・井上いのうえ教親、字;和卿/通称;主殿とのも)?-? 江後期19ct前半加賀易占家・白蛾門、  
歌/煎茶、1816「占病軌範」19「周易翼解」20「易学発蒙」、「易学跡断考」「易学通義」著  
鶴舟(かくしゅう) → 利雄(としかつ・南部、藩主/俳人) M 3 1 2 6

- 鶴舟(かくしゅう・太田) → 久孝(ひさたか・太田おた、藩士/国学者) I 3 7 8 9  
 鶴州(かくしゅう・最里) → 公済(こうさい・最里さいり、医者) I 1 9 9 0  
 鶴洲(かくしゅう;道号) → 宗寿(そうじゅう;法諱・鶴洲、臨濟僧) H 2 5 7 1  
 鶴洲(かくしゅう・松平) → 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5  
 鶴洲(かくしゅう・松平) → 乗全(のりやす/-たけ・松平、老中、詩歌) G 3 5 0 7  
 鶴洲(かくしゅう・上月) → 専庵(せんあん・上月こうつき、医者/詩賦) L 2 4 5 0  
 鶴洲(かくしゅう・渡辺) → 秀実(しゅうじつ・渡辺わたなべ、絵師) X 2 1 5 0  
 鶴洲(かくしゅう・福田) → 眞直(まさなお・福田ふくだ、旅籠業/国学) S 4 0 2 5  
 鶴洲(かくしゅう・日向) → 元秀(げんしゅう・日向ひひうが、本草家) J 1 8 6 2  
 鶴洲(かくしゅう・畑) → 鶴山(かくざん・畑はた/銭/元木、医者/儒) J 1 5 9 1  
 鶴洲(かくしゅう・小関) → 三英(さんえい・小関こせき、蘭学/蘭医) E 2 0 1 3
- J1599 覚什(かくじゅう;法諱、覚斤?、石浦盛言男)?-? 天台叡山僧;少僧都/北野別当、  
 1199-204頃曼珠院門跡:良順を継嗣、「聖徳太子伝記」「往生要集鈔」「諸事表白」著
- E1570 鶴十(かくじゅう、椎本五世、二斗庵二世)?-? 俳人;下物かぶつ門  
 覚重(かくじゅう・渥美) → 赫州(かくしゅう・渥美/渥見、藩士/唐画) J 1 5 9 8  
 穀住(かくじゅう・滝田) → 穀住(からすみ・滝田たきた、藩士/歌人) U 1 5 9 6  
 鶴重(かくじゅう・渡辺) → 鶴重(つるしげ・渡辺、鍛冶業/文筆家) E 2 9 6 3
- E1571 廓集交(かくしゅうこう、廓通交と同一)?-? 江後期洒落本作者:  
 1790「面美多通身おもいたつみ」(廓通交と共著):遊里と紀行趣味  
 鶴舟野史(かくしゅうやし) → 求策(きゅうさく・松沢まつざわ、商家/民権派) V 1 6 2 4  
 鶴寿軒(かくじゅけん) → 良弘(りょうこう・平野ひらの、俳人;雑俳) H 4 9 4 6  
 鶴寿軒(かくじゅけん) → 弁吉(べんきち・中村屋、仕掛細工) B 2 7 1 7  
 鶴寿山(かくじゅざん) → 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3
- B1554 覚俊(かくしゅん、源重房男)?-? 平安後期歌人、重房男なら叡山僧/上人、千載1147、  
 [世を背そむき草の庵にすみぞめの衣の色はかへるものかは](千載:雑1147、  
 山寺に籠居しているとき僧坊に泊まっている人からいつ寺をでるかと問われて詠)
- K1500 覚俊(かくしゅん;法諱、通称;大谷阿闍梨/石山僧都、清仁親王男/花山天皇孫)?-? 1083存 真言僧;  
 1059(康平2)醍醐座主覚源より伝法灌頂を受、下醍醐大谷蓮蔵院に住;修念観法に専念、  
 「大谷道場観」「胎蔵界略次第」「灌頂記」「許可作法表白」著
- K1501 覚俊(かくしゅん;法諱、源資綱男or隆俊男)1067-112660 平安後期天台宗園城寺僧;斎専門;  
 顕密二教を修学/1113(永久元)最勝会の講師;以後講師を10度勤仕、1119(元永2)権律師、  
 園城四王の1、「婆娑論鈔」「大聖不動明王念誦私記」著  
 覚舜(かくしゅん;法名) → 基俊(もととし・藤原ふじむら、廷臣/歌人) 4 4 1 7
- K1502 覚順(かくしゅん;通称・内山うちやま、名;義泰、稲生いのう若水男/内山覚仲養子)?-1783 加賀藩士、  
 本草家;実父・養父門、1736「越中産物記」-58「草木弁疑」著、「食物伝信纂」補  
 [覚順の号] 号;藍浦
- U1520 覚諄(かくしゅん;法諱、)1762-184786 下野日光の修験僧/出羽田川郡の羽黒山別当職、  
 1823(文政6)開祖蜂子皇子に菩薩号を宣下されたいと願い出[照見大菩薩]の諡号を賜る、  
 以後羽黒山開祖能除仙を蜂子皇子とされる、  
 [覚諄(;法諱)の号] 深達院/一味堂/大荘厳院  
 参照 → 蜂子皇子(はちこのおうじ、三山開祖) E 3 6 8 5  
 覚順(かくしゅん;法名) → 師郷(もろさと・中原なかはら、廷臣/歌人) H 4 4 2 2  
 覚諄(かくしゅん;法諱) → 守脩親王(もりおさしんのう、天台座主/梨本宮) F 4 4 2 2
- H1531 確所(かくしよ・結城ゆうき、名;潜、医者結城丹宮男)?-? 羽前酒田の儒者:1797皆川淇園門、  
 師の著述の校正、妻;長門府中藩士友田美行女/1810長門府中藩校敬業館で教授、  
 「確所集」「世説弁髦」著、  
 [確所(;号)の字/通称/別号]字;子竜、通称;主計かづえ/常右衛門、別号;飛洲  
 鶴所(かくしよ・神野) → 易興(やすおき・神野じんの/かんの、藩士/国学) B 4 5 0 7  
 鶴嶼(かくしよ・安田) → 穂並(ほなみ・安田やすだ、商家/国学/歌) G 3 9 4 3
- B1556 覚怒(かくじよ;法諱・法号;金蓮院、後奈良天皇第2皇子)1515or21-7454-60 1525(5歳)曼殊院入、



得度、1537(天文6)曼殊院門跡を継嗣;第28世門主/北野社別当兼務、1557准三后宣下、1570(元龜元)第66代天台座主、歌・連歌;父門/三条西公条・実枝父子に修学、書に長ず、正親町天皇禁裏歌会参加、「覚怒百首」「曼殊院覚怒詠草」「入木抄」著、連歌;天文年間に百韻多数、

[覚怒の称]曼殊院宮/竹内殿/金蓮院准后こんれんいんじゅごう、母;小槻雅久女伊予局、

覚如(かくじよ、覚慧男) → 覚如(かくじよ、真宗本願寺3世、教団確立) B 1 5 7 0

W1538 覚章(かくしやう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊[檜葉集]2首入、[仁安三(1168)年歌合、

ふく風をいかにまたまし梅花ちらでにほひのまさるとおもはば] (檜葉;雑758)

W1541 覚称(かくしやう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊[檜葉集]3首入、

[ふねとむるむしあけのせとにとまやかたしたくもりなくすめる月かな]、(檜葉;羈旅653/苦屋形は苦で葺いた船の屋形)

B1558 覚昭(かくしやう;法諱、延暦寺執当法橋永澄男?) ?-? 鎌倉中後期の僧;法師・歌人、1253-4成立[雲葉集]入/1312成立[玉葉集]入(2325)、

[きりぎりすあはれとぞ聞くつひのわがよもぎがもとの友ぞと思へば] (玉葉;雑2325)、[ゆめのうちもしづ心なきおもひねのあさけの花に春風ぞふく] (雲葉;春143)

B1555 覚勝(かくしやう;法諱、法師) 1279-1345 67歳 鎌倉南北期真言宗醍醐寺の僧?、大輔法眼、連歌;菟玖波集2句入、[水つたふ竹の懸樋の末絶えて] (菟;雑1364/前句;かきふりにけり朽ちし松の樹)

W1529 覚証(かくしやう;法諱) ? - ? 南北期の僧;法師/歌人;1400菊葉集7首入、[けふもはやいく山川をこえ過ぎて宮こを跡に遠ざかりぬる] (菊葉;旅1000)

K1503 覚照(かくしやう;法諱、雁峯がんぼう;号、俗姓;白石) 1797-1848 52 豊前宇佐郡柳浦の真宗本願寺派僧、蓮光寺の住職、宗乗;道隠門/天台学;慧澄門、没後に司教を追贈、「三帖和讃雁峯録」「三経往生文類甲午録」著

覚性(かくしやう) → 覚性法親王(かくしやうほっしんのう) 1 5 6 2

覚勝(かくしやう;法名) → 公経(きんつね、西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 3 5

覚照(かくしやう;道号) → 元宗(げんしゅう;法諱・覚照、黄檗僧) J 1 8 5 6

鶴章(かくしやう・野呂) → 静処(せいじょ、野呂のろ、藩儒者) I 2 4 7 6

赫照(かくしやう;法諱) → 智教(ちきやう;法諱、真宗仏光寺派僧) C 2 8 4 1

K1504 覚成(かくじやう;法諱・保壽院;号、花山院[藤原]忠宗男) 1126-98 73歳 幼少時出家;真言僧、仁和寺覚法親王より伝法灌頂を受/永厳より保壽院門跡・法宝蔵を付嘱;保壽院流二祖、1164法眼/72法印/78権大僧都/80東寺長者/89権僧正/96東大寺別当/98(建久9)大僧正、「沢鈔」「沢見抄」「沢見新抄」「金玉聞書」「護摩私記」「眞俗擲金記」「大聖不動明王靈応記」著

B1557 覚盛(かくじやう・かくせい;法諱、法師) ?-? 平安末鎌倉前期;天台宗比叡山阿闍梨、歌人;1192若宮歌合/1201?三百六十番歌合参加、無名抄にその歌論を伝える、「三十六人十八番」(散佚)の撰者(和歌色葉/八雲御抄/代集に入)、勅撰7首;千載(96/154/368)新勅(180/1249)続後撰(210)続拾遺(1138)、[あかなくに散りぬる花のおもかげや風に知られぬ桜なるらむ] (千載;春96、心の花は風にも散らない)

E1576 覚盛(かくじやう・かくせい;法諱、字;学律/号;窮情、諡号;大悲菩薩) 1194-1249 56 大和服部の律僧、幼少期時興福寺で出家;金善門/1212笠置貞慶の常喜院俊才20人の1、常喜院で戒律を普及、1243唐招提寺住持;中興、「三十六人十八番」編、「七仏略戒経」編、「表無表章文集」外著多数

K1505 覚乗(かくじやう;法諱・上乘坊、中原親元男) 1221-99 79 天台宗園城寺の学僧;1236覚仁門;出家、1242明辨門;灌頂位に入、のち円順門;諸尊法等を受/1276新陽明門院の疾病治癒;法印、1282(弘安5)伝法大阿闍梨/94僧正;95辞退、禅林寺・若王子・小松寺の別当を兼務、「二百卷抄」著

B1559 角上(かくじやう・三上みかみ、名;明因、千那の養子) 1675-1747 73歳 僧;近江堅田本福寺12世、権大僧都法印、俳人・蕉門、1743芭蕉50回忌に義仲寺に芭蕉翁行状碑建、



1690其角「いつを昔」入;初出、1698沾圃等「続猿蓑」1句/99吐龍「車路くるまぢ」入、

1725千梅「鎌倉海道」入、

[小服綿こぶくめに光をやどせ玉椿](続猿蓑;下/小服綿は白色の僧尼の平服;昔蓮如が着用、

江東の李由の祖父了超の法事の經文題発句に弥陀の光明を詠む/眼前の白玉椿)、

[角上(;)号)の別号] 百布軒/瞬七亭しゅんひてい/夕陽觀せきやうかん

H1532 鶴城(かくじょう・恩田おんだ、名;廷頌/字;大雅、重好男)1739-1804<sup>66</sup> 肥前唐津藩士/藩主転封;古河藩、  
儒:原双桂門、下総古河藩儒、詩人、「鶴城閑話」「鶴城詩稿」「鶴城手簡」著、「鶴城遺稿」、

[鶴城の幼名/通称]幼名;角弥/吟竹、通称;啓吾、母;唐津大庄屋平林善太郎女

K1506 鶴城(かくじょう・佐藤さとう、実麿男)?-? 1857存 陸奥(岩代)信夫郡飯坂の代々医者:小川忠実門、  
築埼神社祠官/薬一王子神社祠官、江戸住;水戸藩出仕、和医方、国学・歌;本居春庭門、  
1821-31「奇魂」刊、57「楮木考」39「とし玉」著、「医家千字文」「医語拾遺」「華夷班断鈔」著、  
「神伝腹証論」「宗原医談」「靈運考」「真仙伝」「備急八薬新論」外著多数、

日本最古の医学書『大同類聚方』の謎を解明して有名、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[行く道にあらぬ心の関すゑてなどかは人のたちとまるらん](大江戸倭歌;雑1951、

不為也非不能也といふ心を)、

[鶴城(;)号)の名/通称/別号]名;方定かたさだ/神符満しのぶまろ/東貞/本樹、

通称;民之介(助)/民蔵/庄司、別号;大鳥舎

K1507 角丈(かくじょう・葛麻庵かつまあん/別号;喚乗院達悟)?-? 江後期加賀石川郡宮越の真宗僧、  
梅原本龍寺12世住職、俳人、1851(嘉永4)刊「葛麻拾遺」著

覚盛(かくじょう) → 覚盛(かくせい・律僧) E 1 5 7 6

覚静(かくじょう;法号) → 兼季(かねすえ・今出川の祖/西園寺、廷臣/歌) C 1 5 7 7

覚乗(かくじょう;号) → 光信(みつのお・後藤ごとう、金工/白銀師) E 4 1 3 5

覚城(かくじょう;法名) → 師富(もろとみ・中原/押小路、廷臣/記録) H 4 4 5 2

鶴城(かくじょう・佐々ささ) → 鶴城(たずき・佐々ささ・神職/国学) P 2 6 0 1

鶴城(かくじょう・熊谷) → 直方(なおかた・熊谷くまがい、藩士/国学) L 3 2 9 3

嶽乗庵(かくじょうあん) → 保光(やすみつ・柳沢/源、藩主/諸芸) D 4 5 1 6

学生安成(がくしょうあんせい) → 慈円(じえん;法諱、慈鎮、天台僧/歌人) 2 1 0 4

E1572 覚勝院(かくしょういん;号・法諱は宗淳か?)?-? 戦国期真言宗大覚寺覚勝院の僧、  
三条西公条きんえだの講釈を聴聞、連歌;1561(永禄4)9月玄哉と「何路百韻」、  
1571-79「覚勝院抄(源氏注釈)」1571「源氏物語聞書」著

覚性円明国師(かくしょうえんみょうこくし) → 隠元(いんげん・隆琦、日本黄檗宗祖) C 1 1 0 3

岳松子(がくしょうし) → 愚中(ぐちゅう;道号・周及しゅうぎゅう、臨濟僧) C 1 7 4 6

鶴丈坊(かくじょうぼう) → 常仙(じょうせん、藤田ふじた、俳人) T 2 2 9 4

1562 覚性法親王(かくしょうほっしんのう、法諱、名;本仁、鳥羽天皇第5皇子)1129-69<sup>41</sup>歳 真言仁和寺僧、  
母;待賢門院璋子(藤原公実女)、1129親王宣下/35仁和寺北院入/40出家/45法金剛院住、  
1153仁和寺門跡/58二品/65六条天皇護持僧/67総法務に就任/大僧正、紫金台寺住、  
歌人;藤原実定・教長・西行らと歌会を催、「出観集」「紫金台寺御室記」「愛染王」著、  
「阿弥陀贊并如意輪」「出観集」「紫金台寺御室御説」「諸尊法」「真粹要記」「野月新鈔」著、  
1165清輔[続詞花集]10首入、

勅撰32首;千載(13首59/141/208-)新古(1537)続古(263)玉(821/2124/2703)以下、

[夜もすがら花のにはほひを思ひやる心や峰に旅寝しつらむ](千載;春59/夜思山花)、

[待賢門院(母/1101-45)おはしまさでのちに 金剛院にて郭公の鳴きけるをきき、

故郷をけふ見にこずは郭公たれとむかしをこひてなかまし](続詞花;雑829)、

[覚性法親王の法諱/通称]法諱;信法/覚性、

通称;紫金台寺御室/泉殿御室/五宮ごのみや/仁和寺宮(続詞花集入)

1563 覚助法親王(かくじょうほっしんのう、聖護院宮、後嵯峨天皇皇子)1250-1336<sup>87</sup> 母;上杉孝時女の刑部卿局、  
1254(5歳)天台園城寺聖護院入/62(13歳)出家;静忠門/1266大阿闍梨仙朝から灌頂を受、  
1268園城寺長吏/聖護院門跡、1284宮門跡として最初の大峯入峰/90伝法灌頂大阿闍梨、  
1325一品/天王寺別当/熊野檢校を歴任/1334(建武元)園城寺長吏に再任、

歌人;二条派歌壇の後援者、「覚助法親王家五十首」催、弘安百首/嘉元百首/文保百首参、  
勅撰89首;続拾遺(466/622/880)新後撰(6首28/647/715/1231/1349/1375)玉葉(11首)、  
続千(20首)続後拾(13首)風雅(7首)新千(14首)新拾(6首)新後拾(3首)新続古(6首)、  
小倉実教[藤葉集]6首入、

[つもりゆく月日のほどを思ふにも来し方をしき年の暮かな](続拾;冬466)

[いまははや若菜摘むらしかげろふのもゆる春日の野辺の里人](新後撰;春28)

鶴書楼(かくしろう) → 敬雄(けいゆう・きょうおう;法諱・韶鳳;字、天台僧/詩人) D 1 8 6 5

愨四郎(かくしろう・冢田) → 謙堂(けんどう・冢田つかだ、藩士/儒者) E 1 8 9 8

角次郎(かくじろう・川辺) → 敬典(たかのり・川辺かわべ、藩士/儒者) M 2 6 8 3

角次郎(かくじろう・大平) → 久寧(ひさやす・大平おおだいら、国学者) I 3 7 8 5

覚二郎(かくじろう・津国屋) → 秀貫(ひでつら・夏田なつた、商家/国学) K 3 7 4 6

覚次郎(かくじろう・平川) → 惟一(のぶかず・平川ひらかわ、藩士/民権) J 3 5 8 5

B1561 覚審(かくしん;法諱) ? - ? 1155存/1198存? 平安後期天台宗比叡山の阿闍梨、  
1155(久寿2)藤原忠通室宗子の法事に題名僧を務める、  
1198「出雲寺勸進帳」清書者覚審も同一人?

歌人、「春花集」「荊谿かいこく集」(ともに散佚)編、千載1028、

[過ぎきしに四十よその春の夢の世は憂きよりほかの思ひ出ぞなき](千載;雑1028)

B1560 覚信(かくしん;法諱、源頼俊男or大炊御門おほいみかど冬氏男or大僧都忠讃男) 1312-8170 天台園城寺僧、  
実祥院住、1331(元徳3)乘伊より灌頂を受/67園城寺長吏/権僧正/大僧正?/67長吏を辞職、  
歌人;1336[住吉法楽和歌]参加(法印名)/勅撰2首;新千載(777)新拾遺(1583)、  
[行きとまる人しなければ相坂の関のとごしも名のみなりけり](新千;羈旅777)

D1593 愨信(かくしん・舟橋ふなはし、愨統男) 1795-187278 下総関宿藩士/物頭・用人/中老、地勢調査、  
農兵論を主唱;用水工事・新田開発に尽力、弓術、「古今田制通考」「田制質問」「地譜」著、  
「農政要綱」「機蔭秘策」「こんでみばなし」「東奥紀行詩」「舟橋随庵詩文」「随足吟舎詩集」著、  
[愨信の通称/号]通称;亘/渡わたる、号;随庵

覚真(かくしん;法名) → 敦実親王(あつみしんのう、音曲/歌人) B 1 0 3 8

覚真(覚心かくしん;法諱) → 慈心(じしん;号、覚真;法諱、廷臣/法相僧) T 2 1 9 0

覚真(かくしん;法諱) → 了堂(りょうどう;道号・真覚;法諱、曹洞僧) J 4 9 1 1

覚真(かくしん;法名) → 泰盛(やすもり・安達あだち、武将/幕府実権) D 4 5 3 0

覚眞(かくしん;字) → 日寛(にちかん・堅樹院、日蓮僧) B 3 3 1 0

覚心(かくしん;法諱) → 心地(しんち;道号・覚心、無本/臨濟僧) 2 2 6 0

覚心(かくしん;字) → 日忍(にちにん;法諱・智門院、日蓮僧) D 3 3 0 8

覚深(かくしん) → 豪寛(ごうかん;法諱、天台僧/狂句) E 1 9 9 3

拡真(かくしん;法諱) → 邦教(ほうきょう;法諱、天台僧/悉曇学) 3 9 4 5

鶴臣(かくしん・真木) → 保臣(やすおみ・真木まき、神職/勤王家) B 4 5 0 9

B1562 覚深(かくしん、堀川[藤原]光泰男)?-? 南北期僧;醍醐寺?の法師、歌人;新後拾遺1484  
[みな人の心の月の晴れやらでまよふのちせの山の端の雲](新後拾遺十八釈教1484)

K1508 覚尋(かくしん;法諱、定心房/浄土寺、号;金剛寿院、藤原忠経男) 1012-8170 天台延暦寺35世座主、  
天台顕密;明快/延胤/皇慶門、1077天台座主/権僧正、1080「普賢延命法日記」著、  
1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;左方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、  
[手ふるれば消えぬる露をいかにして玉とぬくらむくもの糸して](賢聖院歌合;二番3)

I1507 鶴人(初世かくしん・森川もりかわ、並笛斎) 1702-5352 江戸俳人;仙覚/淡々門、1728「万国燕」8句入  
[鶯の開帳なかのほととぎす](予想外の比喩;万国燕)

I1508 鶴人(2世かくしん) ? - ? 江戸俳人、沾徳座(沾山側)点者、1754竹翁「童の的」8点句入  
[殿の御意ぎい煮え立つ中へ一柄杓ひとひやく](鶴の一言で沸騰衆議一決;童の的/鶴人点)

K1509 学信(かくしん;法諱・敬阿;字、法名;正蓮社行譽敬阿) 1722-8968 伊予の浄土僧;今治円浄寺眞誉門、  
出家、伊予越智郡大森寺住職/松山藩主講学、江戸増上寺で宗戒両脈を修学、  
湛慧門;菩薩戒・八斎戒を受/諸国遊化、1766京獅子谷の法然寺住、  
のち安藝厳島の光明院住、「浄土真宗興学編」「蓮門興学編」著、  
「蓮門雑談集」「御伝編年録」「懺悔和讃」「幻雲稿」外著多数、「学信遺稿」、

[学信の号] 華王道人/無為

- K1511 **学心**(かくしん;法諱・通称;弘誓庵)?-? 江戸後期能登鹿島郡東浜の真宗本願寺派勝円寺住職、善意門、1810「高僧和讃講林稿」17「往生論註文化録」53「往生礼賛講林」58「讃弥陀偈講林」、「易行品講林」「往生要集講林」「俱舍論記」「十二礼儀」「論註講林弘化録」外著多数
- K1510 **楽真**(かくしん・高川たかがわ、名;惟俊/儁、字;子信)1793-1862 70歳 信州松代藩医/詩文/隸書、  
[五楽堂詩集]「林下漫志」/1852「艸体辨似」著、  
[楽真の通称/別号]通称;泰順、別号;五楽堂  
岳人(かくじん) → 丘山(きゅうざん・岳亭) C 1 6 0 3  
格心院宮(かくしんいんのみや) → 室子女王(しつじょおう、格宮、歌人) E 2 1 9 2  
獲心軒(かくしんけん) → 蒙庵(もうあん・志村、儒者/詩人) 4 4 4 1
- K1512 **覚深親王**(かくじんしんのう、俗名;良仁(かたひと)、後陽成天皇第一皇子)1588-1648 61 真言仁和寺21世門跡、母;中山親綱女の大典侍藤親子、1594親王宣下/1601仁和寺で得度/1614一品、1600(慶長5)「式部卿宮等夢想百韻」参加、1633(寛永10)「高山寺聖經目録」編  
[覚深(;法諱)の幼名/通称]幼名;若宮、通称;後南御堂のちのみなみみどう/梶井宮
- K1513 **鶴水**(かくすい・永良ながら/本姓赤松)?-? 安土桃山期1570-73頃播磨永良出身?文筆家、1572「武道物語」著
- S1526 **角水**(かくすい) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」1句入(11)、  
[我が脈に人の生死しよじを工たくむ人](二葉之松;11/自分の脈のたたきで生死を計る名医、前句;夜や更けぬらん戸をたたく音)
- K1514 **鶴水**(かくすい・横山よこやま、名;健/字;子強)?-? 江後期1818-30頃播磨竜野の儒者、のち摂津尼崎に郷校を興し子弟を教授、「横山健文稿」著、  
[鶴水(;号)の通称/別号]通称;仙二、別号;梅竹主人  
鶴水(かくすい・木幡) → 栄周(えいしゅう・木幡こばた、藩儒/歌人) U 1 3 0 9
- S1572 **鶴随**(鶴随がずい・志水しみづ)?- ? 江前期大阪の俳人、1678西鶴「物種集」入、  
[表具きれ古き御幸みゆきの跡とめて](物種集/前句;たけ何尺の鶴たうの毛衣、新続古今;賀790惟宗光吉;西川や御幸の跡を重ねても千世とぞ契る鶴の毛衣/元亨三年1323七月亀山殿にて七百首歌;寄鶴祝)  
[霞引く奈良の都の比丘尼寺](物種集/前句;狗の子をする袖の春風、狗の子;小児の夜泣等の呪に臙脂で額に宝珠の印を捺す、奈良の尼寺;佐保の法華寺/土製の狗の子を頒つ)  
廓瑞(かくずい;法諱) → 鳳天(ほうてん;道号・廓瑞、曹洞僧) C 3 9 3 7
- E1573 **鰐水**(がくすい・江木えぎ、名;戩(せん)/貞通、福原藤右衛門貞章男)1810-81 72 安藝豊田郡戸野村の生、医学;五十川菽齋門/福山藩医江木玄林の女婿/儒;山陽・古賀洞庵門、兵学;清水赤城門、福山藩儒;藩校教授、藩主阿倍正弘に重用;函館戩の官軍参謀、「客窓漫談」「鰐水詩文稿」、「鰐水漫録」「鰐水雑記」、1832-「江木鰐水日記」63「箕島新田大意」66「石州紀行図記」著、  
[鰐水の字/通称/別号]字;晋戈(しんか)、通称;繁太郎/健哉、別号;健齋/三鹿齋  
鶴水堂(かくすいどう) → 定直(さだなお・相場あいば、随筆) F 2 0 4 0  
確輔(確助/格輔(かくすけ・中井/河西) → 函洲(かんしゅう・川西/河西、儒者) H 1 5 6 7  
格助(かくすけ・亀井) → 茲監(これみ・亀井かめい、藩主/歌) E 1 9 5 1  
格助(かくすけ・桑木) → 政徳(まさのり・桑木くわき、藩士/記録) G 4 0 1 6  
覚輔(かくすけ・河島) → 春翠(しゅんすい・河島かわしま、漢学者) L 2 1 1 9
- E1574 **額輔**(がくすけ・初世絵馬屋えまや、松下/のち奥田、和泉屋覚之丞男)1781-1854 74 江戸赤坂の商家、後に奥田氏に養われ質屋を営む;奥田に改姓/浅草新堀端住、英(はなぶさ)派の絵師;高崇谷門、狂歌;朱楽菅江/石川雅望門、御蔵前書替役の株購入;浅草住、1817「狂歌六歌仙」編、30「狂歌年中行事」画、53「俳諧歌集四季三十六花撰」編、「好める道草」「狂歌合せ」編、「旭日に松竹梅・丹頂・瑞亀」画(扇面3本英一珪らと共画)、  
[初世絵馬屋額輔の幼名/通称/号]幼名;虎之助、通称;建蔵、  
画号;高嵩濤(こうそうとう/英一翠/画賛人/虎風堂/拳々齋、法号;英叟院  
狂歌号;時雨庵空言/絵馬屋額輔/絵馬屋賀久助
- E1575 **額祐**(がくすけ・2世絵馬屋えまや、田村/坂本)1821-90 80歳 越後生/江戸坂本家奉公/古手ふるて商、



狂歌：初世絵馬屋門/1858二世継承/77門人養老亭滝水に三世譲渡、1859「狂歌仮名文庫」、1860「狂歌手習鑑」/61「狂歌弓張月」「狂歌さらし布」編/61「笑談夏の旅」、「狂文露滴」編、[2世絵馬屋額祐の通称/別号]通称；千右衛門/与右衛門、

別号；望止庵貞丸/画賛人額翁/小野あな女、法号；額心院

岳輔(かくすけ・菅井) → 梅関(ばいかん・菅井すがい、絵師) 3 6 9 0

H1579 覚晴(かくせい；法諱、右大臣藤原宗忠男)1090-1148 59歳 法相僧；湛秀已講門、1113維摩会講師、唐院住、1147(久安3)興福寺別当/権僧都、「諷誦願文文法次第」著

B1563 鶴声(かくせい) ? - ? 江前期1688-1704頃三河岡崎の俳人・荷兮門?、1697「誹諧柱暦はしらごよみ」編、1689「曠野あらの」入、  
[銀川あまのがは見習ふ比ころや月の空](曠野；一七月六日；七夕まで空は見慣れてしまう)

格誠(かくせい・川瀬) → 格誠(のりのぶ・川瀬かわせ/源、国学/歌) I 3 5 0 1

鶴成(かくせい・吉岡) → 鶴成(たづなり・吉岡よしおか、歌人) U 2 6 6 0

覚成(かくせい) → 覚成(かくじょう；法諱、真言大僧正) K 1 5 0 4

覚盛(かくせい) → 覚盛(かくじょう、天台僧、歌人) B 1 5 5 7

覚盛(かくせい) → 覚盛(かくじょう、律僧/唐招提寺中興) E 1 5 7 6

覚静(かくせい/かくじょう) → 兼季(かねすえ・今出川の祖/西園寺、廷臣/歌) C 1 5 7 7

角醒(かくせい) → 秀億(しゅうおく・明田、俳人) G 2 1 8 7

革聖(かくせい→かわひじり) → 行円(ぎょうえん；法諱、天台僧/歌人) C 1 6 2 5

B1548 覚濟(かくせい；法諱/別諱；眞源、中山[藤原]兼季男)1227-1303 77歳 真言宗醍醐寺僧；源運門、1248金剛王院実賢に伝法灌頂を受/醍醐寺45世座主、1279権僧正/87東寺長者、1292(正応5)大僧正/93醍醐寺座主再任、三宝院流の一派の山本流の祖、1272「迷悟称」、「醍醐鈔」「伝法灌頂私記」「用心鈔」「即身成仏義善女鈔」外著多数、歌；新後拾遺427、

[秋深き夜寒よむは里をわかねばやおなじ心に衣うつらん](新後拾；秋427)

[覚濟の通称] 山本僧正/峰僧正

学生(かくせい・藤井/吉田/吉) → 篁墩(こうとん・吉田/藤井、医/儒者) 1 9 1 8

学西隠師(かくせいいんし) → 大魯(だいろ；法諱、真宗本願寺派僧) L 2 6 3 6

楽声舎(かくせいしゃ→ささのや) → 茂樹(しげき・坂倉さかくら、神職/国学) Q 2 1 8 7

鶴星堂(かくせいどう) → 星照(せいしょう・小林こばやし、狂歌作者) I 2 4 8 1

鶴性野人(かくせいやじん) → 遠影(ととおかげ・丁野ちやうの、藩士/官吏/歌) V 3 1 7 5

鶴跡園(かくせきえん) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山、絵師) D 1 6 0 2

S1558 覚暹(かくせん) ? - ? 平安後期の僧/歌人、

1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」；右方入(判者；紀伊入道素意[藤原重経])

[あさましや浅間の嶽の峰ごとにつらきもしらず燃ゆるわが恋]、

(多武峯歌合；六番右12/恋/本歌；狭衣物語の故式部卿北の方の代詠歌か)、

(狭衣；あさましや浅間の山の煙には立ちならぶべき思ひとも見ず)

S1527 角泉(かくせん) ? - ? 江前期俳人；1691不角「二葉之松」入、

[我がに成つて気根きこんと酒の勝負みん](二葉之松；211/意地になって根気を入れて飲む、前句；ほんのりと夜は明けはなれけり)

K1515 鶴銭(かくせん・根本ねもと、名；里信/通称；老之助、別号；万里溪) ?-? 羽後秋田藩士、俳人；其角風俳諧、江戸の俳人とも交流、1733「東のつと」編/36「十八番句合」、「太平山採花」著

K1516 覚千(かくせん) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃天台宗比叡山僧、

東塔玉泉院住/大僧都/東塔執行代/1796一山惣代、1791「自在金剛集」、「日吉温古録」外著多  
雀川(かくせん・野や/人見) → 美至(のりゆき・人見、幕府儒官、詩人) G 3 5 1 1

鶴羨(かくせん・松井) → 益江(ますえ・松井まつい、藩士/本草/歌) S 4 0 6 1

覚仙(かくせん・原/新井) → 垣山(たんざん・原はら、儒/医/曹洞僧) I 2 6 7 8

鶴船(鶴仙かくせん：号) → 雪村(せつそん：道号・周継：法諱、絵師/禅僧) E 2 4 5 3

B1564 覚禅(かくぜん；法諱/初諱；承信)1143-? 1213存 真言僧；覚然門/のち興然・尋海門；受法、観音寺・京近辺に住/のち高野山に修学/晩年；勸修寺浄土院に住、書画に長ず、儀軌・図像の蒐集；その体系化に尽力、1187?「覚禅抄」著、1187「如法愛染王法」編、



1190「大黒天神法」1201「星宿法」02「自在俱摩羅天女等之記」08「止風雨法記」外著多数、  
[覚禪の字/通称]字;金胎房、通称;少納言阿闍梨

- K1517 **覚禪**(かくぜん;法諱、藤原俊成男)?-? 母;藤原為忠女の従三位忠子、定家の異母兄、  
鎌倉前期興福寺の法相僧、法印/権大僧都、歌人、千載1122、  
[思ひかねあくがれ出でてゆく道はあゆく草葉に露ぞこぼるゝ](千載;雑1122、  
修行に出て歩く時の詠/逡巡しつつも修行の思いを押えかね彷徨/あゆくは揺れ動く)  
覚禪(かくぜん;法名) → 忠教(ただのり・藤原、廷臣/歌人) F 2 6 5 9  
覚然(かくぜん;法諱) → 覚然(かくねん;法諱、法師/歌人) W 1 5 5 0  
覚然(かくぜん) → 重胤(しげたね・東) C 2 1 3 3  
覚禪(かくぜん;字) → 尚祚(しょうそ;法諱、真言僧) O 2 1 3 8  
廓然(かくぜん・佐枝) → 種茂(たねしげ・佐枝さえた、藩士/城代) R 2 6 8 2
- W1548 **学詮**(がくせん;法諱、) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、歌;1237刊[檜葉集]入、  
[鹿のねを枕のものときくばかりのべ遠からぬやどにすまばや](檜葉;雑818)
- E1588 **学川**(がくせん・曾谷そだに、名;之唯/子唯しゆい) 1738-9760 京の儒者;片山北海門、篆刻;高芙蓉門、  
大阪住、詩人;混沌社友、豆腐料理研究家、1775「花魁風什」著、75/90「浪華郷友録」編、  
1777「野史詠」編、82「豆腐百珍」83「豆腐百珍続編」84「豆腐百珍余録」、「学川詩文稿」、  
「曼陀羅稿」「雪蕉詩話」「読騷庵咏物詩」「学川偶筆」「学川随筆」「印語纂」「印籍考」「古印彙」、  
「古今印譜品目」「続浪華郷友録」「浪華金欄集」編、「曼陀羅居印譜」「読騷菴印冊」「雪蕉詩話」、  
「浪華人物誌」編(没後1824刊;正華著の書あり)、「九水漁人遺稿」「学川遺稿」、  
[学川(;号)の字/通称/別号]字;応聖、通称;忠介/仲助/忠蔵/字作、曾之唯(師芙蓉の命名)  
別号;読騷/仏斎/曼茶羅居士/九水漁人/半仏居士/善空/蘆江/何必醇(かひつじゆん)/醒狂道人、  
毛生必華(もうせいひつか(毛生正華とも?)  
岳泉(がくせん;字) → 亮範(りょうはん;法諱・岳泉、真言僧) J 4 9 2 7  
鶴僊斎(かくせんさい) → 春曉(しゆんぎょう・勝川かつかわ、絵師) M 2 1 7 2  
覚禪房(かくぜんぼ;号) → 宝蔵院胤栄(ほうぞういんいんえい、法相学僧/武芸者) C 3 9 1 7  
鶴仙老(かくせんろう;号) → 雪村(せつそん;道号・周継;法諱、絵師/禅僧) E 2 4 5 3
- G1599 **覚宗**(かくそう、藤原家基男) 1079-115274歳 天台宗園城寺僧;三井寺長吏/僧正/三山検校、  
通憲(みちのり)[信西]「本朝世紀」入
- B1565 **覚宗**(かくそう;法諱、通称;阿性上人、法印覚寛男)?-1271 真言仁和寺僧/大蔵卿/法眼/法印、  
1234勸修寺の榮然より伝法灌頂を受、付法の門弟;定祐・勝信・憲静・源俊・良宝ら、  
歌人、勅撰3首;続後撰1266/続古1458/続拾612、  
[みむろ山花も紅葉もかつ散りて頼むかげなき谷の小草](続後撰;雑1266、  
建長元(1249)道助法親王・道深法親王逝去の秋に歎き詠む)  
覚宗(覚宗かくそう;法名) → 政村(まさむら・北条ほうじょう、執権/歌人) H 4 0 7 9  
鶴叟(鶴巢かくそう) → 夙夜(夙也しゆくや・竹村昌成、俳人) I 2 1 6 2  
鶴叟(鶴巢かくそう) → 敬忠(のぶただ・瀬下せしも、国学・俳/史家) B 3 5 8 3  
鶴巢(かくそう・畑) → 鶴山(かくざん・畑はた/修姓;銭、医者/儒) J 1 5 9 1  
鶴巢(かくそう・新井/原) → 垣山(たんざん・原/新井、儒者/曹洞僧) I 2 6 7 8  
鶴巢(かくそう・豊城) → 豊雄(とよお・豊城とよき、神職/国学) V 3 1 4 6
- K1518 **格三**(かくそう・金内かねうち、名;謙/字;受卿)?-? 江戸後期北越儒者、江戸下谷久保町住・  
1860「徒杠字彙」(徒杠辞彙)編、  
[格三(通称)の号] 雲窓/全斎
- F1551 **蠶蔵**(かくそう;通称・新見しんみ/本姓;源、初姓;猪子)?-? 新見健三郎の養子、江後期幕臣;  
1862代官/63和宮様天璋院様御広舗番之頭/御目見以上、65御細工頭/66御納戸頭、  
「御料所御取締向ニ付御含迄ニ申上候書付」著  
格造(かくそう・十文字) → 重光(しげみつ・十文字じゅうもんじ/木下、神職/和漢学) O 2 1 8 6  
両蔵(かくそう・榊原) → 芳野(よし・榊原さかきばら、国学者) F 4 7 5 2  
格蔵(かくそう・岡/広瀬) → 保庵(ほあん・広瀬/岡、医者) 3 9 0 5  
鶴蔵(かくそう・嶋田) → 鶴蔵(つるそう・嶋田、歌舞伎番付作者) E 2 9 6 4

- 閣蔵(かくぞう・並木) → 宗輔(宗助そうすけ・為川、歌舞伎作者) C 2 5 2 7  
 覚蔵(確蔵かくぞう・楠本) → 端山(たんざん・楠本、藩士/儒者) I 2 6 2 1  
 覚蔵(かくぞう・山地) → 介寿(すけとし・山地やまじ、藩士/国学者) G 2 3 6 3  
 角蔵(かくぞう・菊池/関口) → 衡岳(こうがく・菊池、藩儒/詩人) 1 9 8 5  
 角蔵(かくぞう・渡辺) → 直記(なおのり・渡辺わたなべ、藩士/歌人) P 3 2 3 6  
 学叟(がくそう) → 藝阿彌(げいあみ・真芸、絵師/連歌) 1 8 3 1  
 額蔵(がくぞう・山本) → 学半(がくはん・山本やまと、儒者) K 1 5 3 9
- B1566 **覚増法親王**(かくぞうほつしんのう、後光厳天皇皇子) 1363-90 早世 28 母; 右衛門佐局、  
 1373(応安6)聖護院で出家; 覚養親王より灌頂を受く、  
 1383園城寺長吏/三山検校/新熊野検校、「役行者講私記」「両部血脈抄」著、  
 歌; 新後拾遺2首627/1352、  
 [木のもとに散りしくだにもうきものをさそひなはてそ庭の春風](新後拾; 雑春627、  
 落花の心を詠む)
- H1500 **覚尊**(かくそん、摂関藤原基実男/母; 源盛経女) 1160-99 40歳 法成寺執印/東光寺大僧正、  
 「猪隈関白記」著、「明月記」入、大納言忠良ただよしの弟
- K1519 **覚尊**(かくそん; 法諱) ? - ? 江中期享保1716-36頃天台僧: 近江の性慶[義端]門、  
 「指要鈔詳解或説辨」編
- H1533 **鶴村**(かくそん・金子かねこ、名; 有斐、字; 仲豹/君仲) 1759-1840 82歳 加賀鶴来の儒者; 皆川淇園門、  
 小松で教授/郷校教授/加賀藩儒、画、「詩経訓解」「文範」「白山誌」「金子鶴村詩文」著、  
 1816「能登遊記」28「白山遊覧図記」、「白嶽図解」「莊子解」「孫子伐柯」著、  
 [鶴村の通称/別号]通称; 吉次/劉助、別号; 絢斎
- 覚尊(かくそん; 法諱) → 能覚(のうかく; 法諱、真言僧) G 3 5 2 6  
 覚尊(かくそん; 法諱) → 公寛親王(こうかんしんおう、天台僧) I 1 9 1 3
- S1503 **覚存**(かくぞん; 法諱) ? - ? 江戸期日蓮僧: 下総玉造の蓮華寺に住、  
 「四宗問答集」著
- 覚体(かくたい; 字) → 尚祚(しょうそ; 法諱、真言僧) O 2 1 3 8
- B1567 **鶴台**(かくだい・滝たき、名; 長愷、引頭いんとう孝清男/滝養生養子) 1709-73 65 長門萩儒者; 山県周南門、  
 周南門三傑、小倉尚斎/服部南郭門、萩藩主侍講/藩校祭酒; 朝鮮使接待、国史/歌/書/医学、  
 「九州紀行」「三選辨覧」/1760「備後賀島記」、「鶴台漫筆」著、「鶴台先生遺稿」、高渠こうきよの父、  
 [鶴台の字/通称]字; 弥八、通称; 亀松
- 廓大(かくだい・小松原) → 翠溪(すいけい・小松原こまつばら、絵師) 2 3 4 5  
 角大師(かくだいし) → 良源(りょうげん、天台中興/歌) E 9 4 5 6
- 1508 **角太夫**(かくだゆう・山本やまと・土佐掾) ?-1699 古浄瑠璃大夫; 岡本文弥門、角太夫節の祖  
 角太夫(かくだゆう・小野) → 言員(ことかず/とき-/のぶ・小野おの、歌人) D 1 9 4 4  
 角太夫(かくだゆう・大井) → 盛信(もりのぶ・大平おおひら/大井、幕臣/国学) J 4 4 5 5  
 角太夫(かくだゆう・谷山) → 純香(すみか・谷山たにやま、藩士/歌人) I 2 3 7 6  
 覚太夫(かくだゆう・村/黒沢) → 瓢亭百成(ひょうていひやくなり、戯作者) F 3 7 3 6  
 覚太夫(かくだゆう・山口) → 凹巷(おうこう・山口やまぐち、詩人) B 1 4 6 4  
 覚太夫(かくだゆう・中根) → 東平(とうへい・中根/宇賀、藩士/儒者) H 3 1 0 5
- K1520 **確太郎**(かくたろう; 通称・石河いしかわ、名; 正竜、雅東男) 1825-95 71 大和高市郡石川村の医家の出身;  
 郷校正誠舎の山田作治郎門; 心学を修学、山田正太郎と称す、学; 江戸の杉田成卿門、  
 蘭学者; 長崎で蘭学修学、薩摩藩主島津斉彬に出仕; 反射炉築造に参画、  
 紡績機カタログを翻訳; 紡績研究に従事; 1865鹿児島紡績所を創設、  
 維新後; 各地に工場建設/1886奏任四等技師、1859「礮台ほうだい用礮節制」訳
- 格太郎(かくたろう・世古) → 延世(のぶよ・世古せこ、酒造業/勤王) G 3 5 2 0  
 角太郎(覚太郎かくたろう・吉川) → 弘道(ひろみち・吉川よしかわ、絵師) H 3 7 3 5  
 角太郎(かくたろうい・北川) → 正介(まさすけ・北川きたがわ/栗生あお、藩士) M 4 0 9 5  
 覚智(覚知/覚地かくち・大蓮坊) → 景盛(かげもり・安達あだち、武将/真言僧) C 1 5 0 0  
 覚智(かくち; 法名) → 隆章(たかあき・藤原ふじわら、絵師) C 2 6 4 6

- 1564 **覚忠**(かくちゅう;法諱・宇治僧正/長谷前大僧正、藤原忠通男)1118-7760 天台宗園城寺の僧;  
1162天台座主50世、1164大僧正/68園城寺長吏、  
歌人;1169園城寺で覚忠歌合催、歌林苑歌合に参加、1165清輔[続詞花集]5首入、  
勅撰12首;千載(9首133/273/382/524/1109/1133/1211/1212/1219)新古(571)以下、  
[をしめどもかひもなぎさに春暮れて波とともにぞたち別れぬる]、  
(千載;春133/渚での惜春)、  
[近衛院かくれさせ給ひにける(1155;久寿2/17歳)ころ 植ゑさせ給ひたりける菊を見て、  
よはひをば君にゆづらで白菊のひとりおくれて露けかるらん](続詞花;哀傷400)
- K1521 **覚仲**(かくちゅう・内山うちやま、三清男)1673-174270歳 加賀藩士/本草家;稲生いの若水門;高弟、  
若水遺著「庶物類纂」完成、1719「常房総三州採葉録」22「葉草絵形帳」35「加賀国産物志」、  
1736「越中国物産之内絵形」37「能州物産志」著、若水の末子覚順を養子にする
- E1577 **鶴冲**(かくちゅう) ? - ? 詩人、1749東溟編「名月篇:寛延二年版」井英利と共編
- B1568 **覚超**(かくちよう;法諱、号;兜率とそつ僧都、俗姓;巨勢)960-103475歳 平安期天台叡山学僧;  
慈恵大師良源門;直弟子、源信主導の念仏結社入、初め兜率院に住/横川首楞嚴院住、  
1028法橋/29権少僧都/31辞退、台密川の流の流祖;天台事相に関する著作多数、  
歌・和讃に通ず、赤染衛門・定頼と交流、後拾遺1188、  
「阿弥陀如来和讃」「阿弥陀秘讃」「法華私記兜率」「金剛鈔」「行道山記」「四夜伝」外著多数、  
[月の輪に心をかけしゆふべよりよろづのことを夢と見るかな](後拾;雑1188/月輪観)
- B1569 **覚澄**(かくちよう、安居院あぐい、権大納言飛鳥井雅綱男)?-1570? 室町期西塔安居院あぐい僧正、  
1551歌鞠会始に参加、西洞院時慶にしとういんときよしの父
- S1566 **覚澄**(かくちよう) ? - ? 江前期大坂生玉神社の社司or社僧?、  
1673西鶴「生玉万句」第一飛梅百韻の脇句、  
[古き句もまたあらた成とし](生玉万句;飛梅百韻の脇句;  
発句;荒木田守武/飛梅やかろがろしくも神の春)  
格徴(かくちよう・赤川) → 知哲(ともさと・赤川あかがわ/岩松、藩士/歌) T 3 1 9 1  
廓通交(かくつうこう) → 廓集交(かくしゅうこう、洒落本) E 1 5 7 1
- K1522 **雀汀**(鶴汀かくてい・岡おか、名;寿郷ひさくに/字;元齡)1736-181176 備中倉敷の商家;銭屋(;屋号)、  
儒者;江村北海/岡雲臥門、詩人、国学も修学、  
「雀汀吟稿」著、草廬/拙斎/茶山/春水等と交遊、岡延年(絵師)の兄、  
[雀汀の通称/別号]通称;総左衛門(銭屋代々の称)、別号;闇上老隠こうじょうろういん
- E1578 **鶴亭**(かくてい) ? - ? 江中期僧/絵師;繡江[熊斐ゆうひ、1693-1772]門、  
沈南蘋流の画僧、木村巽斎そんさい[1736-1802]の画の師
- H1534 **鶴汀**(かくてい・窪井くぼい、修姓;井、名;惟忠/維忠/維恭)?-1769 長門萩藩士/儒者;山県周南門、  
1767病のため致仕、京で子弟教育、1759「為学正論」66「古訓輯要」68「名義集覧」著、  
[鶴汀の字/通称]字;良佐/士良、通称;源兵衛
- K1523 **鶴汀**(かくてい・大村おおむら、名or初号;;眞平)?-? 俳人;几董門、1783維駒これに「五車反古ごしゃほうぐ」入、  
[小坂殿のはり縄朽ちてあられ哉](五車反古;巻尾436、  
小坂殿は京妙心寺内にあった御所/荒廃し霰が降る)
- K1524 **鶴亭**(かくてい・根岸ねぎし、名;秀章)1776-184671歳 羽後秋田藩士/国学;藩校明德館修学、  
同校国学教授、「鶴亭詩集」著、  
[鶴亭(;号)の字/通称/別号]字;子貞/士貞通称;多門、  
別号;酔月翁/胡芦斎/竹垞閑人ちくたかんじん
- K1525 **鶴汀**(かくてい・沢井さわい、名;桂)1812-6150歳 遠江金谷町の商家;家業継がず儒/蘭医、  
沼津藩の招聘を辞し諸国遊歴、詩/書画、1840「吟香集」、「近世八家詩抄」著  
[鶴汀(;号)の字/通称]字;晚香、通称;素庵
- 鶴汀(かくてい・藤堂) → 高嶺(たかさど・藤堂、藩主/詩文) L 2 6 9 1  
鶴汀(かくてい・堀江) → 道元(どうげん・堀江、医者/詩) D 3 1 6 1  
鶴汀(かくてい・賀/田) → 玩鷗(がんおう・太田おた、儒者/詩人) G 1 5 1 4  
鶴汀(かくてい・安田) → 穂末(ほすえ・安田やすだ、国学者/歌) G 3 9 4 4  
鶴亭(かくてい・坂上) → 蜂房(はちぶさ・坂上、俳人) E 3 6 9 3



鶴亭(かくてい・西浦)	→	祐賢(ひろかた・西浦、文筆家)	F 3 7 7 1
鶴亭(かくてい・村上)	→	忠幹(ただもと・村上むらかみ、藩医/歌人)	Z 2 6 8 9
鶴亭(かくてい・野坂)	→	完山(かんざん・野坂、医者/俳人)	Q 1 5 8 0
鶴亭(かくてい・稲舎)	→	二流(じりゅう・鶴亭、俳人)	Q 2 2 4 1
鶴堤(かくてい・松本)	→	月痴(げっち・松本、蔵書/窮民救済)	H 1 8 2 5
確亭(かくてい・渋江)	→	長伯(ちやうはく・渋江、幕府奥医/本草)	J 2 8 6 9
雀亭(かくてい・南条)	→	白亀(はつき・南条なんじょう、俳人)	F 3 6 1 2
廓庭(かくてい・星野)	→	実宣(さねのぶ・星野、藩士/和算/測量)	L 2 0 2 0
岳鼎(かくてい)	→	丘山(きゅうざん・岳亭がくてい、戯作/狂歌)	C 1 6 0 3
鶴汀園(鶴亭園かくていえん)	→	正雄(まさお・淵井ふちい、歌人/狂歌)	S 4 0 3 5
岳亭丘山(かくていきゅうざん)	→	丘山(きゅうざん・岳亭、戯作/狂歌/画)	C 1 6 0 3
学亭三子(かくていさんし)	→	三子(さんし・学亭、合巻作者)	M 2 0 3 1
鶴亭秀賀(かくていしゅうが)	→	秀賀(しゅうが・鶴亭、人情本作者)	G 2 1 9 6
鶴亭二流(かくていじりゅう)	→	二流(じりゅう・稲舎いなのお、俳人)	Q 2 2 4 1
覚天(かくてん;道号)	→	植家(たねいえ・近衛このえ、関白/歌/連歌)	2 6 4 1
覚天(颯天かくてん;道号)	→	元朗(げんろう;法諱・覚天、黄檗僧)	I 1 8 4 3
覚天(かくてん;号)	→	鳳溪(ほうけい;法諱、真宗僧)	F 3 9 0 1
鶴霨(かくてん)	→	利雄(としかつ・南部、藩主/俳人)	M 3 1 2 6

K1526 **学天**(かくてん;法諱・因順;字、岩崎吉兵衛男)1804-7067 紀伊粉川浄土僧;1809小倉光恩寺冠誉門、出家、江戸芝増上寺に修学、宗乗と円頓戒;頭了門、上洛し天台学;園城寺敬長門、俱舎論;智積院海応門、のち増上寺学頭、下総小金東漸寺・常陸瓜連常福寺・鎌倉光明寺住、1861知恩院73世住職/大僧正、1832「具舎論聴記」「具舎論界品聴書」著、

[学天の法名] 実蓮社名誉祐阿因順

K1528 **鶴洞**(かくどう・神代かみしろ、名;守柔/燾とう、永守男)1664-172865 江戸の生/1681水戸彰考館写字生、儒者;累進し1714(正徳4)水戸彰考館総裁となる、考証に長ず、「鶴洞集」著

[鶴洞(;号)の字/通称/別号]字;叔重、通称;杳太夫、別号;求心斎

H1535 **螻堂**(かくどう・山田やまだ、名;政苗/字;実成、政章男)1803-6159;自殺? 米沢藩士/1830家督継嗣、五十騎組;禄150石、儒;古賀洞庵門/昌平黌出、詩文に長ず、帰藩;遠山村に杜宇山荘創設;子弟教育、米沢藩練兵総督、藩政刷新;意見が対立し免職、1859羽前上山藩主に招聘;藩校明新館師範;藩政刷新に尽力、米沢帰郷;禁錮刑、不遇;1861(文久元)病没/自殺説も、「螻堂一家言」「海防叢書」「螻堂詩鈔」著、「螻堂遺稿」、

[螻堂の通称/別号]通称;九右衛門/九十郎、別号;疎竹清陰/茶寮主人/梧桐軒/梧窓居士

K1529 **鶴堂**(かくどう・藪やぶ、名;平/字;大平)1773-184977 淡路福良の生/大阪の布商により養育、儒者/詩人、1826「詠物百律」、「鶴堂詩集」著、

[鶴堂(;号)の通称/別号]通称;平三、別号;平叟

K1530 **鶴堂**(かくどう・塩路しおじ、名;義明/字;恵思/蕙志/蕙思)?-1849 紀伊和歌山絵師:円山派、1833/50「桃洞遺筆」、35「鶴堂画譜」画

K1531 **確堂**(かくどう・高橋たかはし、名;重健、平五郎重行男)1824-6744歳 但馬出石藩士/儒;昌平黌出、1854藩老父子の専断を上訴;投獄/62赦免/63脱藩;生野の変に参加・長州奇兵隊参加、1866第二次長州戦争で被弾/67萩で没、「海防論」「鎖国論」「太平論」著、

[確堂の通称/変名]通称;甲太郎、変名;橋本将監

H1536 **確堂**(かくどう・中村なかむら、名;彝、山県正陽男)1832-9766歳 中村栗園の養子;近江水口藩士、儒;藩校修学、藩校翼輪堂助教、養父栗園の命で天下を視察、1866長州戦争従軍、

戊辰戦で禁裏警護、1859「栗園文鈔」編/61「栗園余稿」編、

[確堂の幼名/字/通称/別号]幼名;彦吉/三次、字;士訓、通称;鼎五、別号;十三松堂

K1532 **確堂**(かくどう・岡田おかだ、名;寧安、廉斎男)1834-7643歳 広島藩士/儒;坂井虎山/頼聿庵いつあん門、蘭学;呉黄石門、大監察軍事奉行、「臆説」著、「確堂遺稿」、

[確堂(;号)の字/通称]字;君升、通称;直太郎/喜太郎/良彦

K1533 **螻堂**(かくどう・北条ほうじょう、名;永、字;士伸/子伸、通称永二郎)?-? 江後期儒者:江戸で講説業、「螻堂詩稿」著

恪堂(かくどう・大久保) → 忠保(忠休ただやす・大久保おおくぼ、幕臣/歌) U 2 6 5 6  
 鶴堂(かくどう・伊東) → 天嶺(てんれい;道号・性空;法諱、臨濟僧) E 3 0 6 0  
 鶴堂(かくどう・南部) → 利濟(としただ・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2  
 鶴堂(かくどう・磯野) → 鶴斎(じやくさい・磯野、医者) V 2 1 9 7  
 鶴堂(かくどう・藤堂) → 高允(たかさわ・藤堂、藩主/教育) L 2 6 9 3  
 鶴堂(かくどう・田中) → 亦太郎(またたろう・田中/小林、藩士/国学) J 4 0 5 0  
 覺道(かくどう;字) → 雪巖(せつがん;号・実順、僧/詩人) E 2 4 1 1  
 廓堂(かくどう;道号・祖宗) → 祖宗(そしゅう;法諱・廓堂、曹洞僧) J 2 5 8 3  
 廓堂(かくどう・菊地) → 幽軒(ゆうけん・菊地きくち、儒者) B 4 6 4 5  
 確堂(かくどう・松平) → 斉民(なりたみ・松平、藩主/詩) H 3 2 5 9  
 確堂(かくどう・成島) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7  
 蠖堂(かくどう・里見) → 酔経(すいきょう・里見さとみ、儒者) E 2 3 3 2  
 蠖堂(かくどう・倉田) → 聖純(せいじゅん・倉田くらた、書家) I 2 4 7 3  
 蠖堂(かくどう・島津) → 忠寛(ただひろ・島津しまづ、藩主/国学) X 2 6 5 5  
 佳句堂(かくどう) → 姫岳(きかく;号・明洗、天台僧/俳/画) J 1 6 8 4  
 覺洞院僧正(かくどういんのそうじょう) → 勝賢(しょうけん;法諱、真言醍醐寺僧) I 2 2 3 6  
 覺洞院法印(かくどういんのほういん) → 親快(しんかい;法諱、真言僧) N 2 2 5 8  
 岳東海(かくとうかい;修姓岳) → 東海(とうかい・大竹、儒者) B 3 1 8 9  
 愨堂居士(かくどうこじ) → 静修(しずさね・八木/鎬木/橘、国学者) U 2 1 0 1  
 覺道上人(かくどうしょうにん) → 禪空(ぜんくう;法諱、浄土宗西山派僧) F 2 4 1 8

K1527 **覺道親王**(かくどうしんのう・御柏原天皇皇子) 1500-27早世28歳 母;庭田雅行女の源行子、仁和寺御室19世、1510仁和寺真光院で得度/11親王宣下、

1516法金剛院で尊海より伝法灌頂を受/19二品;牛車の宣旨を受ける、「覺道法親王和歌卷物」著、「永正十三年八月日記」「眞秘鈔要尊次第」「聖教等目録」著、[覺道親王の法諱/通称]法諱;覺道、称;後法金剛院御室/後禅河院御室/眞光院御室

鶴頭叟(かくとうそう) → 五明(ごめい・吉川/那波、商家/俳人) D 1 9 9 3

B1570 **覺如**(かくにょ;号・宗昭そうしゅう;法諱、俗姓;藤原、覺恵[宗恵]男) 1270-135182 真宗本願寺3世、母;中原光重女、親鸞の曾孫、初め諸宗遍歴、1287本願寺2世如信より他力法門を伝受、法印、真宗教団内における本願寺の正統性を主張;唯善と親鸞墓所大谷廟堂の管理を争う、1310(延慶3)留守職に就く/14光玄に譲るが22奪い返し義絶、「改邪鈔」「閑窓集」「浄土文類集」「本願鈔」「三身義」「直心集」「真宗教化集」外著多数、歌;法華詩歌勸進;北野社に奉納、新千載773、[都思ふ須磨の関路のかぢ枕夢をばとほす波のまもがな](新千;羈旅773)[覺如(;号)の幼名/別号]幼名;光仙、別号;毫撰、通称;勘解由小路中納言

覺如(かくにょ;法名) → 家親(いえちか・中山、廷臣/歌人) 1 1 4 0

覺如(かくにょ;字) → 法瑞(ほうずい;法諱・覺如、真言律僧) B 3 9 9 5

覺如(かくにょ;法諱) → 良基(りょうき;法諱、真言僧/勤王) H 4 9 0 2

K1535 **学如**(がくにょ;法諱・空眼;字/号;円極、隠岐清規男) 1716-7358 安藝可部村の真言僧;13歳で出家、諸方遊歴/高野山妙瑞門;野沢流・安祥流の秘奥を受、安藝福王寺26世、一時河内光明寺住、「真言律行問答」「対賓法語」「菩提心論肝心鈔」、1158「出家作法」78「梵網經分受学海」著

S1504 **廓忍**(かくにん;法諱・号;紫雲/慈雲) 1775-183864歳 播磨荒井村の真宗本願寺派明覺寺住職、宗学;道隱門/1822学林の看護/24勸学職、諡号;宣暢院、「高僧和讃聴記」「無量寿経聴記」「華嚴五教隨筆」「七祖大綱口筆」著

学忍(がくにん;字) → 日達(にちだつ;法諱・成遠院、日蓮僧) C 3 3 8 3

B1571 **覺仁法親王**(かくにんぽうしんのう、通称;桜井宮、後鳥羽天皇皇子) 1198-126669歳 母;舞女滝、天台園城寺僧、1217園城寺長吏寛朝門;阿闍梨位灌頂を受、1218親王宣下、権大僧都/園城寺42世長吏、1348熊野三山・新熊野檢校兼任、後嵯峨院の熊野詣の先達を務む;以後熊野檢校は法親王が相承、「桜井宮御集」著、1220備前児島に尊滝院建立;承久乱配流の弟頼仁親王親王とその息子道乗と共に五流修験の再興の伝説あり、

歌;勅撰4首;続後撰(1025;修行中の詠)/続拾(267/713)/続千(2028)、雲葉集入、  
[あはれなるあまの苦屋のすまひかな満ち来る潮のほどもなき世に](続後撰;雑1025)

K1536 覚念(かくねん、寛念?、治部少丞藤原清孝男)?-? 平安期興福寺僧、歌人;詞花集197

[恋ひ死なば君はあはれといはずともなかなかよその人やしのばむ](詞花;七恋197)

W1550 覚然(かくねん;法諱、) ? - ? 平安後期僧;法師、歌人;1165清輔[続詞花集]入、  
[よそにては匂ひにあかぬ花なればちるこのもとをたづねてぞくる]、  
(続詞花;釈教452/勸発品)

覚念(かくねん;法名) → 高明(たかあきら・源みなもと、左大臣/歌人) 2 6 0 7

覚念(かくねん;法諱) → 覚行親王(かくぎょうしんのう、真言僧) J 1 5 6 9

覚然(かくねん;法名) → 重胤(しげたね・東とう/平、武家/歌人) C 2 1 3 3

鶴年(かくねん・古賀) → 竹堂(ちくどう・古賀、儒者) D 2 8 6 4

郝然居士(かくねんこじ) → 簡齋(かんさい・桜田、儒者/勤王派) Q 1 5 6 1

覚之丞(かくのじょう・後町) → 都丸(とがむら・後町あともち、俳人) I 3 1 8 5

覚之丞(かくのじょう・森) → 正幸(まさゆき・森/村越、幕臣/鷹匠) I 4 0 3 1

角之丞(かくのじょう・松尾) → 宗二(そうじ・松尾まつお、茶人) I 2 5 6 4

角之丞(かくのじょう・鷺尾) → 益敬(ますたか・鷺尾わしのお、藩士/郡奉行) J 4 0 0 6

角之丞(かくのじょう・岸上) → 正名(まさな・岸上きしがみ、藩士/国学) P 4 0 2 5

学之丞(かくのじょう・堀) → 孝善(たかよし・堀ほり、藩士/算用者) N 2 6 7 5

角之進(かくのしん・堀尾) → 生津麿(ふつまろ・堀尾ほりお、国学者) D 3 8 4 1

覚之進(かくのしん・坂本) → 義邵(のりよし・坂本さかもと/一色、藩士/神道) I 3 5 6 2

学之進(かくのしん・増田) → 繁徒(しげかつ・増田/別所、幕臣/経学) Q 2 1 8 3

K1537 覚之助(かくのすけ・安岡やすおか、名;正義/正美、号;皆山堂、文助男) 1835-68戦死34歳 土佐山北村郷土、  
蘭学;1856長崎に遊学、地理/兵学;砲術、土佐勤王党参加:投獄禁錮/赦免;戊辰戦参加、  
会津若松で戦死、「獄中作養気歌」「安岡覚之助書翰」著

格之助(かくのすけ・大山) → 綱良(つなよし・大山/華山、藩士/勤王) B 2 9 4 1

格之助(かくのすけ・上田) → 陸舟(りくしゅう・上田うえだ、藩士/儒者) 4 9 7 5

覚之助(かくのすけ・斎藤) → 豊重(とよしげ・斎藤、藩士/武芸者) R 3 1 1 7

覚之助(かくのすけ・平尾) → 他山(たざん・平尾/力丸、藩士/儒者/詩) O 2 6 9 4

K1538 学廼門悟章(がくのもんごしょう、姓;中島、通称喜代治、初世学の門悟喜男)?-? 下野栃木の狂歌作者、  
1846檜垣連判者、1859「追福狂歌錦葉集」編

鶴坡(かくは・富田) → 景煥(かげあき・富田とだ、藩士/漢学/詩) E 1 5 9 0

確坡(かくは・雛田) → 葵亭(きてい・雛田ひなだ、神職/国学) L 1 6 5 2

岳梅関(がくばいかん) → 梅関(ばいかん・菅井すがい、絵師) 3 6 9 0

隔梅山人(隔梅散人かくばいさんじん) → 恒成(つねなり・瀬川/山川、戯作者) C 2 9 9 5

鶴髪児(かくはつじ;号) → 靈源(れいげん;道号・素皎そこう、曹洞僧) 5 1 2 3

W1533 覚範(かくはん;法諱、権僧正範玄[1137-99]男)?-? 平安鎌倉期;興福寺僧/法橋、

藤原為業[寂念]の孫、歌人;1237素俊撰[檜葉集]3首入(法橋覚範名)、  
玄俊(権律師/配流)・信定(尋定/律師)・信舜(法眼)・円経(僧正)・二条院内侍の兄弟  
[冬がれのをばながうへに霜さえて月影さむしまののうら風](檜葉;冬308)

W1534 覚範(かくはん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;寺僧/法師、

歌人;1237素俊撰[檜葉集]7首入(覚範法師名)、

[むしのねをわくるのばらの秋風におつるもおくも袖のしらつゆ](檜葉;秋266)

鶴伴(かくはん・赤木) → 晋和(しんわ・赤木、染織上絵業/俳人) Q 2 2 2 5

1507 覚鑱(かくばん;法諱、諡号;興教大師、伊佐兼元男) 1095-1143 49 肥前藤津の真言僧;

1110仁和寺の寛助門/1114高野山入山/32大伝法院・密厳院を創設/34金剛峯寺座主、  
密教浄土教を鼓吹;金剛峯寺の学侶達と対立・衆徒700人を連れて根来の円明寺創建、  
後世;新義真言宗智山派の祖と称す、  
「孝養集」「鑱字密観」「真言宗義」「真言宗打聞集」「孝養集」、「密厳遺教録」外著多数、  
歌・勅撰3首;続千載(935/1019)続後拾(1222)、  
[真澄鏡ますかがみうつしおこする姿をばまことに三世の仏とぞ見る]、



- (続千; 釈教935/鳥羽天皇の御撫で物の鏡を戴き奏上の詠/936; 鳥羽院の返歌)、  
 [覚鑊の号/称] 号; 正覚坊、称; 鑊上人はんしょうにん/密厳尊者  
 母 → 覚鑊母(かくぼんのはは、伊佐兼元の妻/歌) G 1 5 7 9  
 廓盤(かくばん; 道号) → 高徹(こうてつ; 法諱・廓盤、曹洞僧) K 1 9 7 3
- K1539 学半(がくはん・山本やまもと、名; 信錫/字; 景胤、緑陰男/北山の孫) 1805-5349 江戸下谷儒者; 父門、  
 家学を業とする、「戦国策説」「孟子得源」「学半随筆」著、「随視手録」編、  
 [学半の通称/別号] 通称; 額蔵、別号; 箕山きざん、法号; 教道院  
 学半(がくはん・平松) → 理準(りじゆん・平松ひらまつ、真宗大谷派僧/詩歌) L 4 9 8 6  
 学半斎(がくはんさい・細合) → 斗南(となん・細合ほそあい、儒/詩/書家) O 3 1 5 8  
 覚範寺(かくはんじ; 法号) → 輝宗(てるむね・伊達だて、城主/連歌) D 3 0 0 0  
 学半舎(がくはんしゃ) → 不時宜(ふじぎ・園田、藩士/儒/教育) C 3 8 4 3  
 学半堂逸士(がくはんどういっし) → 北山(ほくざん・山本、儒者/詩人) 3 9 6 4
- G1579 覚鑊母(かくぼんのはは、大宰少貳伊佐兼元の妻、肥前豪族橘氏出身) ?-? 平安後期歌人、続千載1018  
 [底きよき心の水のすみぬれば流るる末もにしへこそゆけ](続千載十1018; 覚鑊へ贈歌、  
 覚鑊の返歌1019; のりつめる人をしわたす舟なれば西の流れに棹やさすらん)  
 学半楼(がくはんろう) → 鳳山(ほうざん・伊藤、漢学者) B 3 9 1 4  
 学半楼(がくはんろう) → 思亭(しえい・丹羽にわ、儒者/家塾教育) V 2 1 1 8
- K1540 格非(かくひ・秋葉あきは、名; 誠) ?- ? 江戸末期下総飯沼詩人、1849「飯沼詩鈔」57「可簡堂詩鈔」編  
 角尾(かくび・酒居) → 角尾((すみお・酒居さかい、藩士/歌人) I 2 3 5 5  
 学美(がくび・石野) → 樵水(しょうすい・石野いしの、藩儒者) T 2 2 6 7  
 鰐尾(がくび・桃/桃井) → 西河(せいか・桃井/桃/脇坂、藩儒/詩) 2 4 7 9  
 覚非道人(かくぶどうじん) → 盤桓(ばんかん・丹羽にわ、藩士/国/書家) H 3 6 3 4  
 覚愍(かくびん) → 観導(かんどう・覚愍、浄土西山派僧) R 1 5 5 2  
 学貧斎(がくひんさい) → 慈音(じおんに: 法諱・水原、真宗勤王僧) Z 2 1 9 0  
 雀阜(かくふ) → 菊貫(きくつら・真田幸弘、藩主/歌/俳) 1 6 9 8  
 鶴夫(かくふ・伊東) → 遜斎(そんさい・伊東いとう、書家) F 2 5 4 2  
 鰐部翁(がくぶおう) → 大潔(ひろきよ・宇都宮うつのみや、博学/地誌) F 3 7 7 7  
 格物菴(かくぶつあん・林) → 春勝(はるかつ・林、鷲峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0  
 格物堂(かくぶつどう) → 秀挺(しゅうてい・西脇にしわき、医・本草家) Y 2 1 0 7  
 鶴舞堂(かくぶどう) → 蘭斎(らんさい・立花たちばな、儒者) C 4 8 2 3  
 鰐糞(がくふん) → 旧室(きゅうしつ・笠家) C 1 6 0 6  
 角平(かくへい・丹蔵) → 光業(みつなり・丹蔵たんぞう/杉原、神職/国学) J 4 1 7 3  
 鶴平(かくへい) → 鶴平(つるへい・下山しもやま、書籍商/俳人) E 2 9 6 7
- K1541 覚兵衛(かくべえ・得能とくのう) ? - ? 江戸後期越中礪波庄屋、1834「得能家伝写記写」編  
 角兵衛(かくべえ・後藤) → 一之(いっし・かずゆき・沢口、和算家) B 1 1 4 4  
 角兵衛(かくべえ・岩崎) → 長容(ながかた・岩崎いわさき、藩士/画) L 3 2 2 2  
 覚兵衛(かくべえ・安積) → 澹泊(たんぱく・安積あさか、儒者/史家) 2 6 9 5  
 覚兵衛(かくべえ・箱石) → 清左衛門(せいざえもん・箱石はこいし、藩士/砲術) I 2 4 3 9  
 覚兵衛(かくべえ・吉川) → 茂周(しげちか・吉川よしかわ、藩士/地誌) C 2 1 4 2  
 覚兵衛(かくべえ・浅野) → 保武(やすたけ・浅野あさの、歌人/華/茶人) F 4 5 1 4  
 覚兵衛(かくべえ・岩城) → 蟾居(せんきよ・岩城、商家/俳人) M 2 4 0 5  
 学兵衛(がくべえ・坂本) → 義邵(のりよし・坂本さかもと/一色、藩士/神道) I 3 5 6 2
- W1531 覚遍(かくへん; 法諱、光覚男) 1175-? 平安鎌倉期; 大和興福寺僧; 正覚(権僧正)門、  
 法印/歌人; 光明院で十首歌・月次歌会など催行、1237素俊撰[檜葉ならのは集]9首入、  
 [ふる里に猶おとづれるるあらしかかないつまで人のゆめのこしけむ](檜葉; 雑二876)  
 [貞慶上人笠置寺に住みける(1193隠棲)にまかりて山中遇友といへる事をよみ侍りける、  
 おもひいつやなれしみやこのあらしにあはれといひしみねのまつ風](檜葉; 雑898)
- B1572 覚弁(かくべん; 法諱、覚長、奈良僧都、藤原俊成男/母; 為忠女忠子) 1132-9968 平安鎌倉期法相僧;  
 1169出家、済円門/94法隆寺別当・99興福寺権別当、法印/権大僧都、菊苑住、範円の師、  
 歌; 千載538/新古1776、檜葉集10首入、定家の異母兄、寂蓮・覚禅の兄弟/長賢の父、

[たびねするこのした露の袖にまた時雨ふるなりさよの中山](千載; 羈旅538/律師覚弁)、  
[吹くたびにさそひゆけどもむめのはなにほひは風につきせざりけり]、  
(檜葉; 春14/権大僧都覚弁)

- K1542 **鶴歩**(かくほ・平野ひらの、別号; 五雲) ?-? 江中期江戸深川の市い長/俳人、  
松蘿から其角懐紙を譲渡; 1745「鶴のあゆみ」編
- K1543 **鶴甫**(かくほ; 通称・中里なかざと、名; 重栄/字; 子信、高充男) 1718-1801 84 代々山形藩医; 1736家督、  
1746藩主転封で下総佐倉藩医、51多病で家督を弟長富ながとみに譲渡/致仕後も後進指導、  
「三世得効方」著
- K1544 **雀歩**(かくほ・) ? - ? 江末期俳人; 1807「付合手引草」「発句手引草」著
- H1537 **学圃**(かくほ・井土いど、喜多岡元賢2男) 1782-1862 81歳 筑前福岡士の家/儒者; 藩儒井土南山門;  
その婿養子となる、1800井土家の家督継嗣; 1806藩校修猷館準訓導、1808上京; 若槻幾斎門、  
帰郷; 修猷館訓導/助教; 藩儒、1813秋月藩侯侍読/14(文化11)福岡藩佐督学、  
忌諱に触れ失職、赦免; 1837(天保8)訓導に再任、  
「博愛心鑑診解」「玉霰集」「水風藻」「烈女阿正伝」「擬小学外篇」外著多数、  
[学圃(;)号]の名/字/通称/別号]名; 周磐かぬわ/誠愨、字; 鴻漸、通称; 左一/佐市/再稚/佐助、  
別号; 古谷/鋸溪きよけい
- 学補(かくほ・柏原) → 学而(かくじ、柏原かしばら、蘭医者) J 1 5 9 3  
学圃(かくほ・勝部) → 景浜(かげはま・勝部かつべ、庄屋/歌人/画) U 1 5 2 9  
学圃(かくほ・杉) → 梅太郎(うめたろう・杉すぎ、藩士/教育) D 1 2 3 8
- H1538 **鶴峰**(かくほう・松原まつばら、一清/字; 土清/通称孫七郎) ?-? 江前期広島藩儒、詩人、  
1683「出思稿」1700「石井三丞行状」、「遊東志」「記諸紳編」、「鶴峰先生文集」著
- K1545 **覺芳**(かくほう; 字・了春; 号、俗姓松尾) 1695-1750 56 讃岐国造田天台僧/長尾寺・金倉寺住僧、  
書家、園城寺より招聘; 三井寺勸学院司講、  
「四度行事記」1725「伝燈瑜伽教籍志」編/37「真言行事記」著
- K1546 **覺峰**(かくほう; 法諱・名; 親秋/眞如、三村親政男) 1729-1815 87 大阪真言僧; 1749大空門/真言密教、  
駒ヶ谷金剛輪寺住持、阿闍梨/杜本社僧、国学/国典・歌を修学/一絃琴を嗜む、勤王を主唱、  
「白鳥三陵考」「四々山記」「書写山紀行」「難波津宮并大郡小郡考」「駒谷夜話」著、  
「仁徳天皇陵墓考」著、  
[覺峰の号] 麦飯仙ばくほんせん/麦飯真人/四々山人/十六山人/一絃仙窟/駒谷仙人/
- K1547 **覺宝**(かくほう; 法諱、俗姓; 大宮) 1821-79 59歳 京真言僧; 宏宝門、東寺觀智院17世/僧正、  
勤王派、1854「袞袖記」67「露の道芝」、「一見一笑百見笑」「花鯨要記」「伝法私記」外著多数
- 格峰(かくほう; 道号・実外) → 実外(じつがい; 法諱・格峰、黄檗僧) U 2 1 5 3  
格峰(かくほう・野/人見) → 桃源(とうげん・人見ひとみ/野、幕府儒官) D 3 1 4 2  
鶴峯(かくほう; 号) → 在庵(ざいあん; 道号・普在; 法諱、臨濟僧) H 2 0 0 1  
鶴峯(かくほう・西) → 玄東(げんとう・西にし、藩士/医者) F 1 8 0 6  
鶴峯(かくほう・水野) → 忠央(ただなか/ただちか・水野、城主/学問) Q 2 6 2 8  
鶴峯(かくほう・松浦) → 詮(あきら・松浦まつうら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4  
鶴峰(かくほう; 号) → 祖溪(そけい; 道号・徳濬; 法諱、臨濟僧) J 2 5 5 6  
鶴峰(かくほう・那珂) → 通博(みちひろ・那珂なか、儒/詩歌) C 4 1 3 9  
鶴包(かくほう・三升) → 亀玉(きぎょく・亀玉堂きぎょくどう、狂歌) J 1 6 4 1  
鶴峯子(かくほうし) → 琢眼(たくげん・勝山かつやま、絵師) N 2 6 9 6
- B1574 **覺法親王**(かくほうほっしんのう、白河天皇皇子/母; 源顕房女師子) 1091-1153 63 真言仁和寺4世門跡、  
103覺行法親王門/09伝法灌頂受/12親王宣下/27二品権大僧都、「高野御室御記」、  
「高野御室御口決鈔」「無量寿如来念誦次第」著、歌; 千載517/統千1031、統詞花集入、  
[定めなき憂き世の中と知りぬればいづくも旅の心地こそすれ](千載517、  
高野に参詣の道にて詠/高野法親王名/統詞花735; 前仁和寺宮名)  
[覺法法親王の法諱/通称]法諱; 眞行/行眞/覺法、  
通称; 高野御室/勝蓮華寺獅子王宮/前仁和寺宮(統詞花集)
- 学北隠士(かくほくいんし) → 正運(しょううん; 法諱、本願寺派学僧) H 2 2 0 3  
隔凡所(かくぼんしよ) → 澹斎(たんさい・岡おか、医者/詩人/本草) T 2 6 4 8

- 覚馬(嘉久馬かまくま・横山)→ 直方(なおかた・横山、儒/国学) 3 2 9 8  
 鶴馬(かまくま・早崎) → 益(すすむ・早崎はやさき、藩士/骨董商/歌) D 2 3 3 7  
 角間川の聖人(かくながわのせいじん)→東堤(とうてい・落合、儒者/稲改良) G 3 1 5 8  
 角丸(かくまる→かどまる) → 角丸(かどまる・吉田よしだ、浄瑠璃作者) C 1 5 6 1  
 K1548 覚満(かくまん;法諱) 1214 - ? 1292(79歳)存 真言高野山住僧、1285(72歳)まで高野山に住、  
 1292(正応5)根来豊福寺に住、「秘蔵金宝集伝授目録」「三昧耶戒灌頂」著、  
 「異流金宝目録」編、1292「高野山大伝法院本願靈瑞並寺家縁起」著  
 角満丸(かくまんがん) → 角満丸(かどのまんまる、狂歌) S 1 5 0 0  
 格宮(かくみや→ただのみや) → 室子女王(しつじょおう、江戸期歌人) E 2 1 9 2  
 B1573 覚明(かくみょう;法諱・孤峰こほう;道号、俗姓平) 1271-1361長寿91 会津僧/初め天台僧;1287良範門、  
 諸国に参禅/臨濟僧:無本覚心門、1311入元、帰国後能登の瑩山けいざん紹瑾門、  
 瑩山紹瑾から曹洞宗の菩薩戒血脈を受、出雲雲樹寺開/1333伯耆で後醍醐天皇に授戒、  
 1346無本覚心に嗣法;臨濟僧:1346興国寺/洛北妙光寺住持/南朝後村上天皇に授戒、  
 和泉高石大雄寺開山、「徹心録」著、「円頓三聚一心戒」編、  
 [覚明の別道号/号]別道号;月海、号;雲樹国済国師/三光国師  
 覚妙(かくみょう;字・密源)→ 密源(みつげん;法諱・覚妙、真言律僧) D 4 1 3 6  
 覚妙(かくみょう;法名) → 麗子(れいし/よしこ・源/藤原、師実室/歌) 5 1 3 2  
 覚明(かくみょう・大夫房) → 信救(しんきゅう、義仲の右筆、管根縁起著者説の1) N 2 2 8 1  
 覚明(かくみょう[覚明房];字)→ 長西(ちようさい;法諱、浄土僧) I 2 8 3 6  
 覚明(かくみょう;法諱) → 性海(しょうかい;法諱、讃岐の真宗僧) H 2 2 5 9  
 学妙(がくみょう;字) → 日体(にったい・十如院、日蓮僧) F 3 3 0 2  
 覚明房(かみょうぼう) → 長西(ちようさい・覚明房、浄土僧) I 2 8 3 6  
 鶴眠堂叟(かくみんどうそう) → 応中(まさなか・印東いんどう、藩士/歌人) N 4 0 8 8  
 鶴夢(かくむ・宮部) → 義旭(よしあきら・宮部みやべ、藩老/蘭学) C 4 7 0 5  
 B1575 鶴鳴(かくめい・市川いちかわ、名;匡/匡磨たずまる、正芳男) 1740-9556 上州高崎儒者;熊耳門/高崎藩右筆、  
 京に遊学/尾張鳴海・京・大阪に転居/1791帰藩、宣長に反論、1780「末賀能比礼まがのひれ」著、  
 1789「帝範国字解」92「臣軌国字解」、「鶴鳴集」「鶴鳴舎文集」「読莊子」「南留別志」著、  
 [鶴鳴の字/通称/別号]字;子人、通称;多門/藤兵衛、別号;無鬼、法号;為則院  
 H1539 鶴鳴(かくめい・岡田おかだ、名;皐、字;士聞/士簡)?-? 江後期河内一宮神職/幕臣水野監物家臣、  
 儒者;海保皐鶴門/詩・青陵門、帰郷;経文の講義を業、1791「鶴鳴詩鈔」「岡氏家訓」編、  
 1800「鶴鳴文鈔」「雪乃明仄[曙]」、「一宮神祠碑」著、  
 [鶴鳴の通称] 本房/治右衛門/幸之允  
 妻;逸子は文筆家→ 鶴鳴妻(かくめいのつま・岡田、小磯逸) K 1 5 5 0  
 K1549 鶴鳴(かくめい・遠近とおちか、名;斐たすく、字;民彝、宇和屋喜与助男) 1795-184450歳 土佐中村の富商、  
 屋号;宇和屋/もと伊予宇和郡遠近村の出、儒学;篠崎小竹門/国学;岩垣東園門、  
 中村に家塾開/地元行政に功;苗字帯刀/庄屋に抜擢、「鶴鳴堂文集」著、「鶴鳴遺稿」  
 E1579 鶴鳴(かくめい・九皐庵きゅうこうあん/聞天館ぶんてんかん)?-? 江後期紀伊和歌山藩士/文筆家、  
 1828「紀之柴折」著  
 覚明(かくめい・大夫房、義仲の右筆)→ 信救(しんきゅう;法諱) N 2 2 8 1 ③  
 覚明(かくめい[覚明房];字)→ 長西(ちようさい;法諱、浄土僧) I 2 8 3 6  
 覚明(かくめい→かくみょう;法諱)→ 性海(しょうかい;法諱、讃岐の真宗僧) H 2 2 5 9  
 鶴鳴(かくめい・高沢) → 忠順(ただより・高沢、金沢藩記録者) R 2 6 4 2  
 鶴鳴(かくめい・阿部) → 岳陽(がくよう・阿部あべ、医者/漢学) K 1 5 5 6  
 鶴鳴(かくめい・中村) → 敬字(けいじ・中村なかむら、幕臣/教育家) E 1 8 6 4  
 鶴鳴外史(かくめいがいし) → 又玄(またくろ・竹内たけうち、医者/本草) J 4 0 3 7  
 鶴鳴堂(かくめいどう) → 融思(ゆうし・石崎/荒木、目利/絵師) C 4 6 1 3  
 K1550 鶴鳴妻(かくめいのつま・岡田おかだ、小磯こいそ逸・逸子はやこ)?-?寛政1789-1801頃没 京の人、  
 花山院前右府公の女に出仕(侍女)、松前藩主に輿入れに同行/1777帰京/岡田鶴鳴と結婚、  
 夫は河内一宮神職;河内枚方に住、文筆家;1777「奥のあら海」「一のみやの記」著  
 鶴毛亭虎州(かくもうていこしゅう)→ 虎州(こしゅう・鶴毛亭、俳人) C 1 9 8 9



- 廓門(かくもん;道号) → 貫徹(かんでつ;法諱・廓門、曹洞僧) R 1 5 4 8  
 加久夜長帯刀(かぐやちほきのおさ) → 筋信(としのぶ・藤原、廷臣/歌人) N 3 1 2 8  
 香久山鉾杉(かぐやまのほこすぎ) → 直古(なおひさ・柴崎/森、商家/国学/狂歌) C 3 2 2 0
- K1551 覚瑜(かくゆ;法諱・出阿/住心;号、出雲路上人、文章生康房男) 1158-1233 76歳 京天台僧;  
 三井寺の良慶門;天台教学を修学、慶範門;密教を修学、のち源空の称名念仏に傾倒、  
 40歳頃奈良の光明山に住/京の出雲路に庵居;諸行本願義を唱導、  
 源空直弟子の九品寺長西は師没後覚瑜に私淑、「十誓願」、「聖天講式」「善導和尚類聚伝」著
- 1509 覚猷(かくゆう;法諱・顕智;名、鳥羽僧正/法輪院僧正、源隆国男) 1053-1140 88 京天台僧;園城寺入、  
 顕密;覚円門/頼豪より灌頂を受、鳥羽院護持僧、1134大僧正/38延暦寺47世座主、画技秀逸、  
 仏教図像研究、「鳥獣人物戯画」「信貴山縁起」「將軍塚絵巻」「稚児草紙」「屁合戦絵巻」画等
- K1552 覚祐(かくゆう・中坊なかのぼう、左近、秀度男)?-? 1547南都奉行、連歌:45昌休の百韻参加、  
 1574光秀らと百韻
- K1553 客遊(かくゆう) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」1句入、  
 [時鳥聞きそこなはぬ鰥(かみ)やもめ哉](蓮実;222/夜更かしの多い男やもめは聞き逃さない)
- K1554 覚融(かくゆう;法諱・宏道;字、号;白雲居) 1702-88 87 尾張真言僧、因明/性相学修学;  
 豊山性相学の祖、名古屋城中の天王坊25世、儒学/歌に通ず、  
 1781(安永10/80歳)絵師内藤東甫(閑水)主催の金剛山長栄寺尚齒会に参加(9人);詠歌  
 「醍醐御口訣」「三部鈔口訣輯考」「六合釈講要」外著多数
- 覚融(かくゆう;法諱) → 行観(ぎょうかん;称・覚融、浄土宗西山派僧) N 1 6 5 5  
 覚雄(かくゆう) → 覚雄(かくおう;法諱、真言僧) J 1 5 5 6  
 鶴友(かくゆう・奥瀬) → 清筋(清閑きよひろ・奥瀬おくせ、藩士/儒者) Q 1 6 2 3  
 鶴雄(かくゆう・滝村) → 鶴雄(つるお・滝村たきむら、幕臣/史家) E 2 9 5 8  
 鶴雄(かくゆう・田中) → 亦太郎(またたろう・田中/小林、藩士/国学) J 4 0 5 0
- E1586 岳融(がくゆう) ? - ? 詩人、1792「壺邱詩稿二集」跋  
 廓遊舎(かくゆうしゃ) → 文盛(ぶんせい、茶番) F 3 8 9 2
- B1576 覚誉(かくよ;法諱、法雲院法印、北家藤原師季男) 1068-1146 79 興福寺法相僧/1129西大寺別当、  
 1130権律師/37権少僧都/39興福寺別当/法印/権大僧都、中御門宗忠と親交、説法に長ず、  
 歌;金葉708、  
 [罪はしも露も残らず消えぬらん長き夜すがらくゆる思ひに](金葉;補遺歌708、  
 衆罪如霜露という文[観普賢菩薩行法経]をよむ/しもと霜・燻ゆる火と悔ゆるを掛る)
- S1568 鶴与(かくよ) ? - ? 江前期上方(大阪?)の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」第二桜貝脇句入、  
 [海原青き柳まないた](桜貝脇句/柳の俎は痛止・消腫など病に効能あり、  
 発句一友;九この枝えや八重の塩ふく櫻貝)
- K1555 覚誉(かくよ;法諱) ? - ? 江戸中期浄土僧、遠江小笠郡笠原村の選要寺住持、  
 「大原談義選要鈔」著
- 覚誉(かくよ・性蓮社) → 伝秀(でんしゅう、関東浄土僧) D 3 0 7 6  
 覚誉(かくよ・正蓮社) → 秀峰(しゅうほう;法諱、浄土僧) Y 2 1 3 9  
 格容(かくよう・赤川) → 知至(ともゆき・赤川あかがわ、藩士/歌人) T 3 1 8 7
- K1556 岳陽(がくよう・阿部あべ、名;鶴鳴/字;子野/通称玄議) 1752-1805 54 陸前代々医者、漢学;富田王屋門、  
 1772「春鶯囀」、「医律」「鍼術反正」「南朝記事」著
- H1580 岳陽(がくよう・金こん、名;秀実/秀順、字;応元/天祐) 1758-1813 56 秋田儒者;山本北山門、秋田藩士、  
 財用奉行/藩校明德館文学/1811祭酒、1834「孝経義」、「伯夷伝解」「曆法集説」「授業語纂」著、  
 [岳陽の通称/別号]通称;字平次、別号;玉振、寛斎
- H1540 岳陽(がくよう・増田ますだ、名;允孝、順行よりゆき男) 1825-99 75 駿河儒者;昌平鬻出、駿河田中藩師範、  
 「通鑑攬要」著
- 岳陽(がくよう;号) → 澹空(たんくう;法諱・旭応;字、浄土僧) T 2 6 2 9  
 覚耀院(かくよういん) → 日栄(にちえい・芸聚うんしゅう、日蓮僧) 3 3 6 4  
 覚養房(かくようぼう) → 祐秀(ゆうしゅう;法諱、天台僧) C 4 6 2 7
- B1577 覚誉法親王(かくよほつしんのう、花園天皇皇子) 1320-82 63歳 母;正親町おおぎまち実明女の後伏見院一条、

聖護院門跡/天台園城寺長吏/二品、「悉曇記」著、持明院統派歌人、貞和百首参加、  
1345実教[藤葉集]3首入、56延文百首参加、62木幡で歌合催/63五十首歌を召す、  
崇光院仙洞歌合参加、  
勅撰29首;風(5首428/534/868/1260/1455)新千(6首)新拾(7首)新後拾(3首)新続古(8首)、  
[吹きわくる木ずゑの月はかげふけてすだれにすさぶ風ぞ涼しき](風雅;夏428)  
[露霜の色にはみえぬ紅にいかで染めける木葉なるらん](藤葉;秋282)

香久良(かぐら・押上) → 直泰(なおやす・押上おしあげ、国学者) L 3 2 5 4

神楽声園(かぐらせいえん) → 道堅(みちかた・日下部くさかべ、国学者) I 4 1 9 4

S1505 神楽坂住(かぐらのさかざみ) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入;

[顔見せの一番太鼓音すなり暁かけて霜月の空](千載398:匡房、歌舞伎顔見せ11月1日)

神楽舎(かぐらのや) → 光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王) 4 1 3 0

K1557 藿里(かくり・横溝よこみぞ、名;恒、安原義鎮男)1781-1834<sup>54</sup> 横溝義包の養子、  
備中赤崎の儒者;西山拙斎門、昌平黌に修学;古賀精里門、大阪で講説業、  
のち帰郷し子弟教育、「藿里詩文集」「朱子語類抄」「易説」著、  
[藿里の字/通称/別号]字;子久、通称;俊輔、別号;赤洲

角里(かくり;号) → 天嶺(てんれい;道号・性空;法諱、臨濟僧) E 3 0 6 0

覚理(かくり;法名) → 兼平(かねひら・鷹司、摂政関白、歌人) D 1 5 0 0

学律(がくりつ;字) → 覚盛(かくじょう;法諱、律僧) E 1 5 7 6

鶴立舎(かくりつしゃ) → 羅江(らこう・中嶋なかじま/源、俳人) B 4 8 3 2

S1528 角流(かくりゅう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入

[人交ぜず五十過ぐればくらひ詰め](二葉之松;161/くらひ詰は行詰り)

K1558 廓龍(かくりゅう;法諱) ? - ? 元禄(1688-1704)頃の時宗僧、鹿児島浄光寺住、  
1694-1704尊通「播州問答領解鈔」後六卷著;刊

各柳(かくりゅう) → 莎笠(さりゅう、俳人) L 2 0 6 6

覚隆(かくりゅう;字) → 日堅(にちけん;法諱・樹眞院、日蓮僧) B 3 3 5 8

岳竜(がくりゅう・加藤) → 泰幹(やすもと・加藤かとう、藩主/詩文) D 4 5 2 8

K1559 鶴立斎(かくりゅうさい・田鎖たぐさり、名;光竜、田鎖治五右衛門光康2男)1773-1829<sup>57</sup> 盛岡南部藩絵師、  
絵師田鎖英左衛門の養子/一時江戸外桜田に住、花鳥画、「書画帖」画、息子光虎も絵師、  
[鶴立斎の字/通称/別号]字;希亮、通称;富治/矢柄、別号;平館

覚柳斎(かくりゅうさい) → 岑信(みねのぶ・狩野かのう、幕府奥絵師) F 4 1 5 2

確龍堂(かくりゅうどう) → 昌益(しょうえき・安藤、医者/思想家) F 2 2 4 7

K1560 鶴陵(かくりょう・片倉かたくら、字;深甫、周意男)1751-1822<sup>72</sup> 相模津久井生/江戸医者;

多紀元孝・元徳門、儒;井上金峨門、1775江戸白金町で開業/上京し産科修得;賀川玄悦門、  
再度江戸開業、隣家の蘭医嶺春泰と交流、

1787「屠蘇考」92「医学質験」95「産科発蒙」1801「青囊瑣探」外著多、

[鶴陵の通称/別号]通称;元周、別号;静儉堂、法号;顕考院

E1580 鶴梁(かくりょう・林はやし、名;鷲とう/字;長孺、西川力蔵男)1806-78<sup>73</sup> 上州群馬萩村儒者;長野豊山門、  
のち松崎慊堂門、江戸で開塾/御家人林家の株を取得/幕臣;甲府徼典館学頭、  
遠州中泉の代官など、1861降嫁の和宮付き/61西丸納戸頭/62新徴組支配頭、  
致仕後;尊攘思想;勤王志士と親交、

1863「十日録」67「鶴梁文鈔」、「醉亭詩話」「紀舟行」「四得録」、「鶴梁先生日記/文稿」著、

[鶴梁の通称/別号]通称;鉄蔵/伊太郎/猪太郎/伊三郎/鉄太郎、

別号;醉亭/鶴橋/蒼鹿

覚了(かくりょう;法諱) → 月珠(げっしゅう;字・覚了、真宗本願寺派僧) H 1 8 0 6

覚了(鶴梁かくりょう;法諱) → 黙霖(もくりん・宇都宮うつのみや、真宗僧/勤王) J 4 4 0 0

鶴陵(かくりょう・坂尾) → 幽栖(ゆうせい・坂尾さかお、藩士/儒者) C 4 6 9 8

廓亮(かくりょう;法諱) → 大瀛(だいえい;法諱・子容、真宗本願寺派僧) J 2 6 1 8

覚了房道崇(かくりょうぼうどうすう;入道号) → 時頼(ときより・北条/平、執権/教訓書) K 3 1 3 4

E1581 鶴林(かくりん・高こう) ? - ? 渡来唐人、778「唐大和上東征伝」追悼詩入

- K1561 **鶴林**(かくりん・池辺いけべ、名;盛唯/通称藤平)?-1748 熊本藩士/儒者;茂庵/水足屏山門、  
1733五人扶持/44中小姓、「鶴林詩稿」著
- K1562 **角麟**(かくりん・道号・**?**欽;法諱)?-1743夭折 曹洞僧;遠州竜泉寺実徹照海門、  
「竜泉源咬(きょう)歴志」補
- B1578 **鶴林**(かくりん・五松いつまつ)1743-1813**71歳** 出羽米沢の書家;京の菅家の書法を修学;  
菅家より菅原の性と法橋位を受ける、江戸で書を教授、近衛流に長ず、  
[五松鶴林(;号)の本姓/名/字/通称]姓;小林、名;忠俊、字;公英、通称;次右衛門
- 鶴林(かくりん) → 水国(すいこく・雲津、俳人) 2 3 5 4
- 鶴林(かくりん) → 日応(にちおう;法諱・玄龍院/日蓮僧/歌)H 3 3 1 6
- 学林(がくりん;字) → 日徳(にっとく;法諱・興林院、日蓮僧) F 3 3 5 0
- 鶴林院(かくりんいん) → 日運(にちうん;法諱、日蓮僧) 3 3 4 9
- 鶴林院(かくりんいん) → 宣徳(のぶのり・吉村よしむら、家老/歌) C 3 5 7 5
- 鶴林翁(かくりんおう) → 忠俊(ただとし・菅原すがわら、書家) Q 2 6 0 7
- 楽林軒(がくりんけん) → 有俊(ありとし・綾小路あやのこうじ、廷臣/郢曲)C 1 0 3 2
- 鶴林(麟)堂(かくりんどう・山野)→ 孫兵衛(まごべえ・鱗形うろこがた屋、書肆)4 0 8 3
- 鶴林堂(かくりんどう) → 喜兵衛(きへえ・八尾屋やおや、金沢書肆) L 1 6 8 8
- 鶴麟堂(かくりんどう) → 珍重(ちんちょう・羽川はねかわ、絵師) K 2 8 8 9
- 覚吟(かくれい;字) → 日忍(にちにん;法諱・智門院、日蓮僧) D 3 3 0 8
- 鶴嶺(かくれい・内藤) → 信親(のぶちか・内藤、藩主/老中) C 3 5 0 2
- 鶴齡(かくれい・松井) → 竹山(ちくざん・松井/亘理/岩間、医者/詩)D 2 8 0 8
- 学靈(がくれい;字) → 得仁(とくにん;法諱・学靈、真言僧) L 3 1 2 7
- B1579 **覚蓮**(かくれん・法諱、俗名;高階行隆[隆行]、高階盛章男)1142-? 1187存 平安後期仁和寺?の僧、  
歌人;千載600(;仁和寺道性親王[1187没]の墓所にて詠)  
[山の端にたなびく雲やゆくへなくなりし煙けりの形見なるらむ](千載;九哀傷600)
- 覚蓮(かくれん・法名) → 知康(ともやす・丹波たんば、医者) Q 3 1 7 2
- 郭蓮社(かくれんしゃ) → 氷几(ひょうき、俳人) F 3 7 1 7
- E1582 **かくれん坊目隠**(かくれんぼうめかくし)?-? 江戸芝金杉の住僧;一向宗の院主、狂歌、  
1782「初笑不琢玉」、1785「後万載集」入、  
[五月雨に厩も水のひたひたと庭はいけずき空はするすみ](徳和歌後万載集;三・夏)  
(池月・磨墨の宇治川先陣争いを掛ける)
- 確蓮坊(かくれんぼう) → 北華(ほっか・山崎、医/俳/戯作) E 3 9 4 8
- 覚蓮房(かくれんぼう) → 義秀(ぎしゅう;法諱・桜井さくらい、僧/国学)U 1 6 4 2
- 閣連坊(かくれんぼう) → 文祇(ぶんぎ・雞田、戯作者/俳人) E 3 8 9 6
- E1583 **角呂**(かくろ・九成堂) ? - ? 俳人;美濃関の三羽鳥、1700「雪月花集」編、芭蕉7回忌追善
- 確廬(かくろ・石王) → 塞軒(そっけん・石王いしおう、儒者) E 2 5 0 2
- B1580 **岳輅**(がくろ;号、別号;虎足庵/秀円、法諱;源慧)?-1821:**70余歳** 名古屋真宗乘西寺12世/権律師、  
俳人;暁台門/五老の1、国学;1789宣長門、1794「俄さくら」98「法々華経」1801「春鶯囀」編、  
1801「さだをか」04「雪袋ゆきぶくろ」07「佳無固鳥かんどり集」編、「博天集」「春の夜」「真蹟発句帖」著
- 学魯(がくろ・石原/石) → 哲庵(ていあん・石原、儒/詩/医) 3 0 2 3
- E1584 **鶴楼**(確楼かくろう・益田ますだ/修姓;田、玄春男)?-1751(1736?) 江戸の薬種業/詩人・新井白石門、  
古文辞学修学、1762「鶴楼遺編」、「南郭先生文集」第三編に「鶴楼伝」あり、  
[鶴楼(確楼;号)の名/字/通称/別号]名;玄尚/助、字;伯隣、通称;助右衛門、別号;売薬翁
- K1563 **覚郎**(かくろう・園木そのき、号;雪山)?-1800 阿波徳島の兵学者;若山信直門;三木流流兵学、  
無尽流と自称、竹樹林に隠居、詩歌を嗜む、「森之雫」著
- 鶴楼(かくろう・原田) → 復初(ふくしょ・原田はらだ、儒者) B 3 8 5 7
- 角浪(かくろう・沼) → 珠来(しゅらい・洪こう/沼しょう、俳人) J 2 1 0 7
- 額浪(がくろう・森) → 共之(ともゆき・森、医者/漢学) Q 3 1 7 9
- 雀麓(かくろう・桑そう/桑山)→ 玉洲(ぎょくしゅう・桑山、絵師) D 1 6 0 2
- 角鹿(かくろう・石垣) → 東平(はるひら・石垣いしがき、藩士/画/歌) J 3 6 7 0
- 角鹿斎(かくろうさい) → 一鼠(いっそ、製墨業/俳人) B 1 1 5 5



角鹿齋(かくろくさい) → 不石(ふせき、一鼠男/製墨業/俳人) C 3 8 9 1

- K1564 **覺和**(かくわ;法諱/別諱;覺阿、字;日円房)?-? 1313存 真言僧/高野山三藏院住/のち成就院住、1299(永仁7)高野山檢校執行代、高野八傑の1、1313後宇多院御幸に奥院御影供の表白師、「供養法疏」「大日經奥疏聞書」「御手印縁起聞書」著
- E1589 **岳和卿**(がくわきょう) ? - ? 江戸期の僧/漢詩、稻川「思旧漫録」入
- K1565 **景明**(かげあき・大神おおが、多おの忠之男、大神景治養嗣子) 1617-8468 京楽人:笛/雅楽允、安藝守従四下、1643將軍家の招聘;東照宮紅葉山楽人(神楽笛)、「秘伝抄」著
- K1566 **景明**(かげあき・三分一所さんぶいっしょ/さんぶんいっしょ、渡辺/長江、三分一所景益男) 1699-178486 仙台藩儒、父流謫;渡辺のち長江と名乗り兄景豊と共に農業従事/1740赦免;国学指南/45藩儒、1747侍講/旧姓に戻る・近習目付、「三分一所氏自警記」、1775「三分一所平助と女仮名文」著、[景明の字/通称/号]字:岩松、通称;平助/兵助、号;初齋じんさい
- E1590 **景煥**(かげあき・富田とだ、景周男) 1779-183860 加賀金沢藩士/1818家督/20天徳院請取火消/漢学/詩、1825景周「燕台風雅」編、「桜寧齋文集」編(桜寧齋は父景周かげちか)、[景煥(;名)の通称/号]通称;与六郎/織部、号;鶴坡
- K1567 **陽秋**(かげあき・豊原とよはら/豊、安倍季随男) 1812-4837歳 楽人;笙/豊原文秋の養子、筑後守、「楽事大要」「笙譜拾遺」著、実弟胖秋ひろあきを嗣子
- T1549 **景明**(かげあき・井上いづえ、) 1822-189574 大坂長堀の材木商、国学者/歌人、多芸/洒落に親しむ、渡辺保教と交流、保教没後;青木雅宣門/雅宣没後;中村良頭門、蓼生園社中で肝煎となる、歌集「あしのや集」著、  
[たゝ越に春は来ぬらむ草香山けさのとかにも霞みそめたり](早春霞)  
[薄氷いつかとけけむ芹河の水もみどりにけさ流るなり](早春川;あしのや集冒頭)  
[景明(;名)の通称/号]通称;与七郎、号;あしのや/蟹翁/可二
- K1568 **景明**(かげあき・俣野/股野またの、市郎右衛門直吉男) 1838-8346 出羽庄内藩士/1849家督継嗣、1862寺社奉行、1865大砲組番頭/幕末維新の戦役に出陣/洋学;福沢諭吉門、「諷草けんそう抄録」編  
[景明の通称]市郎右衛門/岩五郎/謙一郎
- V1561 **景光**(かげあき・保母ぼぼ、旧姓;井上) 1842-64斬殺23 肥前島原藩士/江戸の生、国学;平田鏡胤門、劍術;斎藤弥九郎門、脱藩;天誅組拳兵に参加;和歌山藩兵に捕縛;  
1864(元治元)京六角の獄で斬殺、  
[景光(;名)の通称]鉞之進えつしのしん/建たけし
- 景明(かげあき・大場) → 南湖(なんこ・大場おおば、藩士/暦算) I 3 2 9 2  
景明(かげあき・天野) → 半酔(はんすい・天野あまの、藩士/文筆) I 3 6 1 0  
景晃(かげあき・香川) → 琴山(きんざん・香川かがわ、藩家老/詩歌) R 1 6 0 7
- 1565 **景明**(かげあき・源みなもと、兼光男)?-? 平安中期廷臣:長門守/右衛門尉/従五下、藤原頼忠・中務・兼澄と交流、歌人:勅撰;7首/拾遺(6首:173/243/505/568/847/963)新古1066、  
[秋の月西にあるかと見えつるは更けゆく夜半の影にぞありける](拾遺:秋173)、(詞書;廉義公[藤原頼忠]家の紙絵に秋の月のおもしろき池ある家ある所)
- U1525 **景審**(かげあき・梶原かじら、景直男) 1795-187278 飛騨大野郡一宮水無神社大宮司;梶原家3代目、初代舎熊いにくま(家熊)いにくまの孫、従五下、国学者、毛利主殿とのも(茂/3代目水無瀬神社大宮司)の父  
☆1773(安永2)農民一揆で山下・森家追放後信濃から梶原家が招聘され大宮司となる、家熊一景直一景審一毛利茂(主殿)  
[景審(;名)の通称]喜代松/陸奥守
- B1581 **景惇**(かげあつ・梶原かじら/本姓平、別名;惇) 1762-183473 讃岐高松の蠟問屋;櫛屋かじわや、国学者/和漢学、史家/詩/書画/茶道、1833高松藩主に史書を献上;藩士となる、「讃岐志」「源英公御年譜」「蘭窓夜話」「蘭窓日抄」「老資園集」「松洲詩稿」「歴世濟勝日録」「修史為徵」「両藩明論」著、  
[景惇(;名)の字/通称/号]字;復初/篤卿/晋候、通称;三平/九郎右衛門/三郎兵衛、

号;三痴学人/藍渠らんきよ/松洲/主静庵/老資園/榊屋かしわや/景照

- I1509 **歌慶**(可慶<sup>かけい</sup>) ? - ? 江前期大和法隆寺清淨院住僧/法橋、俳人、西鶴と交流;「名残の友」(三-二)に入、狂歌;1666行風「古今夷曲<sup>ここんきやく</sup>集」2首入、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[春立つといふばかりにや大おぼくの水気<sup>みづけ</sup>も霞みてけさは見ゆらん](古今夷曲;春5、春立つと茶を点つを掛る/元旦の大福茶;昆布梅干を入れて飲む、  
本歌;春立つといふばかりにやみ吉野の山も霞みて今朝は見ゆらん;拾遺/壬生忠岑)
- 1510 **荷兮**(かけい・山本やまと) 1648- 1716 69歳 尾張名古屋藩士/致仕後医者/俳人:貞門・蕉門、1684「冬の日」86「春の日」89「阿羅野」編、猿蓑頃から蕉風へ反抗、1693「曠野後集」94「ひるねの種」97「橋守」99「青葛葉」編、晩年は連歌師に転向(号;昌達)、  
[夙<sup>すく</sup>がらしに二日の月のふき散るか](阿羅野[曠野]入、この句により「夙の荷兮」と称さる)、  
[荷兮(;)号]の名/通称/号]名;周知/太一/太市、通称;武右衛門、  
号;加慶/撫贅<sup>ぶざい</sup>庵/一柳軒/樞木<sup>すゑぎ</sup>きょうぼく堂/江湖軒、連歌号;昌達
- S1511 **可圭**(かけい) ? - ? 江前期;備後福山の俳人;貞門系、1679浄久「河内鑑名所記」入
- K1569 **可計**(かけい) ? - ? 播磨姫路の俳人;1692才麿「椎の葉」4句入、  
[山道や腹立てながら栗拾ふ](椎の葉;132/山道に迷ふ)
- W1554 **可敬**(かけい・日永ひなが、快意)?- ? 江前中期;古筆鑑定家/歌人、1691了然尼編(茂睡撰)[若むらさき]入、茂睡[鳥之跡]2首入(;日永屋快意可敬名)、  
[もれ出でてさやかなるべき雲間にもなほ月影は霞む空かな](若むらさき;月前霞)  
[里人や寝ぬ夜重ねてうきわざの身に馴衣うち明すらん](鳥之跡;413/擣衣)
- E1591 **可啓**(かけい・浅田) ? - ? 江中期元文1736-41頃竹本座付の浄瑠璃作者、1739「ひらかな盛衰記」40「今川本領猫魔館」合作  
一鳥と同一? → 一鳥(いっちょう・浅田、豊竹座付) B 1 1 6 0
- K1570 **可兮**(かけい・蔭山かげやま、通称;弥三右衛門) 1726-97 72歳 越前府中の商家/俳人、1767「其影」94「色紙塚」編、  
[可兮の別号]青几観/青々観/観几下/机山仙/春々観/樸老人<sup>れきろうじん</sup>/如是仙、屋号;薄金屋
- H1541 **果卿**(かけい・村松むらまつ、名;英之/別号;果郷、蘆溪4男)?-? 江中後期越後の儒者;家学継嗣、越後高田藩儒となる、「百官一斑」「東都雑詠」著
- F1586 **霞溪**(かけい) ? - ? 歌人、1761「魚蟲歌合」序(前編刊行)
- K1571 **華溪**(かけい・奥平おくだいら、名;重該/字;伯堅)?-? 江中期安永1772-81頃;豊前中津の儒者/詩人、1776「東岳先生筆疇」編
- K1572 **華溪**(かけい・近藤こんどう/本姓水野、名;章/字;隆昌/別号;泉海)?-1797 南紀の医者:近藤宗賢門、師の姓を名乗る/堺で医開業/漢学;朝鮮通信使と応酬、1779「古方類苑」編、文溪<sup>ぶんけい</sup>の父
- K1573 **可慶**(かけい・十寸見ますみ/伊藤、通称;金次郎) 1807-71 65 越後浄瑠璃太夫:1821江戸で百瀬檢校門、河東節;山彦せき・4世山彦河良門、1854剃髪;可慶と称す、河東節中興名人、1858「十寸見要集」編(新曲20曲所収)、「田植三番叟」編、  
[十寸見可慶の別号]山彦秀次郎3世/山彦紫存2世/十寸見東觚<sup>とうこ</sup>2世/江戸太夫河丈5世、没後追号;九世十寸見河東
- K1574 **可敬**(かけい;字・夏目なつめ、通称;重蔵/号;米花園) 1807-1862 56 三河吉田金物商、1853妻が没/家業不振、地誌家、「長篠合戦略記」著、「三河国名所図絵」(;編纂中に没)
- E1592 **花兄**(かけい・好文舎) ? - ? 幕末期;噺家・三題噺、粹狂連を率いる  
和溪(かけい;道号) → 和溪(わけい/かけい;道号・宗順;法諱、臨濟僧) 5 3 1 8  
家経(かけい・藤原) → 家経(いえつね・藤原、廷臣/歌人) 1 1 4 4  
家経(かけい・一条) → 家経(いえつね・一条/藤原、廷臣/歌人) 1 1 4 5  
家継(かけい・香川) → 家継(いえつぐ・香川<sup>かがわ</sup>、武将/連歌) K 1 1 1 0  
可継(かけい・北) → 可継(よしつぐ・北<sup>きた</sup>、藩家老/詩/記録) E 4 7 6 6  
可卿(笈景<sup>あきかげい</sup>) → 等裁(洞哉/等哉<sup>とうさい</sup>・神戸、俳人) E 3 1 1 8  
可敬(かけい・蜂屋) → 可敬(よしのり・蜂屋<sup>はちや</sup>/源、藩士/詩/書) F 4 7 8 0

可敬(かけい)	→	種寛(しゅかん・朝江/浅江、俳人)	K 2 1 5 7
可敬(かけい)	→	玄璞(げんぼく・回生庵;号、医者)	M 1 8 3 8
佳卿(かけい・蘆沢)	→	一閑(いっかん・蘆沢あしざわ、藩士/記録)	G 1 1 8 1
蒼兄(かけい)	→	楳乃門蒼兄(うめのとかけい、狂歌)	D 1 2 3 9
果卿(かけい・小菅)	→	香村(こうそん・小菅こすげ、儒者/詩人)	K 1 9 4 3
花溪(かけい;道号・行智;法諱)	→	尚経(ひさつね・九条/藤原、関白/記録)	B 3 7 3 9
花溪(かけい・国栖)	→	景雷(けいらい・国栖くず/世古、漢学者)	G 1 8 7 6
花蹊(かけい・跡見)	→	滝野(たきの・跡見あとみ、絵師/書/教育)	V 2 6 2 2
華溪(かけい;道号)	→	正稷(しょうしよく;法諱・華溪、臨濟僧)	J 2 2 9 0
華溪(かけい・今井)	→	宗益(そうえき・今井いまい、蘭学者)	G 2 5 2 5
華溪(かけい・松村/吳)	→	景文(けいぶん・松村まつむら/吳、絵師)	1 8 8 9
華溪(かけい・横山)	→	信平(しんぺい・横山/中尾、絵師/養蚕)	P 2 2 7 7
華溪(かけい・西尾)	→	忠受(たださか・西尾/酒井、藩主/絵画)	U 2 6 3 1
華溪(かけい・勝部)	→	眞楯(またて・勝部かつべ/佐々木、国学者/神職)	O 4 0 9 1
華卿(かけい・高野)	→	正実(まさざね・高野たかの、藩士/歌人)	Q 4 0 6 8
嘉卿(かけい・四辻)	→	公亨(きんみち・四辻よつじ、廷臣/楽譜)	R 1 6 8 2
嘉卿(かけい・林)	→	義内(ぎない・林/村上、医者/滑稽本)	B 1 6 9 2
嘉珪(かけい・正田)	→	嘉珪(よしかど・正田まさだ、国学/歌)	P 4 7 0 8

- K1576 **蝦芸**(かけい・含山軒<sup>がんざんけん</sup>、法諱;性徳/初諱;眞央、超絶院一応男)1721-9171 真宗大谷派の僧、東本願寺16世法主一如の孫、初め近江長浜大通寺5世住職/1762(宝暦12)姫路本徳寺住持、1776越中善徳寺を兼任、俳人;布門・仏仙と親交、詩歌/狂詩/狂歌/茶/生花を嗜む、1791(寛政3)「秋の暮」編、  
[含山軒蝦芸(;号/通称)の別号]別号;蘭阜/含山、法名;横超院真央
- K1575 **景井**(影井<sup>かげい</sup>・谷<sup>たに</sup>に/本姓;大神、好井<sup>よし</sup>男)1798-187073 (一説1795生76歳)、土佐小高坂村の生、文武修業、医・国学・歌を修学/1823(文政6)高岡郡窪川で文武を教授、医を業とす、1846(弘化3)土佐藩校教授館句読役(藩儒)に抜擢;士格得て高知城下に住、俳諧にも通ず、干城<sup>たてき</sup>の父  
「睡余録」「六帖詠格」「詠物六帖」「地震考」「壬癸聯集」「神代図説」「日本紀学柱」著  
[景井(;名)の通称/号]通称;万七、号;九淵/露底、
- F1577 **何帛**(かけい・立林<sup>たてばやし</sup>/平林/北林、名;立德)?-? 相模鎌倉医者;加賀前田家侍医/のち江戸絵師、琳派:乾山門、琳派の江戸伝播の最初、1745「天神図」「松竹梅図屏風」画、1817「光琳漫画」編、  
[何帛の通称/別号]通称;白井宗謙、別号;何帛<sup>かはく</sup>/太青/鶴岡逸民/喜雨齋/長尚/金牛山人
- B1582 **雅慶**(かけい、勸修寺<sup>かじゅうじ</sup>の僧正、敦実親王男)924-101289 平安中期僧;934兄の寛朝門、仁和寺僧、東寺一長者、東大寺別当/大僧正正法勸修寺別当
- K1577 **臥溪**(かけい・井手<sup>いで</sup>、名;松翠/正水、六左衛門渡齋男)1644-? 阿波出身/父浪人し加賀住、書家・田内鉄舟門、1670加賀藩に出仕/御書物役/致仕後洛南に隠棲、1675「草書淵海」編/96「心画纂要」、「井手正水<sup>しょうすい</sup>草書」著、  
[臥溪の字/別号]字;北、別号;渡齋子とさいし/心画齋
- E1594 **雅計**(かけい) ? - ? 江戸談林俳人:1678松意「幕づくし」3吟百韻入・言水「江戸弁慶」入
- E1593 **我兄**(かけい) ? - ? 江戸の俳人、1739巴人「桃桜」・午寂「太郎河」入
- K1578 **賀慶**(かけい・松本<sup>まつもと</sup>、名;喬/字;文美、思齋男)1790-186071 上州碓氷郡板鼻和算家:小野栄重門、伊能忠敬の助手/藩命で測量従事、「富士見十三州図」著、  
[賀慶の通称] 左右助<sup>そうすけ</sup>
- |               |   |                                    |           |
|---------------|---|------------------------------------|-----------|
| 雅経(かけい・飛鳥井)   | → | 雅経(まさつね・飛鳥井/二条/藤原、蹴鞠/歌)            | 4 0 1 2   |
| 雅景(かけい・安並)    | → | 雅景(まさかげ・安並やすなみ、藩士/国学/歌)            | B 4 0 7 2 |
| 雅敬(かけい・木村)    | → | 雅敬(雅孝 <sup>まさたか</sup> ・木村、藩士、医者/歌) | D 4 0 2 5 |
| 芽莖(かけい・黒川)    | → | 惟草(いそう・黒川くろかわ、書家/俳人)               | B 1 1 0 4 |
| 牙卿(かけい・笹島/雨森) | → | 牛南(ぎゅうなん・雨森あめのもり、医者/詩)             | G 1 6 4 7 |
- B1583 **景家**(かけい・え・藤原<sup>ふじわら</sup>、藤原道家男or高野[小田]時家男?)?-? 鎌倉期の武家/六位、歌人、



「東撰六帖」入、続拾遺550・845、  
[あさき瀬はあだ波そへて吉野川淵さへさわぐ五月雨の比こ] (続拾遺春; 550)、  
[景家の号/法名] 号; 太郎左衛門/法名; 如道

可憩斎(かけいさい; 号) → 月舟(げつしゅう; 道号・宗胡; 法諱、曹洞僧) H 1 8 0 8  
可溪斎(かけいさい) → 樗山(ちよざん・佚斎、丹羽忠明、藩士/談義本) K 2 8 3 8  
花谿子(かけいし) → 雪山(せつざん・北島きたじま、書家/儒者) E 2 4 3 7  
下溪主人(かけいしゅじん) → 雪麿(雪丸ゆきまる・下溪主人、俳人) F 4 6 6 3  
花逕樵夫(かけいしやうふ) → 士由(しゆう・大屋/沼倉、国学/俳人) G 2 1 7 0  
花兄堂(かけいどう) → 種知(たねとも・堅田かただ、神職/和漢学/歌) W 2 6 4 9

- K1579 **景海**(かげうみ/かげみ・檜崎ならさき、) 1821-1897 77 長門萩藩士/阿武郡萩小道具町に住、  
国学/歌: 近藤芳樹門、連歌、歌の教授、月並歌会催; 「こゝろみ書」あり、「長門百人一首」著、  
遺歌集「阿武の鄙風」、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[世の中のうき瀬に独りあふの川蘆間の小舟捨てられし身は] ([萩の歌人] 入)、  
[紅くれなゐに見えしあきばはふゆがれて雪の花咲く白髭の森]、  
(「大江戸倭歌」; 冬1287/白髭の杜に雪のつもるを、近江白髭明神社/秋場; 秋の間)  
[景海(; 名)の通称/号] 通称; 五百輔、号; 蘆の屋/蘆翁
- F1501 **景植**(かげえだ・河北かわきた、通称十蔵、号; 笠山/鼓峰) ?-? 1781-89 頃没 70 余歳 伊勢津藩士、  
儒; 1733松岡雄淵門/のち国学・神道; 玉木正英門、神道・山崎闇斎門、伊勢藩儒、  
1773「火忌説」76「助辞鶴」「記瑞異事」、「列朝宇佐記事」著、  
「天祖都城弁」著(: 宣長「神別本紀」を批判)、変名; 河北五十鈴?
- W1524 **景雄**(かげお・吉浦よしうら、) ? - ? 江前期; 上方の歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]60首入、同集入集の吉浦信常と同族か、  
[ねやの内はまだよをこめてくられけれど空やあくらん鳥なくなり] (林葉累塵; 1287)
- 1566 **景雄**(かげお・三島みしま/本姓; 源、別名; 甫) 1727-1812 86 歳 江戸; 幕府將軍家呉服御用商人、  
歌; 1758有栖川職仁親王門、国学: 荷田在満/賀茂真淵門、平曲を修得; 法号自寛、  
1780「角田川扇合」催、1756「官位昇進指掌図」81「平家物語竟宴和歌」、「三島自寛詠草」著、  
「自寛詠草」「上野花見の記」「烟経」「扇合」、「千蔭春海自寛消息」著、  
[景雄の字/通称/号] 字; 子緯、通称; 吉兵衛、号; 自寛/方壺/蕉雨園/三楽庵/蓮台/蓬台、
- W1513 **景雄**(かげお・油井ゆい、通称; 直人) 1728-78 51 陸奥仙台藩士; 小姓頭、国学者
- K1580 **景雄**(かげお・篠原しのはら、名; 正啓/通称清五郎、号; 篠舎) 1789-1852 64 近江蒲生郡の国学者/歌人、  
歌; 前波黙軒門、甲賀郡水口の篠原家を継嗣、「天言活用円鏡」著、「景雄遺詠」
- K1581 **景雄**(かげお・恵川えがわ、字; 君弥さんや/通称弥太郎、景之男) ?-? 江後期1848-60頃紀州藩士/和算家、  
藩命で父と紀州南海を測量、1855「量地小成」著
- K1582 **景雄**(かげお・甫喜山ほきやま/本姓; 藤原) 1828-84 57 歳 国学者: 古書保存に尽力/未刊書刊行、  
1869大学史生、「落窪物語証解」著  
景雄(かげお・下郷しもさと) → 伝芳(でんぼう・下郷しもさと/千代倉、俳人) E 3 0 3 1  
景雄(かげお・桜田) → 贅庵(ぜいあん・桜田さくらだ、儒者) H 2 4 3 3  
景雄(景夫かげお・三上) → 是庵(ぜあん・三上みかみ、藩士/儒者) 2 4 4 6
- U1534 **景岡**(かげおか・鎌田かまた、) 1788-1861 74 肥後熊本藩士; 国学者/藩校時習館訓導、  
[景岡(; 名)の通称/号] 通称; 答次、号; 石楼
- W1557 **景興**(かげおき・姓不詳) ? - ? 江中後期; 江戸の歌人、幕臣?、  
1788(天明8)幕臣の成島衡山(峰雄)の駿河旅に餞歌; 「富士日記」入、  
[旅衣寒さ忘れて明暮れにさぞなめづらし富士の白雪]、  
(富士日記/なめづらし; 常と異なり新鮮に感じられる)
- K1583 **景興**(かげおき・山本やまもと、奥島茂助男/山本孫之丞の養嗣子) 1784-1856 73 肥前平戸藩士、  
1796家督嗣、中小姓頭/中老/1845家老格・壱岐国城代/54家老、  
松浦静山の影響; 国学/茶/詩歌/軍学を修学、古書画蒐集、  
1811「古訳先宗事跡抄」、「長崎御供之日記」著、  
[景興(; 名)の通称] 次郎助/甚左衛門  
景興(かげおき・村林) → 柳庵(りゅうあん・村林むらばやし、医者/国学) M 4 9 2 9

- 影面(かげおも・源/村上) → 影面(かげも/かげおも・源/村上、国学) B 1 5 9 7
- T1540 景員(かげかず・朝倉あさくら、通称;猪平太)1724-6845 尾張名古屋藩士/国学者  
 蔭和(かげかず・菌田) → 守約(もりかね・菌田そのだ/中川、神職) K 4 4 2 0
- E1595 景賢(かげかた) ? - ? 南北期連歌師、1385良基「石山百韻」入(3句)、  
 [風残る檜原ひばらは霜のよも置かじ](石山百韻;賦何船;初裏13、霜も吹払われていよう、  
 遠景を付る/前句;成阿じょうあ;くもる山田に遅き初雪/近景と見る)
- K1584 景賢(かげかた・植田うえだ、字;子斎/通称弥十郎)?-? 江中期1772-89頃京油小路出水の儒者、  
 「後陽成帝以後皇后考」著
- K1585 景賢(かげかた・遠山とおやま、通称;松三郎/三十郎、景德男)?-? 江中期幕臣;1776家督/94納戸組頭、  
 1796小納戸/西丸小納戸、1793「利権論」著
- V1558 景賢(かげかた・二見ふたみ、)1829-190476 相模淘綾ゆるぎ郡山西村の神職、  
 川匂かわわ神社(二ノ宮明神)神主35代:1856(安政3)34代景房かげぶさ(1785-1869)隠居で継嗣;  
 神道白川家入門、  
 [景賢(;名)の通称]神太郎(代々の称)
- V1587 景賢(かげかた・宮原みやはら、)1833-189563 薩摩給黎郡の国学者/歌;香川景恒・井上文雄門  
 [景賢(;名)の通称]勇輔/誠蔵
- 景賢(景方かげかた・辻) → 茨子(てきし・辻、藩士/俳人) B 3 0 9 6  
 景賢(かげかた・末永) → 茂世(しげつぐ・末永すえなが、藩士/歌人) Z 2 1 0 0
- K1586 景勝(かげかつ・上杉うえずぎ/本姓;藤原、初名;顕景、長尾政景男)1555-162369 越後の武将/越後守、  
 父没後叔父上杉謙信の養子(母は謙信の姉)、春日山城主/会津若松城主/秀吉臣;関原敗戦、  
 1601米沢藩主、「会陽兵法問対」著
- K1587 景兼(かげかね・見坊けんぼう、初名;兼隆、蛭田になだ義英男/見坊兼清養嗣子)1681-175878 江戸の兵法家、  
 陸中盛岡藩士、1692世子近習役、剃髪;久益名の茶人、1702藩命で見坊家相続;還俗、  
 金・銅山奉行/側目付、鎧術/謙信流軍術;軍術師範、1755致仕、歌、「景兼歌集」「生花伝書」著、  
 [景兼の通称/法号]通称;勘助/喜兵衛/久益(;剃髪名)/仁左衛門/勇いさみ、法号;施徳院  
 掛川宿(かげがわじゅく) → 依平(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人) 4 7 3 5
- 1512 景樹(かげき・香川かがわ/本姓;平、荒井/奥村、藩士荒井小三次2男)1768-184376 鳥取生/7歳;父没、  
 伯父の鳥取藩士奥村定賢に養育される;純徳に改名、歌;清水貞固門、上京;生活苦、  
 鷹司家・西洞院家に出仕/1796(29歳)徳大寺家に出仕;二条派宗匠香川景柄かげもとの養子、  
 景德ついで景樹と改名、新風の小沢蘆庵と親交;私淑し影響を受ける、  
 古今調の「しらべ」による歌の革新を主唱、門弟千人に及ぶ;桂門四天王・桂門十哲など、  
 香川家の歌学に反すること・家計処理などで1804合議の上で養子解消;香川姓はそのまま、  
 1828「桂園一枝」、「新学にいまひ異見」「土左日記創見」「古今集正義」「桂葉集」「東塙集」外著多、  
 「大空のみどりに靡なびく白雲のまがはぬ夏に成りにけるかな」(桂園一枝;夏171/夏雲)、  
 [景樹(;名)の初名/通称/号]初名:銀之助/純徳/景德、通称;真十郎/式部、  
 号;桂園・梅月堂(香川家世襲の号)/東塙亭(岡崎の本宅の号)、観鷺亭かんぼくてい/臨淵社、  
 一月楼/万水楼、法号;実参院  
 門人 → 桂門三才女(けいもんさんさいじょ)・桂門四天王・桂門十哲
- 景卿(かげきみ?・田原) → 景卿(けいけい・田原、俳人) E 1 8 0 2
- B1584 景清(かげきよ・平たいら/本姓藤原、藤原忠清男)?-1192 平安末期の武将;維盛に従い義仲と戦う、  
 1183平家一門と都落ち/屋島で兜の鍬を断つ/壇ノ浦で捕縛/のち出家、  
 断食し東大寺供養に没/or逃亡し知盛の息子知忠を擁し1193挙兵敗走説あり、  
 後世に幸若舞/能/浄瑠璃/歌舞伎に脚色、連歌;菟玖波集1句入、  
 [別れやすきは旅の道連れ](菟;羈旅1767/前句;行く末の契りばかりはのこりけり)  
 [景清の通称] 悪七兵衛/上総七郎兵衛尉
- 景清(かげきよ・宇山/鳥山) → 義所(ぎしよ・鳥山とりやま、儒者/尊王派) K 1 6 8 9
- U1505 景国(かげくに・加世田かせだ、本姓:折田)1848-77戦死30 薩摩鹿児島藩士、国学・歌;是枝生胤門、  
 野村忍介おしすけの弟、1877(明治10)西南戦争に西郷軍に参加;重傷;陣中に没、  
 [景国(;名)の通称] 弥八郎
- 景琴(かげこと・賀藤) → 月篷(げっぽう・賀藤かとう、藩士/文筆家) H 1 8 3 8

- B1585 **景実**(かげざね・清原きよはら) ? - ? 南北期武家;左衛門少尉/五位、新後拾遺721、1387浄阿奉納[隠岐高田明神百首和歌]出詠(正六上左衛門少尉名)、[風の音も今朝こそかはれ萩の葉に秋を知らせて露や置くらん](新後拾;雑秋721)[さざ波や志賀の浦路は雲はれて渡りに残る夕時雨かな](高田明神歌;57/渡時雨)
- K1588 **景実**(かげざね・朝倉あさくら/沢崎、別名;重実/景尚/重賢、沢崎重綱男)1625-8359 越前勝山の兵法家、島津家古伝兵法;加持竜爪斎景明門、江戸本郷で越後要門流軍法を開塾、一時島津家仕官、「武門要鑑抄」編/「越後流船積」、1680「要門軍命眼」「武者草鞋」/82「武者言葉大概」著、[景実の通称/号]通称:内匠たくみ/主水/門人もんど、号;小軒、法号:暁智  
景実(かげざね・大島) → 藍涯(らんがい・大島おおしま、儒;藩校助教) B 4 8 6 6
- K1589 **景林**(かげしば・賀藤かとう、通称清右衛門/号;竹塙、景親男)1768-183467 羽後秋田藩士/財用吟味役、「竹塙斎吟稿」「竹塙斎随筆」「六郡典籍」「五雑俎付雑詩抄」著、月篷の父
- B1586 **景季**(かげすえ・梶原、通称源太、景時男/本姓平)1162-120039 鎌倉幕府の武将・騎射・歌に長ず、平曲に脚色/愚管抄入
- S1509 **かけすけ** ? - ? 平安前期廷臣/歌;921「醍醐御時菊合」参 [菊の花をりてはとしもへしものをおきながらこそ色まさりけれ](醍醐御時菊合) かねすけ(兼輔)の誤写説→ 兼輔(かねすけ・藤原・堤中納言、歌人) 1 5 3 0
- K1590 **景右**(かげすけ・平) ? - ? 連歌・菟玖波1句入、 [とはれずは我も心のかはれかし](菟;恋797/前句;思はぬ人の何か恋しき)
- K1591 **景仰**(かげすけ・深町ふかまち、通称治左衛門)?-? 江後期加賀大聖寺藩士、1800「大聖寺城図」著
- K1592 **景佑**(かげすけ・渋川しづかわ、高橋至時2男、渋川正陽養嗣子)1787-185670 大阪歴算家; 1805伊能忠敬門、師に従い実測;観測術修得/1808渋川家養子;09家督継嗣、幕府天文方/39御鉄砲御筆筒奉行格、1842天保改暦参加、ラランデ曆書「新巧曆書」共訳(高橋景保/足立信頭と)、「寛政曆書」著、1827「暗厄利亞航海曆」訳/42「新法曆書」46「新法曆書続編」、「西曆聞見録」外著多数、[景佑(;名)の通称/号]通称;助左衛門、号;滄洲/三角堂/明時館主人、法号;大機院  
景翼(かげすけ・宇津木) → 泰翼(やすすけ・宇津木うつき、泰交男/藩士/歌) F 4 5 3 7
- B1587 **景澄**(かげすみ・田付たつげ、景定男/本姓源)1556-161964 近江田付の砲術家/田付流砲術の祖、尼崎藩主戸田氏鉄家臣/1613徳川家康の家臣;大坂陣で戦功、1602「砲術書」、「求中集」著、[景澄の通称/号]通称;兵庫助、号;宗鉄/宗鋏そうてつ、正景まさかげの父/子孫は幕府鉄砲方
- K1593 **景住**(かげすみ・菊池きくち、通称庄太郎)?-? 江前期常陸谷田村生/水戸藩郡吏、1682水戸藩郡奉行、「菊池景住筆記」著
- K1594 **景純**(かげすみ・富田とだ) ? - ? 江末期金沢藩士/兵法家;有沢永貞門/有沢流武備を説く、1843「兵法妄言」編/49「軍役応時論」
- U1506 **景澄**(かげすみ・加藤かとう)1821- 188161 出羽仙北郡小種村の境扨人本役、国学者;平田篤胤門、加藤年充(;篤胤門)との関係? [景澄(;名)の別号/通称]別名;清忠、通称;小三郎  
景純(かげすみ・朝倉) → 東軒(とうけん・朝倉、藩士/詩人) D 3 1 3 2  
勘解太(かげた・田中) → 正躬(まさみ・田中たなか、商家/歌人) Q 4 0 5 9
- I1510 **景高**(かげたか・梶原かじわら、通称;平次、景時2男/本姓;平)?1165-1200討死36? 鎌倉幕府武将/御家人、歌人、妻;小野成綱女、父に従い平家追討;1184一ノ谷戦で範頼軍に属す;先陣を切る時父がどがめるが、「もののふのとり伝へたる梓弓引いては人のかへすものかは」と返答し進軍、1189奥州合戦に従軍;平泉を目前に津久毛橋で歌を詠む(東鑑入)、1199父の失脚で相模を去る;駿河狐崎で追討軍と戦い死す、行風「古今夷曲集」(1666刊)入、[陸奥みちのくの勢せいは味方に津久毛つくも橋渡して掛けむ泰衡が首](夷曲集;854)
- W1520 **景隆**(かげたか・川野かわの/本姓;源、)?-? 江前期;武士/歌人;浅井忠能[難波捨草]多数入、[わくらばにとふ人だにもなきやどにちる音さびし庭の紅葉葉](難波捨草;雑四季673)
- K1595 **景高**(かげたか・近藤こんどう、通称;繁蔵、号;路斎)?-1789 周防徳山藩士/越後流兵法:市景難門、兵法家;毛利伝として代々伝えた、剣/槍術/書札に長ず、「見鈴録けんけんろく」「武前覚悟巻」著、



- 「要門支流」「大祖一代軍記」「要門由来聴書」著、「武門要鑑」注/「軍歌百首」(伝)
- K1596 **景敬**(かげたか・平たいら、通称;和泉守)?-? 江後期天明寛政1781-1801頃の甲斐の神職、甲斐津留郡小沼の浅間社神主、一時京or堺に住、1782「中臣祓祝詞古説」95「国語通考」校訂/98「孝経御註釈義」著、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、[橋を軒端に植ゑしかひありて近くも来き鳴く郭公かな](大江戸倭歌;夏440)
- V1545 **景肅**(かげたか・肥田ひだ、)1815- 189884 日向都城の国学者・歌人;八田知紀門、都城藩明道館(1855稽古館より改称)助教、肥田景正(藩老/知紀門)と同族、[景肅(;名)の字/通称/号]字;子羽、通称;作右衛門、号;笠庵  
 景武(かげたけ・牧野) → 半陶(はんとう・牧野まきの、儒者) I 3 6 4 2  
 景毅(かげたけ・梶原) → 景毅(かげよし・梶原かじむら、藩士/歌) L 1 5 5 1
- T1581 **蔭尋**(かげたず・上木うわぎ/本姓;源、)1830-188051 飛弾高山の酒造業上木清成きよりの養子、国学;田中大平門、[蔭尋(;名)の別名/通称]別名;清蔭、通称;甚五郎/清九郎
- K1597 **景忠**(かげただ・佐久間さくま/初姓;吉田寺、薩摩藩士佐久間九右衛門の養嗣子)?-1711 美作津山藩士、のち日向高鍋藩士/同佐土原藩士、22歳の時兵法;沢崎(朝倉)景実門/高弟として伝書を受、越後流ほか甲州流兵法も修得/鬼一流軍配兵法など諸流兵法を修得;陰陽家的性格を併す、1674(延宝2)京の妙法印系結印の秘法を受/権律師となる、養嗣子景次ほか門人多数、「武見伝」「父九城図」「具足注文」、1707「越後流加治伝伝受次第」著、[景忠の通称/号]通称;十兵衛/頼母助、号;幽閑/石融法印
- K1598 **景忠**(かげただ・藤波ふじなみ、不退院、大中臣友忠男)1647-172781 神職;1661(万治4)神宮祭主、1685従三位/87神祇大副/1714祭主辞退/神祇大副辞退/20正二位、「景忠卿記」「服忌最要」「服暇六箇条」「無服殤服仮有無問答」著  
 景忠(かげただ・磯村) → 道彦(みちひこ・磯村いそむら、国学/歌) C 4 1 3 0  
 景胤(かげたね・天野) → 曾原(そげん・天野あまの/藤原、儒者/詩) J 2 5 6 3  
 景胤(かげたね・山本) → 学半(がくはん・山本やまもと、儒者) K 1 5 3 9
- K1599 **景新**(かげちか・香川かがわ、別名;新/字;志竜、宣阿男/本姓;平)1678-173962 京歌人;清水谷実業門、さらに武者小路実門、父の業を次ぎ歌の家風を伝える、1723「草庵集蒙求診解」補 [景新(;名)の通称/号]通称;空允/守樋/光阿、号;梅仙堂/梅宣堂/梅月堂2世、法号;梅仙堂光阿景新
- E1596 **景周**(かげちか・富田とだ/とみた/本姓;平、富田良鄰男)1746-182883 母;奥村忠順女の愛い(青楓)、本家の富田修和の養嗣子;1773家督の加賀金沢藩士;2千5百石継嗣/1781(元明元)小松城番、人持組/1786御算用場奉行/能州御領地方御用;暇を盗み三州修史を編纂/1818致仕、儒;乾いぬい荘岳[祐直]門、詩歌人、郷土史家;加賀・越中・能登の地歴に通ず、1784「なでしこ」著、1798「越登賀三州志」完成;のち藩主前田斉広に献上/99「瑞竜閣記」1809「下学老談」著、1815「異客来北考」23「金沢紀事」「菊酒考」著、25「燕台風雅」編、「三州沿革図譜」「三州詩抄」編、「玉箒和歌集」編、「櫻寧斎文集」;息景煥かげあき編、[景周(;名)の字/通称/別号]字;大賚たいらい、通称;縫殿ぬい/権佐/越後、別号;癡竜ちりゅう、櫻寧斎えいぬいさい、楽地堂、暮松楼、方竹庵、韜照とうしゅう
- L1500 **景周**(かげちか・深井ふかい、通称;勘右衛門/号;無敵斎)1760-183273 三河宝飯郡長草村の生、武蔵鴻巣宿の深井家を嗣ぐ、江戸で武道家;加藤長寧門;起倒流・陣鎌・神道夢相流修得、捕手・柔・太刀・陣鎌の夢相流の祖、「殺活目録」著
- L1501 **景鎮**(かげちか・森もり、通称;要蔵/一貫斎)1810-68戦死59 肥後熊本藩士/江戸藩邸に生、剣術;千葉周作門、諸武芸修得/1841上総飯野藩士;中小姓兼剣術指南、江戸麻布永坂に道場を開く、脱藩;戊辰戦で会津藩救援;土佐藩兵士と交戦;戦死、1862「剣法撃刺論」著  
 景周(かげちか・香川) → 景恒(かげつね、香川・歌人) 1 5 6 8
- U1510 **珂月**(かげつ;法諱、俗姓;市川)1810-188980 江戸板橋在池袋の僧;長福寺にて受戒、国学・歌人・能書家、1858(安政5)上洛;近衛家の猶子/従四位、奉勅で常陸土浦の臨濟宗法雲寺住持、維新後;鎌倉建長寺住/晩年;土浦の濟岸持で修行、

歌; [筑波山葉山茂山ちはやぶる神代ながらの緑なりけり]

珂月(かげつ;字)	→	円通(えんつう;法諱、珂月、天台浄土僧)	F 1 3 2 4
夏月(かげつ・大岡)	→	道信(みちのぶ・大岡おおおか、絵師)	C 4 1 1 9
佳月(かげつ・江幡)	→	通貞(みちさだ・江幡えばた、詩歌人)	I 4 1 2 1
花月庵(かげつあん)	→	保艸(ほそう・花月庵、俳人;雑俳点者)	E 3 9 4 1
花月庵(かげつあん)	→	鶴翁(かくおう、田中元長、酒造業/煎茶)	J 1 5 5 9
花月庵(かげつあん)	→	吟松(ぎんしょう・中村・奥田、俳人)	I 1 6 0 0
花月庵(かげつあん・巫碩)	→	鷲雄(わしお・鈴木すずき、国学/歌人)	5 3 8 5
花月庵(かげつあん)	→	二見(ふみ・服部はつとり、歌人)	I 3 8 6 3
花月庵(かげつあん)	→	物外尼(ものがいに、禅尼/歌人)	L 4 4 1 9
歌月庵(かげつあん)	→	春江(しゅんこう・小田切おだぎり、藩士/絵師)	J 2 1 6 3
歌月庵(かげつあん)	→	貞幸(さだゆき・松本まつもと、商家/和学)	P 2 0 4 6
花月園(かげつえん)	→	邦子(くにこ・石井/日尾、教育/歌人)	1 7 6 4
華月翁(かげつおう)	→	丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人)	S 2 2 5 7
花月翁(かげつおう)	→	定信(さだのぶ・松平、藩主/寛政改革)	2 0 2 2

E1597 景嗣(かげつぐ・香川かがわ/本姓;平、伏田右衛門光尊男)1792-1865 74 香川景柄かげもと(黄中)の養子、京洛東京岡崎の歌人;二条派宗匠家風を伝える、1851景柄「黄中詠草」編、「梅月堂詠草」著、家集「残香集」著(1888刊)、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[隅田川堤の桜散りぬなり入江の水もしろくなるまで](大江戸倭歌;307/水上落花)、  
[景嗣の初名/通称/号]初名;清三郎/景礼、通称;木工、号;春村/傾扨けいし/梅月堂5世

E1522 景紹(かげつぐ・梶原かじわら、藍渠男/本姓平)1807-79 73 讃岐高松藩士/1834史局考信閣出仕/茶道、郷土史家;1853藍渠「讃岐国名勝図会」編刊/66「直嶋旧跡順覧図会」著、

[景紹の通称/号] 通称;平四郎/雄雉、号;藍水

景継(かげつぐ・香川)	→	宣阿(せんあ・香川、梅月堂/藩士/歌人)	2 4 2 2
荷月斎(かげつさい)	→	明融(めいゆう、俗姓;冷泉/時宗僧/歌)	4 3 4 4
花月斎(かげつさい)	→	珊楽(さんらく・花月斎、俳人)	G 2 0 4 2
花月斎(かげつさい)	→	野洲良(やすら・関岡せきおか/榛原/梅原、能楽装束/歌学)	D 4 5 6 3

T1576 夏月女(かげつじよ・浮田うきた/旧姓;鈴木、)?-?安政1854-60頃没 讃岐高松の歌人、観音寺町の浮田善左衛門の妻

花月亭(かげつてい)	→	祐代(すけよ・西川にしかわ、絵師/軽口本)	D 2 3 6 4
花月亭(かげつてい)	→	才尾(さいび・椎本しいのもと・豊島、俳人)	B 2 0 0 7
花月堂(かげつどう)	→	宗武(むねたけ・樋口ひぐち、国学者/書家)	B 4 2 5 3
花月堂(かげつどう)	→	広通(ひろみち・石野/中原、幕臣/歌人)	H 3 7 2 7
花月堂(かげつどう)	→	文英(ふみひで・有吉ありよし、医者/歌)	H 3 8 9 6
花月堂(かげつどう)	→	百雄(ひやくゆう、百々どど政業、狂歌)	E 3 7 8 2
可月堂(かげつどう)	→	清風(きよとお・中野、国学者)	P 1 6 9 5
花月道人(かげつどうじん)	→	鷲夫(わしお・大倉おおくら、商家/歌人)	5 3 0 5

1567 景綱(かげつな・宇都宮うつのみや/本姓;藤原、泰綱男/頼綱の孫)1235-98 64 母;平時朝女、鎌倉期武将、下野守/尾張守/1269鎌倉幕府引付衆、1284出家、歌;二条為世・京極為兼・冷泉為相門、宇都宮歌壇で活躍、家集「沙彌蓮愉集」、蹴鞠にも堪能、1258-9為氏「新和歌集」48首入、勅撰30首;続古(1154)続拾(359/510/578/667)新後撰(6首)玉(6首)続千(6首)以下、[恋ひ恋ひてまれにとけぬる下紐をゆふつけどりのねこそつらけれ](続古今;恋1154)、[景綱(;名)の幼名/法号]幼名;四郎、法号;蓮愉/蓮瑜

L1502 景綱(かげつな・柴山しばやま、通称;竜五郎、権助男)1835-1911 77 薩摩藩士、1862寺田屋事件関与;謹慎、1863薩英戦争で戦功、1868戊辰戦で越後征討軍に従軍、維新後;山形・福島など東北諸県の郡長/警視庁警部/御料技師を歴任、1860「薩藩伏水流芳録」著

L1503 禾月尼(かげつに、別号;足了庵・亀丸女かめまるじよ、姓;横田)?-1200 仙台の尼僧;1838未婚で仏門、俳人;松窓乙二/一具門、1823「しをに集」編/38「乎梵呂俗味」/48「鱗くらべ」編、1853「岩根草集」編、一周忌追善「軒しぐれ集」禾山編

- L1504 **景恒**(かげつね・御厨みくりや、字;了叔/号;晚翠、御厨雲竜男)1699-1775<sup>77</sup> 大和の医者;三輪了哲門/儒、聖護院侍医/法橋、「合類経験秘録」編
- 1568 **景恒**(かげつね・香川かがわ、初名;景周かげちか/通称;式部、景樹男/本姓平)1823-1865<sup>43</sup> 京の歌人;父門、「一枝拾遺」編、「景周百首」「景恒歌話」「景恒二葉集」「須磨日記」、「景恒翁歌集」著、[景恒の号] 東鳩亭/桂園、法号;勝宗院
- U1599 **景経**(かげつね・村尾むらお、)1843-1925<sup>83</sup> 讃岐山田郡の藤尾八幡神社神職、国学;友安三冬・中村尚輔門、武田吉貞・の師、[景経(;)名)の通称/号]通称;喜一郎、号;亀逸/石穂舎  
 景常(かげつね・長尾) → 景東(かげはる・長尾ながお、幕臣/記録) J 1 5 8 5  
 榎月坊(かげつぼう) → 稻後(とうご・小倉、俳人) D 3 1 6 9
- L1505 **景貫**(かげつら・山井やまのい、山井景邨男/本姓大神、山井景武養嗣子)1708-95<sup>88</sup> 京の楽人;正四上/雅楽頭/光格天皇の笛の師範/儒;経史に精通/詩、1780「青霞稿」著、[景貫(;)名)の別名/字/通称/号]別名;景行、字;子貫/子一/子乙、通称;備中守/備中介、号;青霞せいか  
 景貫(かげつら・山崎) → 菅江(かんこう・朱楽あけら、幕臣/狂歌/川柳) 1 5 4 7  
 華月楼(花月楼かげつろう) → 工十(こうじゅう・工藤どう、俳人/連歌) J 1 9 5 5  
 花月楼(かげつろう) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0  
 華月楼(かげつろう) → 保満(やすみつ・田村たむら、藩士/歌人) G 4 5 1 7  
 景瑛(かげてる・西河) → 菊荘(きくそう・西河にしかわ/浅井、儒者) K 1 6 1 6
- U1511 **景達**(かげとう・香川かがわ、吉川、香川琴山[景晃かげあき/1762-1836]男)?-1852 安藝香川家の末裔、周防岩国藩士;国学者/歌、[景達(;)名)の初名/字/通称/号]初名;景憲、字;君章、通称;又左衛門、号;積翠/玉泉  
 景任(かげとう・林/亀田) → 商斎(しょうさい・亀田/林、商家/詩歌) J 2 2 0 0  
 景遠(かげとお・神野) → 菊叢(きくそう・神野じんの、儒/詩歌) I 1 6 4 7
- B1588 **景時**(かげとき・梶原かじわら、通称;平三、景清男or景長男/本姓;平)?-1200討死 相模の武将、石橋山合戦で敵方ながら源頼朝を救助;頼朝臣、平家追討、義経を讒言、幕府侍所所司、1200頼家に謀反;息子景高とともに駿河狐崎で追討軍により討死、歌/連歌;古今著聞集・吾妻鏡・沙石集に頼朝との逸話入/菟玖波3句入、[秀衡征伐の為に奥州に向ひ侍ける時名取川を渡るとて  
 頼朝;我ひとりけふの軍いくさに名取川  
 景時;君もろともにかち渡りせん](菟;雑1361/徒歩と勝ちを掛る)
- L1506 **景利**(かげとし・田付たつけ、田付新兵衛4男)1619-85<sup>67</sup> 江戸田付流砲術家;田付景治(兵庫助)の養子、1637家督嗣;旗本/江戸田付家3代目/幕府鉄砲方/火付盗賊改方兼任、直平(4代目)の父、「銃目録」著、田付流は景澄を祖としのち江戸田付(兵庫助/四郎兵衛)家・左太夫家に分流、歌人;家集「花の露」著、了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]3首入、[ゆふだちの名残の露の玉簾月を懸けたる影ぞ涼しき](若むらさき;49/夕立)、[角田すみだ川昔を思ふ波の上におもかげ浮ぶ都鳥哉](同;174/隅田川)、[景利の別名/通称/法号]別名;方圓/円方みちまさ、通称;武蔵/四郎兵衛(初世)、法号;是三
- L1507 **景年**(かげとし・歌川うたがわ) ? - ? 江後期絵師;歌川貞景門?、人情本挿画、1831「氷縁奇遇都の花」画
- U1512 **景敏**(かげとし・香川かがわ、通称;松五郎/式部、景恒の長男)1861-87<sup>早世27</sup> 京の生/景樹の孫、歌人;高崎正風門、1886東京の宮内省出仕/侍従職・御歌所掛  
 景敏(かげとし・里村) → 昌琢(しょうたく・里村[南家初代]、連歌師) 2 2 8 6  
 景利(かげとし・山岡) → 景熙(かげひろ・山岡やまおか、幕臣/歌人) W 1 5 0 8
- V1591 **景福**(かげとみ・村岡むらおか、敕清ただきよ[村上家初代]男)1727-1802<sup>76</sup> 讃岐丸亀の商家、父は多度津で商売繁盛し丸亀葎町移住;越後屋荘兵衛を称す;丸亀藩銀札座の出納管理、父の代で苗字帯刀許可、景福は家督嗣、歌人/国史に通ず;神儒仏三道を信仰、1760(宝暦10)魚屋町に移住、1775(49歳)家督を長子景興に譲渡;風月を楽しむ、[景福(;)名)の字/通称]字;以德/通称;宗四郎  
 ☆村井家;敕清一景福一井洲(景興)一竹所(景緝)一正徳



- U1526 **景福**(かげとみ・梶原かじわら、) 1782-1821 40 伊予松山藩士;御馬廻、国学者/歌人
- L1508 **景福**(かげとみ・小嶋こじま、通称;紋左衛門)?-? 江後期武道家/甲州流軍螺の達人・1830加賀藩士、  
「要門武者遣決疑」「要門覚書」著
- L1509 **景福**(かげとみ・長尾ながお/修姓;長、山本与兵衛男/長尾家の養子)?-? 江後期延岡藩士/和算;独学、  
1839算術取扱/学寮で教授、  
1790「七十二候品物解」1809「至道勧学論」、「大和名所和歌集」著、  
[景福の通称] 与一/伯介
- T1502 **景福**(かげとみ・長谷ながたに、通称;伊予守)?-? 江後期;歌人、廷臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸和歌集」入、  
[桜咲く須磨の関守わすれてもうら吹く風を花にゆるすな]、  
(大江戸和歌;春285/関路花)
- 景福(かげとみ・伊能) → 高老(たかとし・伊能いのう/大神、国学/歌) V 2 6 5 5
- U1522 **景朝**(かげとも・梶かじ、通称;義左衛門)?-?万延1860-61頃没 江後期;讃岐高松の国学者
- 景柄(かげとも・香川) → 景柄(かげもと・香川、歌人) 1 5 1 1
- 景友(かげとも・井手/富樫) → 広蔭(ひろかげ・富樫/井手、商家/国学) 3 7 1 4
- 景知(かげとも・菅野) → 彊斎(きょうさい・菅野すげの、医/儒者/詩) I 1 6 7 8
- L1510 **景豊**(かげとよ・伊達だて/本姓;藤原、通称;修理亮)?-? 室町期武家/細川家被官?、連歌;新菟2句入
- 景虎(かげとら・長尾) → 謙信(けんしん・上杉、武将/歌人) C 1 8 3 5
- L1511 **かげな**(藤原) ? - ? 平安期保明親王の帯刀/歌;904-23頃「帯刀陣歌合」入、  
[白露のそこにひかりはやどれどもとまらでぞゆく秋の月影](帯刀陣歌合;秋月左9)
- L1512 **景直**(かげなお・稲垣いながき、通称;平左衛門/号;捨石)?-? 江戸中期代々伊賀の大庄屋、  
1784(天明4)「自然生」編
- L1513 **景直**(かげなお・三分一所さんふいつしよ/さんぶんいつしよ、景豊男/叔父景明養子)?-? 江中期陸中仙台藩士、  
「三分一所初齋八十年賀」編(初齋じんさいは養父景明の号)、「書出」著
- 景長(かげなが・加治) → 盈亮(えいりょう・加治かじ、武道家) D 1 3 4 1
- 景長(かげなが・里村) → 昌雲(しょううん・里村さとむら、連歌宗匠) F 2 2 3 3
- V1509 **蔭夏**(かげなつ・柘植つげ、通称;長次郎) 1800-52 53 肥前長崎の歌人、「柘植蔭夏詠草」あり
- T1547 **景形**(かげなり・有川ありかわ/本姓;源、岩根藤五郎長男) 1780-1845 66 近江坂田郡鳥居本村の生、  
有川市郎兵衛の婿養子/有川家は神教丸本舗の分家;旧家/薬舗経営、  
歌人;香川景柄・景樹門、村田泰足・小原君雄と交流、  
[ほととぎす君が昔を語るにも知らぬ我さへ袖ぞぬれける](吉田虎之助[鴉のうみ]入)、  
[景形(;名)の幼名/通称/号]幼名;喜蔵、通称;喜内、号;田廬庵
- U1524 **景業**(かげなり・梶谷かじたに、平地ひらち) 1787-1848 62 伊予八幡浜の医者、歌人、  
国学・歌;二宮正禎まさただ(春祥)門、  
[景業(;名)の通称]七右衛門/七左衛門
- 葛野(かげの・千葉) → 葛野(かどの・千葉/大蔵屋、国学/歌) 1 5 7 1
- U1551 **景延**(景信かげのぶ・衣笠きぬがさ、)? - 1631 79-85歳 安桃/江前期;筑前の武将;端谷城主、  
小寺氏の家臣/与力として黒田職隆の家臣;小姓、1577(天正5)英賀合戦に栗山利安を救う、  
旧主小寺家への使者/1587豊前一揆に姫隈城の日熊直次を討つ/文禄慶長役に先鋒を務む、  
智謀;黒田二十四騎の1人、1600(慶長5)関ヶ原の戦に松山城を守備/01筑前入国;福岡藩士、  
因幡守/中老並の禄3千石、歌道に長ず、左兵衛・左近の父、  
[景信(;名)の別名/通称/号]別名;佐範すけのり、通称;久右衛門/因幡、号;卜斎
- L1515 **景信**(かげのぶ・三谷みたに、号;立民、常嘉2男) 1726-98 73 讃岐東白方村の生/父は多度津藩御内容役、  
国・儒学、医を修学;医者として活動;1778多度津藩御眼見医師、79中小姓格/7人扶持、  
御前次詰め医師/藩主の侍医を務める、森長見と交流、1785「子丑治驗」著
- T1564 **蔭信**(かげのぶ・石井いひ、通称;喜左衛門)?-1835 江後期信濃小県郡の歌人;宮沢清房・服部菅雄門
- U1507 **景延**(かげのぶ・加藤かとう、号;楓亭) 1835-1903 69 大坂の医者;屋号;小川屋、国学者
- 景信(かげのぶ・狩野) → 伯田(はくえん・狩野かのう、絵師) C 3 6 6 5
- B1589 **景憲**(かげのり・小幡おばた、初名;熊千代/縄直、昌盛男/本姓平) 1572-1663長寿 92 甲斐武田家臣、  
1582家康臣、秀忠の小姓/1595出奔/関ヶ原大坂冬陣で戦功;幕臣/1632御使番、

兵法家;甲州流軍学を大成、

「甲陽軍鑑」補填、「信玄流兵書伝帳」「兵法正伝」「君命記」「中興源記」「豹竜虎」「翁物語」、  
「甲陽軍鑑末書結要本」外著多数、門弟:北条氏長/山鹿素行/奥田玄賢明ら、

[景憲の通称/号] 通称;孫七郎/勘兵衛、号;道牛、法号;倍曹院

- L1516 **景軌**(かげのり・打它うつだ/うった/うた/うだ、公軌きんのり男)?-1670 京の歌人;父門/貞徳・長嘯子門、  
のち中院通村/通純/通茂/道晃親王門、京鳴滝に印金堂(人麿堂)建立、  
1649「挙白集」編刊、「如雲集」「道一論」著、光軌の父、  
[景軌の号] 如雲軒/法橋収玄

- B1590 **景範**(かげのり・加藤かとう、信成のぶなり[暢庵]男)1720-9677 大坂追手筋の売薬商、儒者/歌人、  
儒者:懐徳堂修学;蘭洲・春楼・竹山門、上方歌学;烏丸光胤/有賀長伯門、書;富永芳春門、  
画;光真門、「国雅管窺」「観濤録」「秋霜集」「竹葉露」「松のした露」「伊勢路の記」「証歌集」、  
1767「物見船」70「かはしまものがたり」、75「蔵山集」77「和歌三類集」95「和歌実践集」編、  
[景範(;名)の別名/字/通称/号]別名;友輔/友助/太助/遜、字;子常、通称;小川屋喜太郎、  
号;竹里たかさと/居貞斎/撫松庵/有山/友山

- U1592 **景規**(かげのり・高泉たかいづみ/本姓;源、)1781-184464 陸奥仙台藩士/登米郡の登米邑主の家臣、  
1801(享和元)父没;家督嗣;2700石、1802大番頭/11歳首七種会定連衆/12権評定役兼任、  
1814(文化11)権少老/仙台10代藩主伊達斉宗に随従し江戸城登城/17(文化14)鷹申継兼役、  
1820(文政3)評定役/24(文政7)奉行職、29(文政12)大火発生;罹災者の救済、  
1838(天保9)禄3千石、40(天保11)隠居/44(天保15)没、和学者  
[景規(;名)の通称]源三郎/右近/木工もく/主計かずえ

- L1517 **景範**(かげのり・長尾ながお、字;法正、景之男)1786-186681 上州伊勢崎藩士/儒・兵学;岡田寒泉門、  
儒詩;・柴野栗山、越後流軍学;杉村門/荻野流砲術;河野通弁門、軍学砲術師範、  
1813関西・長崎遊歴/34銃弓・足軽二隊操練/36致仕、詩文/歌、  
1839「西山の烟」52「壬子春漫録」著、「論語説」編、  
[景範の通称/号]通称;一雄、号;漱瓊そうけい/西山せいざん/蓮子/練兵舎主人/無適斎/美髯公

- L1518 **景典**(かげのり・梶川かじかわ、字;士常/通称;作左衛門、景積男)1788-187083 丹後宮津藩士、  
儒・沢辺北溟門、のち皆川淇園/山口菅山/佐藤一斎門、宮津藩儒;藩侯礼讓館の学頭、  
上京;入木道;1845持明院基延門;奥義を究める、「梶川氏詩文集」、1843「丹後野乗」著

- L1519 **景德**(かげのり・篠山/笹山ささやま、本姓;伴、木村周蔵光休男)?-1856 1808(文化5)篠山景義の養子、  
幕臣;1825小姓組/34御徒頭/砲術家、1836(天保7)佐渡奉行;天保飢饉発生、  
さらに1838(天保9)佐渡一国騒動(佐州百姓騒乱)勃発;当時鳥居八右衛門正房が在勤、  
打毀しが南佐渡各地に波及;在府中の景德は老中水野忠邦の命で兵200を率いて渡海、  
軍事力を背景に一揆を鎮圧;1840(天保11)川路聖謨に奉行事務を引継ぐ、  
鳥居正房は御役御免/景德は一時処罰;赦免、1840御先鉄砲頭/42将軍家慶の日光参詣の供、  
1843(天保14)従五下/撰津守/45(弘化2)本丸普請御用の功で3百石、  
1852大目付/55(安政2)槍奉行、徳川慶喜の砲術の師、  
1841「徳丸の記」著、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[別れどもつかふる道も人ごとの心より聞くあかつきの鐘](大江戸倭歌;雑1656/暁鐘)、  
[景德(;名)の初名/通称]初名;光徳、通称;守四郎(;初通称)/十兵衛

- T1587 **景德**(かげのり・小俣おまた、信一郎の長男)1814-9582 江戸の幕臣/奈良奉行、歌人;村山素行門  
[景德(;名)の通称]通称;稲太郎

- L1520 **景敬**(かげのり・桜田さくらだ、簡斎男)1827-9973 江戸築地の武道家/剣;千葉周作門、  
父と共に勤王派;山岡鉄太郎らと交流し国事に奔走、1866「日記」著  
[景敬(;名)の字/通称]字;子直、通称;敬助

- L1521 **景憲**(かげのり・山崎やまざき、山崎郷義の養嗣子)?-? 江末期仙台藩士/観察目付使番、大征流捕縄術、  
甲州信玄流兵法の仙台藩伝承者;門人多数、「信玄流練兵海岸方」「雪荷派射術系図」著、  
[景憲の通称] 隼太/平太左衛門/源太左衛門

- U1570 **景規**(かげのり・佐野さの、) ? - ? 江後期;越前福井藩士、歌人;橘曙覧(1812-68)門  
景范(かげのり・児島) → 天泐(てんろく・児島、儒者/詩) E 3 0 6 4  
景則(かげのり・里村) → 祖白(そはく・里村さとむら、連歌師) K 2 5 3 3

- 景德(かげり・中野) → 源蔵(玄蔵げんぞう・中野、庄屋/真宗僧/儒) K 1 8 8 2  
 景德(かげり・山口) → 剛斎(こうさい/ごうさい・山口、藩儒者) B 1 9 1 5  
 景範(かげり・栗山) → 孝庵(3世こうあん・栗山くりやま、幸庵/春水/藩医) Q 1 9 0 1  
 景憲(かげり・香川) → 景達(かげとう・香川かがわ、藩士/国学者) U 1 5 1 1
- B1591 **景式王**(かげりのおおきみ・惟條[条]親王男)?-? 平安期文徳天皇の孫、897従四位下、  
 歌;古今452・786、  
 [さ夜更けて半ばたけ行く久方の月吹きかへせ秋の山風](古今;物名452/皮茸かはけ、  
 夜半に盛りを過ぎ傾く月)
- U1529 **景浜**(かげはま・勝部かつべ、栄忠しげただ男)1823-8159 出雲出雲しゅうとう郡坂田村の大庄屋(豪農)、  
 歌人;吉田芳章よしあき門、荊畑などの銅山開発/病人のための救貧院開設/私塾尽誠軒を開設、  
 画;浅井柳塘門;文人画に長ず、  
 [景浜(;名)の字/通称/号]字;芳光、通称;本右衛門、号;学圃/其峯
- L1522 **景治**(かげはる・加治かじ、通称;七郎兵衛)?-? 1646存 越後の武将、長尾[上杉]家臣、  
 1646「越後国内輪弓箭」、「要門階級要略」著
- L1523 **景治**(かげはる・小塚こつか、通称;織部、岩山宗伯男/小塚監物の養嗣子)?-? 江初期仙台藩士/弓術、  
 藩の弓組武頭、「吉田流射術指南書」
- L1524 **景春**(かげはる・南部なんぶ、南山男)1695-1717早世23 越中富山藩士/儒(家学);父門/詩に長ず、  
 1707(宝永4)父に随い江戸に赴く/08(14歳)父と親交の新井白石のために「天爵堂寿詩」を詠、  
 1712家督を嗣;富山藩儒、書画を嗜む、  
 1707「東叡山詩」、「登東台百韻」「東岳山人和南及諸名家詩文」著、  
 [景春(;名)の字/通称]字;国華、通称;豊太郎/権蔵
- J1585 **景東**(かげはる・長尾ながお、初名;景常、景友3男/兄景忠の養嗣子)1721-? 1791存 幕臣;1728家督嗣、  
 1739大番、1767(明和4)組頭/91致仕、「景東用日記」「古今雑話」「嚴命式」著、  
 [景東の通称] 藤助/藤左衛門
- U1594 **景張**(かげはる・高橋たかはし、)1782-185675 備後沼隈郡松永の歌人;香川景樹門、  
 菅茶山・桑田翼叔の共著「三原梅見の記」に歌入;松永で茶山・翼叔・橋左五郎と詩歌を詠、  
 [景張(;名)の字/通称/号]字;叔鷹/三叔、通称;禎斎/孝右衛門、  
 号;三柳さんぼう/養浩斎/風月庵
- 景治(かげはる・里村) → 昌俔(しょうけん・里村[南家]、連歌師) G 2 2 4 2  
 景春(かげはる・荒巻) → 青容(せいよう・荒巻、商家/俳人) J 2 4 6 8
- L1525 **景彦**(かげひこ・津田つだ、号;硯寿堂、景州の長男)?-? 1834存 播磨明石藩士/和文/武芸に長ず、  
 「和文軌範」「和文小成」「源語類林」「皇朝文論」、1835「山崎物語」著  
 景彦(かげひこ・伊能/楫取) → 魚彦(なひこ・楫取かとり、国学/歌) 3 2 2 4
- B1592 **景久**(かげひさ・賀茂かも、号;梅辻神主、氏久男)?-? 1286存 鎌倉期上賀茂社神主、  
 1272若宮社祝、1286貴布禰社祝/従五下、歌、玉葉1936/続千載835、  
 [明けぬるか鶴ぶねのかがりたきすてて煙もしらむ短夜の空](玉葉;雑1936/鶴河を)
- L1526 **景久**(かげひさ・諸岡もろおか、通称;一端斎、勝持男)?-? 江前期武芸者;父門、劍槍術;一端流の祖、  
 1666「一端流須鍔」「一端流須鍔太刀相鍔相表」「一端流須鍔一流口伝目録」著
- T1596 **景久**(かげひさ・大橋おおはし、)1718-179679 越前福井藩士、歌人、  
 [誰かまた月のこよひとしらざらんわきてさやけきかげをながめて](代表歌)、  
 [景久(;名)の初名/通称/号]初名;悦、通称;久右衛門、号;知楽
- U1597 **景久**(かげひさ・竹村たけむら/本姓;橋、通称;又橋/主税)?-? 紀伊和歌山藩士;海部郡関戸住、  
 国学;本居内遠うちお(1792-1855)門
- U1556 **景久**(かげひさ・倉沢くらさわ、)1835-190571 信濃伊那郡の国学者;平田鉄胤門、のち東京住、  
 [景久(;名)の通称] 七郎兵衛
- 景久(かげひさ・里村) → 昌寅(しょういん・里村、幕府連歌師) F 2 2 1 8  
 景久(かげひさ・浦上) → 直方(なおかた・浦上、幕臣/詩歌) 3 2 9 1  
 景久(かげひさ・茂久) → 源右衛門(げんえもん・茂久もく、軍学者) H 1 8 8 8
- V1554 **景秀**(かげひで・藤尾ふじお、)1796-186873 近江甲賀郡の信楽代官多羅尾家の属吏、  
 狂歌;鹿都部真顔門/国学者;本居内遠・富樫広蔭・平田篤胤門、歌人;千種有功門



歌;[類題和歌鴨川集]入、

[景秀(;名)の通称/号]通称;東作/藤作/統作、号;桂園

- 1582 **影媛**(かげひめ、物部鹿鹿火あらかいの女)?-? 日本書紀歌謡詠者、  
恋人平群鮪へぐりのしびが武烈天皇と歌場うたがき争い後殺害され挽歌を詠む、  
(古事記では菟田首等女うだのおびとどのむすめ大魚おおうおに当たるが歌を詠んでいない)  
[あをによし乃楽ならの谷はさまに鹿しじもの水漬く辺隠へごもり  
水灌そそく鮪しびの若子わくごを漁あさり出づな猪ゐの子](武烈紀即位前紀)

- E1598 **景衡**(かげひら・朝倉あさくら、後名;順佐、重景男/本姓;日下部)1660-? 水戸藩医;父の後継、  
儒;新井白石(君美)門/新井白石の義弟(妻の弟)/和漢学;故実精通、  
1709白石「本朝軍器考」編/12「越前舟子漂流談」、1715「本朝軍器集古図説」編、  
1733「遺老物語」編、「綿芥鈔」「愚得随筆」「白石叢話」「本佐録」著、  
[景衡の字/通称/号]字;君采、通称;孫右衛門、号;南山

- L1527 **景平**(かげひら・香川かがわ、景新かげちか男)1722-89 68 京の国学/歌人;父門、  
1775加藤景範「蔵山集」入、  
[景平(;名)の通称/号]通称;木工もく、号;梅竹堂/梅月堂3世/蓮阿

- T1500 **景衡**(かげひら・三島みしま、) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[藻塩焼くけぶりの末の一すぢは浦波遠く帰るかりがね]、  
(大江戸倭歌;春204、現存百人一首;43)

景平(かげひら・原) → 昌言(まさこと・原はら、庄屋/歌人) R 4 0 9 7

景衡(かげひら・小野/南部) → 南山(なんざん・南部なんぶ、儒者) J 3 2 0 1

景衡(かげひら・直木/佐々木) → 向陽(こうよう・佐々木/直木、儒者) L 1 9 5 0

- W1517 **景弘**(かげひろ・佐伯ささき、頼信男)?-? 平安末期-鎌倉初期の安藝の厳島神社神主、  
古代の佐伯直の子孫/平清盛に接近;家人として活躍、衰微の厳島神社を再建を目指す、  
志道原荘、壬生荘など獲得;神社領を拡大/清盛の安藝守就任により緊密な関係;  
清盛の信仰により1169(嘉応元)荘厳な社殿造営、郷司・地頭となり平姓を許可;  
平氏軍勢に従軍/掃部允・民部大丞、1182(寿永元)在国のまま安藝守補任/従四下、  
平家の瀬戸内地域支配の要となる、1185(元暦2)平氏滅亡後;源頼朝に接近;神主職継続;  
1188(文治4)頼朝の命で壇ノ浦での神器宝剣の搜索

- L1528 **景広**(かげひろ・村上むらかみ、通称;八郎右衛門/弾正、高重男)?-? 戦国期1573-92頃武将;毛利氏麾下、  
備中笠岡城主/1576信長の水軍に勝利/99安藝小田城主、晩年は細川家家臣、「干満抄」著

- L1529 **景広**(かげひろ・松前まつまえ、初名;等広/字;岩丸、慶広男)1600-58 59 母;出羽の豪族齋藤実繁女、  
蝦夷松前藩士/藩政確立に尽力/松前家氏神新羅大明神の社を建立、「新羅之記録」著、  
[景広(;名)の通称/号]通称;加賀右衛門、号;快安

- W1508 **景熙**(かげひろ・山岡やまおか、)1679-1737 59 江戸の幕臣;仙洞附/京に住、和学者/歌人、  
没後;1738(元文3)「山岡故播州景熙公一回忌追善和歌」あり、  
[景熙(;名)の別号/通称]別名;景弘/景利、通称;八三郎/百助もすけ/源右衛門/播磨守

- V1525 **景寛**(かげひろ・長尾まながお、)? - ?文化(1804-18)頃没 江中後期;国学者・歌学者、  
国学・歌;三島景雄(1727-1812)・村田春海(1746-1811)門、小倉藩江戸留守居役、  
[景寛(;名)の通称]仁左衛門/軍太

- E1599 **景熙**(かげひろ・梶原かじわら、字;士敬)1778-1827 50 筑前の金石文学者、  
昭陽「空石日記」入、1815「田島石経記」、「志賀金印説」「宗像石経記」著、  
[景熙(;名)の通称/号]通称;善太夫、号;天均/鷲石

- U1595 **景寛**(かげひろ・高林たかばやし、旧姓;久津見)1808-81 74 高林家の養嗣子/加賀金沢藩士;御作事奉行、  
国学・歌人;田中躬之門、  
[ともすれば我をわすれて月影を傾むくとのみながめけるかな](月下幽志)、  
[景寛(;名)の別号/字/通称/号]初名;宣(・久津見)、字;子栗、通称;孫兵衛、  
号;蒼翠園/晩翠

- T1570 **景寛**(かげひろ・乾いぬい、)1814-1891 78 讃岐多度津の国学者、幼少より好学、  
博学;皇漢の史籍・仏典/詩歌・俳諧/音楽・挿花を涉猟、天保1830-44頃より教育に尽力、

- 「讃岐古今物語」「讃岐野史」「雲隣席集」著、健輔(医者)の父、  
 [景寛(；名)の通称/号]通称；百内、号；雲隣庵/松翁/松廼舎まつのや/蒼髯斎/松子
- T1597 **景寛**(かげひろ・大原おほはら、信満男)1837-8650 信濃伊那郡林村の豪農、国学；岩崎長世・平田鉄胤門、  
 長世の門人や松尾たせ子と交流、古史伝上木に出資した他同志と共に国事に奔走、  
 [景寛(；名)の通称/号]通称；慎三郎/伴衛、号；雲泉/共井  
 景広(かげひろ・白井) → 華陽(かよう・白井しらい、儒者/絵師) P 1 5 5 9  
 景寛(かげひろ・久代) → 寛斎(かんさい・久代くしろ、儒者) H 1 5 5 9
- B1593 **景房**(かげふさ・藤原ふじわら/家名；齋藤、盛房or宗長男?)?-? 鎌倉期の武士/尾張守、四位/大膳大夫、  
 亀山院北面、歌人；新後撰1267、宗長男なら；実は兄景頼男、  
 [ちりのこるのちの弥生の八重桜重なる春の花とこそ見れ](新後撰；雑1267、  
 弥生に閏月ありける年に詠む)
- V1557 **景房**(かげふさ・二見ふたみ、)1785-186970 相模淘綾ゆるぎ郡山西村の神職、  
 二ノ宮明神社(川勾かわわ神社)神主34代、神道；白川家入門、相模触頭役、  
 1856(安政3)跡目を景賢(1829-1904)に譲渡；隠居、  
 1787-1865「川勾神社日記」(25冊)著、  
 [景房(；名)の通称]神太郎(代々の称)
- B1594 **景文**(かげふみ・明石あかし、通称；亀蔵、号；反哺堂)1735-59早世25 播磨明石藩儒、儒；梁田公善門、  
 歌；冷泉為村門、小沢蘆庵と親交、「亀蔵家集」、1758「明石景文詩稿」著/「亀蔵遺稿」
- L1530 **景文**(かげふみ・内藤ないとう、初名；豊紹、高豊男)1745-8844 大和高取藩士/1759目付役/68用人、  
 1783中老、儒；菅茶山門、南朝忠臣村上義光の顕彰碑を吉野山長嶺に建立、  
 「自娛斎遺草」(；息景美刊)、  
 [景文の字/通称/号]字；士武/子武、通称；左膳/順蔵、号；自娛斎
- L1531 **景文**(かげふみ・三上みかみ/本姓秦、栗津あわづ義清男/三上景宏養子)1789-? 1849存 京の長者町官人、  
 1802家督/21大和守/新清和院(仁孝天皇母)の北面侍、  
 1844系譜「地下家伝」編、「松三問答」著
- U1578 **蔭文**(かげふみ・須那すな、) ? - ? 江後期；紀伊田辺の薬種商；橘屋、歌人、  
 国学・歌；能代繁里(1818-76)門、  
 [蔭文(；名)の通称/号]通称；銀七/吟七、号；立吟堂、屋号；橘屋  
 銀七(吟七ぎんしち・須那) → 蔭文(かげふみ・須那すな、商家/歌人) U 1 5 7 8  
 景翰(かげふみ・長尾) → 秋水(しゅうすい・長尾ながお、遍歴/詩人) H 2 1 7 7  
 景文(かげふみ・武元) → 登登庵(とうとうあん・武元たけもと、儒者/詩) O 3 1 5 2
- B1595 **景正**(かげまさ・加藤かとう、通称；藤四郎/号；春慶)?-? 鎌倉中期の陶工、1223道元に従い入宋、  
 尾張瀬戸窯の祖
- V1542 **景正**(かげまさ・林はやし/本姓；藤原、通称；信濃)?-1810 紀伊有田郡の糸鹿(我)稻荷神社社司、  
 国学；本居宣長門
- V1540 **景正**(かげまさ・蓮沼はすぬま、)1795-185561 出羽仙北郡久保田(秋田)藩士；大番組頭、  
 国学・歌学；吉川忠行門、  
 [景正(；名)の初名/字/通称/号]初名；景周/御陰、字；士行/士表、  
 通称；直吉/亭太/又右衛門、号；章斎/白皐
- L1532 **蔭正**(かげまさ・兼清かねきよ)1810-1839早世30歳 周防熊毛郡室積の国学者；本居大平・内遠門、  
 1828「古道徴」「三柱部別神之論」、「黄泉之国」著、「蔭正遺稿」(鈴木高鞆編)、  
 大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
 [藤原の大宮所たづねきて香具山見ればいにしへ思ほゆ](八十浦；969；  
 文政十年[1827；18歳]大和国所を見歩き詠)  
 [蔭正の別名/通称/法号]別名；諸磨/鈴磨、通称；重五郎/善兵衛、法号；黙照靈念居士
- V1546 **景正**(かげまさ・肥田ひだ、通称；休右衛門)1817-8973 日向都城藩士；家老、国学・歌；八田知紀門、  
 肥田景文の父
- V1598 **景端**(かげまさ・森下もりした/本姓；紀、森下重兵衛男)1824-9168 備前岡山藩士；1845先徒雇で出仕、  
 国学者、1858(安政3)父没；家督継嗣、藩命で1864長州藩山県半蔵・家老増田親施と折衝、  
 1865(慶応元)備中の郡奉行、1866倉敷浅尾騒動；取締が消極的；幕府から詰問；罷免、

農民を徴募し農兵隊(耕戦隊と改名)を組織/1867日置帯刀に随い耕戦隊を率い西宮警備、1868岡山藩が新政府軍江戸東征軍の先鋒;景端は耕戦隊と勇戦隊を率いて出陣、江戸開城のため江戸城西之丸で接收役、旧幕府軍との八幡戦争に五井姉ヶ崎に出陣、耕戦隊を率いて彰義隊討伐参加;負傷;入院、負傷のまま奥州出兵/会津転戦、維新後;1869参政/権大参事/71大分県参事/74大分権令;76致仕/岡山に帰郷、1877黒住教中教正/黒住教副管長;布教活動、

[景端(;)名)の通称/号]通称;亀太郎/立太郎、号;竹堂/養無道人

景正(かげまさ・寺田) → 清遠(きよとお・寺田てらだ、歌人) U 1 6 8 0

景政(かげまさ・小幡) → 成之(せい・小幡、藩士/俳人) I 2 4 5 4

景益(かげます・里村) → 昌程(しょうてい・里村[南家]、幕府連歌師) U 2 2 3 7

F1500 景松(かげまつ・歌川うたがわ、姓;西川) ?-? 江後期1830-44頃大阪の絵師;歌川貞景門、役者絵、1835「柳眉春朝妻」36「力瘤三八異伝」37「春之駒小栗雑談」32「新嘶四季之見台」画、1834春水「娘消息」画、

[歌川景松の別号]一峰斎/五流亭/湖春亭

B1596 景見(かげみ・相川あいかわ/本姓;加茂、名;定泰) 1811-7565 幕臣;御歩組頭、国学・歌;香川景樹門、上野宮に歌進講、「柏園家集」、「柏園雑記」「柏園千首」「船路の日記」著、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[清滝に色のはなだのかげとめて流れぬ糸は柳なりけり](大江戸倭歌;春159/滝辺柳)、

[景見の通称/号]通称;登之助/彦之進、号;柏園/山の井

景海(かげみ・檜崎) → 景海(かげうみ・檜崎ならさき、藩士/国学/歌) K 1 5 7 9

W1518 景通(かげみち・稲葉いなば、信通男) 1639-9456 母;織田信良2女(光浄院)、豊後臼杵藩第5代藩主、1673(寛文13)父没;家督継嗣;従五下・右京亮、民政に尽力/港整備・藩政刷新など藩の確立、臼杵藩中興の祖との称、妻;有馬忠頼女の長、1694(元禄7)没、弟の知通が家督嗣、

[ながらへてあらばこそあれ世の中の人の情の恋しゆかしさ]、

(茂睡[鳥の迹]哀傷593/詞書;心地死ぬべく覚えければ)、

[景通(;)名)の初名/通称]初名;虎助、通称;右京、法号;本光院

L1533 景晋(かげみち・遠山とおやま、通称;金四郎、永井直会男) 1752-183786 幕臣;遠山景好の養嗣子、遠山金四郎景元の父、長崎奉行、蝦夷踏査、「海防の辨」「未曾有記」著

息子景元(かげもと・遠山) → 金四郎(きんしろう・遠山とおやま) I 1 6 0 3

T1534 景通(かげみち・青山あおやま) 1819-189173 美濃苗木藩士、国学・神道;平田鍊(鉄)胤門、復古神道/尊皇派、書;三好想山門、1863国学者鈴木重胤を暗殺、「経済総論」写本、維新後;神祇事務局;神祇官権判事/神祇官少祐、東京住、直道・胤通の父、

平田国学を信奉;藩内の儒教教育否定・廃仏毀釈を実施;藩内の強い反発を買う;

1870一連の反発者を流罪・投獄、萩原厳雄・三輪田元綱と国学四大大人靈祭を実施、

[景通(;)名)の別名/通称]別名;直意、通称;稲吉いなさち

V1568 蔭路(かげみち・牧まき、) 1824 - 190077 肥後の国学者・歌;肥後藩士中島広足ひろたり門、

[蔭路(;)名)の通称/号]通称:勝助/千馬多、号;柳搗りゅう

L1534 景光(かげみつ・平たいら) ? - ? 鎌前期廷臣;武者所勤務/歌;1203影供歌合参加、[時はいまだ夏野の原の夕ま暮秋とばかりや萩のうは風]、

(影供歌合;草野秋近十八番右36/草野秋近)

L1535 景光(かげみつ・大神おおが・山井、大神景政男) 1272-135382 京楽人;左近将監/雅楽頭/安藝守/従五下、後醍醐天皇の笛の師、1330「横笛考」、「竜笛要鑑」「竜笛録譜」「神楽笛譜」著

L1536 景充(かげみつ・近藤こんどう、景高男?) ?-? 江後期周防徳山藩士、越後流兵法毛利伝:父?近藤景高門、「城之図」、「近藤景充先生雑記」著

景光(かげみつ・保母) → 景光(かげあき・保母ほぼ/井上、藩士/国学) V 1 5 6 1

景宗(かげむね・梨羽) → 紹幽(しょうゆう・梨羽なしば、武将/伝記作者) L 2 2 7 3

T1559 景村(かげむら・鉤いかり/河野、) 1799-187779 和泉堺の町年寄、歌人、

[景村(;)名)の通称/号]通称;円意/佑次郎、号;青霞/宗閑

L1537 景村(かげむら・千村ちむら、別名:政識、重崎しげかた男) 1826-8560 母;山村定千女の瑜珂、



信州筑摩郡贄川村の本陣の家/学問;医者秋元公英門・歌:桂園派の高橋正賢/中沢重樹門、  
歌人;1844香川景恒門、1864(元治元)別家し独立、維新後;東京で八田知紀・渡忠秋と交流、  
帰郷後;私塾開設/1873贄川学校創設;学頭に就任、妻:関孟雅女の八代、「一源知嘯」著、  
[景村の通称] 庫之助/万作、下条竹塙(ちくお/言志ことゆき、御典医)の甥

景村(かげむら・桜井) → 春樹(はるき・桜井さくらい、歌人) K 3 6 0 4

- B1597 **影面**(かげも/かげおも・村上むらかみ、名;祐之/名道/繁樹、本姓源) 1730-1807 78 土佐高知藩士;  
土佐香美郡大忍郷西川村の出身、経書/史;谷垣守かきもり門、  
国学・歌;荷田在満・賀茂真淵門・冷泉宗家門、足軽役、  
藩命で「日本紀考」筆写、足軽役を罷免/江戸住、1759-61私撰「采藻編」編、  
1760「百人一首略抄」69「古今和歌集序もとのこころ」、「紫語素註」著、  
歌;本居大平「八十浦の玉」上卷入、  
[睦ましき世にもあるかも年並も春もひとつに今日立ちにけり](八十浦;153元日立春)、  
[影面の通称/別号]通称;弁蔵/忠次/織部/大忍兵士、別号;随影
- L1538 **景茂**(かげもち・大神おが・山井、大神景光男) 1292-1376 85 京の楽人:笛の名手、筑前守/従四下、  
「神楽笛譜」著、景季・景朝の弟/景式・景重の兄、1376(永和2)没、  
徒然草219段;笛の専門家としての話入、息子景継は後円融院の笛の師、
- G1576 **蔭基**(かげもと・藤原ふじわら、博文ひろふみ男)?-? 平安初期廷臣;六位/近江大掾/東宮蔵人、  
日向介、歌人:後撰集479・1039、  
[かつ消えて空に乱るゝ泡雪は物思ふ人の心なりけり](後撰;冬479、  
雪の少し降る日、女につかはす歌/消え入る思いと乱れる思いは恋に苦しむ私の心)
- B1598 **景基**(かげもと・津守つり、国基男)?-? 1102 存 平安後期撰津住吉社神官・六位、有基の弟、  
歌人;千載1033(続詞花集;798)、  
[人の心あらずなれども住吉みよしの松のけしきは変らざりけり](千載;雑1033、  
父の死後遠ざかっていた住吉にきて松のもとを削り書きつける)
- 1511 **景柄**(かげもと/かげとも・香川かがわ/本姓平、松田対馬男) 1745-1821 77 香川景平の女路子の婿/京の歌人、  
二条派宗匠、1796従六上/徳大寺家に出仕;陸奥守、1811落飾;梅月堂を継承(4世)、  
一時景樹の養父、景嗣の養父、「梅月堂景柄集」著、「黄中詠草」詠(養子景嗣刊)、  
[景柄(;名)の通称/号] 通称;俊蔵/府生/陸奥介/上総介、  
号;黄中こうちゅう/香中/梅月堂4世/浄阿
- 景元(かげもと・遠山) → 金四郎(きんしろう・遠山とおやま) I 1 6 0 3  
景基(かげもと・山崎) → 菅江(かんこう・朱楽あけら、幕臣/狂歌/川柳) 1 5 4 7
- C1500 **景盛**(かげもり・安達あた、通称;弥九郎、盛長男)?-1248 母;丹後内侍、源家三代の家臣/秋田城介、  
1219源実朝横死;高野山で出家/真言僧;覚智院創建/僧として幕政参画、金剛三昧院修造、  
三宝院流覚智方の開祖、明恵に帰依/歌の贈答;明恵上人歌集2首入、「金剛頂経開題」著、  
[明恵の高山寺禅堂にて月前の澄心の詠歌に対する返歌、  
限もなき心の内の光こそまことの月の影にありけめ](明恵歌集;108/下山院主覚智名)、  
[景盛の字/法諱] 字;大蓮坊、法諱;覚智かくち/覚知/覚地、高野入道  
☆景盛女(かげもりのむすめ);→ 松下禅尼(まつしたぜんに、北条時氏室/時頼母) J 4 0 7 6
- L1539 **景盛**(かげもり・芥川あくたがわ、別名;小四郎、本姓平)?-? 戦国期1500頃活躍の武将、細川家臣、  
連歌;新菟1句入
- F1502 **景安**(景康かげやす・中原)? - ? 鎌倉期楽人、琵琶;有安門、「胡琴教録」著?
- B1599 **景保**(かげやす・高橋たかはし、字;子昌、至時よしとき男) 1785-1829 獄死 45 大阪生/1797江戸住;  
天文学;父門、1804家督継嗣;幕臣/天文方、御書物奉行/天文方筆頭、  
地誌/蘭学;地図作成・翻訳、伊能忠敬を補助、シーボルトに日本地図を渡す;  
1828発覚し捕縛/翌年獄死、「万国全図」「和蘭事略藁」「海国必読書」「西海遺事」、  
「満文輯韻」「曆象考成下編図解」「亞欧語鼎」外著多数、渋川景佑の兄、  
[景保(;名)の通称/号]通称;作助/作左衛門、  
号;観巢/玉岡/求己堂主人/蛮蕪/Grobious(グロビウス)、法号;信貞院
- L1540 **景恭**(かげやす・山岡まよおか、通称;八郎左衛門、熊次郎男)?-? 幕臣;1842納戸頭/52西丸目付、  
1854佐渡奉行;知行三百俵・役料千五百俵百人扶持/60日光奉行/62-65奈良奉行、備前守、

1858「金硠論」「金硠問答」/66「佐渡年代記」著、村垣範正と交流  
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入;村垣範正より[友千鳥]の贈歌ありその返歌、  
 [沖つ波かかる島根も友千鳥立ちゐ安しと聞くぞ嬉しき]、  
 (大江戸倭歌;雑1859、村垣範正への返歌)

- T1509 **景恭**(かげやす・堺さかい/本姓;平)?- ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入/60鋤柄すきから助之「現存百人一首」入、  
 [更科やさらでも秋はさびしきに木曾の麻衣あさぎぬ月に打つなり](大江戸倭歌;秋942)  
 [高砂の尾上にさゆる鐘の音におとせぬ霜の深さをぞ知る](現存百人一首;85)  
 景安(かげやす・古田) → 重然(しげなり・古田ふるた、武将/茶人) 2 1 1 1
- L1541 **勘解由**(かげゆ;通称・大蔵おおくら、名;之明)?-1782 大阪生玉神社祠官、書;明朝風書体、  
 1773「画引六体千字文」77「名乗早鑑」、「精書旁通音韻」、  
 [勘解由の号] 江月庵/忘三堂、神号;源水清高神人
- L1542 **勘解由**(かげゆ;通称・玉井たまのい、名;貞矩さだのり/別通称;頼母、監物男)?-1834 金沢藩士;1802家督、  
 定火消/寺社奉行/家老、1824「寺社方等勤方覚書」
- L1543 **勘解由**(かげゆ;通称・山田やまだ、名;時章、時亮男)1834-9865 青蓮院宮家累代の家臣/正五位筑後守、  
 儒;梅田雲浜門/兵学;花房巖雄門、尊融法親王に仕;国事奔走/1858安政大獄連座;押込処分、  
 1859「四英獄窓唱和集」、のち東京に興風女学校創設、妻;梅田登美子(梅田雲濱野の姪)、  
 [勘解由の号] 不倦斎/宣風
- 勘解由(かげゆ・河崎) → 延貞(のぶさだ・河崎、神職/医者) B 3 5 4 5  
 勘解由(かげゆ・新井) → 白石(はくせき・新井、儒者/幕政参画) 3 6 1 0  
 勘解由(かげゆ・伊藤) → 友嵩(ともたか・伊藤いとう、藩士/老中) U 3 1 0 9  
 勘解由(かげゆ・草鹿砥) → 宣隆(のぶたか・草鹿砥くさかど、儒/国学) B 3 5 7 4  
 勘解由(かげゆ・水野) → 元朗(もとあきら・水野みずの、家老/儒者) C 4 4 0 2  
 勘解由(かげゆ・竹俣) → 義秀(よしひで・竹俣たけのまた/保科、家老) G 4 7 3 7  
 勘解由(かげゆ・中根) → 正長(まさつね・中根/長坂、幕臣) E 4 0 1 0  
 勘解由(かげゆ・酒井) → 忠孝(ただたか・酒井さかい、藩主/和学者) X 2 6 3 6  
 勘解由(かげゆ・梅辻) → 春樵(しゅんしょう・梅辻/琴/祝部、神職/詩) J 2 1 9 6  
 勘解由(かげゆ・萱場) → 傍斎(ぼうさい・萱場かやば/菱沼、藩士) 3 9 9 0  
 勘解由(かげゆ・元木/畑) → 鶴山(かくざん・畑はた/修姓;銭、医者/儒) J 1 5 9 1  
 勘解由(かげゆ・小出) → 英安(ふさやす・小出こいで、藩主/国学) I 3 8 2 4  
 勘解由(かげゆ・益田) → 広堯(ひろあき・益田ますだ/繁沢、家老) L 3 7 0 0  
 勘解由(かげゆ・前田) → 孝和(たかかず・前田まただ、藩士/記録) L 2 6 7 0  
 勘解由(かげゆ・土屋) → 綱直(ただなお・土屋つちや/源、幕臣/歌) U 2 6 0 6  
 勘解由(かげゆ・鷺見) → 安敬(あんけい/保喜やすよし・鷺見すみ、藩士/歌) D 4 5 5 8  
 勘解由(かげゆ・南部) → 政智(まさとも・南部なんぶ/東あずま、家老/歌) E 4 0 7 5  
 勘解由(かげゆ・佐藤) → 梅軒(ばいけん・佐藤さとう、藩儒/藩家老) B 3 6 1 2  
 勘解由(かげゆ・藤島) → 宗順(むねのぶ・藤島、神職/歌人) C 4 2 1 4  
 勘解由(かげゆ・菌田) → 守紹(もりつぐ・菌田/藤波、神職/国学) K 4 4 2 3  
 勘解由(かげゆ・伊能) → 忠敬(ただたか・伊能いのう、商家/測量図) F 2 6 2 5  
 勘解由(かげゆ・氷室) → 種長(たねなが・氷室ひむろ/紀、神職) R 2 6 9 0  
 勘解由(かげゆ・横沢) → 兵庫(ひょうご・横沢よこざわ/柴内、家老/画) F 3 7 2 3  
 勘解由(かげゆ・小谷) → 時賞(ときよし・小谷おたに、藩士/歌人) U 3 1 4 0  
 勘解由(かげゆ・千萱) → 義利(よしとし・千萱ちがや、神職/国学者) E 4 7 9 2  
 勘解由(かげゆ・大森) → 忠之(ただゆき・大森おおもり、神職/国学) W 2 6 2 2  
 勘解由(かげゆ・玉井) → 春枝(はるすえ・はるしげ・玉井たまのい、神道/国学) K 3 6 4 3  
 勘解由(かげゆ・広辻) → 光春(みつはる・広辻ひろつじ/橘/小林、歌/茶人) K 4 1 2 8  
 勘解由(かげゆ・堀内) → 保房(やすふさ・堀内ほりうち、神職/国学) G 4 5 5 7  
 勘解由(かげゆ・本時) → 篤親(あつちか・本時もとき、神道/国学) I 1 0 5 4  
 勘ケ由(かげゆ・馬込/馬籠) → 鈍奈法師(どんなほうし、狂歌) S 3 1 5 5
- L1544 **景之**(かげゆき・恵川えがわ) ? - ? 紀州藩士/関流和算;内田五観門、伊勢松坂住、歌、

藩命で息景雄かげおと和歌山で南海測量、「弧角小成」、1842弧三角捷法解」著

[景之の通称/号]通称;弥太郎/弥五郎、号;星舎ほしのや/観府

- U1582 景之(かげゆき・関せき、号;星舎ほしのや) 1812-7160 伊勢松坂の国学者、歴算;渋川景佑門  
恵川景之と同一?

景行(かげゆき・桜田) → 澹斎(たんさい・桜田、儒者) I 2 6 7 0

景行(かげゆき・小野/南部) → 南山(なんざん・南部なんふ、儒者) J 3 2 0 1

景幸(かげゆき・速水) → 氏紀(うじのり・速水はやみ、酒造業、歌人) E 1 2 8 4

勘解由小路(かげゆのこうじ/かでのこうじ;号) → 経房(つねふさ・藤原、廷臣/歌人/日記) D 2 9 5 7

勘解由小路殿(かげゆのこうじどの/かでのこうじどの) → 義埒(よしまさ・斯波しば、武将/歌人) G 4 7 9 6

勘解由小路中納言(かげゆのこうじのちゅうなごん/かでのこうじ-) → 覚如(かくによ・宗昭、真宗本願寺3世) B 1 5 7 0

勘解由小路二品禅門(かげゆのこうじのにはんのぜんもん) → 経尹(つねまさ/つねただ・世尊寺、歌人) D 2 9 6 5

勘解由左衛門(かげゆさえもん・町野) → 政胤(まさたね・町野まちの、藩士/歌人) Q 4 0 1 2

勘解由左衛門尉(かげゆさえもんのじょう・杉/平) → 武道(たけみち・杉すぎ、武将/連歌) O 2 6 7 8

- L1545 景慶(かげよし・藤原ふじわら、通称;左衛門大夫)?-? 江前期石清水八幡寺伝奏広橋家に出仕、  
1679「石清水放生会私記」、「景慶記」著

- L1546 景義(かげよし・西村/西邨にしむら、改姓;井李/修姓李、西村直方男) 1728-6033 京の薬屋、本草家/詩人、  
「楚辞艸木考」、「薺園稿」著、

[景義の別名/字/通称/号]別名;敬義、字;汝質、通称;章治、号;薺園しゅんえん

- L1547 景祥(かげよし・蓮沼はすぬま、字;世禎、七左衛門男) 1736-? 羽後秋田角館藩士、私塾致道館を創設、  
角館の学問興隆の礎を築く、武術;日置流弓術/荒木流馬術、「井蛙談」著

[景祥の通称/号]通称;源右衛門、号;捨翁

- L1548 景吉(かげよし・村上むらかみ、字;玄治)?-1803 大阪医者/晩年剃髪;徳海阿闍梨門、「得一余訓」著、  
[景吉の号]相長軒/相生軒

- L1549 景美(かげよし・中村なかむら、通称;周介/号;自景堂) 1760-182566 美作田/熊村代々医者;父門、  
和算;青木正蔵門、「弧矢弦之術」「三連六形術書」「文化文政間曆稿」著

- U1569 景欽(かげよし・佐々木ささき、香川、直枝男) 1783-183149 安藝広島の歌人;京の香川景柄門、  
香川景柄の養子、のち佐々木に復姓、歌人として仙洞御所に出仕、京の烏丸佛光寺北に住、  
1822(文政5)新年御題の懐紙・短冊を光格上皇に披露;君朋の字を賜う、中臣俊嶺の師、  
[景欽(;名)の字/通称/号]字;君朋/敬夫、通称;雅楽介たのすけ、号;雪屋

- L1550 景縉(かげよし・加藤かとう、字;君緒、定斎長男) 1790-185162 広島藩士;藩校学問所入学/儒;頼杏坪門、  
江戸住;藩校学問所教授、闇齋学/歌文、詩/書画;文人画家として作品多数、  
「芸藩通史」編纂参画;頼杏坪を助け古典故事調査、「芸備孝義伝三編」(金子霜山と共編)、  
1850「むかしがたり」著、「藝州嚴島圖會(芸州嚴島図会)」(頼杏坪と再訂を行う)、  
[景縉の通称/号]通称;太郎三/太郎助/株鷹、号;棕盧そうろ/肯堂

- T1514 景佳(かげよし・早川はやかわ) ?-? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[たきすてし蜚あまの藻塩火かげふけて浦わさびしく千鳥鳴くなり](大江戸倭歌;冬1207)

- V1590 景美(かげよし・村尾むらお、) 1801-187878 讃岐山田郡の国学者、  
[景美(;名)の通称/号]通称;九八郎、号;里仁

- L1551 景毅(かげよし/かげたけ・梶原かじわら、通称;左内/保次郎/平介) 1806-3732 伊予松山藩士/御側役、  
国学/歌・海野遊翁門、「残香録」著(;藩主松平定通の事績を記述)

- L1552 景美(かげよし・内藤、景文男)?-? 江後期大和高取藩士、父作品「自娛斎遺稿」刊

- T1515 景良(かげよし・山岡やまおか/本姓;伴)?-? 江後期;歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[降る雪を花と思へば打ちつけに櫛ならもくぬ木もながめられけり](大江戸倭歌;冬1254)

- V1534 景宜(かげよし・新田にった、) 1816-186348 陸奥仙台藩士、国学者、  
[景宜(;名)の通称/号]通称;縫殿介ぬいのすけ、号;梧窓

景良(かげよし・伊能/楫取) → 魚彦(なひこ・楫取かとり、国学/歌) 3 2 2 4

景淑(かげよし・大場) → 一眞斎(いっしんさい・大場おおば、藩士/歌) C 1 1 8 6

影好(かげよし・伊能) → 桐雨(とうう・伊能いゆう、俳人) U 3 1 1 2



蔭好(かげよし) → 世平(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌) 2982

L1553 景頼(かげより・藤原ふじわら、宗長男?)?-? 鎌倉期廷臣;左兵衛少尉/左衛門尉、  
歌;1201和歌所影供歌合/03影供歌合参加、  
[ながめやるをちのとやまの峰つづき風わたるなり夕暮れの空]、  
(和歌所影供;十五番右30/遠山暮秋)

U1560 景頼(かげより・桑折おり/石母田いもだ、守護代石母田光頼男)1559-1625<sup>67</sup> 陸奥国伊達郡石母田城生、  
武将;陸奥伊達家重臣;輝宗・政宗父子に出仕、多くの戦功/1590小田原征伐;二本松城守備、  
1591(天正19)正宗が米沢から岩出山に減転封の際に伊達郡を没収;石母田城明渡し、  
伊具郡荒山城主となる/1592政宗に従い文禄の役に従軍、  
妻(桑折宗長女)の兄桑折政長が釜山浦で病死、  
1594藩命で嫡子重長(6歳)を政長女吉菊(4歳)と娶せ桑折家を継嗣、  
豊臣秀次謀反事件に政宗が疑われ政宗とその妻子を連れ伏見に上り連判誓詞文を提出、  
伏見で人質生活(1599まで)/藩命で次女の婿養子浦山宗綱(改名石母田宗頼)を迎える、  
1600(慶長5)白石城奪還戦に従軍/1601桑折重長の後見となり以後桑折景頼を称す、  
石母田家の家督は婿宗頼に譲渡、1602(慶長7)次男万蔵(のちの桑折宗頼)誕生、  
長子重長22歳で病没;景頼は桑折家を継嗣、1614政宗男秀宗の後見として大坂冬陣に従軍、  
和議後;秀宗が伊予宇和藩10万石に封じられる/景頼も妻と次男宗頼らと宇和島に入る、  
宇和郡河後森城主となり7000石/筆頭家老(奉行)とし藩政を運営、1623隠居、  
宗頼に桑折の家督嗣

L1554 翔(かける・羽栗はくり、吉麻呂よしまろ男/母は唐の人)721-? 734父の帰国時に来日、  
761藤原清河の帰国要請のため渡唐、

参考 父 → 吉麻呂(よしまろ・羽栗、遣唐使人) H4721

兄 → 翼(つばさ・羽栗、医者) E2930

玷(かける・直木/佐々木) → 向陽(こうよう・佐々木/直木、儒者) L1950

L1555 花軒(かけん) ?-? 丹波峰山の俳人、1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、  
[芹せりに今朝渡りそめけり独梁ひとつばし](都曲;下325/芹取に危ない一本丸太の橋を渡る)

S1515 花縣(かけん) ?-? 江中期俳人;1795「尾華うつし」編

可堅(かけん・岡部) → 宣勝(のぶかつ・岡部、藩主/文筆) B3523

可軒(かけん・池田) → 長発(ながおき・池田いけだ、幕臣/文筆) D3234

果軒(かけん・和氣) → 寛(ひろし・和氣わけ、藩士/儒者) F3791

果軒(かけん・西尾) → 正履(まさのぶ・西尾にしお、国学者) R4036

家賢(かけん・花山院) → 家賢(いえかた・花山院、南朝廷臣/歌) 1132

家憲(かけん・神田/奥山) → 金陵(きんりょう・奥山おくやま、医者/詩文) S1615

稼軒(かけん・井手) → 今滋(いましげ・井手いで/橘、曙覧男/藩士/歌) D1114

可彦(かげん・陸) → 可彦(よしひこ・陸くが、医者) G4723

可元(かげん・松井) → 安運(やすゆき・松井まつい、里正/和学) G4565

佳彦(かげん・松木/亀田) → 佳彦(よしひこ・亀田/度会/松木、神職) G4719

花彦(かげん・松本) → 良遠(よしとお・松本まつもと/浜野、藩儒/歌/狂歌) P4726

嘉言(嘉玄かげん・水走) → 平岡(へいこう・水走みずはしり、医者) 2729

嘉言(かげん→よしとき・丹羽) → 謝庵(しゃあん・丹羽/藤原、儒者/絵師) F2199

嘉言(かげん・豊田) → 嘉言(よしこと/よしのぶ・豊田とよだ、国学/歌) D4729

嘉言(かげん・正田) → 嘉言(よしのぶ・正田まさだ、国学/歌) P4709

嘉言(かげん・村田) → 嘉言(よしこと・村田/平、国学者/絵師) D4730

嘉言(かげん・藤田) → 嘉言(よしとき・藤田ふじた、藩士/和算家) E4787

雅兼(かげん・源) → 雅兼(まさかね・源、廷臣/歌人) 4007

雅見(かげん・清水) → 雅見(まさみ・清水しみず、国学/歌人) Q4009

雅頭(がげん・飛鳥井) → 雅頭(まさあき・飛鳥井あすかい/藤原、廷臣/歌人) 4089

雅言(がげん・源) → 雅言(まさこと・まさとき・源、廷臣/歌人) C4049

雅言(がげん・伊藤) → 宜堂(ぎどう・伊藤いとう、儒者/教育) I1667

雅言(がげん・広安) → 雅言(まさとき・広安ひろやす、商家/歌人) E4039

- 雅言(がげん・藤田) → 雅言(まさこと・藤田ふじた、藩士/国学者) S 4 0 3 1  
 雅言(がげん・齋藤) → 雅言(まさこと・齋藤さとう/菅原/森山、藩士/神風連乱) P 4 0 9 6  
 雅言館(がげんかん) → 千及(せんきゅう・田路たじ、俳人) F 2 4 0 9  
 花源樵夫(かげんしゅうふ) → 蒼海(そうかい・青木あおき、藩儒) G 2 5 4 9  
 過現未亭(かげんみでい) → 鷗沙(鷗砂おうしゃ/おうさ・伊村、俳人/書) 1 4 4 8  
 河玄祐(かげんゆう) → 玄祐(げんゆう・河、漢学者/狂文) D 1 8 1 8  
 鹿古(かこ・浅野) → 鹿古(しかふる・浅野、俳人) P 2 1 8 4  
 佳古(かこ・太田) → 中彦(なかひこ・太田おた/丸山、藩医/歌) L 3 2 4 5
- C1501 鷺湖(がこ・千村ちむら、修姓千/村、名;諸成、夢沢男/祖父武明養子) 1727-9064 尾張藩士/1736家督、馬廻/1742小姓/のち先手物頭、儒・松平君山/石島筑波門、画;月儼げせん門、1780-85「自適園集」、「自適園文集」「冷野草」「伏陽客中稿」「茶之湯間違噺」著、「自適園遺稿」、[鷺湖の字/通称/別号]字;伯就/力之、通称;惣吉/総吉/孫太夫、別号;笠沢/釣叟/自適園/七楽居/大観廬
- H1581 鷺湖(がこ・吉田よしだ、名;清/字;士廉)?-? 江後期信濃高島藩儒/詩文、江戸住、「孝経管解」「長夜談」「国号異称記」「生死別号録」「奇談漫筆」「舉人説」「不求堂詩文集」、1835「不求堂百絶」38「諏訪八勝詩」42「幼学詩韻三編」50「不求堂文集初稿」著、[鷺湖の通称/別号]通称;豊八/豊八郎、別号;霊鳳/不求堂、武居節庵の父息子 → 節庵(せつあん・武居/吉田、藩士/詩人) K 2 4 6 9
- L1556 鷺湖(がこ・鈴木すずき、名;雄/幼名;筆三) 1816-7055 下総金堀村絵師:松月/文晁門、1843「三山紀略」-54「吾妻路」57「飛鳥山十二景詩歌并碑」著、絵師の菊潭/石井鼎湖の父、[鷺湖の字/通称/別号]字;雄飛、通称;漸造、別号;一鷺、法号;寂照院
- 鷺湖(がこ・諏訪) → 忠林(ただとき・諏訪、藩主、詩人) P 2 6 9 9  
 鵝湖(がこ;号) → 天与(てんよ;道号・清啓;法諱、臨濟僧) E 3 0 4 9  
 鵝湖(がこ・田中) → 正躬(まさみ・田中たなか、商家/歌人) Q 4 0 5 9  
 雅固(がこ・源) → 雅固(まさかた・源、廷臣/歌人) B 4 0 8 4  
 雅古(がこ・田中) → 蘭溪亭泉(らんけいてい・田中、狂歌) B 4 8 9 1  
 臥虎(がこ・坂井、臥虎山人) → 虎山(こざん・坂井さかい、藩士/儒者) C 1 9 6 5  
 臥虎(がこ・山本) → 重胤(しげたね・山本やまもと/賀茂、国学者) a 2 1 0 1  
 過去庵(瓜狐庵がこあん) → 鷗沙(鷗砂おうしゃ/おうさ・伊村、俳人/書) 1 4 4 8
- F1503 可綱(かこう) ? - ? 俳人、1673随流「鷺笛」入  
 L1557 花紅(かこう) ? - ? 江戸の俳人、1691「猿蓑」1句入、[麦むぎ出来て鯉まで喰ふ山家やまが哉](猿蓑;卷二/豊作に景気づく山家)  
 L1558 可幸(かこう) ? - ? 大阪の俳人、1691賀子「蓮実」3句入、[草にとり又草におくほたる哉](蓮実;215/草を移動する螢)  
 I1511 可耕(かこう) ? - ? 京の俳人、1729隆志「俳諧草結」入、[名ぞ雪の曙あけぼのにほふ滝に鱒ひれ](草結;249/隆志立机への賀詞、雪の朝の立机は竜門の鯉が竜になる)
- L1559 霞江(霞紅かこう・丸山まるやま、名;良水、政山男) 1701-6464 信州佐久塩名田宿の本陣/問屋業、俳人;不角門、瀬下せしも敬忠のぶただ(玉芝)門/松木珪林門、晩年は綾足の片歌説に傾倒、「はいかい四季の花」「俳諧不断ざくら」編、追善「かへりばな」息子柯則編、[霞江(霞紅)の通称/別号]通称;新九郎/新左衛門、別号;良吟/良琴、
- L1560 華岡(かこう・伊藤いとう、名;益道/字;子行/通称;善蔵) 1709-7668 伊勢の生/江戸住の書家;細井広沢門/関鳳岡門/書画鑑定、「華岡印譜」著  
 L1561 花好(かこう・箱島はこしま) ? - ?96歳没 下総関宿の女流俳人;蕪村門、1748箱島氏に嫁す、1818(文政元)「暁月集」編  
 F1504 加興(かこう・知足庵) ? - ? 江中期俳人、1770俳論「俳諧本来道もときみち」著(雪柴下鳥序)  
 L1562 歌口(かこう) ? - ? 江中期江戸の俳人;1770撰集「一座之華」如畔・浦夕と共編  
 L1563 花紅(かこう) ? - ? 伊勢の俳人、

1773几董「明鳥」1句/76樗良「月の夜」1句入、

[いなづまや風情を乱す月の雲](明鳥;156)

- L1564 **菓向**(かこう) ? - ? 俳人、1774美角「ゑぼし桶」1句入、  
[日ひとひを時雨時雨の驚ぎのいろ](ゑぼし桶;50/濡れ羽色の艶を増す変化)
- L1565 **化更**(かこう) ? - ? 俳人、1777江涯こうかい「仮日記」1句入、  
[這ひ出でて鳴く菅沼の蛙かほかな](仮日記;93/菅の下から解放された喜びの歌)
- 1513 **可候**(かこう・一筆庵いっぴつあん、松本/池田、名;義信/茂義、松本政兵衛良輔男) 1791-1848 58 江戸絵師、  
幼時;狩野白珪門/一時仕官/のち歌舞伎作者;篠田金治門、さらに浮世絵師;菊川英二門、  
錦絵や合巻・読本・人情本等挿画/1816合巻「桜は曇春朧夜」以後流行絵師、春水・馬琴と交流、  
1814-42読本「南総里見八犬伝」画、1829大火後;根津で妓楼若竹屋経営;里介の称、  
1830頃舶来絵具ペロリ藍の錦絵制作、24-33「殺生石後日怪談」画、34上野池之端蓮池庵転居、  
1835錦絵シリーズ「木曾街道六十九次」画/36-人情本「いろは文庫」画/41「春色恋白浪」画、  
1842以後戯作者とし文筆活動に力点、1846類焼;坂本町転住;胸通に苦しむ;48没、画著多数、  
1844「革究かきぞい図考」「善悪道中記」45「楓鎧古跡考」、48「義士銘々伝」「青陽石疋礎」著外多数、  
[可候の通称/号]通称;善次郎/里介、画号;溪斎英泉けいさいえいせん/小泉/一筆庵/国春楼/北亭、  
文筆号;一筆庵可候/楓川市隠、戯名;千代田才一、隠号;淫乱斎/白水、法号;溪斎英泉居士
- L1566 **可厚**(かこう・松木まつもと) ? - ? 信濃善光寺の俳人、  
1844「今と昔集」21「信濃ふり」「荳の匂ひ」著
- |                  |   |                         |           |
|------------------|---|-------------------------|-----------|
| 可興(かこう・堀越)       | → | 可興(かきよう・堀越、俳人)          | J 1 5 3 5 |
| 可興(かこう/かきよう・高橋)  | → | 東臯(とうこう・高橋たかはし、書家/俳人)   | D 3 1 8 3 |
| 可広(かこう・蜂屋)       | → | 可広(よしひろ・蜂屋はちや/本姓;源、藩士)  | G 4 7 5 7 |
| 可広(かこう・猪熊)       | → | 可広(よしひろ・猪熊いのくま、国学者)     | P 4 7 7 5 |
| 可行(かこう/よしゆき?・大橋) | → | 広能(ひろよし・大橋/高井、神道家)      | H 3 7 7 0 |
| 可光(かこう・林)        | → | 正樹(まさき・林はやし、郷土史家)       | C 4 0 2 5 |
| 可香(かこう・水上)       | → | 雄風(おかせ・水上みなかみ、修験/国学/歌)  | E 1 4 1 5 |
| 可弘(かこう・岡田/黒瀬)    | → | 可弘(よしひろ・黒瀬/度会/岡田、神職)    | G 4 7 6 3 |
| 家衡(かこう・藤原)       | → | 家衡(いえひら・藤原/六条、廷臣/歌人)    | 1 1 5 7   |
| 可候(かこう・時太郎)      | → | 北斎(ほきさい・葛飾、絵師)          | 3 9 6 2   |
| 佳孝(かこう)          | → | 寛閑楼佳孝(かんかんろうかこう、随筆)     | G 1 5 1 9 |
| 佳功(かこう・沢井)       | → | 若木(しもと・沢井さわい、歌人)        | N 2 1 2 3 |
| 佳孝(かこう・竹田)       | → | 佳孝(よしたか・竹田たけだ、歌人)       | N 4 7 8 0 |
| 家厚(かこう・花山院)      | → | 家厚(いえあつ・花山院かざんいん、廷臣/記録) | E 1 1 7 8 |
| 花香(かこう・岩雲)       | → | 花香(はなか・岩雲、神官/国学)        | F 3 6 4 1 |
| 花虹(かこう)          | → | 利視(としみ・南部、藩主/俳人)        | N 3 1 7 8 |
| 夏香(かこう・本多)       | → | 夏香(なつか・本多ほんだ、歌人)        | K 3 2 5 1 |
| 榎江(かこう・柴田)       | → | 大介(だいすけ・柴田しばた、洋学者;英語)   | B 2 6 1 1 |
| 可行(かこう→よしゆき・広瀬)  | → | 竹庵(ちくあん・広瀬、蘭学/藩校教授)     | C 2 8 4 8 |
| 可功(かこう・赤尾)       | → | 可功(よしのり・赤尾あかお/平、国学/歌人)  | L 4 7 0 5 |
| 嘉功(かこう・神野)       | → | 嘉功(よしのり・神野じんの、藩士/武術)    | F 4 7 9 5 |
| 嘉孝(かこう・岩橋)       | → | 嘉孝(よしたか・岩橋いわはし、天文家)     | E 4 7 0 2 |
| 嘉孝(かこう・石井)       | → | 嘉孝(よしたか・石井/杉山、幕府料理人)    | E 4 7 0 7 |
| 霞江(かこう・佐々木)      | → | 政二(まさじ・佐々木ささき、藩士/俳人)    | C 4 0 6 4 |
| 霞臯(かこう・杉村)       | → | 健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜)     | H 1 8 4 7 |
- L1567 **画好**(がこう) ? - ? 近江膳所の俳人;1691「猿蓑」入、  
[みぞれ降る音や朝飯あさげの出来るまで](猿蓑;寒い朝食事まで寝床の中で雨音を聞く)  
臥高と同一? → 臥高(がこう・本多、俳人) C 1 5 0 2
- C1502 **臥高**(がこう・本多ほんだ、名;光豊/通称;勘解由) ?-? 江前期近江膳所藩士、俳人・膳所蕉門、  
1691ノ松「西の雲」初出、1694炭俵1句/98続猿蓑8句入、1693洒堂「俳諧深川」2句入、  
1695浪化「有磯海・となみ山」入、  
[並松なみまつをみかけて町の暑さかな](炭俵;上/夏旅、



宿場町の猛暑と街道に見える松並木の蔭)

画好と同一?	→ 画好(がこう、俳人)	L 1 5 6 7
賀弘(がこう・室谷)	→ 賀弘(よしひろ・室谷むろたに、商家/詩歌/茶人)	P 4 7 5 8
雅光(がこう・源)	→ 雅光(まさてる・まさみつ・源みなもと、廷臣/歌)	E 4 0 2 2
雅光(がこう・飛鳥井)	→ 雅光(まさみつ・飛鳥井/藤原、廷臣/歌)	H 4 0 6 9
雅光(がこう・白川)	→ 雅光(まさみつ・白川/源、神祇伯/記録)	H 4 0 6 4
雅広(がこう・藤原)	→ 雅広(まさひろ・藤原ふじわら、連歌作者)	G 4 0 9 0
雅広(がこう・飛鳥井/難波)	→ 宗尚(むねひさ・難波/藤原、廷臣/日記)	C 4 2 2 9
雅広(がこう・多賀谷)	→ 雅広(まさひろ・多賀谷たがや、藩士/歌人)	Q 4 0 6 1
雅広(がこう・正宗)	→ 雅広(まさひろ・正宗まさむね、国学者/歌人)	S 4 0 5 6
雅弘(がこう・野宮)	→ 定輔(さだすけ・野宮/藤原/中院、廷臣)	I 2 0 3 0
雅行(がこう・庭田)	→ 雅行(まさゆき・庭田/源、廷臣/歌・連歌)	I 4 0 1 6
雅孝(がこう・飛鳥井)	→ 雅孝(まさたか・飛鳥井/藤原、廷臣/歌)	D 4 0 1 4
雅孝(がこう・木村)	→ 雅敬(雅孝まさたか・木村、藩士、医者/歌)	D 4 0 2 5
雅香(がこう・飛鳥井)	→ 雅香(まさか・飛鳥井あすかい/西園寺/花山院/藤原、権大納言)	N 4 0 1 6
雅綱(がこう・源)	→ 雅綱(まさつな・源みなもと、廷臣; 弁官)	U 4 0 2 5
雅綱(がこう・飛鳥井)	→ 雅綱(まさつな・飛鳥井あすかい、蹴鞠/歌人)	D 4 0 9 7
雅綱(がこう・大住)	→ 雅綱(まさつな・大住おおすみ、神職/歌人)	O 4 0 3 2
雅康(がこう・飛鳥井)	→ 雅康(まさやす・飛鳥井/藤原、歌学/蹴鞠)	4 0 2 2
雅康(がこう・平)	→ 雅康(まさやす・平たいら、廷臣/歌人)	I 4 0 0 2
雅興(がこう・木崎)	→ 雅興(まさおき・木崎ささき、酒造業/歌学)	B 4 0 5 1
荷香庵主人(かこうあんしゅじん; 号)	→ 韶澄(しょうちやう; 法諱、天台僧)	K 2 2 9 1
華光院(かこういん→けこういん)	→ 円解(えんげ; 法諱、真宗大谷派僧)	E 1 3 5 3
華耕園(かこうえん)	→ 淇水(きすい・津下/久松、俳人)	K 1 6 9
花光寺(かこうじ)	→ 石随(せきずい、文筆家)	K 2 4 3 2
花香舎(かこうしゃ)	→ 宗信(そうしん・志野/篠、香道志野流祖)	I 2 5 0 2
花降上人(かこうしょうにん)	→ 日充(にちじゅう; 法諱、日蓮僧)	C 3 3 1 7
荷香深処(かこうしんじょ)	→ 相宰(すけただ・木下きのした、医/絵師/歌)	I 2 3 3 4
華光大四師(かこうだいし)	→ 隠元(いんげん・隆琦、日本黄檗宗祖)	C 1 1 0 3
花香堂(かこうどう)	→ 貞木(ていぼく・出口、俳人)	B 3 0 6 9
花光坊(かこうぼう)	→ 頼俊(らいしゅん、社僧/歌人)	4 8 6 1
歌古園(かこえん)	→ 次芳(つぐよし・永井、俳人/郷土史家)	2 9 9 0
臥虎園(がこえん)	→ 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌)	C 1 4 7 5
華谷(かこく・佐和)	→ 莘斎(しんさい・佐和さわ、儒者/勤王/僧)	O 2 2 4 4
葭谷(かこく・渡辺)	→ 弘堂(こうどう・渡辺わたなべ、儒者)	K 1 9 8 0
嘉告(かこく・宮永)	→ 嘉告(よしつぐ・宮永みやなが、藩士/郷土史)	E 4 7 6 8
霞谷(かこく・宇津木)	→ 昆台(こんたい・宇津木[-城]/于、医者)	G 1 9 5 9

C1503 **我黒**(がこく・中尾なかお、通称; 四郎左衛門) 1640-1710<sup>71</sup> 京俳人・重頼門(最晩年の門人)、雑俳点者、和及と親交/信徳・言水らと交流、1692橋立紀行「磯清水」編、1690言水「新撰都曲」4句入、1691江水「元禄百人一句」91賀子「蓮実」97閑水「ぬりがさ」1702轍士「花見車」入、撰集「七瀬川」板下書、1700「住吉御田植」評、「気比の海」編、[日半ひはしたは明日あすのためなり山桜](新撰都曲; 下269/明日の為満開に半日残している)、[我黒の別号] 青白翁/舟叟翁/李洞軒

霞谷山人(かこくさんじん)	→ 元政(げんせい、日政、日蓮僧/詩歌)	1 8 2 3
加穀舎(賀穀舎かこくしゃ)	→ 圃丈(ほじょう・松下まつした、医者/俳人)	E 3 9 2 8
河后山(かごさん)	→ 覽陳(らんちん、俳人)	D 4 8 0 0
臥午山下人(がごさんかじん)	→ 直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、絵師)	K 2 8 3 2
瓦扈散人(がごさんじん)	→ 尚房(なおふさ・野村、歌人)	3 2 0 3
鷺湖山人(がごさんじん)	→ 義章(よしあきら・松沢まつざわ、商家/国学)	C 4 7 0 6
鷺湖子(がこし)	→ 忠晴(ただはる・諏訪すわ、藩主/詩人)	F 2 6 6 5

- 嘉左(かさ・中田) → 嘉右衛門(かえもん・中田、歌舞伎作者) B 1 5 1 2
- H1543 花祭(かさい・原はら、名;五/字;士岳/通称五太夫、花村[浄忠]男) 1719-6951 肥後多久の儒者:父門、郷校多久聖堂教諭、邑主多久家子弟の傳役、「教誨記」「祭礼考」著
- H1544 寡斎(かさい・近藤こんどう、名;勝直、通称;彦勝/東作) 1818-7962 丹波綾部藩士/儒者・奥平棲遲庵門、藩政参画/藩校篤信館総督;学制刷新、郷校設置;庶民教育普及、「自反録」「寡斎雜記」著、「為学大意」「奥平近藤に先生諸筆記」「栖遲庵先生年譜」「麗沢講余」「雜録」著
- 可斎(かさい・桑山) → 貞寄(さだより・桑山、幕臣/記録) K 2 0 3 8
- 卦斎(かさい・高橋) → 卦斎(かいさい・高橋たかはし、藩士/俳人) I 1 5 6 4
- 荷斎(かさい・椿) → 蓼村(りょうそん・椿つばき、書家) I 4 9 7 6
- 華斎(かさい・佐和) → 莘斎(しんさい・佐和さわ、儒者/勤王/僧) O 2 2 4 4
- 蝦斎(蝦斎かさい・里村) → 昌純(しょうじゅん・里村[南家]、連歌師) T 2 2 0 8
- 瓦斎(がさい・小林) → 美影(よしかげ・小林こばやし、国学者) M 4 7 7 8
- 雅材(がさい・藤原) → 雅材(まさき・藤原ふじわら、廷臣/詩人) C 4 0 1 9
- 可左衛門(かざえもん・尾谷) → 芦路(ろろ・尾谷おだに、昨飽庵、俳人) C 5 2 5 0
- 可左衛門(かざえもん・田村) → 看山(かんだん・田村たむら、藩士/儒者) Q 1 5 8 3
- 嘉左衛門(かざえもん・坂田) → 重広(しげひろ・坂田さかた、連歌作者) S 2 1 4 5
- 嘉左衛門(かざえもん・高尾) → 樊世輔(はんせいほ、長崎通詞/狂詩文) I 3 6 2 8
- 嘉左衛門(かざえもん・松村) → 月溪(げつけい・松村、絵師/俳人) B 1 8 0 4
- 嘉左衛門(かざえもん・渡辺) → 統虎(とうこ・渡辺わたなべ、和算家) D 3 1 6 6
- 嘉左衛門(かざえもん・村坂) → 高行(たかゆき・村坂むらさか、国学者) Z 2 6 9 0
- 嘉左衛門(かざえもん・辻) → 正賢(せいけん・辻つじ、和算家/教育) H 2 4 9 9
- 嘉左衛門(かざえもん・石黒) → 千尋(ちひろ・石黒いしくろ、藩士/国学者) F 2 8 2 3
- 嘉左衛門(かざえもん・伊林) → 礼初(ひろもと・伊林いばやし/橘、藩士/歌) H 3 7 5 1
- 嘉左衛門(かざえもん・山路) → 重固(しげかた・山路やまじ、藩士/歌人) Q 2 1 7 7
- 嘉左衛門(かざえもん・真山) → 澄方(すみかた・秋央亭/真山、狂歌作者) D 2 3 8 7
- 嘉左衛門(かざえもん・小津) → 信厚(のぶあつ・小津おつ/長井/大泉、国学) H 3 5 5 9
- 鹿左衛門(かざえもん・萩原) → 広道(ひろみち・萩原、藩士/国学者/歌) 3 7 2 8
- 笠置上人(かさぎしょうにん) → 貞慶(じょうけい、法相僧/弥勒信仰/歌) S 2 2 0 5
- F1564 加作(かさく・近松ちかまつ) ? - ? 浄瑠璃作者、1783半二と合作「伊賀越道中双六」著
- 加作(かさく・広瀬) → 好義(たかよし・広瀬ひろせ、陪臣/歌人) Z 2 6 2 5
- 嘉作(かさく・滝本) → 次義(つぐよし・滝本たきもと、歌人) F 2 9 1 4
- 鷓鴣舎(かささぎのや) → 君雄(きみお・小原おはら、藩士/国学/歌) B 1 6 8 1
- 笠大夫(かさだゆう) → 満誓沙彌(まんぜいさみ、廷臣/僧/万葉歌人) 4 0 3 8
- 笠縫専助(初世かさぬいせんすけ) → 専助(初世せんすけ・笠縫、歌舞伎作者) G 2 4 1 2
- 笠縫専助(2世かさぬいせんすけ) → 段二(だんじ・松島、歌舞伎作者) I 2 6 2 6
- 笠縫専助(3世かさぬいせんすけ) → 専助(3世せんすけ・笠縫、歌舞伎作者) B 2 4 3 1
- C1504 笠縫女王(かさぬいのおおきみ・六人部王むとべのおおきみの女) ?-? 母;田形皇女たがたのひめみこ(天武天皇皇女)、万葉四期歌人、万葉集八1611、1613賀茂女王の歌の左注入、[あしひきの山下とよめ鳴く鹿の言ともしかも我が心夫ころつま](万;八秋相聞1611)(山の麓まで響かせて鳴く鹿のように よく通るあのお声が聞きたい 私の心の夫よ)
- 1514 笠女郎(かさのいらつめ、笠金村女?/笠御室女?) ?-? 万四期歌人;29首入、笠麻呂[満誓]の近縁者? 万葉395-7/587-610/145・1616(すべて家持への恋歌)、玉葉1767/新千1236/新拾922、[託馬野つくまのに生おふる紫草むらさき衣きぬに染しめいまだ着ずして色に出でにけり]、(万葉;三395/あなたに思い染めてまだ手も触れないのに顔色に出ってしまった)
- 傘の衛守(かさのえもり) → 桂五(桂吾けいご・金森、藩士/俳/狂歌) 1 8 5 0
- 笠沙彌(かささみ) → 満誓沙彌(まんぜいさみ、廷臣/僧/万葉歌人) 4 0 3 8
- 傘洪守(かさのしほもり) → 傘洪守(からかさのしほもり、狂歌師) F 1 5 9 0
- 笠之助(かさのすけ・蓑) → 笠之助(りゅうのすけ・蓑/巳野みの、勸農家) F 4 9 3 7
- 可三郎(かさぶろう・高山) → 畏斎(いさい・高山たかやま、儒者) E 1 1 2 5
- 嘉三郎(かさぶろう・狩野) → 利房(としふさ・狩野かのう、神職/国学者) U 3 1 6 9

- 1515 **笠麻呂**(かさまろ・丹比真人たじひのまひと)?-? 8c初万葉二期歌人、  
万葉三285:紀伊勢能山で春日老と贈答、四509長歌・510反歌:築紫下向時の歌、  
[栲領巾たけひれのかけまくほしき妹の名をこの勢能山にかけばいかにあらむ](万葉;三285、  
大声で呼びたい[妹]の名をこの勢能山につけたい)、  
(春日老の返歌;宜しなへ我が背の君が負ひ来にしこの背の山を妹とは呼ばじ)
- C1505 **笠麻呂**(かさまろ・小長谷部おほつせべ)?-? 755防人、信濃国、万葉廿4403、  
[大君の命みこと恐かこみ青雲のとのびく山を越よて来ぬかむ](万葉;廿4403)
- C1506 **花讚女**(かざめ:号、古川ふるかわ、名;まつ/松)1808-30**早世23歳** 俳人横山万旧ばんきゅうの妻、  
江戸の俳人;夫万旧と共に太田万里ばんり門、1830遺吟集「萩陀羅尼はざだらに」(;万旧編)  
笠森お仙(かさもりおせん) → お仙(おせん・笠森、美人娘) B 1 4 8 2  
銚屋(かざりや・大五郎) → 慈悲成(じひなり・桜川) 2 1 3 0  
銚屋久兵衛(かざりやきゅうべえ) → 柳(やなぎ・近松、浄瑠璃/歌舞伎作者) D 4 5 8 9
- L1568 **賁**(かざる・津田つだ) ? - ? 江後期播磨姫路藩儒、儒;古賀侗庵門、  
「左伝雑説」編、1842藩儒高橋倉山の墓碑銘を記す  
賁(かざる・竹内) → 東白(とうはく・竹内たけうち、蘭医/兵学) G 3 1 9 2
- F1565 **可參**(かさん・三宅みやけ、衝雪斎)?-? 軍記作者、1672「難波戦記」増補刊・序跋
- F1505 **華産**(かさん・岫雲亭しゅううんてい)?-? 江中期上方の狂歌作者・木端門、  
1792刊「狂歌栗下草」編  
可三(かさん・三宅) → 衝雪(こうせつ・三宅みやけ、儒者) K 1 9 1 3  
佳三(かさん・近松) → 佳三(よしぞう・近松ちかまつ、歌舞伎作者) D 4 7 8 7
- S1567 **可山**(かざん・山村やまむら) ? - ? 江前期;上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」栴もみぢの脇句/第五扇発句等入、  
[書物棚より遠き鹿の音ね](生玉万句;栴脇句、  
発句寸志;紅葉もみぢするや紙の間まに間に銀杏いてふの葉、紅葉に鹿を付る)  
[神は人の敬ひ仰ぐあふぎ哉](扇発句、御成敗式目;  
神は人の敬に依りて威を増し 人は神の徳に依りて運を添ふなり)
- L1569 **霞山**(かざん・上野うえの、名;真情/字;伯修、渡邊重督男)1713-91**79** 外祖父上野貞清の養嗣子、  
肥後熊本藩士、儒者;秋山玉山門、1727家督を嗣/近習目付/78藩校時習館の句読師、  
「霞詩文稿」/1772「左伝凡例」著、  
[霞山の通称/別号]通称;吉左衛門、別号;不言亭/梅隠
- L1570 **華山**(かざん・熊本くまもと/修姓;熊ゆう、名;元朗/朗一)1714-52**39** 江戸の儒者/詩:服部南郭門、  
書;烏石門、1740「鍾情集」編、「華山遺草」、  
[華山の字/通称]字;君玉、通称;自庵
- L1571 **華山**(かざん・伊東いとう、名;方得/為則)1744-1809**66** 陸前玉造郡岩出山の生/仙台の儒医業、  
「東沢集」「蓬壺集」著、  
[華山の字/通称/別号]字;伯寿、通称;玄禎、別号;蓬壺
- F1506 **華山**(かざん・大森おおもり、見昌)1751-? 江中期詩人・  
1769芳州「牛門四友集」入;四友のうち最年少、狷介で世に容れられず早世、  
参考 → 牛門四友(ぎゅうもんしゅう)
- H1545 **華山**(かざん・島津しまつ、名;義張、義忠男/本姓;源)1738-94**57** 京の人;幼時京極高安に養育、  
医;高安門/儒者;竜草廬門/詩、阿波那賀郡平島庄古津邑住;足利[平島]義根の師、  
「阿山叢桂集」、「讚海詩刪」、「華山詩稿」著、  
[華山(;号)の字/通称/法号]字;琴玉、通称;左馬助、法号;良徳院
- H1546 **華山**(かざん・長川ながかわ、名;寛、字;士猛、雪江男)1778-1807**早世30** 江戸の儒・折衷学:山本北山門、  
講説業、「喻俗俚談」「海容随筆」著、「華山先生遺稿」  
[華山(;号)の通称/別号]通称;寛蔵、別号;芝山/華山逸士
- 1583 **嶽山**(かざん・渡辺わたなべ、名;定静さだやす、字;子安/伯登、定通男)1793-1841**自刃49歳** 三河田原藩士、  
絵師;金陵/文晃門・儒;慊堂門・蘭学;西洋事情吸収、1832藩家老、38トリツ号事件;「慎機論」著、  
1839蛭舎獄連座/国元蟄居、類が藩主に及ばぬよう自害、画;「鷹見泉石象」「千山万水図」、  
「洋画論」「画友録」「嶽山画譜」「全楽堂画譜」「詩文集」「全楽堂日録」「万慮一得」「獄中手記」著



- [崋山の別号] 初;崋山、寓絵堂/寓画斎/金嗽居/全楽堂、蟄居;随安居士/昨非居士/観海居士
- F1507 **可山**(かざん・緑亭りよくてい、姓;小林こばやし、通称;健二郎)?-? 江後期越前福井藩士/江戸住、  
山東京山門?、断本合巻作者;1812「隅田景図梅若詣」13「頼政扇芝楽」16「同八百屋娘姉妹」、  
1820「時雨猿蓑」21「糸桜花之振袖」22「江戸廻花二人助六」著、外著多数
- D1589 **禾山**(かざん・足了庵) ? - ? 江後期1848-64頃陸前仙台の俳人、禾月尼邸に住、  
1858禾月尼一周忌追善「軒しぐれ集」編
- 霞山(かざん・毛利) → 高標(たかすえ・毛利、佐伯藩主/教育) C 2 6 8 5  
 霞山(かざん・鈴木) → 雅之(まさゆき・鈴木/穂積、国学/歌人) I 4 0 3 8  
 崋山(かざん;道号) → 道黒(どうこく;法諱・崋山、曹洞僧) E 3 1 1 5  
 崋山(かざん・森) → 退堂(たいどう・森もり、藩儒/詩文) K 2 6 7 7  
 崋山(かざん・佐藤) → 鼎栄(ていえい・佐藤さとう、国学/歌人) F 3 0 1 0  
 崋山(かざん・生田) → 万(よろづ・生田、国学/歌人) 4 7 4 2  
 家山(かざん;道号) → 子真(しん;法諱・家山、臨濟僧) T 2 1 8 8  
 家山(かざん・古田) → 重剛(じゅうごう・古田ふるた、茶人/儒者) W 2 1 3 9  
 加山(かざん・蘆沢) → 長卿(ながのり・蘆沢あしざわ/玉井、藩士) K 3 2 8 3  
 可山(かざん;道号) → 禅悦(ぜんえつ;法諱・可山、臨濟僧) L 2 4 7 3  
 可山(かざん・桑木) → 政徳(まさのり・桑木くわき、藩士/記録) G 4 0 1 6  
 歌山(かざん) → 歌山(うたやま、桑名藩の女房/歌) E 1 2 3 4  
 夏山(かざん・秋山) → 色樹(いろき・秋山あきやま、官人/国学) J 1 1 8 1
- I1547 **峨山**(がざん;道号・慈棹じとう;法諱) 1727-97 71歳 奥州の臨濟僧;月船禅慧ぜんね門、16歳から諸国行脚、  
駿河住;山梨稲川(11歳)を伴い江戸へ/趙陶斎門、江戸麟祥院11世/晩年;白隠慧鶴門、  
卓洲胡僊/隠山惟琰いんの師、「荆棘叢書」著
- L1572 **峨山**(がざん・福田ふくだ/ふた、名;篤信/愛信ちかのぶ、弁次郎男) 1758-1843 86 徳島藩士;1790家督;  
小奉行格、孝心のため褒賞を受、国学:本居大平門/漢学;柴野碧海門、歌/謡曲を嗜む、  
1819-「阿波孝子伝」著、  
[峨山の通称] 熊之助/林右衛門
- L1573 **峨山**(がざん・林はやし、名;康朗/別号;青護/青洋) 1783-1862 80歳 京の神職:鴨島主、  
嵯峨大覚寺諸大夫、1850「嵯峨名所案内記」/54「高尾楨尾梅尾巡参案内記」著
- H1547 **峨山**(がざん・井上いのうえ景文/字;君章/通称鉄蔵、政武男) 1786-1831 46 伊勢桑名藩士/儒者、  
藩校立教館学頭/史書愛読、「峨山経説」著、「峨山遺稿」、  
[峨山の別号] 楽山楼/淡洲
- L1574 **峩山**(がざん・松井まつい、名;義)?-? 江後期江戸下谷坂本の絵師、1861「古今字様考」「和漢合統」編、  
[峩山の字/通称/別号]字;和夫、通称;三男蔵、別号;寮菖
- 峨山(がざん;道号) → 韶碩(しょうせき;法諱・峨山、曹洞僧) K 2 2 2 9  
 峨山(がざん・和田) → 静観窩(せいかんか・和田わだ、儒者/国学) 2 4 9 2  
 峨山(がざん・賀茂) → 保久(やすひさ・賀茂/加茂、易学者) C 4 5 7 3  
 菘山(がざん・壺井) → 益春(ますはる・壺井つばい/山本、役人/国学) Q 4 0 9 8  
 画山(がざん) → 雲左(うんさ・日唯にちゆい、日蓮僧/俳人) D 1 2 7 1  
 崋山逸士(かざんいつし) → 崋山(かざん・長川ながかわ、儒者) H 1 5 4 6
- S1507 **花山院右幕下家**(かざんいんうぼくけ)?-? 鎌倉期早歌;1296?「宴曲抄;道」作詩  
花山院家教説あり → 家教(いえのり・花山院、歌)[吉田説] 1 1 5 5  
 花山院前右大臣(かざんいんさきのないだいじん) → 定雅(さだまさ・花山院かざんいん、歌) C 2 0 4 3  
 花山院前内大臣(かざんいんさきのないだいじん;玉葉/風雅以下) → 師継(もろつぐ・花山院) H 4 4 4 3  
 花山院左大臣(かざんいんさだいじん) → 家忠(いえただ・藤原、廷臣/歌人) 1 1 3 8  
 花山院内大臣(かざんいんないだいじん;新後撰/統千/新後拾) → 師継(もろつぐ・花山院) H 4 4 4 3  
 花山院内大臣(かざんいんないだいじん;新拾) → 師信(もろのぶ・花山院) H 4 4 6 5  
 花山院入道(かざんいんにゅうどう) → 忠経(ただつね・花山院/藤原、右大臣/歌) F 2 6 3 3  
 峨山山人(がざんさんじん) → 静観窩(せいかんか・和田わだ、儒者/国学) 2 4 9 2  
 花讚女(かざんじょ) → 花讚女(かざめ、万旧妻、俳人) C 1 5 0 6  
 画散人(がさんじん) → 顔輔(がくすけ・初世絵馬屋) E 1 5 7 4

- 画散人(がさんじん) → 額輔(がくすけ・2世絵馬屋) E 1 5 7 5  
 画賛人額翁(がさんじんがくおう) → 額祐(がくすけ・2世絵馬屋、狂歌) E 1 5 7 5  
 臥山人(がさんじん、菊丘) → 文坡(ぶんば・大江、読本、神道家) G 3 8 3 1  
 華山叟(がさんそう) → 江水(こうすい・流木堂、近江俳人) B 1 9 4 6  
 瓦山亭(がざんてい) → 翠月(すいげつ・門脇かどわき、俳人) E 2 3 4 0
- F1508 **花山亭笑馬**(かざんていしょうま/-しょうば、堀田ほつた、名;高一)?-? 尾張藩御蔵方手代筆頭格、洒落本;石橋庵眞酔門、狂歌;榛園秋津(内遠)門、国学;内遠/大平門、歌、画;玉僊門、1822「青楼玉語言」24「津多加津羅初編」35「東海道中滑稽譚」49「玉光集」、[花山亭笑馬の通称/別号]通称;勝四郎、別号;花山道人/花山亭笑馬しょうま/玉斎
- 1516 **花山天皇**(かざんてんのう、名;師貞もろさだ、冷泉天皇第1皇子)968-1008**41歳** 母;藤原伊尹女の懐子、969立太子/在位984-6/19歳で退位出家;兼家の政略(;大鏡に逸話)、熊野など諸処遍歴、991帰京、画/歌:「拾遺和歌集」編纂を院宣、家集「花山院御集」、しばしば歌合主催、後葉集2首・続詞花集3首入、玄々集4首入・小倉実教[藤葉集]10首入・雲葉集入、勅撰64首;後拾(128/441/503/522/1117)詞花(9首41/57/70/85/106/276/300/331/356)、千載(332/551/842/1204)新古(7首490/1189/1348/1445/1493/1527/1848)、続古(34/197/810/1859)続拾(2首)玉(13首)続千(2首)続後拾(2首)以下/金葉(Ⅲ5首)、[三千代みちよへてなりけるものをなどてかはもゝとしもはた名付けそめけん]、(後拾遺;張る128/三月三日桃の花を見ての詠/千ではくなぜ百と名付けたのか、西王母故事;昏崙山の園にある三千年に一度咲く桃の大樹の仙桃が漢武帝に贈られた)母 → 懐子(かいし/かほこ・藤原ふじわら、歌人) S 1 5 0 1  
 花山道人(かざんどうじん) → 花山亭笑馬(かざんていしょうま/-しょうば、戯作) F 1 5 0 8  
 花山僧正(かざんのそうじょう) → 遍昭(遍照へんじょう;法諱、廷臣/天台僧正/歌人) 2 7 0 5  
 花山門府(かざんもんぷ;号) → 師継(もろつぐ・花山院/藤原、内大臣/歌) H 4 4 4 3  
 霞山楼(かざんろう) → 文谷(ぶんこく・布能ふの、酒造業/俳人) F 3 8 2 4
- G1577 **詞子**(かし・源) ? - ? 村上天皇更衣、歌人、玉葉1483、[月影に身をやかへまし思ふてふ人の心に入りて見るべく](玉葉;恋1483、天曆御時 はるかに見ゆる月影の とありける御返事に)(万代集では源計子の歌としている、天皇の歌は;逢ふことをはるかに見えし月影のおぼろげにやはあはれとは思ふ)、源計子と同一? → 計子(けいし・源、村上帝更衣、拾遺歌人) F 1 8 8 2  
 宰相更衣と同一? → 宰相更衣(さいしょうのこうい・源、村上帝更衣、天徳歌合歌人) G 2 0 7 6
- L1575 **何之**(かし) ? - ? 加賀鶴来の俳人;1691北枝「卯辰集」4句入、[露は袖に葬礼せんと立ちさはぎ](卯辰集;319/同郷の俳人雨鹿うろくの没時に)
- L1576 **花子**(かし・湯川ゆかわ) ? - ? 播磨姫路の俳人;1692才磨「椎の葉」1句入、[軒はたる火にひかれて遊ぶかはづかな](椎の葉;111)
- V1569 **鹿子**(かし・しかこ・正宗まさむね) 1794-1880**87** 讃岐の生/備前和気郡の歌人、歌;[類題鮫玉集]入/[類題吉備国歌集]1首入  
 夏嗣(かし・浄野きよの) → 夏嗣(夏継なつぐ・浄野きよの、官人/詩) G 3 2 6 8  
 加之(かし) → 賀子(がし・斎藤) C 1 5 0 7  
 家氏(かし・藤原) → 家氏(いえうじ・藤原/大炊御門、歌人) K 1 1 8 7  
 家之(かし・浅井) → 家之(いえゆき・浅井、神道家) D 1 1 3 3  
 嘉之(かし・山本) → 嘉之(よしゆき・山本やまもと、官人/歌人) P 4 7 9 4  
 鯉子(かし・加藤) → 吉彦(よしひこ・加藤かとう、神職/国学/歌) M 4 7 1 1
- V1567 **加茲**(かじ・堀家ほりけ、名;梶かじ、藤井高範女) 1738-1805**68** 備中賀陽郡吉備津神社社家の生、国学者・歌人、藤井高尚(吉備津神社宮司)の叔母、吉備津神社社家の堀家善政よしまさ(1735-86)の妻、堀家広政ひろまさ(1764-1831)の母  
 梶(かじ) → 梶女(かじよ・祇園梶子、歌人) C 1 5 0 8  
 嘉治(かじ・亀山) → 嘉治(よしはる・亀山かめやま、国学/歌人) M 4 7 3 0  
 嘉治(かじ・幸田) → 嘉治(よしはる・幸田こうだ、幕臣/国学者) M 4 7 8 9
- C1507 **賀子**(がし・斎藤さいとう、医者斎藤玄眞[禾刀かとう]男)?-? 大阪の俳人;談林派/西鶴門、

大淀三千風門?、延宝末-享保初1681-1716頃活動、雑俳点者を務める、  
 1666吉竹(可玖)「遠近をちこち集」初出、78西鶴「物種集」入、  
 1681絵発句集「山海集」編(西鶴画)、81「みつがしら両吟」編、1691「蓮実」編(序・59句入)、  
 1692「難波丸」編、1719刊「松三尺」編、1702轍士「花見車」入、  
 [蓮の実におもへばおなじ我身わがみ哉](蓮実;第一歌仙の発句)  
 [賀子(;号)の別号]加之かし/紅葉庵/和風軒

- 父玄真(禾刀かとう)も俳人→玄真(げんしん・斎藤、医者/俳人) E 1 8 1 8  
 雅氏(がし・児玉) → 雅氏(まさうじ・児玉、藩士/詩歌) B 4 0 3 3  
 雅子(がし・北小路) → 雅子(まさこ・北小路きたのこうじ/大江、歌) C 4 0 4 7  
 雅之(がし・穎川) → 雅之(まさゆき・穎川えがわ/葉、通事) I 4 0 3 3  
 雅之(がし・鈴木) → 雅之(まさゆき・鈴木/穂積、国学/歌人) I 4 0 3 8  
 雅志(がし・小野) → 諸雄(もろお・小野おの、伊勢屋/歌) J 4 4 4 8  
 夏旨庵(かじあん) → 綺石(きせき・久武ひさたけ、藩士/俳人) L 1 6 0 8  
 梶井宮(かじいのみや) → 承仁法親王(しょうにんほつしんのう、天台座主/歌/1169-97) B 2 2 1 2  
 梶井宮(かじいのみや) → 尊胤法親王(そんいんほつしんのう、天台座主/歌・連歌/1306-56) E 2 5 6 2  
 梶井宮(かじいのみや) → 尊快法親王(そんかいほつしんのう、梶井門跡/歌) E 2 5 7 0  
 梶井宮(かじいのみや) → 承鎮法親王(しょうちんほつしんのう、天台座主/歌/鎌倉南北期) U 2 2 3 5  
 梶井宮(かじいのみや) → 堯胤法親王(ぎょういんほつしんのう、天台僧/歌/1458-1521) G 1 6 5 6  
 梶井宮(かじいのみや) → 覚深親王(かくじんしんのう、真言僧/1588-1648) K 1 5 1 2  
 梶右衛門(かじえもん・梅忠) → 片目あきら(かためあきら、儒者/狂歌) H 1 5 8 6  
 嘉治右衛門(かじえもん・伊藤) → 祐清(すけきよ・伊藤いとう、藩士/文筆家) G 2 3 2 5  
 嘉次右衛門(かじえもん・伊勢) → 貞良(さだよし・伊勢いせ/原田、藩陪臣/故実) N 2 0 8 1  
 檉雄(かしお・今村) → 雪重(ゆきしげ・今村かいまむら、村役/歌) G 4 6 5 7  
 檀が本(かしがもと) → 依平(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人) 4 7 3 5

L1577 **かしく** ? - ? 江戸の俳人;1686仙化「蛙合」入

[萍うきくさに我が子と遊ぶ蛙哉](蛙合;十六番右32)

L1578 **歌志久**(かしく・国字垣かながき、手賀常幹つねもと、別号;俳諧堂)?-1859 常陸麻生藩士/狂歌;真顔門、  
 俳諧歌を提唱;霞ヶ浦北岸に国字垣連をつくり主導、  
 1832「俳諧歌古新集」編、「俳諧歌筑波百首」「俳諧歌鹿島百首」著

U1588 **梶子**(かじこ・田村たむら、田村家の長女)1785-1862/78 上野山田郡桐生の国学・歌人;橋守部門、書家、  
 幕府祐筆;江戸城大奥に15年出仕、1815(文化12)帰郷;寺子屋松声堂を開設;望月福子の師、  
 歌・和文・礼儀作法を教授、桐生の買次商田村林兵衛の妻、  
 晩年に出家;恵玄尼と称す、歌;守部編[下蔭集]に35首入、  
 [梶子(;名)の通称/号]通称;恵玄尼、号;松声堂

梶子(かじこ) → 梶女(かじよ、歌人) C 1 5 0 8

C1508 **梶女**(かじよ、名;梶/梶子、通称;祇園の梶)?-? 江中期宝永1704-11頃の歌人、  
 京祇園社前の鳥居そばの茶店の主人、1707家集「梶の葉」著・祇園三女の1、  
 [たれにかはかくとゆふべの袖の露ぬるるもほすも心ひとつを](梶の葉;巻下85寄露恋)、

**祇園三女** = ①梶女

②梶女の養女百合女→ 百合女(ゆりじよ、歌人) G 4 6 1 6

③百合女の実子町子(池大雅の妻)→ 玉瀾(ぎよくらん、歌/画) P 1 6 4 0

梶助(かじすけ・高田) → 武生(たけなり・高田たかだ/榎倉、神職/国学) Y 2 6 0 0

何似生(かじせい) → 東溪(とうけい・宗牧そうぼく/そうもく、臨濟僧) D 3 1 0 1

加持門先徳(かじせんたく) → 聖憲(しょうけん;法諱、真言根来寺僧) I 2 2 4 0

檀園(かじぞの) → 広足(ひろたり・中島、藩士/国学/歌人) 3 7 2 1

檀園(かじぞの) → 貴恒(たかつね・中島/植木、国学/歌人) M 2 6 3 1

檀園(かじぞの) → 多豆伎(たずき・中西、国学/歌人) P 2 6 0 0

檀園(かじぞの) → 常成(つねなり・鳥越、国学/歌) C 2 9 9 6

檀園(かじぞの) → 葛野(かどの・千葉、国学/歌人) 1 5 7 1

檀園(かじぞの) → 千疇(千有年ちうね・山田、国学者) 2 8 3 9



- 檀園(かしぞの) → 信之(のぶき・吉岡、藩士/国学/歌) D 3 5 7 4  
 檀園(かしぞの) → 泰世(やすよ・進藤しんどう、商家/国学者) G 4 5 0 1  
 檀園(かしぞの) → 広定(ひろさだ・中島なかじま、藩士/神職) H 3 7 7 9  
 檀園(かしぞの) → 秋道(あきみち・長岡/粟田、神職/歌) I 1 0 1 6  
 檀園(かしぞの) → 綱敏(つなし・渡辺わたなべ、神職/国学) G 2 9 7 3  
 儲園(かしぞの) → 親覧(ちかみ・佐々木、藩士/国学/歌) B 2 8 8 5  
 芽子園(がしぞの) → 千春(ちはる・三浦みうら、藩士/国学/歌) F 2 8 2 1  
 梶太夫(4世かじだゆう・竹本) → 染太夫(6世そめだゆう・竹本、浄瑠璃太夫) E 2 5 4 0  
 F1509 嘉七(かしち・岡田屋おかだや、佐久間さくま)?-? 1804-68頃江戸神明前書肆、「諸国道中袖鏡」著  
 L1579 嘉七(かしち・福島屋ふくしまや、杉浦/中沢)?-? 幕末期蝦夷松前の商人/1857産物会所元締、  
 松前藩御用達、1839「天保十歳己亥正月御冥加金上納帳」著  
 嘉七(かしち・中村) → 歌右衛門(初世うたえもん・中村、歌伎役/作) 1 2 6 3  
 嘉七(かしち・広橋/馬嶋) → 円如(えんよ; 法名・馬嶋まじま、眼科医) F 1 3 2 7  
 嘉七(かしち・丹羽) → 輔之(すけゆき・丹羽にわ、藩士/国学者) I 2 3 6 8  
 鹿七(かしち・原) → 広濟(ひろなり・原はら、国学者) K 3 7 7 0  
 嘉七郎(かじちろう・水野) → 元朗(もとあきら・水野みずの、家老/儒者) C 4 4 0 2  
 蝸室(かじつ・篠田) → 吉孝(よしたか・篠田しのだ、酒造業/風流人) E 4 7 0 1  
 花実(かじつ・北村) → 考保(としやす・北村きたむら、商家/歌人) U 3 1 9 9  
 佳日庵(かじつあん) → 徳布(とくふ・横山、絢堂3世/俳人) L 3 1 3 1  
 花実庵(かじつあん) → 貞富(ていふ・榎並、菓子商/狂歌) B 3 0 6 0  
 花実庵(かじつあん、花実坊) → 長隠(ちやういん・山田、俳人) H 2 8 2 5  
 過日庵(かじつあん) → 祖郷(そきやう・過日庵、俳人/行脚) D 2 5 5 0  
 花実園(かじつしえん) → 梅信(うめのぶ・雲井園くもいえん、狂歌) D 1 2 4 0  
 夏日園(かじつしえん) → 桑葉(そうよう・蜂須賀?、藩士/俳人) J 2 5 1 0  
 花実坊(かじつぼう) → 長隠(ちやういん・山田、俳人) H 2 8 2 5  
 雅子内親王(がしなしいんのう) → 雅子内親王(まさこないしのう、歌人) C 4 0 5 1  
 梶之助(かじのすけ・木本) → 成理(なりまさ・木本、神道/軍学) I 3 2 1 4  
 梶之輔(かじのすけ・横前) → 博久(ひろひさ・横前よこまえ、国学者) M 3 7 3 2  
 檀之園(かしのその) → 直清(なおきよ・多田、神職/国学者) B 3 2 1 3  
 檀実(かしのみ) → 雅澄(まさすみ・鹿持かもち/飛鳥井/柳村、藩士/国学者) 4 0 0 9  
 檀之本(かしのもと) → 北元(ほくげん・鴨、国学/俳人) D 3 9 0 3  
 檀之本(かしのもと) → 依平(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人) 4 7 3 5  
 櫛乃屋(かしのや) → 重道(しげみち・荻野おぎの、藩士/歌人) D 2 1 0 1  
 檀舎(かしのや) → 真満(まさみつ・安元やすもと、神職/歌人) O 4 0 1 9  
 檀舎(かしのや) → 重実(しげさね・藤井ふじい、神職/国学) Z 2 1 8 4  
 檀の屋(かしのや) → 常嶽(つねおか・中里なかざと、歌人) B 2 9 7 8  
 檀廼舎(かしのや) → 重胤(しげたね・鈴木/穂積/源、国学/歌) 2 1 1 2  
 檀廼舎(かしのや) → 光賢(みつかた・大滝おおたき、商家/国学) I 4 1 3 7  
 白禱屋(かしのや) → 尚文(ひさぶみ・当麻とうま、商家/国学者) K 3 7 2 8  
 嘉次兵衛(かじへえ・藤田) → 広足(ひろたり・藤田ひじた、藩士、儒・国学) K 3 7 8 6  
 H1585 貸本古喜(かしほんのふるき、竹屋万吉)?-? 狂歌、日本橋住、1787「才蔵集」1首:472  
 [しのぶ夜の君と相図の蠟燭はけしてそれぞれと人にしらるゝ](才蔵集;472)  
 梶馬(かじま・大野) → 度会船守(わたらいのふなもり、狂歌作者) 5 3 4 3  
 加治馬(かじま・喜多) → 親章(ちかあき・喜多きた/飯田、国学) M 2 8 4 3  
 加次馬(かじま・菊池) → 沖満(おきみつ・菊池きくち、神職/国学) D 1 4 9 2  
 嘉治馬(かじま・金子) → 宅弘(いえひろ・金子、藩士/国学/歌) E 1 1 9 8  
 可志丸(可志磨かしまろ) → 曲山人(きよくさんじん、人情本作者) 1 6 4 2  
 R1598 かしもと人わる(かしもとのひとわる)?-? 狂歌;1787「才蔵集」入;286、  
 [夏の虫ならねど冬の網代守あじろりこれもひをとるものにぞ有りける](才蔵集;六286、  
 百首歌;網代/氷魚と火を取るを掛る/飛んで火に入る)

- 雅舍(がしや/みやびのや・木口)→訓重(のりしげ・木口きぐち/垣屋、国学/神職) I 3 5 0 7
- C1509 華雀(かじやく・擲筆庵てきひつあん)?- ? 俳人、芭蕉研究、1739「芭蕉句選」編
- S1529 雅雀(がじやく) ?- ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入、  
[居ながらに女は酒を売り勝ちて](二葉之松;26/前句;福々しくも笑ひ聞ゆる)
- 花守(かしゆ・伊藤) → 道保(みちやす・伊藤いとう、神職/国学者) C 4 1 7 3
- 花守(かしゆ・柴田) → 花守(はなもり・柴田しばた、神道家) F 3 6 5 0
- 科手(かしゆ・紀) → 末守(すえもり・紀き、廷臣/詩人) B 2 3 5 3
- 嘉種(かしゆ/よしたね・中村)→ 七友斎(しちゆうさい、中村、儒者/藩士) E 2 1 6 3
- 嘉樹(かじゆ・大塚) → 嘉樹(よしき・大塚おおつか、故実家) D 4 7 0 3
- 嘉樹(かじゆ・長野) → 嘉樹(よしき・長野ながの、医者) D 4 7 0 4
- 嘉壽(かじゆ・山根) → 嘉壽(よしひさ・山根やまね、旗指/歌人) P 4 7 9 1
- 夏樹(かじゆ・中村) → 善武(よしたけ・中村なかむら、藩士/国学) O 4 7 2 2
- 家壽(かじゆ・下井) → 家壽(かぜ・下井しもい/城子、歌人) U 1 5 7 7
- 雅種(がしゆ・飛鳥井) → 雅種(まさたね・飛鳥井/藤原、歌人) D 4 0 5 6
- 雅寿(がじゆ・梅溪/白川)→ 雅寿(まさとし・白川/源/梅溪、神祇伯) E 4 0 5 0
- 雅寿(がじゆ・木村) → 濩庵(せつあん・木村きむら、医者/儒/詩文) K 2 4 6 7
- 賀寿(がじゆ・田中) → 鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人;煎茶) J 1 5 5 9
- S1569 可秀(かじゆう) ?- ? 江前期上方の俳人;  
1673西鶴「生玉万句」第七鳴第三句入、  
[酒はやし枕ぎの木の間の月はれて](鳴第三句/酒林:酒屋の看板;杉の葉の玉、  
脇句長瀬常省;篠のはぬける沢の秋風)
- F1510 夏舟(かじゆう) ?- ? 京俳人;1696円水「住吉おどり」鷺水「若ふびす」入
- L1580 霞洲(かじゆう・榊原さかきばら、名;順徳/延壽、篁洲こうしゅう男)1691-174858 紀伊和歌山藩儒;父門、  
1706家督嗣、紀州藩主の侍読、詩文、「退食録」著、  
[霞洲の字/通称]字;万年、通称;小太郎
- C1510 霞洲(かじゆう・土肥どひ、名;元成/字;允仲、黙翁男)1693-175765 儒者:新井白石(父と親交)門、  
甲府藩主綱豊(將軍家宣)の侍読/1721幕府儒員、田安家用人/番頭、白石著書の清書/校訂、  
朝鮮使節と「桑韓唱和集」、「霞洲詩集」「霞洲雜纂」「新川詩集」「新川詩藁」「新川文集」編、  
「雪溪集」「美奴余濃登毛」「狎草」「須留毛余志」編、「白石先生著書目録」「退省私記」著、  
[霞洲の通称/別号]通称;源四郎/伝右衛門、別号;新川しんせん
- I1512 可秋(かじゆう) ?- ? 京の俳人・淡々門、1728柳岡「万国燕」1句入、  
[大紋だいまんで下り立谷の一釣瓶ひとつるべ](竟宴百韻第9句/699、  
前句;いかなる草ぞ嗅いで飛ぶ鹿/列禪、  
鹿聞きに山家に来た客の大きな家紋のはっぴを着た小者が谷に水汲みに下りる)
- L1581 佳周(かじゆう) ?- ? 江中期筑前可也山の俳人;嶺雲門、1771「秋まくら」編
- S1517 可習(かじゆう) ?- ? 備後三原の俳人;1763倚松いしょう「名所雪」入、  
1787三原歳旦集「春慶引」友之・就蘭らと共編
- L1582 荷洲(かじゆう・満野みつの、名;順、通称;伝右衛門/代右衛門)1779-184668 肥前蓮池藩士、  
儒者;古賀精里門、藩校成章館教授・藩政に参画/藩主に近侍、「荷洲詩文集」著
- C1511 霞舟(かじゆう・友野とも、名;渙/字;子玉、盛興男)1791-184959 幕臣;1827家督/儒詩:野村篁園門、  
1842御儒者見習/43甲府徽典館学頭;学制整備、「霞舟詩集」「霞舟文稿」「霞舟吟巻」、  
「錦天山房詩話」「如蘭詩集」、1830「西遊小稿」/47「熙朝詩薈」編、「熙朝詩薈続編」編、  
[霞舟の通称/別号]通称;雄助、別号;崑岡/錦天山房、法号;得成院
- L1583 荷洲(かじゆう;法諱・雲馨院うんけいいん;号)?-1872 飛騨高山真宗大谷派真蓮寺住職/65高倉寮擬講、  
「三経往生文類講義」著
- 可舟(かじゆう・金子) → 歎和坊(かんなぼう・金子、俳人) R 1 5 9 4
- 河州(かじゆう・井上) → 正任(まさとう・井上いのうえ、藩主/歌) L 4 0 2 1
- 花洲(かじゆう・関根) → 列山(れつざん・関根せきね、俳人) 5 1 0 7
- S1530 鹿住(かじゆう) ?- ? 京の俳人;1729隆志「俳諧草結」1句入、  
[一さし御舞候おんまひさふらへなどといさむや児桜ちござくら](草結;221、

児桜の下で謡の詞章を用い美少年の舞に心はずませる)

- L1584 **可重**(かじゅう) ? - ? 俳人; 春夜楼連に属す、1776几董「続明烏」2句入、  
[あらためた手は膝にあり更衣ころもがへ](続明烏; 夏217)  
花十(かじゅう・鶴見) → 園女(そのめ/そのじよ・鶴見つるみ、俳人) K 2 5 3 0  
可什(かじゅう・法諱) → 物外(ものがい: 道号・可什、臨濟僧) B 4 4 8 3  
可住(かじゅう・富松) → 吟夕(ぎんせき・富松とみまつ、俳人) E 1 6 1 9  
可住(かじゅう・佐藤) → 可住(よしずみ・佐藤さとう、藩士/国学者) N 4 7 1 3  
嘉住(かじゅう・杉本) → 嘉住(よしずみ・杉本すざもと、陪臣/歌人) N 4 7 4 8  
嘉重(かじゅう・加部) → 琴堂(きんどう・加部かべ、名主/俳人) R 1 6 4 8  
嘉重(かじゅう・鈴木/石井) → 嘉重(よししげ・石井いひ/鈴木、料理人) D 4 7 6 4
- L1585 **雅修**(がしゅう・源みなもと; 本姓/嶋しま、字; 士通/号; 藍園)?-? 江中期京絵師、1783刊「詩仙堂六物図」画
- D1592 **画舟**(がしゅう) ? - ? 江中期俳人、  
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、  
[いにしへもかくれ上手や枇杷の花](しぐれの碑)  
雅重(がしゅう・源) → 雅重(まさしげ・源みなもと、廷臣/歌人) C 4 0 6 6  
雅重(がしゅう・飛鳥井) → 雅重(まさしげ・飛鳥井あすかい、廷臣/歌人) C 4 0 7 7  
雅重(がしゅう・島) → 雅重(まさしげ・島しま/出雲臣、神職/歌) Q 4 0 1 5  
雅重(がしゅう・岩井) → 雅重(まさしげ・岩井いひ、和算家/教育) C 4 0 7 9  
柯集庵(かじゅうあん) → 立愿(りゅうげん・難波なんば/篠野、医者) D 4 9 6 7  
賀十玉斎(がじゅうぎよくさい) → 玉斎(ぎよくさい・千賀ちが/賀が、儒者) O 1 6 9 4  
河州公(かじゅうこう) → 正任(まさとう・井上いのうえ、藩主/歌) L 4 0 2 1  
河州散人(かじゅうさんじん) → 重政(しげまさ・山下やました、文筆家/語学) S 2 1 6 3  
勸修寺(かじゅうじ; 号・坊城) → 経顕(つねあき・勸修寺/坊城/藤原、歌人) B 2 9 4 6  
勸修寺贈左大臣(かじゅうじぞうさだいじん) → 教秀(のりひで・勸修寺、詩歌) F 3 5 5 4  
勸修寺僧正(かじゅうじそうじょう) → 雅慶(がけい、東大寺別当) B 1 5 8 2  
勸修寺内大臣(かじゅうじないだいじん/かんじゅじ-) → 高藤(たかふじ・藤原、廷臣) D 2 6 6 8  
勸修寺大蔵卿(かじゅうじのおおくらきょう) → 為房(ためふさ・藤原、博学/歌) H 2 6 3 9  
勸修寺御房(かじゅうじのごぼう) → 興然(こうぜん・こうねん; 法諱、真言僧) K 1 9 2 2  
勸修寺藤若(かじゅうじのふじわか) → 藤若(ふじわか・勸修寺かじゅうじ、童/歌) I 3 8 8 2  
勸修寺法務(かじゅうじのほうむ/かんじゅじ-) → 寛信(かんしん、真言僧/歌人) D 1 5 9 7  
何戎坊(かじゅうぼう・希古庵) → 義苗(よしたね・大島おおしま、旗本/俳人) K 4 7 6 5
- L1586 **嘉十郎**(かじゅうろう; 通称・大倉おくら、名; 種周たねちか、渡辺常章男) 1783-1863 81 筑前秋月藩士;  
1832士籍、画・歌人、初め家老渡辺家留守居役/1820秋月藩絵画方役、  
土井奎之丞の助役; 領内絵図完成、その功績で士籍/1845致仕、「秋府年表私記」編
- S1508 **嘉十郎**(かじゅうろう・田辺たなべ)?-? 文政安政1818-1864頃安藝奴可郡川東村の割庄屋、  
郷土の資料収集、「郡務拾聚録ぐんむしゅうしゅうろうく」(天地人3冊)著(広島藩郡方支配関係資料)  
嘉十郎(かじゅうろう・丹羽) → 堂鞆白主(どうともものしろぬし、藩士/狂歌) G 3 1 8 1  
嘉十郎(かじゅうろう・戸田/間瀬) → 忠至(ただゆき・戸田/木村/間瀬、藩主) R 2 6 1 8  
嘉十郎(かじゅうろう・戸田) → 忠寛(ただとお・戸田とだ、藩主/京所司代) Y 2 6 3 5  
嘉十郎(かじゅうろう・小林) → 忠則(ただのり・小林こばやし、国学/歌人) X 2 6 0 1
- L1587 **華儒園**(かじゅえん) ? - ? 江戸後期豊後大分の俳人、1861「雲米与之野」編  
榎樹園(かじゅえん) → 琵琶磨(びわまる・便々館、幕臣/狂歌) 3 7 3 3
- L1588 **花叔**(かじゅく・春日かすが、名; 盈重/幼名直之助、易全3男) 1774-1824 51 出雲古志の俳人、江戸に遊学、  
信濃飯田に寓す; 俳諧に志す/名古屋の士朗門; 名声を上げる、1802(享和2)帰郷、  
神戸川岸の椎の木の下に住、1818「椎のもと」編/23「雲陽人物誌」著、歌集/紀行もある、  
[花叔の別号] 橘庵老人/古志  
可祝(かじゅく) → 夙夜(夙也しゅくや、俳人) I 2 1 6 2  
花宿(かじゅく・土井) → 聾牙(ごうが・土井どい、藩儒) E 1 9 9 0  
蛾術斎(がじゅつさい) → 雅望(まさもち・石川、旅宿業/国学/狂歌) 4 0 2 1  
賀寿麻呂(がじゅまろ・宇田川) → 榕庵(ようあん・宇田川/江沢、医・蘭学者) 4 7 5 7



- L1589 **可俊**(かしゆん・森もり) ? - ? 江前期京の俳人;田中常矩門、「大路車」著
- S1570 **可春**(かしゆん/よしはる・矢倉やくら)?- ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、  
[矢数とて都へ上り給ひしに](物種集/京の三十三間堂の通し矢;  
4百本以上で金銀の磨を振る、前句;金の烏帽子や又金の幣)  
可春(歌春かしゆん・松蔭軒)→道意(どうい・三浦みうら/小林、藩医/歌) 3 1 9 7  
可俊(かしゆん・岡本) → 可復(かふく・岡本おかもと、藩士) P 1 5 2 6  
可春(かしゆん・柳原/小西)→ 可春(よしはる・小西こにし/柳原、藩士/歌) G 4 7 0 9  
家俊(かしゆん) すべて → 家俊(いえとし)  
嘉春(かしゆん/よしはる?・百井/中島)→ 東関(とうかん・中島、藩士/儒者) C 3 1 2 8  
家順(かじゆん) → 家順(いえより、連歌) F 1 1 0 7  
雅俊(がしゆん) すべて → 雅俊(まさとし)  
雅春(がしゆん・飛鳥井) → 雅春(まさはる・飛鳥井/藤原、廷臣/歌) 4 0 1 3  
雅春(がしゆん・花岡) → 雅春(まさはる・花岡はなおか、国学者/歌) L 4 0 8 5  
雅純(がしゆん/まさずみ・陶山)→ 勝寂(しょうじやく・陶山すやま、絵師) S 2 2 8 4  
賀順(がじゆん;法諱) → 舜雄(しゆんゆう;法諱、天台僧) L 2 1 9 4
- H1598 **何処**(かしょ) ? - 1731 伊勢の俳人/大阪に住;薬種商、  
おくほそ道の金沢の条に登場;同宿、1690之道「あめ子」1句/1691北枝「卯辰集」4句入、  
1691「猿蓑」2句入、  
[空そらつりやかしらふらつく百合の花](猿蓑;卷二病後/空つりはのぼせて目まい)  
霞処(かしょ・中原) → 剛(かたし・中原なかはら、国学者) V 1 5 2 0  
花所(かしょ) → 隣春(ちかはる・福島/藤原、商家/絵師) B 2 8 6 6  
雅緒(がしよ・久我) → 具房(ともふさ・久我が、廷臣/歌人) Q 3 1 4 9
- G1596 **可勝**(かしょう、舟橋ふなばし、平左衛門)?-? 京の俳人、1633重頼「犬子えのこ集」1句入;1370、  
[霜の置く松の落葉や銀の針](犬子集;1370/霜)
- L1590 **可笑**(かしょう) ? - ? 伏見の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- S1537 **可笑**(かしょう) ? - ? 会津の俳人;1693不角「二息」入、  
[玉くしげ二人くどくに身はひとつ](二息/前句;いっそ死んだがましよ我が恋)、  
(万葉の菟原処女伝説・大和物語の生田川伝説を想定)  
参考 → 菟原処女(うないおとめ・宇奈比・芦屋処女) 1 2 7 8
- F1511 **可昌**(かしょう・北村きたむら) ? - ? 漢学・詩;1717仁斎「古学先生文集」に「伊藤君碣銘」と序す
- F1512 **霞沼**(かしょう・松浦まつうら/修姓松、名;儀/允任まさただ、字;禎卿、守興男) 1676-1728<sup>53</sup> 姫路の儒者;  
木下順庵門、祇園南海と共に木門双璧、対馬藩儒、  
対馬藩儒、1703対馬藩学;真文役として対朝鮮外交文書担当、  
1719通信使来朝時は芳洲と共に応接、詩;「木門14家詩」入、「霞沼詩集」「霞沼寓筆」著、  
1725「朝鮮通交大紀」、「朝鮮記」「善隣原始録」「通志彙編」「宗氏家譜」「特号辨正」著、  
[霞沼の通称] 小三郎/佐太郎/権四郎/儀右衛門
- L1591 **可昌**(かしょう、大文字屋西川庄六3代目、名;数久) 1729-95<sup>67</sup> 近江八幡の俳人;  
1777江涯こうがい「仮日記」2句入、  
[何となく春吹く風や鳩にほのうみ](仮日記;112/湖水にのぞみて)
- L1592 **可正**(かしょう) ? - ? 山城伏見の俳人;1777江涯こうがい「仮日記」入、  
[したゝかに落ちてまた咲く椿かな](仮日記;63/散り際の潔さ)
- H1548 **華沼**(かしょう・岩瀬いわせ、名;行言/字;子言/通称;勘平) 1732-1810<sup>79</sup> 肥前島原藩江戸藩邸生、  
儒・河口静斎門/書;三井親和門、島原藩用人/1793藩校稽古館教授;学訓制定、  
「蘇中紀行」「中夜独語」「更生録」「大白楼筆記」「蔓草園文集」著
- 1517 **可笑**(かしょう・伊庭いば、通称;猪与八) 1747-1783<sup>37</sup> 江戸小石川の戯作者;黄表紙約30種著、  
1781「化物世櫃鉢木」「化物箱入娘」82「昔咄虚言桃太郎」83「玉の春」外著多数、  
狂歌;徳和歌後万載1首、  
[初秋の風もふくらにお寐酒なげの口にあはびのかひあらまほし](後万載;雑680、  
人の許へ酒肴を贈るとて/風吹く・ふっくら口に合う・あはび・甲斐・貝を掛る)  
[可笑の別号] 堪亭/伊場堪亭

- C1512 **可笑**(かしょう・月亭げつてい) ? - ? 洒落本作者、1784「角鶏卵かくたまご」著
- S1523 **可昇**(かしょう・木原きはら、名;正徳)?-? 安藝三津の商人、俳人;  
1817-20三津の「俳諧集」編、  
[可昇(;号)の通称/別号]通称;白市屋孫次郎、別号;午潮[午兆]
- L1593 **霞裳**(かしょう・原田はらだ、名;瓊)1797-1831<sup>35</sup> 紀伊田辺藩儒/侍医?、詩/書、「漱芳園遺稿」著、  
[霞裳の字/通称]字;叔卿/叔馨、通称;内記
- L1594 **可松**(かしょう・上田うえだ、通称;与兵衛)?-? 江後期近江八幡の俳人;梅室門、1845「相生集」著、  
[可松の別号] 紅友堂/蒼々園
- L1595 **霞梢**(かしょう・三時庵2世)? - ? 江後期肥前大村の俳人、1855(安政2)「米の芽集」編
- 和祥(かしょう) → 和祥(わしょう、草双紙作者) 5 3 2 7
- 霞沼(かしょう) → 広道(ひろみち・萩原/藤原、国学者/歌) 3 7 2 8
- 可昌(かしょう・北村) → 篤所(とくしょ・北村きたむら、儒者) K 3 1 9 3
- 可笑(かしょう・大石) → 良雄(よしお/よしとか・大石し、家老/討入) C 4 7 3 6
- 可笑(かしょう・松本) → 竹比(ちくひ・松本まつもと/都賀、俳人) D 2 8 7 3
- 可笑(かしょう・青木) → 樹堂(じゅどう・青木あおき、禅僧/漢学/詩) 2 1 7 5
- 可笑(かしょう・藤生) → 浮素(ふそ・藤生ふじお、国学者) I 3 8 6 8
- 可笑(かしょう・日下部) → 重広(しげひろ・日下部くさかべ、国学/歌) O 2 1 2 8
- 花塙(かしょう・大久保) → 忠保(ただたけやす・大久保おおくぼ、幕臣/歌) U 2 6 5 6
- 歌樵(かしょう・小栗) → 永言(ながこと・小栗おぐり/港崎可酔、国学/歌) K 3 2 2 8
- 嘉章(かしょう/よしあき・鈴木) → 澶洲(せんしゅう・鈴木/木、儒者) F 2 4 8 9
- 霞賞(かしょう・熊谷) → 烏村(うそん・熊谷くまがい、庄屋/国学) E 1 2 6 6
- 霞松(かしょう・宮北) → 直方(なおかた・宮北みやきた、藩士/漢学) P 3 2 0 0
- 霞樵(かしょう) → 一蝶(いちせつ・初世いちせつ・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8
- 霞樵(かしょう) → 大雅(たいが・池/池野、絵;文人画) B 2 6 1 2
- 霞樵(かしょう・壬生) → 水石(すいせき・壬生みづ、与力/篆刻家) 2 3 7 6
- 霞沼(河上かしょう・加賀美) → 光章(みつあき・加賀美/源、神道/国学) C 4 1 9 9
- F1513 **可上**(かしょう・百まなこ) ? - ? 嘶家;正蔵門、1826正蔵「升おとし」巻末に入
- L1596 **花城**(かしょう・三橋みつはし、名;豊兼/通称郷右衛門)1749-1831<sup>83</sup> 武蔵北加瀬の俳人;3世寥和門、  
武蔵川崎住、1805「復古集」31「調布の真砂」編、  
[花城の別号] 文尺斎/寥和堂りょうわどう
- L1597 **霞城**(かしょう・竹中たけなか、名;信/字;思順、南峰男)1802?-63<sup>62</sup>? 京の医者;錦小路烏丸東住、  
「済春園方函口訣」著、蒼竜の弟、  
[霞城の通称/別号]通称;秀四郎/秀斎、別号;燕巢えんそう
- F1563 **華城**(かしょう・田中たなか、名;顕美、玉洲男)1826-80<sup>55</sup> 大阪北久宝寺町の代々医者、  
儒;藤沢東暎門/医;難波抱節門、詩;1866「大坂繁昌詩後編」、「大坂雑詩」「華城詩鈔」著、  
「華城随筆」「華城通策」「精本傷寒論」「温疫論集覽」著、金峰の父、  
[華城(;号)の字/通称]字;君業、通称;内記
- L1598 **霞城**(かしょう・牧江まきえ、名;緝)?-? 江後期儒者:藍沢南城[1792-1860]門、  
「南城先生詩鈔」編  
[霞城の別号] 郁軒/子熙主人
- 霞城(かしょう・有馬) → 誉純(なすみ・有馬、藩主/文筆) G 3 2 6 3
- 霞城(かしょう・松前) → 崇広(たかひろ・松前、藩主/兵庫開港) N 2 6 1 1
- 霞城(かしょう・横山) → 清暉(せいき・横山よこやま、絵師) O 2 4 4 3
- 花城(かしょう・長浜) → 尚次(ひさつぐ・長浜/藤原、幕府連歌衆) B 3 7 3 7
- 歌城(かしょう・小林) → 歌城(うたき・小林おぼやし、幕臣/国学者) 1 2 6 6
- 可常(かしょう) → 松苔軒(しょうたいけん、僧/俳人) O 2 1 5 2
- 鈎丈(かしょう) → 鈎丈(あじょう、俳人) E 1 0 4 2
- 河丈(5世かしょう・江戸太夫) → 可慶(かけい・十寸見ますみ、河東節太夫) K 1 5 7 3
- 鹿城(かしょう・西) → 周(あまね・西にし、洋学者) F 1 0 0 8

- I1513 **我笑**(がしょう) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」15句入、  
[空蟬を抱く銭湯の初夜](万国燕;395/恋しい女の脱いだ着物を抱きしめる)
- L1599 **雅松**(がしょう) ? - ? 江後期大隅国分の俳人、1790「其美知能久そのみちのく」編
- S1531 **我常**(がじょう) ? - ? 俳人;其角門、1697其角「末若葉」(第五独吟歌仙145-180入)  
[事さめて憎きぬるでのわかば哉](末若葉;145発句/紅葉は見事だが若葉は興醒め)
- 雅章(雅昭がじょう・飛鳥井) → 雅章(まさあき・飛鳥井/藤原、廷臣/歌) 4 0 0 3
- 雅昭(がしょう・檜山) → 雅昭(まさあき・檜山ひやま、藩士/文筆家) 4 0 9 8
- 雅昌(がしょう・黒瀬) → 応進(まさゆき・黒瀬くろせ/秦、国学者) I 4 0 3 2
- 雅尚(がしょう・北村) → 雅尚(まさひさ・北村きたむら、国学者) P 4 0 3 2
- 花咲庵(かしょうあん/はなさきあん) → 天来(てんらい・牧岡、俳人) E 3 0 5 3
- 花咲庵(かしょうあん) → 花咲庵米守(はなさきあんよねもり、狂歌) F 3 6 4 4
- 河上庵(かしょうあん) → 泰里(たいり・橋本、俳人) C 2 6 2 8
- 家松軒(かしょうけん) → 光寛(みつひろ・柴田/藤原、商家/蔵書) E 4 1 6 9
- 可笑斎(かしょうさい・勝川) → 春扇(しゅんせん・勝川かつかわ、絵師) K 2 1 1 3
- 可讓斎(かじょうさい) → 運善(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) 4 6 2 8
- 花篠咲折(かじょうしゅうせつ) → 土卵(とらん・富とみ、廷臣/洒落本/雑俳) R 3 1 8 1
- 花繞書屋(かじょうしよおく) → 圭介(けいすけ・伊藤、医者/植物学者) 1 8 7 9
- 花咲亭(かしょうてい) → 畔李(はんり・南部、藩主/俳人) I 3 6 6 0
- 稚松亭(がじょうてい) → 它山(たざん・堤つみ、藩士/儒者) E 2 6 5 9
- 何傷堂(かしょうどう) → 竹夫(ちくふ、俳人) D 2 8 7 4
- 家職(かしょく・源) → 家職(いえよし/いえもと・源、歌人) D 1 1 3 4
- 我書楼(がじょうろう) → 秋陽(しゅうよう・吉村/小田、儒者/詩人) E 2 1 1 2
- 佳四郎(かじろう・小野) → 佳(か・小野おの、務の弟/歌人) T 1 5 8 6
- 嘉四郎(かじろう・小林) → 惟孝(これたか・小林/篠宮、和算家) O 1 9 4 4
- 鹿次郎(かじろう・河地) → 時雍(ときやす・河地かわら、国学者) U 3 1 8 7
- 雅次郎(がじろう・仙石) → 久利(ひさとし・仙石せんごく、藩主/騒動/歌) I 3 7 4 9
- 雅次郎(がじろう・今田) → 信好(のぶよし・今田いまだ、藩士/歌人) H 3 5 4 3
- 柏木(かしわざ・飛鳥井) → 雅親(まさちか・飛鳥井/藤原、歌/蹴鞠/連歌) 4 0 1 1
- C1513 **膳王**(膳部王/膳夫王かしわでのおおきみ、長屋王男)?-729 母;吉備内親王きびのひめみこ(草壁皇子女)、  
724従四下、729長屋王の変で母や弟たちと自決、万葉三期歌人;三442題/六954  
[朝あしたには海辺にあさりし夕さされば大和へ越ゆる雁し羨ともしも](万葉;六954)
- 奉膳の男(かしわでのかみのおとこ・高橋朝臣) → 高橋朝臣(たかはしのあそん、万葉歌人) D 2 6 5 0
- 柏舎(かしわのや) → 国臣(くにのみ・平野/大中臣、国学/勤王/歌) 1 7 0 6
- 膳部王(かしわべのおおきみ) → 膳王(膳部王かしわでのおおきみ) C 1 5 1 3
- 柏原天皇(かしわばらてんのう) → 桓武天皇(かんむてんのう、平安遷都) 1 5 5 4
- 櫛屋(かしわや・梶原) → 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1
- F1514 **可申**(かしん) ? - ? 俳人 1673随流「鶯笛」1689等躬「葱摺」入
- F1515 **可心**(かしん・河野) ? - ? 若狭の俳人、1689言水「前後園」入、  
1690「新撰都曲」4句入/91信徳「胡蝶判官」歌仙入、  
[日の蝕や物あさましき蟾ひきの頬ほほ](都曲;上17/日蝕に月の精の醜い蟾が出た)
- F1516 **嘉辰**(かしん) ? - ? 大阪の俳人;雑俳、1751春耕「あら夜」入
- M1500 **可進**(かしん・小川おがわ、名;弘宣、別号;後楽堂/後楽翁) 1786-1855 70 京の町医者;荻野元凱門、  
公家の御典医;茶の栄養に関心、煎茶;可進流茶法を立てる(煎茶小川流の創始者)、  
初代小川後楽;可進後楽堂(;号)、近衛・鷹司・一条など撰閑家の支援を受ける、  
「後楽堂喫茶辨」「煎茶記聞」著、為美ためよしの父
- 可申(かしん・森本) → 一瑞(いちずい・森本もりもと、藩士/軍学) G 1 1 2 8
- 可信(かしん・谷) → 木因(ぼくいん・谷たに、船問屋/俳人) 3 9 6 1
- 加辰(かしん・酒井) → 加辰(ますとき・酒井さかい、藩士/儒者) J 4 0 0 8
- 家信(かしん・藤原) → 家信(いえのぶ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) K 1 1 9 9



- 家信(かしん・大炊御門) → 家信(いへのぶ・大炊御門おおいのみかど、空覚、廷臣/歌人) 1 1 5 3  
 家信(かしん) → 家信(いへのぶ、連歌) C 1 1 1 1  
 嘉心(かしん;剃髮号) → 綱宗(つなむね・伊達だて、藩主/歌人) B 2 9 3 6  
 嘉辰(かしん・石塚/石束) → 寂翁(じゃくおう・石塚/石束、歌人) V 2 1 9 1  
 F1517 雅真(がしん) ? - ? 平安期前/中期僧;和泉講師、西室と同一?  
 999までに「和泉往来」(著者西室;往来物の最古)著(:高野山の興胤こういん法印著作説もある)  
 雅信(がしん・源) → 雅信(まさのぶ・源、左大臣/催馬楽/歌) F 4 0 4 9  
 雅信(がしん→ただのぶ・狩野) → 勝川(しょうせん・狩野かのう、木挽町絵師) K 2 2 3 8  
 雅信(がしん・山田) → 雅信(まさのぶ・山田やまだ、国学者) T 4 0 5 0  
 雅親(がしん) すべて → 雅親(まさちか)  
 賀親(がしん・室谷) → 賀親(よしちか・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 5 8  
 歌新園(かかしんえん) → 親覧(ちかみ・佐々木、藩士/国学/歌) B 2 8 8 5  
 M1501 花信齋(かしんさい・三輪みわ、名;自得/字;在栄/通称源八郎)?-1797 江戸絵師;狩野派、猿の画、  
 彦根藩井伊家に出仕、南畝・橘洲と親交、「鳥類写生図」画  
 歌人三平(かじんさんぺい)・・・江戸後期に「平」のつく優れた歌人  
 → 依平(よりひら・石川、土満門)1791-1859 J 4 7 6 2  
 → 諸平(としひら・加納、大平門)1806-57 4 4 3 5  
 → 年平(としひら・飯田、諸平門)1820-86 N 3 1 5 8  
 花神窓(かしんそう) → 万籟(ばんらい・荒木、俳人) I 3 6 5 7  
 可伸庵(かしんてい) → 壮山(そうざん・道山みちやま、俳人) H 2 5 5 1  
 梶人(かじんど・梅月堂) → 谷峨(こくが・梅暮里) 1 2 9 6  
 葭津堂(かしんどう) → 木長(ぼくちよう・津坂/津阪、藩士/俳人) D 3 9 7 3  
 花塵房(かじんぼう) → 秋風(しゅうふう・豊福とよふく、医者/俳人) Y 2 1 2 7  
 C1514 一(かず・渡辺/本姓;源、初名;一積)1767-1839<sup>73</sup> 岩代信夫郡土湯の和算家;1785須永通屋門、  
 二本松藩算学師範、88遊歴中に会田安明門;最上流直伝第一の高弟(四天王の1)、  
 1824山崩の岳温泉の引湯工事;25完成、俳諧を嗜む、門弟;宍戸政彝・佐久間正晴ら多数、  
 1796「数学大原」編/1801「東嶽二十術」12「救民算法」15「炮器製作算法」外著多数、  
 [一(;名)の字/通称/号]字;貫卿、通称;治右衛門、号;東岳/櫻齋(いさい/西河/現在坊、  
 息子未文は砲術家、孫の孫市は武衛流砲術師範  
 U1577 家壽(かず・下井しむい、旧姓;城子、初名;安よ)1812-1901<sup>長寿90</sup> 信濃伊那郡の歌人;矢沢重孝門  
 新井道英みちひでと交流  
 M1502 量秋(かずあき・豊原とよはら、英秋男)?-? 室町中期の楽人;笙の家に生、  
 父の従兄弟東原音秋早世のためその養嗣子、1441従五上右近将監、後小松天皇の笙の師、  
 1395(応永2)「豊原量秋鳳笙譜」、「鞆鼓かっこ口伝」著、弟幸秋ゆきあきを嗣子  
 [和煦(;名)の字/通称/号]字;公起、通称;暖太郎、号;醸泉/半隠  
 W1521 員明(かずあき・富田とみた、) ? - ? 江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]約20首入、  
 [雨はるる名残も涼しならの葉のみかきの森の夕暮の空](麓の塵;夏184)  
 U1572 員著(かずあき・西郷さいごう、)1780-1830<sup>51</sup> 近江彦根藩士;江戸在府、  
 国学・歌;小山田文臣門(大泉雅邦と同門)、歌;[彦根歌人伝・寿]入、  
 [員著(;名)の通称]清太郎/精太  
 M1503 一陽(かずあき・佐々木あさき、石野広通6男)1787-1855<sup>69</sup> 幕臣;兄佐々木万彦まにの養子;家督嗣、  
 大番組頭/目付/1843勘定奉行/小普請奉行/槍奉行、近江守、江戸城本丸・寛永寺修築工事、  
 歌;「梅花百題和歌」編、  
 1854(嘉永7)9月19日成島錦江追悼和歌会に茶人鈴木宗休らと参加(硯北日録入)、  
 蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、1855(安2)没、  
 [村雨は夜のまに晴れて夏山の若葉涼しき露の朝風](大江戸倭歌;402山新樹)、  
 [一陽(;名)の別名]別名;晴陽はるあきら、通称;主馬/三蔵/近江守  
 M1504 和明(かずあき・前田まへだ、通称;与三男三郎/弥五作、助三男)1802-? 金沢藩士/1822馬廻、  
 1855頃「前田弥五作系図」著  
 一明(かずあき・葛西/佐藤) → 一清(かずきよ・佐藤/葛西かさい、和算家) M 1 5 1 8

- 和煦(かづあき・岡田/日野)→ 醸泉(じょうせん・日野、藩士/儒/文教) K 2 2 5 0
- T1592 和厚(かづあつ・大塚おつか、通称;熊右衛門) 1806-40<sup>35</sup> 近江彦根藩士、  
歌人;彦根歌人伝・寿入、中島正盈と交流
- M1505 加酔(かすい) ? - ? 江前期俳人、1690之道「江鮭子あめこ」入  
[夜半やはんより後あと隣は隣の月見かな](あめ子;198/東向の我家は月の出をのみ見る)
- I1514 加水(かすい) ? - ? 江前期俳人、1691?不角「二葉之松」4句入、  
[生け捕られけふも軍いさを聞く獄舎ひとや](二葉之松;333/獄舎で聞くの敗戦の報ばかり)
- M1506 荷翠(かすい) ? - ? 江前期京俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入
- M1507 霞吹(かすい) ? - ? 江中期伏見俳人;几董門、1772几董「其の雪影」入  
可酔(かすい・港崎みおさき) → 永言(ながこと・小栗おぐり/港崎可酔、国学/歌) K 3 2 2 8  
可睡(かすい・河内) → 長保(ながやす・河内かわうち、製造業;歌人) L 3 2 7 3  
夏水(かすい・森) → 夏水(なつみ・森もり、藩絵師/国学/神職) E 3 2 9 5
- M1508 賀瑞(がずい、鶴英男/母;柳女)?- ? 江中期山城伏見の俳人;蕪村門、  
1772几董「其雪影」1句/76「続明鳥」2句/77蕪村「夜半楽」2句入、  
[花ならぬ身とな思ひそ薄すきの穂](続明鳥;505/銀色の尾花[剃髪の人]への励ましの弁)  
(芭蕉の寿貞尼への追悼句[数ならぬ身とな思ひそ玉祭]《泊船集》による)  
嘉穂庵(かすいあん) → 東作(とうさく・平秩へずつ、狂歌) 3 1 1 3  
華水庵(かすいあん;号) → 春登(しゅんとう;法諱、時宗僧/国学者) 2 1 6 3  
かす市頓作(かすいちとんさく) → 頓作(とんさく・かす市、軽口噺家) S 3 1 2 1  
科水堂(かすいどう) → 久隆(ひさたか・木下きのした、大庄屋/製鉄) J 3 7 1 6  
霞水坊(かすいぼう;号) → 信晔(しんげい;法諱、真宗仏光寺派僧) N 2 2 9 0
- C1515 和氏(かずうじ/ともうじ・細川ほそかわ、公頼男/本姓;源) 1296-1342頓死<sup>47</sup> 鎌倉南北期武将/足利尊氏の臣、  
室町幕臣、引付頭人/1340侍所頭人/初代阿波守護、1339阿波補陀寺建立、  
歌人:尊氏直義催歌会参:1336住吉法楽歌/43金剛三昧院奉納歌(生前勸進に応じたか)、  
藤葉集入、  
勅撰11首;風雅(1057)新千(872/1004/1913)新拾(1280/1413)新後拾(2首)新続古(3首)、  
[わすれずは夜よしと人につげずとも月みるたびに待つとしらなむ](風雅;恋1057、  
寄月恋)、  
[おもかげにしばしなぐさむ夢をだにゆるさぬ夜半のかねの音かな](9藤葉;恋557)、  
[和氏(;名)の通称/法名]通称;弥八、法名;竹溪、道号;道倫、法号;補陀院  
一氏(かずうじ・堀田) → 一輝(いっき・かずてる・堀田、幕臣/歌人) B 1 1 3 6
- F1518 主計(かづえ・浅野あさの、名;陵/字;有政、号;如水)?-? 江戸後期、京の医者、1827「金匱要略章句」著
- M1509 主計(かづえ・佐瀬させ/さぜ、名;君方きみかた) 1766-1839<sup>74</sup> 陸中一関藩士/1786藩政を批判;江戸へ出訴、  
1795取次役/侍読・目付見習を歴任、1802(享和2)家督継嗣、1809代々の家老職就任、  
儒/経世学;細井平洲・冢田大峯門、藩政改革に着手;功あるも反対派により処分を受ける、  
閉門/向島に隠棲、狂歌:鹿都部真顔門/四方側判者、俳諧を嗜む、「俳諧玉芝集」編、  
[主計(;通称)の別通称/号]別通称;剛太郎/三郎兵衛/尚一郎/平八郎、  
号;方斎/苞斎/葦名大道/東の大道/黄鳥亭声音/駒岳/伯連/法吉舎大道/法吉翁、  
法号;賢超院
- M1510 主計(かづえ・太田おた、字;聖君/通称;快庵/号;無声)?-? 江後期1804-18頃大阪心斎橋医者、書、  
1810「隔噎反胃論」著
- M1511 一衛(かづえ・花垣はながき/北原きたはら)?-? 江後期1830-44頃阿波徳島の国学者;本居大平門、  
千種有功・石川雅望・岡部春平門、歌人/狂歌も作る、のち信濃飯田住、1841「音訓仮字栞」、  
1843評論「あはれの種」/43「西仙二柱考」、「源氏帚木品定の巻」、「みねのかけはし」著、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[拝みても拝みぞあかぬ東照る神のみがきし御代の光りマ](大江戸倭歌;雑2071)、  
[一衛(;名)の通称/号]通称;一右衛門/織衛、号;幸国ゆきくに
- M1512 主計(かづえ・通称・鈴木ずき、名;敬/字;子篤/号;貫斎)?-? 江後期京の眼科医、  
「学古堂病言養生嚮録」著  
主計(かづえ・木下) → 秀三(ひでみつ・木下/豊臣、幕臣/歌人) D 3 7 9 0

主計(かづえ・藤堂)	→	梅花(ばいか・藤堂とうどう、儒者/詩文)	3 6 7 8
主計(かづえ・松木)	→	慶彦(よしひこ・松木/度会、神職/俳人)	G 4 7 1 8
主計(かづえ・津田)	→	千連(ゆきつら・津田つだ、藩士/記録)	E 4 6 9 5
主計(かづえ・山名)	→	政胤(まさたね・山名やまな、和学者)	T 4 0 5 1
主計(かづえ・野中)	→	兼山(けんざん・野中のなか、藩家老/儒者)	1 8 1 4
主計(かづえ・大久保)	→	忠寿(ただより・大久保、幕臣/蔵書家)	G 2 6 1 3
主計(かづえ・毛利)	→	元次(もとつぐ・毛利/大江、藩主/儒者)	D 4 4 0 7
主計(かづえ・成田)	→	蒼虬(そうきゅう・成田なりた、藩士/俳人)	2 5 0 7
主計(かづえ・橋村)	→	正身(まさのぶ・橋村/度会、神職/神典)	F 4 0 6 9
主計(かづえ・三熊)	→	花顛(かてん・三熊/密熊みくま、絵師/俳)	C 1 5 5 8
主計(かづえ・結城)	→	確所(かくしよ・結城ゆうき、藩士/儒者)	H 1 5 3 1
主計(かづえ・阿部)	→	正倫(まさとも・阿部あべ、藩主/歌人)	E 4 0 7 4
主計(かづえ・上杉/長沢)	→	蘆雪(ろせつ・長沢ながさわ、絵師)	C 5 2 0 1
主計(かづえ・荒木田)	→	久守(ひさもり・荒木田、神職/国学)	C 3 7 0 7
主計(かづえ・藺田)	→	守富(もりとみ・藺田/荒木田、神職/歌)	F 4 4 9 8
主計(かづえ・屋代)	→	忠良(ただかた・屋代/堀田、幕臣/文筆)	P 2 6 3 2
主計(かづえ・六角)	→	重任(しげとう・六角ろっかく、医者)	R 2 1 6 2
主計(かづえ・福田)	→	理軒(りけん・福田ふくだ、和/洋算)	4 9 9 4
主計(かづえ・金原)	→	清方(きよかた・金原きんばら、神職/歌人)	O 1 6 7 2
主計(かづえ・大森)	→	素笏(そじゅん・大森おおもり、庄屋/俳人)	J 2 5 9 0
主計(かづえ・岡)	→	研介(けんかい・岡おか、蘭医)	E 1 8 2 3
主計(かづえ・阿部)	→	正弘(まさひろ・阿部、藩主/老中/条約)	H 4 0 0 1
主計(かづえ・中村)	→	孝道(たかみち・中村なかむら、国学者)	N 2 6 2 8
主計(かづえ・竹尾)	→	正寛(まさひろ・竹尾/源、神職)	G 4 0 9 9
主計(かづえ・薬袋)	→	重暉(しげあき・薬袋みない、藩士/詩人)	Q 2 1 5 2
主計(かづえ・武田)	→	眞元(しんげん・武田ただたけ、暦算家)	O 2 2 2 3
主計(かづえ・玉田)	→	永教(ながのり・玉田ただたけ/横山、神道家)	F 3 2 3 3
主計(かづえ・樺山)	→	久初(ひさはつ・樺山かばやま、藩家老/歌)	J 3 7 0 9
主計(かづえ・朝比奈)	→	主計(しゅけい・朝比奈あさひな/鈴木、神職)	N 2 1 1 7
主計(かづえ・橋村)	→	正令(まさのり・橋村はしむら/度会、神職/和漢学/書)	R 4 0 7 2
主計(かづえ・西山)	→	政樹(まさき・西山/中里、国学者/歌)	L 4 0 8 1
主計(かづえ・高泉)	→	景規(かげのり・高泉たかひづみ/源、藩士/和学)	U 1 5 9 2
主計(かづえ・熊坂)	→	蘭斎(らんさい・熊坂くまさか、医者/蘭学/画)	C 4 8 2 1
主計(かづえ・竜)	→	三瓦(さんが・竜りゅう、儒者)	L 2 0 8 8
主計(かづえ・小笠原)	→	長好(ながよし・小笠原おがさわら、歌人)	L 3 2 3 7
主計(かづえ・安富)	→	季記(すえのり・安富やすとみ、家老/歌人)	J 2 3 3 2
主計(かづえ・尾古)	→	重伴(しげとも・尾古おこ/鈴木、神職/国学)	N 2 1 6 9
主計(かづえ・幸田)	→	光融(みつなが・幸田こうだ/度会、神職/国学)	J 4 1 0 7
主計(かづえ・河北)	→	藤茂(ふじしげ・河北かわきた/度会、師職/国学)	I 3 8 0 8
主計(かづえ・柴田)	→	顕光(あきみつ・柴田しばた、神職/歌人)	H 1 0 7 2
主計(かづえ・高山)	→	眞淹(まひさ・高山たかやま、神職/国学)	Q 4 0 7 5
主計(かづえ・橋村)	→	正貫(まさつら・橋村はしむら/度会/中山、神職)	R 4 0 6 9
主計(かづえ・玉田)	→	永直(ながなお・玉田ただたけ、国学者)	N 3 2 8 1
主計(かづえ・幡鎌)	→	隆俊(たかとし・幡鎌はたかま、神職/国学)	Z 2 6 0 0
主計(かづえ・前田)	→	利聲(としかた・前田まえだ、藩主/国学)	W 3 1 4 3
主計(かづえ・増田)	→	正房(まさふさ・増田ますだ、藩士/尊攘/歌)	S 4 0 5 8
主計(かづえ・吉村)	→	久治(ひさはる・吉村よしむら/藤原、神職/国学)	M 3 7 3 5
計恵(かづえ・武野)	→	貞孝(さだたか・武野たけの、藩士/和算家)	I 2 0 3 5
一衛(かづえ・三浦)	→	大学(だいがく・杉浦さぎうら/甘露寺、尊攘)	X 2 6 6 9
数衛(かづえ・安立)	→	権斎(ごんさい・安立/安達、和算家)	P 1 9 2 3



- U1502 **一枝子**(かづえこ・岡田おかだ、岡田真澄女)?-1858 江戸の国学者/歌人/能書家、儒者岡田寒泉の孫  
 主計頭(かづえのかみ・阿部)→ 正精(まさきよ・阿部あべ、藩主/書画/歌) L 4 0 5 9  
 主計頭(かづえのかみ・熊谷)→ 元実(もとざね・熊谷くまがい/宋戸、藩士/歌) J 4 4 9 2  
 主計頭(かづえのかみ・新村)→ 秀雄(ひでお・新村しんむら、幕臣/歌人) I 3 7 4 3  
 主計頭(かづえのかみ・榊原)→ 忠義(ただよし・榊原さかきばら、旗本/奉行) U 2 6 3 0  
 主計正(かづえのしょう・武田)→ 真元(しんげん・武田たけだ、暦算家) O 2 2 2 3  
 主計少允(かづえのしょうじょう・池田)→ 東籬亭菊人(とうりていきくひと、池田、官人/読本) 3 1 2 7  
 主計介(かづえのすけ・福田)→ 理軒(りけん・福田ふくだ、和/洋算) 4 9 9 4  
 主計助(かづえのすけ・齊藤)→ 巖戈(いしかほこ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7  
 主計之助(かづえのすけ・河野)→ 通礼(みちあや・河野/越智、廷臣/暦算家) B 4 1 1 4
- M1513 **数右衛門**(かづえもん:通称・中川)?-? 江初期山城の砲術家、1646「軍林要宝巻」「兵書」、  
 1646「遠近要律巻」「諸鉄炮恰好巻」「清忠明鑑巻」「薬方配斎巻」著  
 数右衛門(かづえもん・山田)→ 千疇(千有年ちうね・山田、国学者) 2 8 3 9  
 数右衛門(かづえもん・安立)→ 権斎(ごんさい・安立/安達、和算家) P 1 9 2 3  
 和右衛門(かづえもん・松本)→ 柳斎(りゅうさい・松本まつもと、国学者/歌) E 4 9 0 3
- C1516 **一雄**(かづお・恵藤えとう、号;履霜軒)?-?元禄1688-1704頃没 江前期京の国学者/歌:河瀬菅雄門、  
 1688「拾題和歌集」編、1702「和歌古語深秘抄」、「神道之大事・和歌の奥義」「伝受五卷書」著
- M1514 **和雄**(かづお・香取かとり、別名;正雄、勝房男/本姓大中臣)1684-1737<sup>54</sup> 下総香取社神官/1722大宮司、  
 1725「香取神名記」「大経管窺」「香取太神宮司召略注」著、  
 [和雄の通称] 蔵人/中務
- F1519 **一雄**(かづお・扇屋おうぎや) ? - ? 大阪の噺本作者、  
 1796「雅興がきよう春の行衛」序(魯道画)
- M1515 **一雄**(かづお・松本まつもと、号;仙鶴堂)?-? 江後期大阪南久太郎町絵師、水画の法発明、  
 1818刊「水画指南」画
- V1501 **一尾**(かづお・忠田ただた、通称;伊織女)1832-1902<sup>71</sup> 近江蒲生郡の巫女、国学;平田鍬胤門  
 一雄(かづお・鮎川) → 一雄(いちゆう・鮎川あゆかわ、絵/華道家) G 1 1 5 2  
 和雄(かづお→にぎお・市岡)→ 和雄(にぎお・市岡、儒者/歌人) 3 3 1 3  
 和雄(かづお・田島) → 尋枝(ひろえ・田島たじま、商家/国学者) K 3 7 0 3  
 和夫(かづお・松井) → 峯山(がざん・松井まつい、絵師) L 1 5 7 4  
 量原(かづおか・町尻) → 量原(かづもと・町尻、廷臣/記録) M 1 5 5 3
- T1557 **一興**(かづおき・猪子いのこ)、1641-1705<sup>65</sup> 江戸幕臣;御先鉄砲頭、国学、一朝かづとも父、  
 [一興(;)名)の別名/通称/法名]別名;一信、通称;数馬/六左衛門/左太夫、法名;全中
- U1558 **一興**(かづおき・黒田くろだ、一誠長男)1739-1762<sup>早世</sup><sup>24</sup> 三奈木黒田家の第7代当主/筑前福岡藩大老、  
 禄;1万6千石、福岡藩大老の父が郡英成と吉田保年の対立に巻き込まれ隠居を下命、  
 父を継嗣;通称を源左衛門に改称、家督は弟の一庸(隆庸)が嗣、詩歌を嗜む、  
 [一興(;)名)の初名/通称]初名;道偉、通称;美作/源左衛門
- T1525 **一興**(かづおき・小野おの/本姓;源、通称;左太夫)?-? 江後期;幕臣、  
 1832(天保3)火付盗賊改方頭(1839まで8年間勤務)、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [心なく咲くや山辺の桜花春ともしらですぐる月日に]、  
 (大江戸倭歌;雑2007、天保十二[1841]年春將軍家斉没に)
- V1589 **一興**(かづおき・村むら、)1846?-1926<sup>80</sup>余歳 越中富山藩士、国学者  
 一興(かづおき・上坂/斎藤)→ 九腕(きゅうえん・齋藤、儒者) I 1 6 7 5  
 量興(かづおき・今村) → 村雄(むらお・今村いまむら、国学/寺子屋) D 4 2 6 7  
 積興(かづおき・尾崎) → 積興(せきこう・尾崎おさき、故実家) D 2 4 4 5  
 和臣(かづおみ・安部) → 真貞(まさだ・安部あべ、惟貞男/国学者) D 4 0 1 1
- D1555 **春日**(かすが・進子内親王家しんしなしいしのうけ)?-? 南北期進子内親王(後伏見天皇皇女)家女房、  
 歌;1354「花園院七回忌法華経要文和歌」参加/70-76「百番歌合」/「崇徳院仙洞歌合」参加、  
 勅撰3首;風雅(1068)新千載(1599)新続古(287)、  
 [さのみやとわれさへはてはつれなきに今夜は人に待つとしられじ](風雅;恋1068)

- 春日(かすが・昭訓門院) → 公宗母(きんむねのはは・西園寺、歌人) E 1 6 7 3  
 春日(かすが・高階) → 隆兼(たかかね・高階たかしな、大和絵師) C 2 6 6 6  
 春日(かすが・藤原) → 基光(もとみつ・藤原、廷臣/絵師/歌人) E 4 4 3 7  
 春日(かすが・北畠) → 顯信(あきのぶ・北畠、南朝廷臣/歌人) D 1 0 7 1
- C1517 **和鼎**(かづかね/かづさだ・成島なるしま・秦/本姓源、成島錦江[信遍のぶゆき]男)1720-1808<sup>89</sup> 母;細川利定女、江戸の儒者;父門、幕府儒官、1748御鷹匠見習/58御勘定/60御勘定格奥詰、69儒者格、歌人;冷泉家入門、父信遍を継ぎ幕臣の冷泉門人のまとめ役、1776「道芝の露」「日光山供奉私記」、90「二邦達志録」92「相撲上覧記」、1799「飛鳥始末」、「寢覚草」「いやつき」「聴雨亭記」「窺日鏡記」「古磐具羅」「司天台の記」著、1763磯野政武催「遊角筈つのはずの別荘記」入(8首/詩1編);政武と歌友、1798広通「霞関集」入(父錦江・養子衡山と入集)、[うきものと何思ひけん待更けてあれば逢ふ夜もあり明の月](霞関;恋803/暁逢恋)、[和鼎(;名)の別名/通称/号]別名;筑鼎、通称;忠八郎/梅之助/仙蔵、号;竜洲、衡山こうざんの養父
- M1516 **一周**(かづかね・加藤かとう/本姓:藤原、通称;甲次郎/幸次郎)?-1863殺害 江戸歌人:齋藤彦磨門、1863中坊広伴邸歌会の帰途誤解により伊藤博文と山尾庸三により埴忠宝ただとみと共に殺害、1835「人文抄」56「延喜式名物類聚」/60「咀英和歌集」、「六国史氏族鈔」「花堂文集」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(母浜子と共に入集)、「1860鋤柄助之「現存百人一首」入、[蓬よもぎ生ふるあらたの蛙つまごひにこぞのふるねのねにたてて鳴く]、(大江戸倭歌;春338)、[夕立の雲のほたてに風みえて軒端涼しき雨の音かな](現存百人一首;23)、[一周の号] 藤舎
- 春日野(かすがの) → 武女(たけじよ・鈴木すずき、歌人/紀行) E 2 6 3 7
- C1518 **春日大娘皇女**(かすがのおいらつめのひめみこ、雄略天皇皇女)?-? 母;和珥臣わにのおみ深目ふかめ女童女君おみなぎみ、仁賢天皇皇后、
- C1519 **春日王**(かすがのおおきみ) ? - 699. 6. 27 699浄大肆じょうだい(従四上に相当)、万葉二期歌人、万葉;三243(:弓削皇子の吉野での歌に唱和)、[大君は千歳にまさむ白雲も三船のやまに絶ゆるひあらめや](万葉;三243;皇子へ唱和、弓削皇子の歌;242滝の上の三船の山にゐる雲の常にあらむと我が思はなくに)
- C1520 **春日王**(かすがのおおきみ、志貴皇子男)?-745. 4. 28 母;多紀皇女、万葉三期歌人;四669、安貴王の父[あしひきの山橋の色に出でよ語らひ継ぎて逢ふこともあらむ](万葉;四669) [「山橋」はやぶこうじ、「出でよ」は自分への命令]
- 春日老(かすがのおゆ、弁紀・弁基) → 老(おゆ・春日) 1 4 2 6
- C1521 **春日局**(かすがのつばね、名;福/福子/お福、斎藤利三女)1579-1643<sup>65</sup> 徳川家光の乳母、稲葉正成の妻、大奥を統率
- 春日皇女(かすがのひめみこ) → 春日山田皇女(かすがのやまだのひめみこ、紀歌謡) H 1 5 8 4  
 春日宮天皇(かすがのみやてんのう) → 志貴皇子(しきのみこ、歌人) 2 1 0 8
- H1584 **春日山田皇女**(かすがのやまだのひめみこ、仁賢天皇皇女)?-? 母;和珥臣わにのおみ日爪ひつめ女糠君娘あらかみのいらつめ、安閑天皇皇后、紀歌謡詠者(継体天皇七年勾まがりの大兄おひねの皇子[安閑]との婚礼夜の唱和)、[春日山田皇女の別称]春日皇女かすがのひめみこ/山田大娘皇女おいらつめのひめみこ/山田赤見あかみの皇女
- T1535 **一樹**(かずき・赤尾あかお/本姓:藤原)1816-66<sup>51</sup> 近江彦根藩士、国学;岡村教邦のりくに門、歌人、書家、博覧/彦根七十人衆の1人、松原成樹・岡村教行と交流、[一樹(;名)の通称] 惣左衛門/惣二
- 数吉(かずきち・調子/富) → 土卵(とらん・富とみ/下毛野、廷臣/俳人/戯作) R 3 1 8 1
- M1517 **和清**(かずきよ・中山なかやま、別名;清寛、清幸男)1765-1829<sup>65</sup> 尾張藩士;1779家督/81小姓、1825使番格、1829先手物頭、長沼流兵学;近松茂矩門、1804教場開;門弟教授、「後凋軒漫録」「尾張藩老談録」「尾張諸士伝略」「尾張婦女伝略」「尾張外史略稿」著、「禁殉有後集」著/「先師澹斎長沼君行状集成定本」(1854刊)著、[和清の幼名/字/通称/号]幼名;新之助/大作、字;玄容/任夫、通称;七太夫、号;訓練/後凋軒、諡号;莊伯

- M1518 **一清**(かづきよ・佐藤さとう/初姓;葛西かさい、別名;一明/泰明)?-? 1868存 仙台和算家;渡辺一門、  
1830阿波の小出兼政門、帰郷後佐藤と改姓、諸国歴遊し暦算を教授/56帰郷、  
1832「最上流秘書」編/62「古今算鑑起源」編、「貫通円理捷解」編/「諸約術解」外著多数、  
[一清の通称/号]通称;道之丞/通之丞、号;和嶽
- M1519 **一清**(かづきよ・井坂いさか、字;士潔、通称;主馬)?-? 江戸後期常陸の書家、  
「学書漫録」/「行書千字文」「草書孝経」「筆法捷徑」「書法一家言」著  
一清(かづきよ・松原) → 鶴峰(かくほう・松原まつばら、儒者/詩人) H 1 5 3 8  
一清(かづきよ・櫛橋) → 岫雲(しゅううん・櫛橋くしはし、連歌作者) W 2 1 6 4  
一清(かづきよ・猪子) → 一朝(かづとも・猪子いのこ、幕臣/国学) T 1 5 5 8
- F1520 **糟句齋余丹坊**(かすくさいよたんぼう、画号;池田いけだ涼岷)?-? 江戸の絵師;狩野探幽門、  
水戸藩抱絵師;富坂仲餌指町の水戸藩邸住、狂歌;水戸で狂歌連を結成、  
「狂歌水の巴」;赤良序、1785刊「後万載」6首/87「才蔵集」入、  
[垣間見の顔へぶらりとなり下がる糸瓜のやふなわが思ひかな](寄糸瓜恋、才蔵集十一)  
[糟句齋余丹坊(;号)の別号]別号;余丹坊酪酊、画号;池田涼岷
- F1591 **嘉助**(かすけ;通称・須原屋すはらや/舟木ふなき、名;嘉)?-? 江中期江戸駿河町書肆、儒者/詩、  
1782「大東詩集」編刊(260人入)、「詩賢姓名録」著  
[嘉助の字/号]字;士可、号;藻雅堂そうがどう
- M1520 **嘉助**(かすけ・河内屋かわちや)? - ? 大坂心齋橋筋の書肆、  
1856「金銭相場早割便覧拾遺」著  
嘉助(かすけ・扇屋/柏原) → 瓦全(がぜん・柏原、商人/俳人) C 1 5 2 8  
嘉助(かすけ・贅川) → 勝巳(かつみ・贅川にえかわ、宿場本陣/歌) C 1 5 5 3  
嘉助(かすけ・木庭) → 保久(やすひさ・木庭きば、神職/敬神党) F 4 5 8 0  
嘉助(かすけ・郷) → 純造(じゅんぞう・郷ごう、農家/剣術/幕臣) O 2 1 4 8  
嘉助(かすけ・竹内) → 啓(ひらく・竹内たけうち/小川、医者/尊王) K 3 7 1 7  
夏助(かすけ・瀬川) → 蘭黛(らんたい・瀬川せがわ、雑俳点者) C 4 8 8 8  
稼助(かすけ・広田) → 美稻(よしね・豊田とよだ、文武/勤王家) O 4 7 0 5  
加助(かすけ・四書屋) → 持軒(じけん・五井ごい、儒者/歌人) D 2 1 5 3  
加介(かすけ・中村) → 滄浪亭(そうろうてい・中村、藩士/儒者/武芸) D 2 5 2 8  
画輔(かすけ・藤田) → 長年(ながとし・藤田ふじた/横橋、神職/国学) O 3 2 6 0
- U1565 **かづ子**(かづこ・後藤ごとう、旧姓:栗田/井門、法号;貞観)?-1869 伊予の歌人;賀茂季鷹門  
計子(かづこ・源) → 計子(けいし・源、歌人) F 1 8 8 2
- C1522 **上総**(かづさ・堀河院中宮ほりかわいのちゅうぐう・前中宮さきのちゅうぐう)?-? 堀河院中宮篤子内親王家の女房、  
平安後期歌人、1096能実歌合/1102堀河院艶書合/04左近権中将藤原俊忠家歌合参加、  
1118・19忠通家歌合/24花林院歌合/永縁奈良坊歌合参加、家集「中宮上総集」、  
万代集/雲葉集入、俊頼/俊忠/周防内侍らと交流、  
勅撰14首;金葉(419/438)新勅(736/1409)続後撰(1055/1212)続古(2首)続拾(2首)以下、  
[石ばしる滝の水上はやくより音に聞きつゝ恋ひわたるかな](金葉;七恋419)  
[さきの世の契りを知らではかなくも人をつらしと思ひけるかな](金葉;八恋438)、  
(類歌;さきの世の浅き契りを知らずして人をつらしと思ひけるかな/江師集;赤染衛門)  
上総(かづさ・宮本/敷田) → 年治(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学) N 3 1 4 3  
上総(かづさ・竹尾) → 正寛(まさひろ・竹尾/源、神職) G 4 0 9 9  
上総(かづさ・車館) → 末眞(すえまさ・車館くるまで/和田、神職/茶人) F 2 3 6 3  
上総(かづさ・宮) → 栗園(りつえん・宮みや、神職/国学者) B 4 9 5 8  
上総(かづさ・加賀美) → 光起(みつおき・加賀美かがみ、神職/国学) I 4 1 6 3  
上総(かづさ・松岡) → 寛道(ひろみち・松岡まつおか、神職/教育) H 3 7 3 1  
上総(かづさ・西村) → 久雄(ひさお・西村にしむら/橋、神職/国学) K 3 7 5 6  
上総(かづさ・浦) → 毎保(つねやす・浦うら/藤原、神職/国学) F 2 9 3 3  
上総(かづさ・菊池) → 沖満(おきみつ・菊池きくち、神職/国学) D 1 4 9 2  
上総(かづさ・神白) → 朝興(ともおき・神白こうじろ、神職/歌人) V 3 1 2 0  
上総(かづさ・下里) → 千頼(ちかひ・下里しもさと/藤原/中臣/鎌田、神道) M 2 8 6 9



- 上総(かずさ・清家) → 定澄(さだすみ・清家せいけ/清原、神職/歌) O 2 0 7 4  
 上総(かずさ・三浦) → 正道(まさみち・三浦みうら/藤原、神職/歌) S 4 0 8 3  
 上総(かずさ・飛田) → 昭規(あきのり・飛田ひだ、神職/国学) I 1 0 3 1  
 上総(かずさ・松浦) → 正典(まさのり・松浦まつうら/沢近、神職/歌) S 4 0 6 2  
 数左衛門(かずさえもん・坂本) → 立斎(りつさい・坂本さかもと、和算家) B 4 9 9 8
- T1531 **和貞**(かずさだ・安部あべ) 1695-1762 68 長門萩の生/萩藩士; 什書役、和学者、  
 [和貞(;名)の幼名/初名/通称] 幼名; 岩松丸/千世丸、初名; 重貞、通称; 吉左衛門
- M1521 **一貞**(かずさだ・赤井あかい、短山の孫)?-? 江中期享保1716-36頃大阪の歌人、詩人、  
 「一貞真名百人一首解」、1723-26詩集「龍翰詩草」、歌書「管見問答」著; 万葉調歌風を批判
- M1522 **一貞**(かずさだ・宮寺みやでら、通称; 弥太郎/安次郎) 1791-? 幕臣; 御広敷添番、最上流和算; 会田安明門、  
 1805「算法英物集」編
- U1585 **一貞**(かずさだ・十河そごう、通称; 泰助) 1794-1853 60 周防岩国藩士、国学者/歌; 熊谷直好門
- M1523 **一貞**(かずさだ・矢野やの、初名; 一照、早川平右衛門男) 1794-1879 86歳 久留米藩士、国学; 尾関眞勝門、  
 1827矢野吟之丞の養子、御馬廻/藩校明善堂出役/1860組頭格国学引立方、  
 1861地誌編纂従事/64西日本の物産調査、1865先手物頭格、  
 1825地誌「生竹巡覧」/53「筑後将士軍談」、「歴世古文書」編/「波の浮草」著、  
 [一貞の通称/号] 通称; 幸太夫/幸夫、号; 竹楼/柏葉
- W1503 **一貞**(かずさだ・安井やすい、通称; 九兵衛くへえ) 1812-84 73 大坂の国学者/歌; 中島広足門、  
 和鼎(かずさだ・成島) → 和鼎(かずかね/かずさだ・成島なるしま・秦、幕臣/歌) C 1 5 1 7  
 上総入道(かずさきにゅうどう) → 義村(よしむら・赤松あかまつ/源、武将) H 4 7 6 3  
 上総入道(かずさきにゅうどう) → 吉貴(よしたか・島津しまう、藩主) D 4 7 9 7
- M1524 **量実**(かずさね・小槻おづき/壬生みぶ、小槻匡遠ただとお男)?-1366 廷臣; 壬生官務(左大史)/記録書奉行、  
 正五上/主殿頭/造東大寺次官、1356菟玖波集編集資料として自筆句集を提出、  
 1368刊「応安改元定記」(弟兼治かねはる説?)、「量実宿禰記」著、連歌:「小槻量実句集」著、  
 菟玖波集3句入、  
 [嶺越ゆる月も雲みに影みえて](菟; 秋398/前句; 今聞きそむる初鴈の声)  
 一実(かずさね・白崎) → 正(ただし・白崎しろさき、商家/歌人) X 2 6 5 7
- G1587 **上総侍従**(かずさのじじゅう) ?-? 平安後期歌人、1127成立「金葉集」463(Ⅲ459)、  
 [あさましく涙に浮かぶわが身かな心軽かるくは思はざりしを](金葉八1127)  
 上総七郎兵衛尉(かずさのしちろうびょうえのじゅう) → 景清(かげきよ・平たいら/藤原、武将) B 1 5 8 4  
 上総介(かずさのすけ・荷田) → 御風(のりかぜ・荷田/羽倉/柴崎、国学) E 3 5 3 6  
 上総介(かずさのすけ・高松) → 房雄(ふさお・高松たかまつ/橘、神職/国学) I 3 8 4 5  
 上総介(かずさのすけ・鴨) → 祐之(すけゆき・鴨かも/梨本、神職/国学/歌) D 2 3 2 1  
 上総介(かずさのすけ・笠因) → 直麿(なおまる・笠因かさより、神職/国学) K 3 2 1 7  
 上総介(かずさのすけ・香川) → 景柄(かげもと・香川、歌人) 1 5 1 1  
 上総介(かずさのすけ・唐崎) → 信通(のぶみち・唐崎からさき、神職/国学) H 3 5 9 6  
 上総介(かずさのすけ・千鳥) → 祐雅(すけまさ・千鳥ちどり/中臣、神職/歌) I 2 3 7 9  
 上総介(かずさのすけ・吉井) → 良明(よしあき・吉井よしい、神職/国学) P 4 7 9 9  
 上総介(かずさのすけ・松平) → 忠敏(ただとし・松平/源、幕臣/歌人) Q 2 6 0 8  
 上総介(かずさのすけ・黒山) → 敏祐(としすけ・黒山くろやま/物部、神職) V 3 1 1 2  
 上総介(かずさのすけ・加藤) → 泰衡(やすみち・加藤かとう、藩主/学制) D 4 5 0 6  
 上総介(かずさのすけ・山本) → 宗恒(むねつね・山本やまもと/源、侍臣/笛) E 4 2 3 3  
 上総介(かずさのすけ・宇井) → 包教(かねのり・宇井うい/穂積、神職/国学) T 1 5 7 2  
 上総介(かずさのすけ・戸沢) → 正実(まささね・戸沢とざわ/平、藩主) R 4 0 0 2  
 上総介(かずさのすけ・畠山) → 盛章(もりあき・畠山はたけやま、神職/歌人) L 4 4 0 1  
 上総介(かずさのすけ・吉成) → 好信(よしのぶ・吉成よしなり、神職/和漢学) Q 4 7 0 8
- G1588 **上総大輔**(かずさのたいふ、春宮大進高階成行女/菅原孝標妻)?-? 平安中期後一条院女房/歌人、  
 1017-20夫孝標の上総赴任に同行/帰京後離別/後一条中宮威子の女房(; 更級日記入)、  
 後拾遺959(; 他の男性に冗談をいうことに嫉妬する男に対する逆襲の歌)  
 [これもさはあしかりけりや津の国のこやことづくるはじめなるらん](後拾十六959)

(「ことづく」はここでは別れる口実とする意)

- G1589 **上総乳母**(かざさのめのと、源致書まさみ女/上総守源著信妻)?-? 平後期後朱雀院梅壺女御生子の乳母、  
歌:後拾遺242(七夕に梶の葉に書いた歌)  
[天の川門とわたる舟のかぢの葉に思ふことをも書き付くるかな](後拾;四秋242)  
一繁(かざしげ・金森) → 桂五(桂吾けいご・金森かなもり、藩士/俳/狂歌) 1 8 5 0
- T1528 **数女**(かずじよ) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[鐘の音も聞えぬ奥の山まどをほのかに照らす有明の月](大江戸倭歌;雑1722)  
歌津女(かづじよ・花安) → 松江子(まつえこ・花安はなやす、歌人/書) R 4 0 8 3  
数介(かざすけ・林) → 言文(ことぶみ・林はやし、商家/国学/歌) R 1 9 1 7  
一純(かざすみ・寺尾てらお) → 一純(いちじゅん・寺尾てらお、藩士/詩人) C 1 1 4 9  
一純(かざすみ・加藤) → 虞山(いんざん・加藤、藩士/地誌/歌) B 1 7 3 6  
一澄(かざすみ・熊谷) → 一澄(かざすみ・熊谷、藩士/国学/歌) U 1 5 5 3  
員純(かざすみ・磯野いその) → 渙斎(かんさい・磯野いその、藩士/儒者) Q 1 5 5 3  
和澄(かざすみ→ともずみ・榎並) → 和澄(ともずみ・榎並、和算家) P 3 1 6 2
- F1521 **和高**(かざたか・牧野まきの/本姓;清原、通称;木工之助もくのすけ)?-? 江前期常陸水戸藩士、  
1701「桃源遺事とげんいじ(西山遺事)」(:光圀伝)共編(三木の幹ゆきもと・宮田清貞と)
- M1526 **一孝**(かざたか・富田とみた、通称;儀右衛門)?-? 江後期金沢藩士/1804筑前守御付御小將頭、  
1846「江戸日記」著
- T1591 **品嵩**(かざたか・大谷おおたに、通称;重助)1792-1855<sup>64</sup> 河内大県郡の国学・歌人;伴林光平門
- V1517 **一考**(かざたか・中島なかじま、通称;治右衛門)?-? 江後期;伊勢桑名の国学者;富樫広蔭(1793-1873)門、  
和孝(かざたか・松田) → 蓼水(りょうすい・松田まつだ、藩儒/勤王派) I 4 9 3 3  
積高(かざたか・尾藤) → 水竹(すいちく・尾藤びと、儒者/幕臣) 2 3 8 0  
かず竹のや(かざたけのや) → 元好(もとよし・三好みよし、藩士/歌人) L 4 4 5 4
- M1525 **一忠**(かざたか・服部はつとり、別名;春安/忠次)?-1595切腹 戦国安桃期尾張の武将/信長家臣;馬廻、  
1560桶狭間で今川義元に一番槍の戦功/82秀吉家臣;黄母衣衆の1、伊勢に領地、  
羽柴秀次臣/1592文禄役で漢城へ従軍、95秀次事件に連座;所領没収/切腹、  
[一忠(;名)の通称] 小平太/采女正、兵法家赤上高明の師
- V1566 **参禎**(かざたか・堀ほり、通称;松弥/号;巴門)1827-74<sup>48</sup> 出羽庄内藩士;酒井忠器ただかたに出仕、  
のち藩家老となる、国学者、堀季雄ときかつの一族  
和忠(かざたか・大東) → 紹九(しょうく・大東おおひがし、連歌作者) I 2 2 1 1  
和忠(かざたか・瀬川/山川) → 恒成(つねなり・瀬川/山川、戯作者) C 2 9 9 5
- M1527 **一胤**(かざたか・塩田しおだ、通称;長左衛門)?-? 江中期京和算家、1715穂積与信版「下学算法」共序、  
1720「微開算法」序、「中学算法勿憚鈔」著
- U1513 **一執**(かざたか・香西かさい、通称;茂十郎)?-1859 江後期讃岐高松藩士;勘定奉行、国学者
- M1528 **和種**(かざたか・上原うへはら、通称;安藝守)1812-92<sup>81</sup> 筑前糸島波多江の生、  
高祖神社祠官の上原和徳の養嗣子、筑前怡土郡総社高祖神社祠官、「怡土郡八郷考」著、  
員胤(かざすみ・磯野いその) → 渙斎(かんさい・磯野いその、藩士/儒者) Q 1 5 5 3  
和民(かざたか・松山) → 道善(どうぜん・松山、医者) G 3 1 2 4  
粕長者(かすちやうじや) → 波丸(はまる・鉄格子てつこうし、狂歌) F 3 6 6 8
- V1564 **一継**(かざつぐ・堀田ほつた/本田[本多]、堀田一繩男)1550-1630<sup>81</sup> 安桃江前期の武将、初め本田姓、  
信長の家臣・秀吉の鷹匠頭;河内・近江・伊勢に知行5千石/従五下若狭守/御伽衆、  
小田原落城後北条氏切腹の検使役/政務十人衆の1、秀吉没後駿府の家康に招聘;御伽衆、  
1600石田三成襲撃事件に密事を家康に取次ぐ/家康の茨木放鷹に随従/関ヶ原で戦功、  
1601知行8880石の犬身旗本となる/15大坂夏の陣に与力で参加/家康の鷹狩に随従、  
秀忠の御伽衆に列す/1619近江甲賀郡に移封知行1万石、1625致仕;隠居、  
之昌の兄/妻;薄田兼相の妹、一通・貞継・一純の父、  
1630(寛永7)没;息子一通が家督嗣;以後子孫は旗本寄合席となる、  
[一継(;名)の別名/通称/法名]初名;重武、通称;孫七/権右衛門/若狭守、法名;宗月
- M1529 **一貫**(かづつら・黒田くろだ、通称;三左衛門/号;無法)?-1698 福岡藩家老/儒学/歌、貝原益軒と親交、

「春芳園の記」著

- T1539 **一貫**(かづつら・朝枝あさだ、) 1791?-1860 70余歳 周防岩国藩士;大目附役、  
国学・歌人;熊谷直好・香川景樹門  
[一貫(;)の別名/通称/号]別名;及保、通称;小太郎/源内、号;圭山
- U1579 **一貫**(かづつら・陶山すえやま、) 1791-1874 84 筑前御笠郡の医者、三条実美・望東尼と交流  
交流について;江島茂逸「三条公手栽松由来」入、国学者/歌人  
一貫(かづつら・青木) → 一貫(いっかん/かづつら・青木、藩主) G 1 1 7 8
- T1537 **和光**(かずてる・秋山あきやま、初名;和厚/通称;常太郎) 1818-1883 66 江後期;江戸幕臣;  
町奉行配下八丁堀与力/国学者;平田鍬胤(かねたね)門、天台宗総本山園城寺長吏俊明大僧正門、  
得度/園城寺にて修行、のち三島神社宮司、書画・印木彫に長ず、  
歌人;歌集「大八洲」入、秋山光條みつえの父  
一輝(かずてる・堀田) → 一輝(いっき・かずてる・堀田、幕臣/歌) B 1 1 3 6  
一照(かずてる・早川/矢野) → 一貞(かざさだ・矢野やの、藩士/地誌) M 1 5 2 3
- W1527 **一辰**(かずとき・島野しまの、) ? - ? 江前期;上方の歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、  
[あだなりと見え行く人をたのむこそわがおろかさの限りなりけれ](林葉累塵;恋943)
- W1523 **員利**(かずとし、) ? - ? 江前期;京の歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、  
河瀬家の人か?、  
[時鳥なく一声に夢さめてまたぬながめのあり明の月](麓の塵;夏144)
- M1530 **一利**(かずとし・黒田くろだ、通称;美作/号;暁雲) ?-1750 福岡藩士、歌:「山家四季」「四季枕」
- V1592 **量敏**(かずとし・村上むらかみ、名;溪夫/通称;文太、旧姓;岡本) ?-1851 筑後久留米藩士/国学者、  
地誌・画に通ず、1825(文政8)藩士早川一照と筑紫の重定古墳石室の神代文字を模写;  
筑紫文字(重定石窟文字)研究が進む(落合直澄「日本古代文字考」所収)、  
扶桑木(石炭)の研究、1825地誌「山土産」著、  
1832松岡辰方ときかた著「かはのはし」の挿画(;)久留米藩領の名所旧跡の考証解説書)
- C1523 **一敏**(かずとし・小河おごう/おがわ、常太郎一崇男) 1813-86 74 豊後竹田の岡藩士、詩歌人、  
儒;角田九華門/のち陽明学/仏・神道、勤王派として国事奔走、維新後;宮内省御用掛、  
「凶荒秘録」「再囚私記」「古史伝中疑問の扣」「僧胤康伝」「鶏肋詩稿」「明鳥」著、  
1860「猪首語」「猪鼻語」/64「一敏詩歌草稿」/「王政復古義拳録」著、  
[一敏(;)の通称]通称;弥右衛門  
祖母 → 茂子(しば・小河おごう、歌人) Q 2 1 9 9
- W1501 **千俊**(かずとし・矢内やない、光門みつかど男) 1835-1916 81 陸奥安達郡松沢村の国学者、維新後;権大講義、  
歌人;[明治歌集七編]入、  
[千俊(;)の通称/号]通称;武左衛門、号;星園/眞名子  
一利(かずとし・庄村) → 貞甫(ていほ・庄村、商業/墳墓録) B 3 0 6 6  
一甫(かずとし/いっぽ・西原) → 公和(よしかず・西原、藩士/国学者) C 4 7 5 0  
一載(かずとし・青木) → 一貫(いっかん/かづつら・青木、藩主) G 1 1 7 8  
一隼(かずとし・野沢) → 勝隼(かつしゅん・野沢、藩士/兵法家) N 1 5 6 0  
和年(かずとし・竹中) → 和順(かずより・竹中、藩士/文筆家) M 1 5 5 9  
和俊(かずとし・大橋) → 卓丈(たくじょう・大橋/石橋、俳人) O 2 6 0 6  
万年(かずとし・亀藤) → 逸翁(いつおう・亀藤きとう、藩士/歌人) K 1 1 1 8
- M1531 **計富**(かずとみ・嶋・島しま/本姓;角鹿朝臣、) 1626-1709 84 越前神職;萩原兼従/中院通茂門、  
古典;元禄期1688-1704頃21代集書写/晩年;敦賀気比神社大宮司、「気比俗談」著  
[計富(;)の通称]通称;三徳丸/杵十郎
- T1558 **一朝**(かずとも・猪子いのこ、一興かずおき男) 1659-1708 50 江戸幕臣;小普請、国学者、  
[一朝(;)の別名/通称/法名]別名;一清、通称;左門、法名;了忠
- T1580 **一知**(かずとも・浦江うらえ/旧姓;木村、) 1834-99 66 陸奥玉造郡岩出山の生、  
仙台藩老女浦江の局の家督嗣;浦江氏を称す、和学に長ず/維新後;仙台中教院教授、  
桜岡神社社司/竹駒神社社司、神職界の重鎮、長歌を詠む、  
[一知(;)の号] 万々柔々廼屋



- 三知(かづとも・寺町) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
- C1524 **一豊**(かづとよ/かつとよ・山内やまうち、通称:伊[猪]右衛門) 1546-1605 60 安土桃山期尾張黒田の武将、  
信長・秀吉・家康臣、関ヶ原直前に妻の「編笠の書簡」で家康の信頼を得る/土佐藩主の祖、  
妻:若宮友興の女(松まつ/千代ちよ・見性院)、妻の功による立身逸話;のち妻の鏡として脚色  
一豊(かづとよ・松永) → 花遁(かどん・松永まつなが、商家/詩人) O 1 5 2 3
- S1576 **一直**(かづなお・阿部/渡辺?) ?- ? 江前期肥後熊本の俳人、  
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、妻も俳人、  
[花ならであらわれにけり櫻鯛](手鑑、  
続千載;春75藤原公雄;佐保姫の初花染の袖の色もあらはれて咲く山桜かな)
- V1575 **一直**(かづなお・松田まつだ、) 1836-1909 74 山城愛宕郡の神道・歌人;上賀茂祠官松田直兄門、  
[一直(;名)の別名/通称]別名;鼎/輝雄、通称;大進
- V1533 **員直**(かづなお・西山にしやま、) 1838-1913 76 但馬出石藩士、国学者、のち出石神社宮司、  
維新後は藩少参事/廢藩置県後は豊岡県に出仕/出石気多郡長、  
[員直(;名)の初名/通称]初名;碧、通称;熊之助/岡太郎/岡右衛門
- M1532 **一直妻**(かづなおのつま・阿部/渡辺?) ?-? 肥後の俳人;1671重以「新百人一句」入、  
1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入;[我子ならつめりて見たしほととぎす](女哥仙;12)
- 1518 **和長**(かづなが・東坊城ひがしぼうじょう、長清男/本姓菅原) 1460-1529 70 廷臣;大学頭/文章博士、  
1501参議、1520権大納言/22氏長者、紀伝道の故実書編纂、歌;宮中歌会/和漢聯句参加、  
「元号字抄」、「七十一番職人歌合」書、「諷誦文故実事」「和長卿記」「菅和長為適詩」、  
「公武相交記和長記」、1482「桂薬記」/1500「後土御門天皇御凶事記」外多数、新菟1句入、  
[和長の号] 栖竹/棲竹せいちく、法名;宗鳳
- M1533 **篤長**(かづなが/あつなが・甘露寺かんろじ、規長男/本姓藤原) 1748-1812 65 母;秋月藩主黒田長貞女、  
廷臣;1781(天明元)参議/正四上左大弁、91(寛政3)権大納言、92従一位/12従一位、  
「篤長卿記」、「元服部類」編/「神璽御緘雑誌」1794「欣子内親王立記」外記録多数
- W1516 **萬齡**(かづなが・吉松よしまつ、増春ますはる男) 1810-71 62 土佐高知藩士;御小姓組、国学;鹿持雅澄門、  
執冬もりふゆの孫、妻;前野家の女、速之助(1845-77/陸軍軍人)の父、  
[萬齡(;名)の通称/号]通称;亀治/元兵衛/清平、号;鳥梅園
- C1525 **量夏**(かづなつ・津守、国夏男?) ?- ? 1384-87頃存 神職;加賀・播磨守/五位、歌人;新後拾遺1323、  
兄弟;国量くにかず・国貴くにたか・国実くにぎぬ、  
[世をそむく山は吉野と聞きながら心のおくにいつしるべせん](新後拾;雑1323)
- M1534 **一成**(かづなり・黒田くろだ、加藤又左衛門男、黒田孝高養子) 1571-1656 86 黒田長政の弟、福岡藩家老、  
1600長政に従い関ヶ原参戦/43致仕剃髪、「長政記」著、  
[一成の通称/号]幼名;玉丸、通称;清兵衛/三左衛門/美作、号;睡鷗/睡鷗齋宗印  
一也(かづなり・河辺) → 一也(かづや・河辺、歌学) M 1 5 5 4  
葛野(かづぬ・千葉) → 葛野(かどの・千葉、国学) 1 5 7 1  
数之丞(かずのじょう・竹内) → 信均(のぶひら・竹内たけうち、藩家老/歌人) J 3 5 0 1  
主計助(かずのすけ・松木) → 慶彦(けいげん、度会わたらい、俳人) D 1 8 4 2  
和之輔(かずのすけ・荘司) → 正暢(まさのぶ・荘司しょうじ、国学者) Q 4 0 2 2
- M1535 **一信**(かづのぶ・恩田おんだ) ?- ? 江戸前期1661-81頃;肥前小城藩士・歌人、  
「恩田一信五十首和歌」、「恩田一信集」著
- V1512 **一信**(かづのぶ・徳永とくなが、) (1674-8)-(1744-48) 71 但馬出石郡の国学者、  
[一信(;名)の通称]彦四郎/半左衛門
- M1536 **一誠**(かづのぶ・黒田くろだ、通称;美作、号;滴齋) ?-1787 福岡藩士/歌人、「新鶯集」「長崎紀行」著
- M1537 **一信**(かづのぶ・逸見へんみ・狩野かのう、号;顕幽齋) 1816-63 48 江後期江戸本所の骨董商の生、  
琳派・四条派・土佐派・狩野はなど諸派の技術を修学、絵師として活動;江戸浜松町住、  
1848-50「奥羽一覽道中膝栗毛」画、法隆寺「五条橋の牛若丸・弁慶図」画、  
成田新勝寺「雲龍図」「伎楽天図」画/30代の時江戸大火で家屋焼失;仏画羅漢図制作企画、  
増上寺子院の源興院主了瑩の援助のもと同院僧亮迪りょうきと各地の羅漢図を視察;  
子瑩没後は後継亮迪の財政援助で「五百羅漢図」完成間際に没;妻妙安・門弟一純が完成、  
「五百羅漢図」は増上寺蔵

- 後援者亮迪 → 亮迪(りょうてき・慎誉、浄土僧/歌) L 4 9 8 4
- V1541 一信(かずのぶ・早川みはやかわ、通称;平左衛門)?-1871 筑後久留米藩士、国学者
- U1535 和暢(かずのぶ・川波かわなみ、通称;和一郎)?-? 江後期;筑前鞍手郡の庄屋、  
国学・歌;伊藤常足(つねたると・1774-1858/鞍手郡八剣社神主/開塾)門
- V1588 積信(かずのぶ・武藤むとう、通称;桃吉)1837-71 35 筑後久留米藩士、国学者/歌人;井上文雄門  
員信(かずのぶ) → 員信(いんしん、連歌) I 1 1 6 3  
一信(かずのぶ・狩野) → 尚信(なおのぶ・狩野かのう、幕府絵師) B 3 2 9 8  
和宮(かずのみや、仁孝天皇皇女)→ 親子内親王(しんしなしんのう、家茂妻) E 2 2 4 1
- M1538 員矩(かずのり・沢田さわだ、字;呂少)?-? 1744-64頃大阪高麗橋大豆葉町地誌家:森謹齋門、  
1744「十土紀」60「下通山川駅路分間之図」著、  
[員矩の通称/号]通称;伊兵衛、号;長莎館
- F1522 量令(かずのり・村井むらい、通称;専之輔/号;一甫)?-? 江後期幕臣、昌平覺で典籍編集/解題;  
1823「編脩地誌備用典籍解題」共編(総裁間宮士信、戸田氏徳・海老原儼・村井量令らと)、  
1827「切支丹御退治記」/40「清四朝紀略」著、「群書備考」「記録解題」「姓氏便覧」編、  
「阪役叢話」著
- T1550 一徳(かずのり・井上いのうえ、通称;益之進)?-? 江後期;備前岡山藩士、  
歌人;菅沼斐雄(あやお/1786-1834)門、岡山藩世臣/茶道に通ず
- U1515 一徳(かずのり・葛西かさい、通称;惣右衛門)1800-61 62 肥後熊本藩有吉家の老臣、国学者
- T1548 一訓(かずのり・安藤あんど、別名;重典/友樹、宮崎八幡宮安藤澄江男)1826-99 74 長門萩の歌人、  
国学・歌;近藤芳樹・足代弘訓門、京で筆策を修学;狛近俊門、  
藩命で舞楽大和舞を修得;大和の富田氏に入門、中年以降に失明;詠歌と吹奏を嗜み余生
- T1575 一徳(かずのり・上田うえた、)1830-77 48 肥後飽託郡の生/熊本藩士、国学・歌;中島広足門、  
[一徳(;名)の初名/字/通称/号]初名;初彦、字;伯善、通称;久兵衛/休兵衛/休/忠左衛門、  
号;半田/清溪  
一徳(かずのり) → 文里(ぶんり・斎藤、儒者) G 3 8 6 7  
一式(かずのり・山内) → 隄雲(ていうん・山内、蘭医) 3 0 3 3
- M1539 一春(かずはる・黒田くろだ、通称;三右衛門)?-1700 筑前福岡藩士/歌人、「平産玉記」著  
和晴(かずはる・吉田/瓜生)→ 金鷲(きんが・梅亭、幕臣/滑稽本) D 1 6 8 3  
和春(かずはる・桂川) → 国幹(くにもと・桂川/8世、蘭学;化学) D 1 7 2 7
- V1574 算彦(かずひこ・松木まつき/本姓;度会、言彦のぶひこ男)1767-1814 48 伊勢度会郡の外宮禰宜、  
卓彦つねひこの孫、養嗣子;品彦ただひこ(1808-45)が家督嗣
- M1540 三彦(かずひこ・梅田うめだ、通称;兵衛)?-? 紀州藩士/江戸住、歌人、  
1852「小鳥合記」著、「梅芳遺筆」編、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[狩人の野太刀の鞘のすり貝も光あひたる雪の夕暮]、  
(大江戸倭歌;冬1249/雪中鷹狩、摺り貝;螺鈿らでん)
- T1590 歌寿彦(かずひこ・大泉おおいずみ、)1821-99 79 近江彦根藩士;歌道の師として出仕、  
のち奥方附/江戸詰、歌道の門弟多数、森野森月しげつの師、晩年は江戸住、  
[歌寿彦(;歌号)の名/通称]名;明影あきかげ、通称;市右衛門
- V1582 一彦(かずひこ・三上みかみ、)1836-1911 76 石見邑智郡の生、神道・国学;六人部是香よしか門、  
国学・歌;本居豊穎とよかい門/漢学・国典;久保季茲すえしげ門/国学;井上頼国よりくに門、  
三上家の養子;安藝山県郡新庄村竜山たつやま八幡神社宮司、歌人、  
1883広島県神道分局長/大教正、  
[一彦(;名)の別名/通称/号]別名;重朝、通称;頼母/県磨あがたまろ/出羽守、  
号;干満翁/二葉仙史
- U1555 和彦(かずひこ・能本のもと、)1838-1893 56 加賀金沢の国学者/神典を修学、歌人、  
維新後;中講義/1887(明治20)東京大八洲會員/のち私立学校教員、  
[おきそふる露をかごとに苜蓿のことぐしくも亂れけるかな]  
一彦(かずひこ・五島) → 赤水(せきすい・五島ごとう、医者/儒者) K 2 4 2 5  
万彦(かずひこ・石野/佐々木)→ 万彦(まひこ・佐々木、幕臣/歌人) L 4 0 0 0
- M1541 量久(かずひさ・森もり、宗久男)?- ? 室町中期/1403-07上賀茂社神主、「社務記」著

- M1542 **籌久**(かずひさ・松本/旧姓浅野、松本籌遠かずとお養子)?-? 長門和算家/萩藩校明倫館算学師範、1848-54頃江戸勤務/山路諧孝門、「累歳乗利鑑」著  
 和久(かずひさ・菊池) → 和久(にぎひさ・菊池/菊地きくち/藤原、藩士/神職/歌) H 3 3 0 1
- M1543 **葛榮**(かずひで・狛こま、朝葛ともかず男) 1310-7566 楽人;豊後守/従五上/一者(楽人筆頭)を9年間、「打物簡要抄」著、俊葛としかずの父
- V1584 **和英**(かずひで・水谷みづたに、初名;和榮/通称;権兵衛)?-1824? 伊予今治の歌人;  
 歌;町野政胤(1686-1730)門?(年齢に矛盾)
- M1544 **一秀**(かずひで・大村おむら、字;小竜) 1824-9168 江戸芝和算家・細井寧雄/秋田義一門、「謙斎通解」編、「凹円百問解」「斜円適等解義」著、1866「岩田好算題大村氏之解」著、1866「測量枢要明解」/67「垂糸起源」「通機算法解義」「丁卯通解」外著多数、  
 [一秀の通称/号]通称;金吾、号;謙斎  
 和英(かずひで・小沢) → 郷助(ごうすけ・小沢おざわ、儒/兵学者) K 1 9 0 3  
 量仁(かずひと) → 光厳天皇(こうごんてんのう、北朝初即位/歌人) B 1 9 0 9  
 件人(かずひと・椎名) → 紀逸(初世きいつ・慶けい、俳人) 1 6 0 1  
 和姫(かずひめ・池田) → 村子(むらこ・池田いけだ/伊達、藩主室/歌) D 4 2 6 5
- M1545 **一平**(かずひら・佐治さじ、通称;次郎兵衛)?-? 江前期和算家:田中由真門、松田正則/古高明常の師、1680「算法明備解」「算法入門」著
- V1563 **一平**(かずひら・堀田ほつた、一輝いっき男) 1661-174282 江戸の幕臣;御旗奉行、和学・歌人;父門、  
 [一平(;名)の通称] 大学/孫太郎
- U1548 **和平**(かずひら・菊田きくた、旧姓;小笠原) 1827-190377 陸奥伊達郡の農家/国学・神道;本居内遠門、のち神官、穏平やすひらの父、「塵芥居集」著、竹内千芳編「千代のしづめ」校閲、1888(明治21)かつて濁川(大門川)に架る小倉の石橋を称えた碑;  
 [よろづ世にかけてくちせじ里の名の小ぐらのはしの名さへ橋さへ]、  
 [和平(;名)の別名/字/通称/号]別名;永胤、字;田鶴、通称;亀吉/長四郎、  
 号;小松園/塵芥居/松翁
- F1523 **一浩**(かずひろ・堀越ほりこし) ? - ? 歌舞伎作者:堀越二三治にそじ門、上方で活動、1743大阪姉川座「式三番扇軍」創作に協力/空白期間/1756「大名日万代国入鎌倉鑑」合作、京沢村国太郎座で活動:1757「浪花染祭礼雛形」「けいせい仙根の滝」「大伴黒主百夜車」著
- U1581 **一啓**(かずひろ・瀬在せあり、) 1788-185265 信濃埴科郡の国学者、  
 [一啓(;名)の通称/号]通称;武七、号;一言舎
- M1546 **量弘**(かずひろ・村上むらかみ、字;士精/通称守太郎、量敏男) 1819-50刺殺32歳 久留米藩士/藩校講官;儒学;昌平覺出/松崎慊堂こうどう門/1842会沢正志斎門、1844納戸役/江戸勤番/側物頭;参政、1840「荘内見聞録」/43「水戸見聞録」「米沢会津見聞録」「怯語叢書」「士精文稿」著、「士精遺稿」
- M1547 **数馬**(かずま・伊藤いとう、不及斎)?- ?1810以前没 北越医者/大阪住、「梅瘡鄙言」「漫疫論国字解」著  
 数馬(かずま・富永) → 全昌(まさよし・富永、藩士/記録) D 4 0 2 0  
 数馬(かずま・山澄) → 英竜(ひでたつ・山澄/川方、藩士/戦記) D 3 7 1 5  
 数馬(かずま・山澄) → 英重(ひでしげ・山澄、英竜男/藩家老/和学) M 3 7 1 8  
 数馬(かずま・横山) → 忠知(ただちか・横山よこやま、幕臣/船奉行) P 2 6 8 1  
 数馬(かずま・知久) → 頼久(よりひさ・知久ちく、旗本/領主/歌) N 4 7 9 0  
 数馬(かずま・猪子) → 一興(かずおき・猪子いのこ、幕臣/国学) T 1 5 5 7  
 数馬(かずま・土屋) → 喬直(たかなお・土屋つちや、幕臣/旗本) Y 2 6 3 1  
 数馬(かずま・千村) → 重治(しげかる・千村ちむら、藩士/記録) S 2 1 2 6  
 数馬(かずま・幡垣) → 正張(まさはる・幡垣はたがき/平、神職/歌) R 4 0 7 7  
 数馬(かずま・荒木田) → 南陵(なんりょう・荒木田あらかだ、神職/詩) J 3 2 6 6  
 数馬(かずま・野々山) → 兼隆(かねたか・野々山のやま/源/小浜、幕臣/歌) W 1 5 5 5  
 数馬(かずま・彦部) → 信有(のぶあり・彦部ひこべ、歌人) 3 5 9 5  
 数馬(かずま・彦部) → 周信(かねのぶ・彦部ひこべ、国学/歌人) V 1 5 4 8  
 数馬(かずま・酒井) → 忠興(ただおき・酒井さかい/戸田、幕臣/国学) X 2 6 3 4  
 数馬(かずま・酒井) → 忠塚(ただきし・酒井さかい、幕臣/和学者) X 2 6 3 5



- 数馬(かずま・前田) → 矩正(のりまさ・前田、藩士/記録) F 3 5 7 7
- 数馬(かずま・藤原) → 重全(しげまさ・藤原、神職/書肆) S 2 1 6 4
- 数馬(かずま・津軽) → 為貞(ためさだ・津軽つがる、能書家/詩人) Y 2 6 2 6
- 数馬(かずま・佐々原) → 梅操(ばいそう・佐々原ささはら、儒者) B 3 6 7 5
- 数馬(かずま・藤堂) → 光寛(みつひろ・藤堂とうどう/多羅尾、藩士) E 4 1 7 0
- 数馬(かずま・藤堂) → 光訓(みつり・藤堂とうどう、光寛孫/藩士) E 4 1 5 0
- 数馬(かずま・堀田/花房) → 職朝(もととも・花房はなぶさ/堀田、幕臣) D 4 4 3 4
- 数馬(かずま・林/沢井) → 梅朝(ばいちよう・沢井/林、俳人) B 3 6 8 1
- 数馬(かずま・諏訪) → 頼久(よりひさ・諏訪すわ、幕臣/弓術) J 4 7 5 2
- 数馬(かずま・吉原) → 黄山(こうざん・吉原よしはら、藩士/俳人) B 1 9 2 1
- 数馬(かずま・吉原) → 東海(はるみ・吉原、黄山男/俳人/書家) K 3 6 9 6
- 数馬(かずま・有沢) → 貞庸(さだつね・有沢ありさわ、藩士/記録) I 2 0 6 5
- 数馬(かずま・杉原) → 重武(しげたけ・杉原すぎはら/藤田、藩士/歌) Z 2 1 0 2
- 数馬(かずま・玉井/遠藤) → 高環(たかのり・遠藤/玉井、藩士/測量) M 2 6 8 0
- 数馬(かずま・山田) → 千疇(千有年ちうね・山田、国学者) 2 8 3 9
- 数馬(かずま・諏訪/島津) → 甚六(じんろく・諏訪すわ/島津、藩家老) Q 2 2 2 3
- 数馬(かずま・日下) → 房元(ふさもと・日下くさか/小栗、国学/歌) I 3 8 1 6
- 数馬(かずま・小山) → 安延(やすのぶ・小山こやま、神職/歌人) F 4 5 8 9
- 数馬(かずま・郷) → 実善(さねよし・郷ごう、国学/歌) N 2 0 3 5
- 数馬(かずま・佐竹) → 延長(のぶなが・佐竹さたけ、三山先達/国学) I 3 5 5 2
- 数馬(かずま・玉井) → 春枝(はるすえ・はるしげ・玉井たまい、神道/国学) K 3 6 4 3
- 数馬(かずま・深江) → 遠広(とおひろ・深江ふかえ、藩士/神道家) W 3 1 2 0
- 数馬(かずま・日置) → 忠尚(ただひさ・ただなお・日置へき/池田、藩老/画) Z 2 6 4 0
- 数馬(かずま・村山) → 末房(すえふさ・村山むらやま/坂、神職/国学) J 2 3 2 9
- 一馬(かずま・高田) → 利友(としとも・高田、国学者) N 3 1 0 5
- 一馬(かずま・森) → 春成(はるなり・森もり、藩士/日記) G 3 6 6 6
- 一馬(かずま・貞松齋) → 一馬(いちば/いちま・貞松齋、華道家/俳) G 1 1 3 7
- 一馬(かずま・木下) → 光昭(みつあき・木下きのした/野原、陪臣/歌) I 4 1 7 7
- M1548 **一政**(かざまさ・浅井あさい/今木、初名;正祥/通称;源右衛門)?-1645**殉死** 浅井長政の一族/近江出身、豊臣秀頼家臣;今木姓、1618前田利常臣;浅井に復姓/加賀藩士、世子光高側用人;殉死、記録/軍記作者、「浅井一政自記」「大坂軍記」著
- M1549 **一匡**(かざまさ/よしただ・中村なかわら、通称;半平) 1774-1821**48** 備中松山藩士、国学;平田篤胤門、「道のかげはし」著
- M1550 **員昌**(かざまさ・尾崎おさき、号;旭山)?-? 江後期最上流和算家;佐藤一清門、「鈎題算法」「量地図」編、1862「算法円理書」「量地弧度算法」編、「算法直術」編/「算法招差術起源」「塚積術起源」編
- 一政(かざまさ・遠江守、狂歌「古今夷曲集」入) → 遠州(えんしゅう・小堀、藩主/茶/歌) 1 3 0 1
- 一方(かざまさ・篠野) → 一方(いっぽう・篠野ささの、医者/狂歌詩) H 1 1 9 2
- 和将(かざまさ・山室) → 松軒(しょうけん・山室やまむら、医者/歌人) I 2 2 4 8
- U1574 **和麿**(かづまる・芝しば、旧姓;菊池、和久にぎひさ男) 1817-62**46** 伊予宇和島藩士の家の生/芝家を継嗣、国学者/歌人、  
[和麿(;名)の通称]俊伯/正璋
- 一麿(一丸かづまる・白銀台しのがねだい) → 内新好(ないしんこう・内田屋、戯作/俳人) 3 2 5 3
- 和麿(かづまる・和泉) → 眞国(まくに・和泉/石橋、書肆/国学者) 4 0 6 6
- 和麿(かづまる・小池) → 恭(たかし・小池こいけ、藩医/国学) W 2 6 9 6
- S1542 **霞**(かすみ;組連) ? - ? 江中期武蔵北豊島郡目白の雑俳の組連、  
取次;1748「筑丈評万句合」入、  
取次例;[出来分限できぶげん床とこに大津絵懸けながら](前句;栄えこそすれ栄えこそすれ)、  
(にわか成金の床に子供の土産のような大津絵がかかっている/見栄を張らない儉約ぶり)
- S1544 **かすみ**(;組連) ? - ? 江戸麻布桜田町の川柳の組連、  
取次;1766「川柳評万句合」入、

取次例;[首引くひきはたとへ勝ても見ぐるしい](66万句合/前句;すきなことかな々々)  
(首引はくびに輪にした紐を掛けて引合う座敷遊戯/勝負のあとの乱れた姿)  
上記の目白の霞との関係は不詳?

霞(かすみ;一字名) → 尊応(そんのう;法諱、天台座主/歌/連歌) F 2 5 0 2

U1553 一澄(かすみ・熊谷くまがい、豊澄とよすみ男) 1830-1900 71 信濃飯田藩士、国学・歌人;松波資之門、  
信州歌人の大田幹・篠田保・御園生一歎・泉善見・上柳緑と交流  
[一澄(;名)の別名/通称]別名;亮生/亮人、通称;七十郎/政兵衛/一見

一美(かすみ・吉田) → 澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政) T 2 6 3 7

T1555 和兌(かすみち・伊藤いとう/本姓;藤原) 1815-78 64 土佐高知藩士、国学;平田鉄胤門、和義の父、  
[和兌(;名)の通称/号]通称;岩之助/幸十郎/太郎兵衛/善平、号;怡然いぜん、屋号;辰巳屋

M1551 量光(かすみつ・柳原やなぎわら、初名;尚光、資綱すけつな男/本姓藤原) 1448-1510 63 廷臣;蔵人頭/文章博士、  
1475参議/77権中納言/右衛門督/檢非違使別当、因幡下向/1510上京、「量光卿記」著

和光(かすみつ・裏松/堀河) → 親実(ちかざね・堀河/藤原、廷臣/歌) 2 8 9 4

霞の侍従(かすみのじじゅう;「見ぬ世まで」の歌) → 忠真(ただまね・大久保、藩主/歌人) F 2 6 0 9

霞谷景(かすみのたにかげ) → 花江戸住(はなのえどずみ、狂歌) F 3 6 4 7

霞廼屋(かすみのや) → 松根(まつね・古川ふるかわ、藩士/歌人) J 4 0 8 3

霞廼屋(かすみのや) → 安斐(やすあや・脇坂わささか/藤堂、藩主/歌) H 4 5 0 3

V1527 員輸(かずもと・檜崎ならさき、) 1695-1768 74 備後三原の歌人/歌学;有賀あるが長伯・角谷正雅門、  
地誌家;1760「長井浦記」著(青木充延「三原志稿」入)、  
[員輸(;名)の通称/号]通称;吉郎右衛門/宗節、号;境斎

M1552 一元(かずもと・富田とみた、勝右衛門男) 1696-1767 金沢藩士/御留守居物頭、  
1748「政所様薨去一卷留帳」著、  
[一元の幼名/通称]幼名;清長、通称;弥八郎/弥兵衛

M1553 量原(量元かずもと・かずおか・町尻まちじり/本姓;藤原、吉田兼雄[良延]男) 1741-99 59 江中期廷臣、  
1760町尻説望の養子/79改名、97参議/従二位、神道に精通、「神道大意」「禁裏炎上記」著、  
1759「中臣祓講義」/64「神祇進洞記」編/72「神元鈔」/88「やけ野々日記」「天明炎上記」著、  
[量原(量元;名)の別名/号]初名;兼原かねもと、号;東林樵夫、法号;玉淵院

M1554 一也(かずや/かずなり・河辺かわべ/川辺、別名;清意) 1802-67 66 江戸下谷の生/一橋家家臣、  
歌;梅軒/1831景樹門、故実;畠山常操門、1822「霜葉草」編/64「葎園倭歌集」、「葎園鈔」著、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[藤の花咲けるを見れば住の江の岸こそ春のとまりなりけり]、  
(大江戸倭歌;春373/三月尽)、  
[けふ見ればみな白雲しらくもとなりはてて花こそなけれを初瀬の山](現存百人一首;42)、  
[一也の号] 葎園/克寿軒、忍岡隠士

和哉(かずや・奈古屋) → 彰(あきら・奈古屋なかや、藩士/歌人) I 1 0 0 6

M1555 一保(かずやす・鈴木すずき、字;士養/通称半兵衛/号;甘井) 1744-1812 69 越後高田藩士;  
代々榊原家の世臣、古学;守敬典門/和漢学/俳諧/管弦に長ず、  
藩政に参与;江戸住、奢侈の生活を非難され致仕、著作に専念、蔵書を藩に寄贈、  
「国書大旨」「頸城郡古物図考」「薫物古説考証」著、阪部北共・森美信の師、  
「金蘭集」編の甘井と同一? → 甘井(かんせい・浣花井、俳人) E 1 5 0 3  
穂積保と同一説もある? → 保(たもつ・穂積ほづみ、国学者) S 2 6 9 3

S1595 三徳(かずやす・丸山まるやま) ? - ? 江後期;法制故実家、「文保服忌令」「異域門」著、  
「都のつと」著、1842(天保13)細川正義の刀剣を購入、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[むかつをの松に日影はさしながらしぐれてわたる瀬田の長橋](大江戸倭歌;冬1080)

W1526 一之(かずゆき・伊藤いとう、) ? - ? 江前期;上方の歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、  
[おほかたの舟路にいとふ浦風にきたけ(北風)は雁のおひてなりけり]、  
(林葉累塵;秋564)

V1565 一之(かずゆき・堀田ほった、) 1655-1701 47 江戸の幕臣;御徒頭、和学者、  
[一之(;名)の通称] 千徳/宮内

- V1514 **和幸**(かづゆき・富田とみた、通称;宇左衛門)1805-6864 備前岡山藩国老伊木家の家臣、国学者
- V1562 **千之**(かづゆき・星野ほしの、通称;金吾/備中守)1809-8375 江戸の幕臣;納戸頭/目付/1864外国奉行、  
国学者、遣欧特使を下命;実現せず/備中守;1866(慶応2)禁裏付/従五下/六千石  
一之(かづゆき・高山) → 畏斎(いさい・高山たかやま、儒者) E 1 1 2 5  
一之(かづゆき・沢口) → 一之(いっし・かづゆき・沢口さわぐち、和算家) B 1 1 4 4  
一雪(かづゆき・棕梨) → 一雪(いっせつ・棕梨/成田、俳人/実録) B 1 1 5 4  
和之(かづゆき・亀谷) → 和竹(わちく・亀谷かめたに、藩士、和算家) 5 3 4 8
- V1550 **三由**(かづよし・平野ひらの、)1687-173751 近江彦根藩士;御錠前番番人、  
歌人;[彦根歌人伝・寿]入、  
[三由(;名)の通称/号]通称;久八郎/吉丸、号;午涼軒/大樞舎(だいえんしゃ)
- U1586 **一芳**(かづよし・添田そえだ、通称;常二郎/又作)1811-8676 筑前遠賀郡吉田村の里正、国学者
- U1552 **員美**(かづよし・熊岡くまおか、旧姓;竹内)1813-186250 讃岐高松藩士、国学者、  
[員美(;名)の通称] 新六
- T1522 **和良**(かづよし・鈴木すずき) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[住みうくもあらぬ世なるを山深み何にそむきてたつるけぶりぞ]、  
(大江戸倭歌;雑1742/山居煙)
- M1558 **一好**(かづよし・花井はない、通称;虎一/虎、号;大巧/如拙道人)?-? 江戸本所住/納戸口番、  
蘭学;宇田川榕庵門/耀蔵配下の目付に渡辺崋山の情報を密告;1839蛮社の獄の囚、  
1845「減銅録」、「神州論」、「船神之事」、「琉球紀略」、「謨児木子杜説」著
- V1583 **一敏**(かづよし・御菌生みそのう、通称;猪之助/猪三)1822-190180 信濃飯田藩士、歌人;三浦元規門
- M1557 **和義**(かづよし・伊藤いとう、通称;甲之助、和兌(かづみち男)1844-64自刃21 高知藩士/土佐勤王党参加、  
1862勅使護衛として江戸へ/63七卿護衛して長州へ/64京で忠勇隊参加負傷/自刃、  
1863/4「伊藤和義長州行歌稿」、「伊藤和義日記」、「伊藤甲之助日記」著  
和義(かづよし・斯波) → 和義(まさよし・斯波、武将/歌人) I 4 0 4 0  
和義(かづよし・朝野) → 泰彦(やすひこ・朝野あさの、国学/神職) C 4 5 7 1  
和好(かづよし・半田) → 常牧(じょうぼく・半田/繁田/伴田、俳人) B 2 2 6 2  
一吉(かづよし・小野) → 一吉(くによし・小野おの、幕臣/旗本) D 1 7 9 1  
かずよし(・中村) → 確嶺(たいけい・仁井田にいだ、俳人) C 2 6 3 6
- V1539 **員従**(かづより・萩原はぎわら/本姓;卜部、)1645-171066 京の生/萩原兼従(かねよりの)養嗣子、  
神道家;養父門/吉田神道、  
[員従(;名)の初名/通称/号]初名;信成、通称;右衛門佐、号;神從院
- M1559 **和順**(かづより・竹中たけなか、別名;重視/和年、重和男)1732-? 1773存 名古屋藩士/馬廻、  
1745藩主の小姓、「難波之塵」著、  
[和順の通称] 彦左衛門/太郎八  
一頼(かづより・吉田) → 一頼(いちらい・吉田、狂歌) G 1 1 6 8  
員仍(かづより・柏原) → 瓦全(がぜん) C 1 5 2 8  
鬘宮(かづらのみや) → 依子内親王(よこないしんのう、宇多天皇皇女) I 4 7 6 1  
かぜ(・永田) → りざ(・永田ながた、神職の妻/歌人) M 4 9 2 1
- S1532 **可成**(かせい) ? - ? 江前期京の俳人、1678西鶴「物種集」入、  
1691不角「二葉之松」1句入、1670[林葉累塵集]入集の歌人新美可成(よしなり)と同一?、  
[命あればつぶ身百貫スル男](二葉之松;476、  
つぶ身は鞆や鏢のない刀身のみ;裸身でも百貫の価値)  
参照 → 可成(よしなり・新美にいみ、歌人) Q 4 7 2 8
- M1560 **可誠**(かせい) ? - ? 伊賀上野俳人;1698「続猿蓑」1句入、  
[筥たけのこにぬはるゝ岸の崩れかな](続猿;巻下/筥のとがった頭の針で崩れを縫う)
- F1524 **嘉声**(かせい) ? - ? 狂歌・嘉栗門、「仙果亭嘉栗行状記」著
- S1533 **何声**(かせい) ? - ? 京の俳人、1729隆志「俳諧草結」1句入、  
[儒者の子やこぼるゝ梅の夢一字](草結;233/初夢は天神様の紋所こぼれ梅を見る)
- M1561 **何声**(かせい・風鈴庵、名;穂音)1708-176861 伊勢度会(とく)の俳人、神風館7世継承、1754「歳旦」編



M1562 鍋盛(かせい・下郷しもさと、名;助雄、蝶羽ちやう男) 1713-9078 尾張鳴海の商家/俳人:父蝶羽門、  
「千代しるし」編

[鍋盛の通称/別号]通称;弥兵衛、別号;栢樹園はくじゅえん/蒼菅舎/紫雲/素風簾

S1598 夏井(かせい・若菜わかな/本姓;藤原、通称;三男三郎みおさぶろう)?-? 江後期幕臣;下田奉行支配組頭、  
1856(安政3)下田奉行井上清直・中村時万ときつむに随いハリスや書記官ヒュースケンと交渉、  
1859横浜開港時の神奈川奉行支配組頭、1862生麦事件の際薩摩藩士に事情聴取、  
のち甲府町奉行(甲府勤番機能は城代・小普請組・町奉行に分割されていた);  
1868官軍に甲府城引渡後に辞任;江戸に帰る、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[今宵たれあさづま船に浮寝して霞のどこにつきをみるらん]、  
(大江戸倭歌;春179/湖上春月)

可清(かせい・遠藤) → 可清(よしきよ・遠藤えんどう、歌・連歌) L 4 7 7 7

可清(かせい・浅山) → 可清(よしきよ・浅山あさやま、藩士/歌人) L 4 7 1 7

河清(かせい;唐名) → 清河(きよかわ・藤原、廷臣/歌/長安没) 1 6 3 9

河清(かせい;道号) → 祖瀏(そりゅう;法諱・河清かせい、臨濟僧) E 2 5 5 1

河成(かせい・百濟) → 河成(かわなり・百濟くだら/余あぐり、絵師) D 1 5 3 5

加生(かせい) → 凡兆(ぼんちやう・野沢、医/俳人) 3 9 7 3

可正(かせい・松平) → 可正(よしまさ・松平/鈴木、藩士/歌人) H 4 7 0 0

可正(かせい・正木) → 可正(よしまさ・正木まさき、狂歌) K 4 7 1 8

可成(かせい・新美) → 可成(よしなり・新美にいみ、歌人) Q 4 7 2 8

花栖(かせい・上野) → 為環(ためあき・上野うえの、国学者) V 2 6 8 0

花斉(かせい・狩野) → 養長(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学) F 4 5 7 2

花成(かせい・糊沢) → 花成(はななり・糊沢くるみざわ/源、国学者) K 3 6 1 2

華成(かせい・堀) → 直雄(なおかつ・堀ほり、藩士/歌人) O 3 2 6 7

佳成(かせい・渋谷) → 幽軒(ゆうけん・渋谷しぶや、藩士/和漢学) B 4 6 4 2

佳成(かせい・日暮) → 佳成(よしなり・日暮ひぐらし、和算家) F 4 7 4 4

佳政(かせい・田中) → 佳政(よしまさ・田中/山野、藩士/和算/神道) H 4 7 0 1

佳清(かせい/よしきよ・松岡) → 茶山(ちやざん・松岡まつおか、俳人) F 2 8 5 4

佳清(かせい・佐橋) → 佳清(よしきよ・佐橋さし、幕臣/国学) N 4 7 1 5

歌政(2世かせい・沼田) → 月斎(げつさい・沼田ぬまた、藩士/絵師) H 1 8 0 5

嘉晴(かせい・石井) → 嘉晴(よしはる・石井いし、料理人) K 4 7 2 9

M1563 雅生(がせい;字・立川たちかわ、名;淳美)?-? 江後期常陸太田村儒者:長久保赤水門、  
「太田史」著

賀世(がせい・室谷) → 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9

芽清(がせい) → 寒瓜(かんか/かなが・井上、俳人) D 1 5 4 9

我静(がせい;号) → 思淳(しじゆん;法諱・朴艾;字、律宗僧) T 2 1 7 1

雅正(がせい・藤原) → 雅正(まさただ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 4 0 4 4

雅清(がせい・源) → 雅清(まさきよ・源みなもと、廷臣/歌) C 4 0 3 2

雅世(がせい・飛鳥井) → 雅世(まさよ・飛鳥井/藤原、歌学・蹴鞠) 4 0 2 3

雅政(がせい・上島) → 雅政(まさただ・上島うえじま、詩人) N 4 0 9 1

雅成親王(がせいしんのう) → 雅成親王(まさなりしんのう、配流/歌人) F 4 0 4 6

華躰道人(かせいどうじん) → 長洲(ちやうしゅう・城じょう、医者/詩人) I 2 8 7 5

F1525 化石(かせき・桑原くわばら/井上、五流斎3世女媒の男)?-? 大阪の俳人、五流斎四世

M1564 珂碩(かせき;法諱・超譽ちやうよ;号、俗姓野村) 1618-9477 武州の浄土僧;1635武蔵大巖寺珂山門、  
珂山が靈巖寺2世となり随侍/1667靈巖寺に九品の仏像と釈迦像を造り寄進、  
1678世田谷奥沢に浄真寺を開き移住、医術に長ず、「奥沢教化物語」著

I1515 佳夕(かせき) ? - ? 京俳・淡々門、1728柳岡「万国燕」40句入

[君が代や橋の岡崎丸合羽まるがっぱ](万国燕;9/三河岡崎の長い橋を合羽で行く平和な旅)

M1565 珂石(かせき) ? - ? 近江八幡の俳人;1777江涯こうがい「仮日記」2句入、  
[曙あけぼのや松がさきより春の風](仮日記;113/京の松ヶ崎と松の先を掛る)

F1526 買夕(かせき) ? - ? 美濃神戸の狂歌作者、

1785刊「後万載集」1首入・「国風撃壤歌集」入(；美濃大垣の人と注す)、  
[もうきゝてあらじと思ひきりの木はことほりぞかしことほりぞかし](後万載；767伯牙、  
伯牙は自分を琴の名人と理解してくれていた鍾子期の死を知り絃を断つ、  
思ひ切りと桐[琴]を掛る/理と琴割りを掛る)

- U1587 **化石** (かせき；号・小野おの、通称；金兵衛) ?-1818 陸奥津軽鯨ヶ沢釣町の紺屋灰商/俳人；雑俳点者、  
[磯山や四月の袖に桜散](鯨ヶ沢化石塚の句碑)、法名；玄沖斎化石居士
- M1566 **花石** (かせき；羽室はむろ、通称芳蔵、別号；梅香園) ?-? 江戸末期丹波綾部の俳人、「俳諧なかめ草」著
- M1567 **霞石** (かせき；加藤かとう、名；济、幸右衛門男) 1802-73 72 安房平久里中村里正/幕府嶺岡牧場の牧士、  
医者；内木玄通門/女婿、独学で儒詩修学、西洋医学；足立長雋門/1851息に家督、江戸で医者、  
伊勢長島藩出仕/1861経学；若山勿堂ぶつどう門、「掬霏さくあい山房詩」編、1866「品石風雅」編、  
[霞石の字/通称/別号]字；世美、通称；玄叔、別号；椿山/蓑丘さきゅう/掬霏さくあい、法号；鑑定院
- 霞石(かせき；近藤) → 南海(なんかい；近藤こんどう、儒者) I 3 2 6 2  
花石(かせき；玉田) → 歩牛(ほぎゅう；玉田/渡辺、俳人) C 3 9 8 2  
佳石(かせき；河口) → 信任(のぶただ；河口かわぐち、蘭医) B 3 5 8 4
- M1568 **瓦跡** (かせき；速水はやみ) ? - ? 大阪雑俳；1757律中「耳勝手」入  
鶯石(かせき；梶原) → 景照(かげひろ；梶原かじわら、金石文学者) E 1 5 9 9  
嘉石濃書屋(かせきのうしよおく) → 休庵(きゅうあん；熊田くまだ、商家/儒詩) M 1 6 2 4
- H1599 **可雪** (かせつ；芦田あしだ) ? - ? 但馬出石の俳人、1689言水「前後園」90「新撰都曲」4句入、  
[ゆく牛に口籠くちかごはむる花野かな](都曲；上63/花を食べないように口に籠をはめる)
- M1569 **珂雪** (かせつ；正山[庄山]しょうやま、荒木祐右衛門2男) 1745-1814 70 越前福井の人/金津で医者、  
俳人；以哉坊門、1793「法の言葉」95「みつかゝみ」編、「松島行」著、  
息子；六郎助(号；清隠二芳、俳人)、  
[珂雪の通称/別号]通称；六郎左衛門、別号；珂雪庵/二逐坊、法号；馨蓮院
- 可雪(かせつ；妻屋) → 秀員(ひでかず；妻屋/妻谷つまや、歌人) C 3 7 9 1  
爪雪(かせつ；高橋) → 杏村(きょうそん；高橋たかはし、絵師/詩) O 1 6 2 7  
臥雪(かせつ；高木) → 秀真(ひでざね；高木、藩士/歌人) D 3 7 0 6  
夏雪溪(かせつけい) → 氷虫(ひょうちゅう；夏雪溪、俳人/書家) F 3 7 3 3  
珂雪堂(かせつどう) → 玉洲(ぎよくしゅう；桑山/桑そう、絵師) D 1 6 0 2  
華雪道人(かせつどうじん) → 原甫(げんぼ；堀/小川、書肆) J 1 8 4 7
- R1595 **風於菟丸** (かぜのおとまる) ? - ? 江戸狂歌；1787「才蔵集」入、  
[長文ながふみをかきくらし降る五月雨にはれて逢はれぬ色客ぞ憂き](才蔵集；142、  
娼家五月雨/書き暮らしと搔暗しを掛る)
- F1527 **花仙** (かせん；田中たなか、五松男/千梅孫) ?-1771 江中期近江栗太郎郡辻村の鋳物師、  
俳人；父門、書を嗜む、1770祖父千梅追善集「なつぼうず」編、  
[花仙(；号)の通称/別号]通称；文五郎、別号；此川堂しせんどう
- F1528 **歌川** (かせん) 1714 - 1777 64 越前荒町屋の遊女/俳人、1786兎路「姫の式」入
- M1570 **霞川** (かせん；山岡、別号；其月斎) ?-? 江後期武蔵養蚕家、養蚕法を往来物に編纂、  
1836刊「満作往来」、37「新選養蚕往来」著
- 家詮(かせん；藤原) → 宗詮(むねあきら；藤原、廷臣/連歌) B 4 2 0 1  
花千(かせん；桜井) → 吏登(りとう；桜井さくらい、俳人) 4 9 0 4  
果仙(かせん；宮地) → 太仲(たいちゅう；宮地、医/俳/農学) K 2 6 6 0  
可泉(かせん；片岡) → 志道(しどう；片岡、藩士/見聞記) V 2 1 3 1  
歌川(かせん；竹中/滝中) → 宗十郎(2世そうじゅうろう；沢村、歌舞伎役者) B 2 5 8 8
- C1526 **可全** (かせん、よしたか；大村おおむら) ?-1689 江前期京の俳人/白木屋主人、  
1667「俳諧小相撲こずもう」編？；桂葉と両吟百韻入、67季吟「新続犬筑波集」句引入、  
1673？重徳「続独吟集」独吟百韻入/1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[高声にわが事きけかせみよ蟬](手鑑)
- C1527 **果然** (かせん、別号；田香庵/反故斎/瓦雨亭/尾雨亭、姓名不詳) ?-? 江戸俳人；渭北門、  
1745「江戸名所絵入俳諧」45「俳諧時津風」71「俳諧名物鑑」72「一枝筌」編
- M1571 **嘉善** (かせん；森もり/宮川、名；敬庸) 1754-1806 53 筑後櫛原村漢方医/儒者；広津藍溪門/のち陽明学、

一時宮川家養子、長崎で蘭方医修学/仁医と称された、高山彦九郎(嘉善宅で自殺)と親交、  
物産/園芸/文学に通ず、「高山正之自殺之記」著、  
[嘉善の別通称/号]別通称;修平/嘉膳、号;思斎

M1572 賀前(かぜん・山本/高橋/小樽こぐれ、別名;謙)1809-? 高崎和算家、江戸で小樽こぐれ家養子、  
長谷川寛門/のち山本に改姓/開塾/晩年;幕符天文方属吏;1854箱館詰/蝦夷で没?、  
1832「大全塵劫記」/33「算法点竄手引草初編」/41「算法助術」編、「算法通草」編、  
[賀前の字/通称/号]字;益甫、通称;安兵衛/安之進、号;藤樹

可善(かぜん・権藤) → 百々丸(ももまる・権藤ごんどう/別府、医者/歌) I 4 4 9 2  
可全(かぜん・大村) → 可全(よしあき・大村おむら、商家/国学) M 4 7 0 1  
嘉全(かぜん・森脇/玉乃) → 九華(きゅうか・玉乃たまの/森脇、藩士/儒者) I 1 6 7 0  
嘉善(かぜん・副島) → 崑崙(こんろん・副島そえじま、儒者/詩歌) P 1 9 3 1  
嘉膳(かぜん・井上) → 蘭台(らんだい・井上いのうえ、儒者/折衷学) C 4 8 9 1  
嘉膳(かぜん・股野) → 順軒(じゅんけん・股野またの、藩士/儒者) J 2 1 4 8  
嘉膳(かぜん・渋谷) → 夜涼(やりよう・渋谷、藩士/俳人) 4 5 3 0  
花禅(かぜん・佐々木) → 万彦(まひこ・佐々木/石野、幕臣/歌人) L 4 0 0 0

M1573 牙川(がせん) ? - ? 俳人;1772几董「其の雪影」1句入、  
[古すだれ破れて昼のかづら影](其の雪影;百韻73句目/秋の昼;髪に挿した飾りの影、  
前句から棒の道場の景、前句几圭;うんといはせる棒の弟子入)、  
(几董の父几圭の遺句をはさんだ百韻)

M1574 我泉(がせん・高畑たかはた、名;豊次、通称;善次郎)1733-180775 江戸妓楼の下男/俳人・素丸門、  
1783「松のひゝき」補/1807「かつしか素振」編、  
[我泉の別号] 天地庵2世/有友庵/有日庵/湛堂

雅宣(がせん・飛鳥井) → 雅宣(まさつら/まさのぶ・飛鳥井/難波/藤原、蹴鞠/歌) E 4 0 2 0  
我川(がせん・中島) → 素蓮(それん・中島なかじま、俳人) E 2 5 5 7

C1528 瓦全(がぜん・柏原/本姓;橘、名;員仍/字;子由)1744-182582 京商人;京扇の販売業/俳諧・蝶夢門、  
五升庵を継承/国学・伴蒿蹊門、1807妙満寺に経石塚を建立、  
1774「蝶夢和尚文集」編/1796「職人尽発句合」「意新能日可麗」/97「俳諧童子教」編、  
1807「ゆきのあきふゆ」10「発句秀逸集」12「職人尽発句合」16「はいかい長うた」編、  
「根無草」「さくら会」編、1783維駒「五車反古」1句入、  
[高雄やまあはれに深きもみぢかな](五車反古;395/神護寺辺の紅葉の景)、  
[瓦全の通称/別号]通称;嘉助/扇屋嘉助、別号;五升庵2世/鳩笛きゅうこう/きゅうきょう[斎]  
法号;蓮池院

瓦全(がぜん・皆川) → 教純(のりずみ・皆川みながわ、藩士/記録) E 3 5 7 6  
瓦全(がぜん・渡辺) → 為良(ためよし・渡辺わたなべ、商家/歌/俳) 2 7 4 4  
歌仙庵(かせんあん) → 藐庵(みやくあん・西村、名主/俳/書/歌) F 4 1 9 0  
画戦軒(がせんけん) → 孤村(こそん・池田いけだ、絵師) N 1 9 0 3  
荷旃斎(かせんさい) → 左橋(さきつ・水足みづたり、俳人) B 2 0 3 6  
花前斎(かせんさい) → 万立(ばんりつ/まんりつ・東条とうじょう、俳人) J 3 6 1 0  
歌僊三枝(かせんさんし) → 賢孝(まさたか・長崎ながさき、商家/歌人) R 4 0 2 6  
画禅居士(がぜんこじ) → 文晁(ぶんちよう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4  
臥仙子(がせんし) → 文坡(ぶんば・大江/江、神道/戯作) G 3 8 3 1  
花仙小史(かせんしょうし) → 素堂(そどう・堀内ほりのうち、藩医/蘭医/儒) K 2 5 2 0  
花川亭(かせんてい) → 国富(くにとみ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 3  
何羨堂(かせんどう) → 玄仍(げんじょう・里村、連歌師) 1 8 2 1  
歌仙堂(かせんどう) → 鷺水(ろすい・青木あおき、俳人/浮与草子) 5 2 0 4  
歌仙堂(かせんどう) → 直温(なおほる・山田、儒者) C 3 2 1 6  
歌仙堂(かせんどう) → 立斎(りゅうさい・川井かわい、医者/詩歌) E 4 9 0 1  
花仙堂(かせんどう) → 資之(すけゆき・松波/岡田、廷臣/歌人) D 2 3 2 3  
華泉堂(かせんどう) → 天倪(てんげい・浄和、真宗本願寺派僧) 3 0 4 3

F1529 花千尼(かせんに、初世湖十の妻、桜井吏登りとう姉)1680?-172950? 江中期俳人、箏曲名手、



2世湖十編「続花摘」入

- 我禅房(がぜんぼう) → 俊苧(しゅんじょう;法諱、入宋僧/戒律復興) J 2 1 9 7
- M1575 可叟(かそう・東蝶庵) ? - ? 江中期俳人:1728其裔1周忌追善「紫の糸」編
- 華叟(かそう;道号) → 宗曇(そうどん;法諱・華叟、臨濟僧) I 2 5 6 0
- 華叟(かそう・柴/柴橋) → 応亨斎(おうこうさい・柴/柴橋、相法家) C 1 4 3 9
- 霞窓(かそう・篠田/土岐) → 霞亭(かてい・土岐とき/武、医者/詩文) H 1 5 5 0
- 霞窓(かそう・原) → 采蘋(さいひん・原はら、詩人) B 2 0 0 8
- 嘉叟(かそう・熊田) → 休庵(きゅうあん・熊田くまだ、商家/儒詩) M 1 6 2 4
- F1530 嘉蔵(かぞう・竹田たけだ) ? - ? 江中期浄瑠璃作者、1769松洛と合作「中元噂掛鯛」著
- M1576 嘉三(かぞう;通称・敦賀屋のつるがや、名;清太郎/号;遊谷子)?-?1804-18没 阿波徳島の薬種商、談義本作者;1774異国奇談「和荘兵衛わそうびょうえ」、「忠臣講釈二度目清書」著
- M1577 加造(嘉蔵/嘉造かぞう・近松ちかまつ、別号;慶寿/桂寿)?-? 大阪の浄瑠璃/歌舞伎作者:近松徳三門、1801「日吉丸稚桜」02「日吉丸二度清書」04「丑歳金蔵人」著、19「舞さらへ」編
- 嘉蔵(かぞう/よしぞう・山川屋) → 波文(はぶん・山本、旅宿業/俳人) F 3 6 6 2
- 嘉蔵(かぞう/よしぞう・大岩) → 勝長(かつなが・大岩、藩士/国学者) N 1 5 6 3
- 嘉蔵(かぞう/よしぞう・山崎) → 景雄(けいゆう・秋月庵、絵師/俳人) D 1 8 6 6
- 嘉蔵(かぞう/よしぞう・桑原) → 北林(ほくりん・桑原/峰岸、儒者) E 3 9 0 9
- 鹿蔵(かぞう・萩原) → 広道(ひろみち・萩原、藩士/国学者/歌) 3 7 2 8
- 臥叟(がそう;道号) → 玄溟(げんめい;法諱、臥叟、曹洞僧) M 1 8 4 7
- 雅宗(がそう・飛鳥井) → 雅宗(まさむね・飛鳥井/二条/藤原、歌) H 4 0 7 5
- 雅藻(がそう・小川) → 雅藻(まさも・小川おがわ、国学/歌人) O 4 0 0 7
- 華蔵庵(かぞうあん/けぞうあん;号) → 慧然(えねん;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 1 9
- 華蔵院宮(かぞういんのみや) → 聖恵親王(しょうけいしんのう、真言仁和寺僧) I 2 2 2 9
- 夏霜浜(かそうひん) → 為平(いへい・石原、商家/俳人) I 1 1 2 2
- M1578 可則(かそく) ? - ? 伊勢俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- M1579 柯則(かそく・丸山まるやま、名;良忠、霞江かこう男) 1728-180275 信州佐久塩名田宿本陣/問屋、俳人;吉沢鶏山門、1765父追善「かへりばな」編、90「浮ふくべ」編
- M1580 佳則(かそく・松浦まつうら) ? - ? 撰津灘大石の俳人;蕪村門、1776-86「初懐紙」入、1777蕪村「夜半楽」82「花鳥篇」76樗良「月の夜」77江涯「仮日記」各1句入、1783維駒「五車反古」2句入、[夕風や柳が下の二日月ふつがづき](夜半楽;60/風の水面に映る細い月影)
- M1581 家足(かそく) ? - ? 撰津灘大石の俳人・1776几董「続明鳥」3句入、[春の野や水より続く里の数](続明鳥;甲59/水郷眺望)
- M1582 花足(かそく・岩下いわした/初姓;金井かない、名;富馬) 1755-183581 信州松代藩士;町奉行/郡奉行、俳人;太初/蓼太門、歌;木島菅磨門/1785私塾双鶴堂を開く/弓術;日置流道雪派、「弓術書」「双鶴庵随筆」「松の陰」「歳々発句集」著、[花足(;号)の通称/別号]通称;左源太、別号;太阜たいふ/清酒さよき/象山窟/双鶴庵
- 嘉則(かそく・片桐) → 嘉則(よしのり・片桐かたぎり、歌人) M 4 7 2 1
- F1531 我則(がそく) ? - ? 1784存 京の俳人・蕪村門、1773几董「明鳥」1句入、1774美角「ゑぼし桶」3句/76「続明鳥」10句/76道立「写経社集」3句/77蕪村「夜半楽」1句入、1777蕪村「夜半楽」1句/82蕪村「花鳥篇」2句/83維駒「五車反古」13句入/84檀林会参加、[山吹や金こがねのすたる水の底](あけ鳥;133)[舟さして花にとぼしき細江哉](花鳥篇;16)
- 雅則(がそく・渡部) → 雅則(まさのり・渡部わたなべ、藩抱の金工) G 4 0 0 8
- 榎側庵(かそくあん) → 晴朝(せいちょう、絵師/俳人) J 2 4 2 5
- 荷鋸人(かそじん・戴たい) → 独立(どくりゅう;道号・性易;法諱、戴笠、医者/黄檗僧) L 3 1 5 6
- 雅素亭(がそてい) → 和切(わせつ・養花園2世、俳人) 5 3 3 8
- M1583 可尊(かそん・宝雪斎) 1799 - 188688歳 江戸の俳人、1862「木実囊」64「表あはせ」著、草宇と同一? → 草宇(そうう・宝雪庵可尊、俳人;蘭山門) G 2 5 0 5
- M1584 花邨(かそん・岡田おかだ、名;義謙/通称源吉郎、別号;善庵) 1814-6249 上州増田医者;多紀安叔門、

儒;朝川善庵門、1842「京師遊学日記」60「江都川越紀行」著、「花邨遺稿」

M1585 **霞村**(霞邨かそん・江田えだ重威/字;子園、重張男)1815-8470 陸中遠野儒者;久子翠峰/安積良斎門、  
詩/書画、邑校信成堂創設、「霞村詩鈔」、「南部伝記」編、  
[霞村の通称/別号]通称;大之進/泉、別号;楽堂

C1551 **霞村**(かそん・田口たぐち成器/字;知道/通称重太郎)?-? 江戸後期江戸四谷左門町の書家、  
「戸山夏景の記」書

M1586 **華邨**(かそん・佐久間さくま、名;安国/字;節夫/通称鼎)?-? 江後期上総の素封家、儒者;藤森天山門、  
詩;「華邨詩鈔」「西遊絶句鈔」(;長崎紀行詩)著

果尊(かそん) → 泉尊法親王(こうそんほつしんのう) B 1 9 6 4

可尊(かそん) → 草字(そうじ・宝雪庵可尊、俳人;蘭山門) G 2 5 0 5

花村(かそん・前原) → 美春(よしはる・前原/横瀬/小野、神職) G 4 7 1 3

霞村楓館(かそんふうかん) → 榴荘(りゅうそう・井口いぐち、大庄屋/教育) F 4 9 0 4